

青森市埋蔵文化財調査報告書 第116集-1

石江遺跡群

発掘調査報告書Ⅶ

-石江土地区画整理事業に伴う発掘調査-

(第1分冊：石江遺跡群調査概要編2,高間(6)遺跡編,
試掘・確認調査編)

平成25年度

青森市教育委員会

青森市埋蔵文化財調査報告書 第116集-1

石江遺跡群

発掘調査報告書Ⅶ

-石江土地区画整理事業に伴う発掘調査-

(第1分冊：石江遺跡群調査概要編2,高間(6)遺跡編,
試掘・確認調査編)

平成25年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、石江土地区画整理事業に先立つ埋蔵文化財発掘調査を平成15年度から継続実施してきました。

事業実施から10年が経過し、発掘調査の進捗に伴って本市では知られることの無かった新たな成果が得られる一方、遺跡が包蔵されていた土地の景観が青森市の玄関口として新たな景観に変化してまいりました。

今年度で、事業予定地内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は無事終了し、本報告をもって埋蔵文化財に関する事業は終了となりました。本遺跡群の調査成果が、本市の歴史を知る上で多くの方々に活用いただければ幸いに存じます。

最後となりましたが、発掘調査ならびに本書を刊行するにあたり、ご理解とご指導を賜りました関係機関、関係各位に深く感謝申し上げます。

平成26年2月28日

青森市教育委員会

教育長 月永 良彦

例 言

1. 本書は、青森市（担当：都市整備部石江区画整理事務所）より委託を受け、青森市教育委員会が平成15～25年度に発掘調査を実施した石江遺跡群に関する発掘調査報告書である。
2. 本書に掲載される内容は、石江土地区画整理事業に係る石江遺跡群発掘調査の高間（6）遺跡（青森県遺跡台帳番号01075）の調査、石江遺跡群に関する試掘・確認調査および石江遺跡群の平成20～25年度にかけての発掘調査概要についてまとめたものである。
3. 高間（6）遺跡は石江遺跡群の発掘調査対象遺跡としては遺構密度が低く、試掘先行の発掘調査の形態をとっている。調査対象48,488㎡中、調査面積は17,644㎡である。
4. 本書の作成および編集は青森市教育委員会が行い、木村淳一が担当した。また、発掘調査は小野貴之（青森市教育委員会文化財主査）を主担当に設楽政健（青森市教育委員会文化財主査）、木村が担当した。
5. 基準点測量および遺構測量図化の一部は国際航業（株）に委託を実施した。
6. 遺物実測図トレース業務および一部の遺物実測業務については委託を実施した。
（株）玉川文化財研究所、（株）ラング
7. 本書の作成に際し、石質鑑定を島口天氏（青森県立郷土館）に依頼した。
8. 掲載した資料に関する原図・データ等は、一括して青森市教育委員会が保管している。
9. 本報告に係る発掘調査および報告書作成にあたって、下記の諸氏・機関等からご指導・ご協力を頂いた。
記して感謝申し上げる次第である。（順不同・敬称略）

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所、青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、伊藤武士、井上雅孝、岩田安之、宇部則保、鐘江宏之、工藤清泰、齋藤淳、榊原滋高、佐々木由香、島口天、白鳥文雄、杉野森淳子、田中珠美、出越茂和、新山隆男、藤原弘明、古川淳一、水澤幸一、八重樫忠郎、八木光則、渡辺晃宏

発掘調査参加者（順不同・敬称略）

平成20～25年度（屋外作業）

筑田昌昭・宮川満雄・有馬房子・石坂いく子・石塚洋子・大柳タケ子・神野和子・川村光・木村まゆみ・倉内精子・佐々木秀子・佐藤美保子・白戸幸子・神しぎ子・相馬美代子・高村未央子・田村一栄・野沢陽子・藤川恵美子・村上留美子・若佐谷秋子・若佐谷厚子・古村真祐美・住吉初恵・小形照子・白崎久美子・渡辺利子・永井睦子・鎌田てる・阿部スミエ・伊原りち子・須藤紀子・宮川恵子・宮野繁子・村上テツエ・山田郁子・渡邊紀子・渡部真喜子・蝦名恵・小川和子・桜庭美子・神淳子・千葉則子・鳴海弘子・村林節子・山上静代・山本貴和子・木村功・櫛引栄・高坂光春・桜田勝見・神勇一・對馬政雄・菊池清幸・渋谷則子・白鳥美奈子・須藤繁男・平井日出子・松崎栄四郎・山口晃・増田憲一・前田正治・五戸正勝・濱田文男・奥崎英子・成田ノリ子・畠山淳子・増田考成・古川きみよ

凡 例

1. 図版番号は、本分冊中の通し番号で表記した。表記方法としては図版番号とともに分冊番号である1を先頭に付した。具体的には「図1-〇」という形にした。

2. 遺構の掲載について

(1) 方位は国土地理院第X系平面直角座標系に基づく座標北である。座標系は旧日本測地系(TOKYO)に基づいている。

(2) 各図の縮尺は以下の縮尺を基本とし、それ以外のものについてはスケールを付して図示した。

1/6,000 1/4,000 1/1,500 1/1,200 1/1,000 1/800 1/600 1/500 1/200 1/100 1/60 1/30

(3) 水平基準は海拔高をメートル(m)で表示した。

(4) 遺構の略号はS I = 竪穴住居跡・竪穴遺構、SK・SK a = 土坑、SE・SE a = 井戸跡、STP・STP a = 溝状土坑(Tピット)、SA = 柵列、SB・SB a = 掘立柱建物跡、SP = ピット、SD = 溝跡、SN = カマド状遺構・炉跡・焼土状遺構、SC = 埋設土器遺構、SX = その他の遺構、SF = 道路跡 である。

なお、平成25年度実施の調査については表記方法を変更しており、本文中で内容を記述した。

(5) 遺構番号については、調査区単位で遺構の種別毎に番号を付した。具体的には遺構の略号一番号とした。(例：第1号竪穴住居跡 = S I - 0 1) なお、調査区を跨いで検出した遺構について、調査年次単位で個々の遺構名が付され精査されているものがある。本報告にあたっては統括できるものは統括し、遺構種別の変更等も反映したが、番号が重複する場合、遺構略号の前に調査年の西暦下2桁の数字を付した。

(6) 遺構の規模については、基本的に長軸×短軸×深さをcmで表示した。このうち深さについては、遺構確認面からの計測値を記した。

(7) 本書の土層の注記については、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄1996)に準拠した。

(8) 本書の遺構図中で使用されるドット等の指示については下図のとおりである。

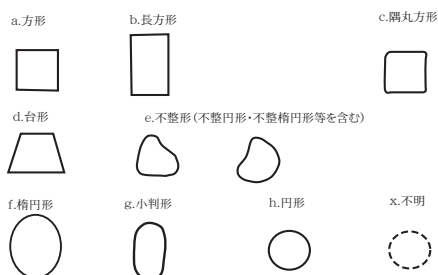
L.B.: ロームブロック
P.B.: パミスブロック

遺構中のドット 種別略号

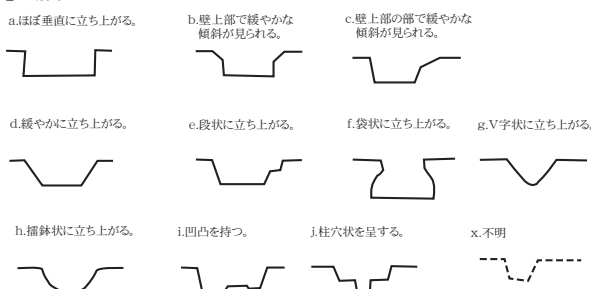
土器	●	P	焼土範囲弱		灰範囲		火床面	
石器・石製品	▲	S	焼土範囲中		火山灰範囲		遺構内遺物範囲	
土製品	◆	CL (炉壁)	焼土範囲強		ローム範囲		硬化面	
		CH (羽口)						
		CF (鉄付着炉壁)						
鉄製品	▲	F	炭化物範囲		貼床範囲弱			
木製品	●	W	粘土範囲		貼床範囲強			
骨	■	B						
植物種子	●	NP						
その他	●							

(9) 土坑やピットの観察表中で表記した記号は、当委員会が平成18年度に刊行した『石江遺跡群発掘調査報告書第94集』で提示した分類に基づき提示している。形状の分類については下記に提示する。

① 平面プラン



② 断面プラン



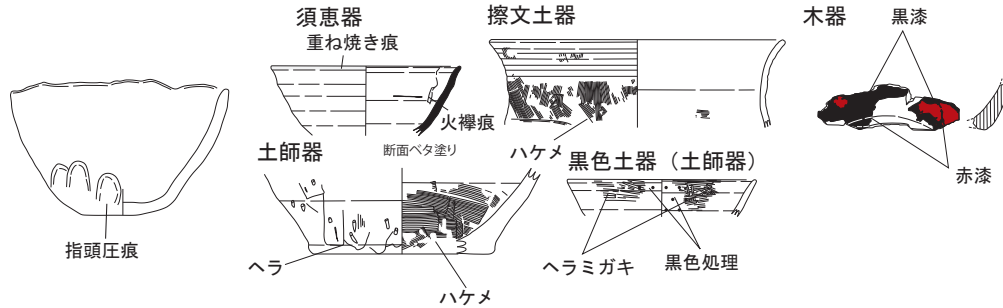
3. 遺物の掲載について

(1) 各図の縮尺は以下のとおりである。なお、一部の資料については下記に提示した以外の縮尺で取り扱ったものもあり、スケールで表記している。

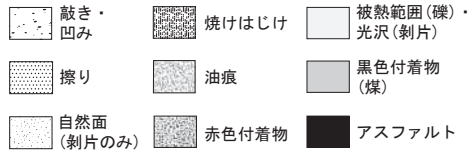
土器・陶磁器 1/3 石器・石製品 1/2・1/3 土製品 1/3

木製品 1/2・1/3 古銭 1/1

(2) 遺物実測図の表現



礫石器・剥片石器



目 次

序
例言
凡例
目次

(石江遺跡群調査概要編2)	
第I章 調査概要2 (平成20～25年度)	
第1節 調査要項	3
第2節 調査経過	6
(高間(6)遺跡編)	
第II章 高間(6)遺跡	
第1節 A区	
1. 土坑	13
2. その他の遺構	15
3. ピット	15
4. 溝跡	15
5. 遺構外出土遺物	15
第2節 B区	
1. 竪穴遺構	21
2. 土坑	21
3. 焼土状遺構	24
4. 溝状土坑	24
5. その他の遺構	24
6. ピット	26
7. 溝跡	26
8. 遺構外出土遺物	27
第3節 C区	
1. 土坑	39
2. 溝跡	39
第4節 D区	
1. 竪穴遺構	41
2. 土坑	41
3. 焼土状遺構	41
4. その他の遺構	41
5. ピット	42
6. 遺構外出土遺物	44
第5節 B区追加(平成25年度調査区)	
1. 竪穴遺構	49
2. 土坑	49
3. カマド跡	49
4. その他の遺構	49
5. ピット・掘立柱建物跡	49
6. 溝跡	49
(試掘・確認調査編)	
第III章 試掘・確認調査	
第1節 高間(1)遺跡	
1. A地点	72
2. B地点	74
3. C地点	79
4. D地点	82
第2節 新田(1)・(2)遺跡	
1. A地点	87
2. B地点	99
3. C地点	99
4. D地点	105
5. E地点	105
6. F地点	113
7. G地点	124
8. H地点	126
9. I地点	128
報告書抄録	143
既刊埋蔵文化財関係報告書一覧	

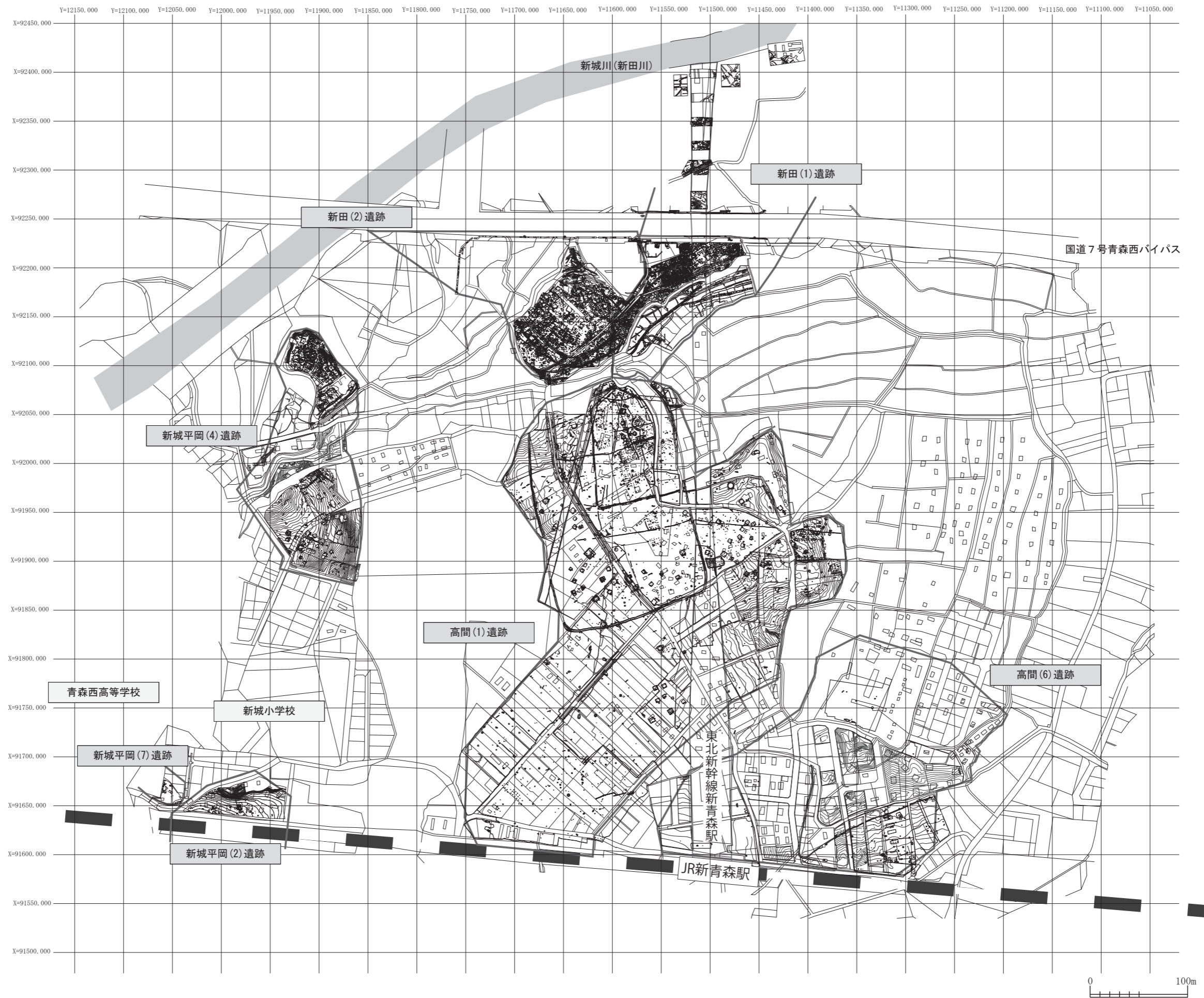


図 1-1 石江遺跡群全体図 (H15 ~ H25)

第1章 調査概要2 (平成20～25年度)

第1節 調査要項

平成20年度

1. 事業目的

青森市が実施している石江土地区画整理事業に係る工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用資する。

2. 遺跡名及び所在地

高間(1) 遺跡(青森県遺跡番号01071)

青森市石江字高間

高間(6) 遺跡(青森県遺跡番号01075)

青森市石江字高間

新城平岡(4) 遺跡(青森県遺跡番号01074)

青森市新城字平岡

3. 事業実施期間

平成20年4月4日～平成21年3月31日

4. 調査委託者 青森市

(担当:都市整備部石江区画整理事務所)

5. 調査受託者 青森市教育委員会

6. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

8. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター

9. 予算措置 調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局 青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

教育部長 古山 善猛

教育次長 今村 貴宏

参事・文化財課長事務取扱

遠藤 正夫

主 幹 藤村 和人

主 査 工藤 幸子

〃 工藤 雅仁

文化財主査 木村 淳一 (調査担当)

〃 小野 貴之 (〃)

文化財主事 児玉 大成

〃 設楽 政健

主 事 竹ヶ原亜希

〃 吹田 夕貴 (庶務担当)

〃 越谷美由紀 (〃)

埋蔵文化財調査員 野坂 知広 (整理)

調査補助員 秋元 莉絵

〃 木立 未来

〃 齋藤奈穂子

〃 嶋中加那子

〃 永洞佐哉子

〃 市川亜紀子

〃 佐藤 公子

調査補助員 倉内 純子 (整理)

〃 高谷 千香 (〃)

〃 土橋 弘美 (〃)

〃 豊島 厚子 (〃)

〃 野村 美樹 (〃)

〃 本間 順子 (〃)

〃 若山真由美 (〃)

整理作業員A 伊藤尚子、伊藤美乃、齋藤美穂、白崎恵理、清野千鳥、前田ひとみ、矢田廣子、和田久子

整理作業員B 石山ちか子、小木栄理、中村留美子、齋藤由美子、柳谷美穂、越川睦保、齋藤美恵子、野村美央子、櫻田美和子、相馬フミ子、渡辺みり子、藤本理香、生嶋寛子、澤谷晴美、寺山人美、中村照美、京野路子、工藤敦子、杉田美香子、田坂恵

平成21年度

1. 事業目的

青森市が実施している石江土地区画整理事業に係る工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用資する。

2. 遺跡名及び所在地

高間(1) 遺跡 (青森県遺跡番号01071)

青森市石江字高間

高間(6) 遺跡 (青森県遺跡番号01075)

青森市石江字高間

新城平岡(2) 遺跡 (青森県遺跡番号01069)

青森市新城字平岡

新城平岡(4) 遺跡 (青森県遺跡番号01074)

青森市新城字平岡

3. 事業実施期間

平成21年4月1日～平成22年3月31日

4. 調査委託者 青森市

(担当:都市整備部石江区画整理事務所)

5. 調査受託者 青森市教育委員会

6. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

8. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター

9. 予算措置 調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局 青森市教育委員会

教育長 角田 詮二郎

教育部長 古山 善猛

教育次長 今村 貴宏

文化財課長事務取扱教育環境推進監(4/1)

塩崎 章悦

文化財専門監兼文化財課長(4/2～)

遠藤 正夫

主 幹 上野 富士子

主 査 工藤 幸子

〃 工藤 雅仁

文化財主査 木村 淳一 (調査担当)

〃 小野 貴之 (〃)

〃 児玉 大成

文化財主事 設楽 政健

主 事 對馬 広将

〃 吹田 夕貴 (庶務担当)

〃 高石 知世 (〃)

調査補助員 秋元 莉絵

〃 市川亜紀子

〃 井上奈穂子

〃 木立 未来

〃 嶋中加那子

〃 永洞佐哉子

〃 倉内 純子 (整理)

〃 高谷 千香 (〃)

〃 土橋 弘美 (〃)

〃 豊島 厚子 (〃)

〃 野村 美樹 (〃)

〃 本間 順子 (〃)

〃 若山真由美 (〃)

〃 岡本 珠織 (〃)

整理作業員A 生嶋寛子、石山ちか子、伊藤尚子、伊藤美乃、齋藤美穂、白崎恵理、清野千鳥、前田ひとみ、和田久子、柳谷美穂、中村留美子

整理作業員B 兼平真依子、越川睦保、齋藤美恵子、櫻田美和子、塩谷奈津子、柴田順子、長澤真理子、野村美央子、藤本理香、渡辺みり子、京野路子、工藤敦子、杉田美香子、田坂恵、中村照美

平成22年度

1. 事業目的

青森市が実施している石江土地区画整理事業に係る工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

高間(6)遺跡 (青森県遺跡番号01075)

青森市石江字高間

新城平岡(2)遺跡 (青森県遺跡番号01069)

青森市新城字平岡

新城平岡(7)遺跡 (青森県遺跡番号01422)

青森市新城字平岡

3. 事業実施期間

平成22年4月1日～平成23年3月31日

4. 調査委託者 青森市

(担当:都市整備部石江区画整理事務所)

5. 調査受託者 青森市教育委員会

6. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

8. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター

9. 予算措置 調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局 青森市教育委員会

教育長 月永 良彦

教育部長 小林 順一

理事 小野寺 晃

教育環境推進監 塩崎 章悦

文化財専門監兼文化財課長

遠藤 正夫

主 幹 上野 富士子

主 査 高石 知世 (庶務担当)

文化財主査 木村 淳一 (整理担当)

〃 小野 貴之 (調査担当)

〃 児玉 大成

〃 設楽 政健

主 事 對馬 広将

〃 吹田 夕貴 (庶務担当)

調査補助員 秋元 莉絵

〃 井上奈穂子

〃 上原 未来 (整理)

〃 倉内 純子 (〃)

〃 高谷 千香 (〃)

〃 土橋 弘美 (〃)

〃 豊島 厚子 (〃)

〃 永洞佐哉子 (〃)

〃 野村 美樹 (〃)

〃 本間 順子 (〃)

〃 若山真由美 (〃)

整理作業員A 伊藤美乃、白崎恵理、中村留美子、前田ひとみ、柳谷美穂、和田久子、石塚清一

整理作業員B 齋藤美恵子、櫻田美和子、塩谷奈津子、杉田美香子、中村照美

平成23年度

1. 事業目的

青森市が実施している石江土地区画整理事業に係る

工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 遺跡名及び所在地

新城平岡(2)遺跡 (青森県遺跡番号01069)
青森市新城平岡

新城平岡(7)遺跡 (青森県遺跡番号01422)
青森市新城平岡

3. 事業実施期間

平成23年4月1日～平成24年3月31日

4. 調査委託者 青森市

(担当:都市整備部石江区画整理事務所)

5. 調査受託者 青森市教育委員会

6. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

8. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター

9. 予算措置 調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局	青森市教育委員会
教育長	月永 良彦
教育部長	小野寺 晃
教育次長	金澤 保
文化財課長	吉田 亘
主 幹	木村 浩一
〃	川村 範規
主 査	齊藤 寛和 (庶務担当)
文化財主査	木村 淳一 (調査・整理担当)
〃	小野 貴之
〃	児玉 大成
〃	設楽 政健
主 事	吹田 夕貴 (庶務担当)
〃	中村 健祐
〃	三上 貴子
調査補助員	秋元 莉絵 (整理)
〃	土橋 弘美 (〃)
〃	豊島 厚子 (〃)
〃	永洞佐哉子 (〃)
〃	野村 美樹 (〃)
〃	本間 順子 (〃)
整理作業員A	伊藤美乃、倉内純子、高谷千香、 前田ひとみ、若山真由美
整理作業員B	齊藤美恵子、櫻田美和子、塩 谷奈津子、杉田美香子、中村 照美
整理作業員C	倉内精子、須藤紀子、千葉則子、 野沢陽子、野村美央子

平成24年度

1. 事業目的

青森市が実施している石江土地区画整理事業に係る

工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施した遺跡について、整理作業および報告書作成・刊行を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用に資する。

2. 対象遺跡名及び所在地

新城平岡(2)遺跡 (青森県遺跡番号01069)
青森市新城字平岡

新城平岡(4)遺跡 (青森県遺跡番号01074)
青森市新城字平岡

新城平岡(7)遺跡 (青森県遺跡番号01422)
青森市新城字平岡

高間(1)遺跡 (青森県遺跡番号01071)
青森市石江字高間

3. 事業実施期間

平成24年4月2日～平成25年3月31日

4. 調査委託者 青森市

(担当:都市整備部石江区画整理事務所)

5. 調査受託者 青森市教育委員会

6. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

8. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター

9. 予算措置 調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局	青森市教育委員会
教育長	月永 良彦
教育部長	小野寺 晃
理 事	工藤 壽彦
教育次長	金澤 保
文化財課長	吉田 亘
主 幹	木村 浩一
〃	川村 範規
主 査	齊藤 寛和
〃	澤谷結美子 (庶務担当)
文化財主査	木村 淳一 (整理担当)
〃	小野 貴之
〃	児玉 大成
〃	設楽 政健
主 事	中村 健祐
〃	三上 貴子
調査補助員	井上奈穂子 (整理)
〃	土橋 弘美 (〃)
〃	豊島 厚子 (〃)
〃	本間 順子 (〃)
〃	三宅奈央子 (〃)
整理作業員A	伊藤美乃、伊藤尚子、佐藤裕香、 奈良亜矢子、野村美樹、若山 真由美、西谷久美子
整理作業員B	櫻田美和子、中村照美、野村 美央子

平成25年度

1. 事業目的

青森市が実施している石江土地区画整理事業に係る工事に先立ち、工事予定地内に所在する埋蔵文化財包蔵地の記録保存のための発掘調査を実施し、整理作業および報告書作成・刊行を実施し、遺跡の記録保存を行い、地域社会の文化財の活用資する。

2. 対象遺跡名及び所在地

高間(6)遺跡 (青森県遺跡番号01075)
青森市石江字高間

3. 事業実施期間

平成25年4月2日～平成26年3月31日

4. 調査委託者 青森市

(担当: 都市整備部石江区画整理事務所)

5. 調査受託者 青森市教育委員会

6. 調査担当機関 青森市教育委員会事務局文化財課

7. 調査指導機関 青森県教育庁文化財保護課

8. 調査協力機関 青森県埋蔵文化財調査センター

9. 予算措置 調査委託者側で措置

10. 調査体制

調査事務局	青森市教育委員会
教育長	月永 良彦
教育部長	福井 正樹
理事	工藤 壽彦
教育次長	成田 聖明
文化財課長	吉田 亘
副参事	木村 浩一
主幹	川村 範規
主査	齊藤 寛和
〃	澤谷結美子 (庶務担当)
文化財主査	木村 淳一 (調査・整理担当)
〃	小野 貴之
〃	児玉 大成
〃	設楽 政健
主事	中村 健祐
〃	三上 貴子
調査補助員	井上奈穂子 (発掘・整理)
〃	奈良亜矢子 (〃)
〃	三宅奈央子 (〃)
〃	葛西かおり (整理)
〃	葛西 義人 (〃)
〃	溝江由里子 (〃)
〃	安田 武実 (〃)
整理作業員A	伊藤尚子、工藤るり子、齋藤美穂、佐藤裕香、豊島厚子、安田奈津季
整理作業員B	櫻田美和子、野村美央子

第2節 調査経過

石江土地区画整理事業に伴う石江遺跡群発掘調査の調査について、調査経緯および平成15～19年度の調査経過は、平成21年度刊行の第106集『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』第1分冊第1章第5節中で掲載した。

また、新城平岡(2)・(4)・(7)遺跡、高間(1)遺跡についての調査経過については平成24年度刊行の第112集および第113集で掲載している。

本節では調査概要編2として平成20～25年度の調査経過について報告することとする。

平成15年度から本発掘調査を実施した石江遺跡群発掘調査は、原因者である青森市都市整備部石江区画整理事務所の実施する工事工程に対応した調査である。その為、遺跡ごとに発掘調査を完了させていく形ではなく、各遺跡の工事で破壊される部分を優先して発掘調査を実施している。

〔平成20年度〕調査対象面積36,226㎡

調査対象遺跡:高間(1)・高間(6)・新城平岡(4)遺跡

都市整備部長と教育部長との協議書は平成20年4月4日付けで締結し、発掘調査は4月21日から着手し、当初11月下旬までの予定で行うこととした。工事工程の優先箇所である高間(1)遺跡の幹線部分(高間(1)遺跡F-2区として報告)に一班、高間(1)遺跡と高間(6)遺跡の境界部の試掘調査にもう一班投入し調査を開始し、5月中旬には高間(1)遺跡の幹線道路部分の班はそのままF-2区内とG-1区の調査を継続するグループと新城平岡(4)遺跡のH区部分の精査に入るグループに分かれた。試掘中心の班はそのまま高間(6)遺跡の遺構密度の低い地点の精査を継続し、6月上旬には高間(1)遺跡のC-3区の一部を精査した。最終的に二班合同で新城平岡(4)遺跡のI区の遺構精査を行った。前年まで発掘調査を実施した新田(2)遺跡などに比べると面積は広いものの遺構密度が低く、従事した発掘作業員も前年度任用した者が多数を占めたため、スムーズな調査運営で、当初予定よりは二ヶ月ほど短縮し、9月30日で発掘調査は終了した。延投下人員は10,643.3人日である。

また、前年度発掘調査を青森県教育委員会に委託した新田(2)遺跡の調査成果について、青森市教育委員会文化財課と青森県教育庁文化財保護課が担当となり、青森県知事と青森市長との間で作成業務委託契約を締結し、青森県埋蔵文化財調査センターが作成を担当し、青森県埋蔵文化財調査報告書第471集『新田(2)遺跡』として青森県教育委員会から刊行している。

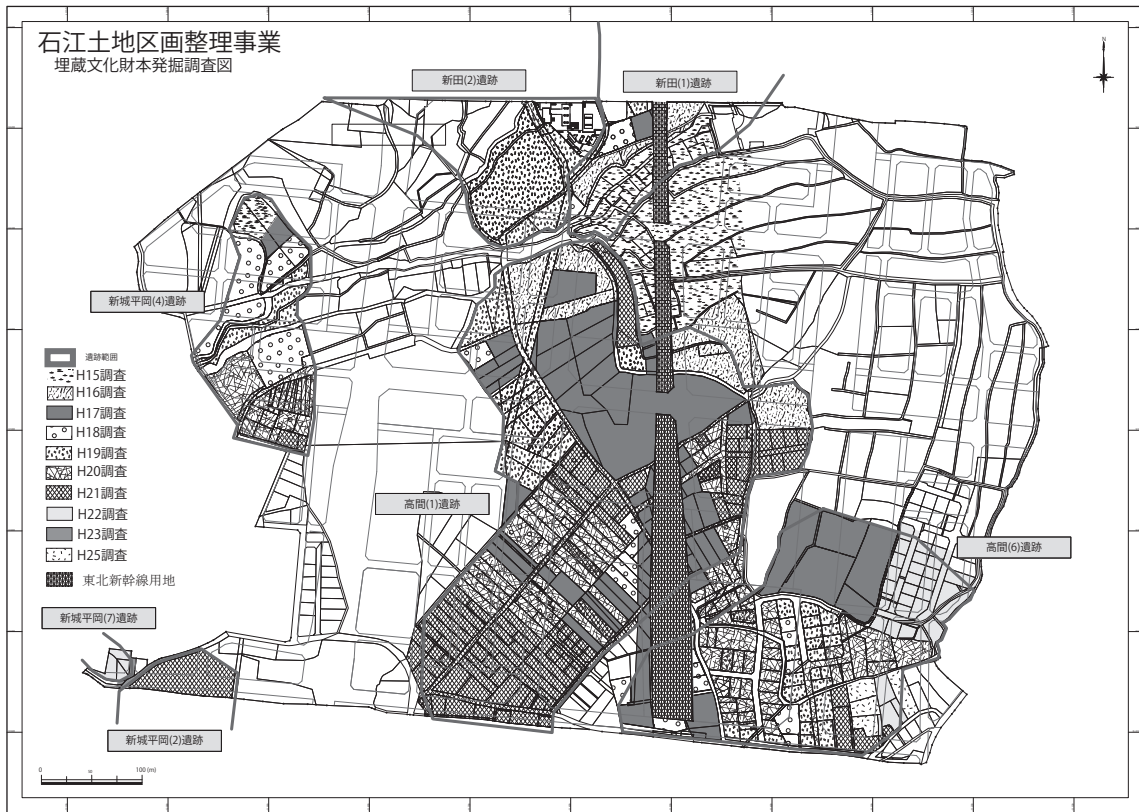


図1-2 石江遺跡群調査経過図(H15～H25)

〔平成21年度〕調査対象面積34,407㎡
調査対象遺跡:高間(1)・高間(6)・新城平岡(2)・新城平岡(4)遺跡

都市整備部長と教育部長との協議書は平成21年4月1日付けで締結し、発掘調査は前年と同様に二班体制で、高間(1)遺跡の東側のC-3区に相当する地点を最優先にG-2区を対象に同時併行で作業を進め、F区とG区を中心に作業を展開した。その後、高間(6)遺跡の小区画を断続的に、7月下旬には新城平岡(4)遺跡のI区の残地について精査を継続したが、原因者の石江区画整理事務所が主導して行っていた表土処理の段取りに若干の遅れが生じ、結果的に全体工程に狂いが生じることとなった。さらに前年度まで発掘調査対象として名前が挙がっていながらも着手がされなかった新城平岡(2)遺跡について、ようやく着手する形となったが、調査前の地表面よりも2m以上深い沢地形を検出し、上面の堆積土の除去の段取りが複数回に及ぶこととなり、湧水の影響や雨天に伴う排出作業時に近隣住民からの苦情が発生し、慎重に作業を進めたため、発掘作業員を投入した調査に移行する日程に遅れが生じた。別途高間(6)遺跡の発掘調査区の追加などが生じ、結果的に当初終了予定であった9月1日までの調査期間を9月30日まで延長し、追加調査

区対応については4月当初から任用した発掘作業員52名は任用期間満了として、途中から追加任用した16名に対して再度10月15日まで任用を延長した。また、新城平岡(2)遺跡の北西側の隣接地点について試掘調査を実施し、新城平岡(2)遺跡につながる沢地形と平安時代の竪穴建物跡を確認し、新城平岡(7)遺跡として新規登録した。延投下人数は11,352人日である。

平成20年度まで新幹線開業を踏まえた発掘調査優先で、調査成果の報告書刊行については、一部の整理作業費のみの予算措置であったが、平成20年度に青森県へ委託した報告書の刊行事業の成果もあり、ようやく市教育委員会担当分の予算についても刊行費用が予算措置されることとなった。

当初、平成19年度までで発掘調査を完了した新田(1)遺跡と新田(2)遺跡の遺構図版編を刊行すべく作業を実施したが、遺構密度の高い複数年次に渡る調査成果をまとめる形で、紙幅の都合があり、新田(2)遺跡の遺構図版編については翌年度に先送りとし、石江遺跡群の調査概要1と分析編1、新田(1)遺跡の遺構図版・遺構写真図版・遺構観察表編の構成で、青森市埋蔵文化財調査報告書第106集として刊行した。

〔平成22年度〕調査対象面積8,572㎡

調査対象遺跡：新城平岡(7)・高間(6)遺跡

都市整備部長と教育部長との協議書は平成22年4月1日付けで締結し、発掘調査は前年度に新規登録された新城平岡(7)遺跡と高間(6)遺跡を対象としたが、発掘調査可能時期に差があり、連休明けの5月7日から着手したものの、新城平岡(7)遺跡と高間(6)遺跡の一部について発掘調査を実施した後、一度撤収し、その後短期の調査対応をしながら、9月上旬から再度発掘作業員を投入して高間(6)遺跡の調査を実施した。新城平岡(7)遺跡は前年度の試掘調査で確認した堅穴建物跡や沢地形の検出が認められたが、高間(6)遺跡は若干の遺構や遺物の出土が認められるものの散布地的な様相が強い結果であった。10月15日で発掘調査は終了した。投下人員は延5,177.9人日である。

発掘調査報告書は前年度刊行ができなかった新田(2)遺跡の遺構図版編を含めた新田(1)遺跡遺物図版編・新田(2)遺跡遺構図版編・新田(2)遺物図版編として刊行することとし、青森市埋蔵文化財調査報告書第107集として刊行した。また、報告書刊行の入札の結果を踏まえ別途新田(1)・(2)遺跡縄文時代遺物編と石江遺跡群分析編2を青森市埋蔵文化財調査報告書第108集として作成し、刊行した。

その他、青森県教育委員会(調査担当青森県埋蔵文化財調査センター)が発掘調査を実施した新田(1)遺跡(青森県埋蔵文化財調査報告書第472集)と新田(2)遺跡(青森県埋蔵文化財調査報告書第471集)に関する資料について、平成22年9月17日付けで譲与申請を青森県埋蔵文化財調査センターに行い、新田(1)遺跡および新田(2)遺跡の発掘資料は出土遺物などを含め当委員会が一括管理することとなった。

〔平成23年度〕調査対象面積660㎡

調査対象遺跡：新城平岡(2)・新城平岡(7)遺跡

前年度末の平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、予算執行が危ぶまれたが、都市整備部長と教育部長との間で平成23年4月1日付けで協議書を締結し、事業実施が可能な状況を作りだした。しかし、予算執行は確定するまで凍結され、結果的に臨時職員の任用は予定から1ヶ月遅れの5月中旬となり、当初計画していた新城平岡(2)・新城平岡(4)・新城平岡(7)遺跡の発掘調査報告書についても刊行費を翌年度送りに変更することとなり、結果的に発掘調査と発掘調査報告書作成の整理作業のみということになった。

発掘調査は新城平岡(2)遺跡と新城平岡(7)

遺跡内の既存道路に設置されている水道管の撤去と付け替えに対する調査で、工事立ち会い主体で一部分的な遺構確認調査を実施することとまった。発掘調査期間は7月下旬～9月中旬に設定したが、8月中に二週間単位の連続した調査が実施された以外は時間のあいた一日単位の調査となった。対象地点はほとんどが遺跡登録前の古い段階で設置された水道管によって破壊されている状況であったが、一部の残存部から前年度までに検出した沢地形の延長部に相当する地点を検出し、トレンチ掘りではあったが、沢地形の広がり確認することができた。投下人員は延2,966人日である。

発掘調査報告書は前述のとおり次年度刊行に変更されたため、整理・編集作業を中心に実施した。

〔平成24年度〕発掘調査無、整理・報告書刊行のみ

都市整備部長と教育部長との間で平成24年4月2日付けで協議書を締結し、前年度報告書刊行が先送りとされた新城平岡(2)・新城平岡(4)・新城平岡(7)遺跡についての報告書と当初平成24年度に刊行予定であった高間(1)遺跡についての報告書を刊行することとなった。新城平岡(2)・新城平岡(4)・新城平岡(7)遺跡の本文・図版編と石江遺跡群分析編3は青森市埋蔵文化財調査報告書第112集として平成24年11月末に刊行した。残る高間(1)遺跡の本文・図版編と石江遺跡群分析編4については年度末の平成25年3月末に刊行した。投下人員数は延2,828.9人日である。

〔平成25年度〕調査対象面積2,200㎡

調査対象遺跡：高間(6)遺跡

都市整備部長と教育部長との間で平成25年4月2日付けで、協議書を締結し、5月下旬から区画整理事業予定地内の最後の調査区の発掘調査を実施する計画を進めた。

しかし、調査予定地は地権者が複数で、移転時期の違いなどで、調査着手可能時期が異なる可能性があったが、7月17日～8月9日の調査期間で対象調査区の調査を無事終了した。

発掘調査報告書は最後の調査区の成果を含む形で高間(6)遺跡編、平成20～25年度の調査概要編2、区画整理事業に関連した試掘・確認調査の調査成果である試掘・確認調査編、新田(1)・新田(2)・新城平岡(2)・新城平岡(4)・高間(1)遺跡で出土した鉄関連遺物編、新田(1)・新田(2)遺跡の本文編、石江遺跡群分析編5、県からの譲与遺物の中から再整理で抽出した資料や既報告内容の訂正を含む補遺編、そして十年間にわたる発掘調査の成果を統括した総括編を含む構成で作成が計画され、本書の刊行に至った次第である。



写真 1-A 平成20年時の土地区画整理事業地の状況



写真 1-D 平成23年時の土地区画整理事業地の状況



写真 1-B 平成21年時の土地区画整理事業地の状況



写真 1-E 平成24年時の土地区画整理事業地の状況



写真 1-C 平成22年時の土地区画整理事業地の状況

その他、開発協議対応で、新田（1）・（2）遺跡の未調査部分に相当する店舗の解体工事に際し、工事立会いを平成25年4月下旬に実施した。また、その地点に新規に建築された家電量販店に関する構造物建築について、未調査部分の埋蔵文化財包蔵地内で地下の埋蔵物に影響が生じる地点を工事立会い及び本調査を実施した〔参考資料として本報告第3分冊中で掲載〕。



高間(6)遺跡遺構配置図



図 1-3 高間(6)遺跡遺構配置図

第Ⅱ章 高間（6）遺跡

高間（6）遺跡は、昭和54年に青森県教育委員会によって201-075として台帳登録された遺跡である。東北新幹線開業前の新青森駅周辺では新興の住宅建設が続いていたようであるが、本市の埋蔵文化財保護行政の立ち後れの影響で、埋蔵文化財に対応する部門が設けられた平成2年度以前は放置されているに等しく、専門職員が配置された平成7年度に高間（6）遺跡の隣接地の試掘調査が部分的に実施された程度であった。

東北新幹線新青森駅周辺の土地区画整理事業の実施に先立ち予定地内の試掘・確認調査を平成13・14年度の二カ年で実施した結果、従前の遺跡範囲を拡張し、調査対象とすることとした。

しかし、調査対象地の試掘・確認調査は、既存の住宅地などの建物移転前に行われた限定的な調査で、調査結果としても一部遺構の検出が認められたものの、遺物も出土量が少ない散布地的様相が強いものであった。石江遺跡群の他の遺跡の様相に比べると密度が低いことが予想され、建物移転が進み本発掘調査の実施にあたって全面調査の形態をとらず試掘先行とし、調査対象となる遺構の検出をもって必要に応じ本発掘調査を実施する形をとった。

石江遺跡群の本発掘調査は平成15年度から開始されたが、高間（6）遺跡は平成17年度（2005年）に入って初めて着手された。以降平成22年度まで継続的に発掘調査が実施されたが、平成18年度までは土地承諾のとれた地点が部分的な地点が多く断続的な調査にとどまった。平成19年度にはいりようやく面的な調査が可能になり、平成20年度で新幹線開業を控えた主要な部分の発掘調査は終了

した。平成21・22年度そして調査最終年度にあたる平成25年度には換地が終了した残りの地点の発掘調査を実施した。

全調査対象面積は48,488㎡中、発掘調査は17,644㎡に対して行われた。

本報告に際し、遺跡内をA～D区の4区分とし、節単位で報告することとする。

なお、遺跡内での基本層序についてはA区の地点で採取した情報を図1-4で図示したが、上面は耕作や宅地開発に伴う土地改変による欠落や削平が見られるが、B-Tm火山灰を含む第Ⅲ層の堆積が各地点とも認められ、その下位は漸移層を含む浅い堆積層が認められる。

第1節 A区

発掘調査は、平成13年度の試掘・確認調査で遺構が検出した地点を面的に調査を実施し、東側の住宅地となっていた地点は試掘先行のトレンチ調査を優先的に実施している。

1. 土坑

SK-02（図1-6）

セクション図のみの記録で、幅64cm、深さ18cmの規模の落ち込みが記録されている。断面形は段状に立ち上がる形状で、堆積土は3層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

SK-04（図1-6）

平面形は不整形長方形で、110×86×20cm

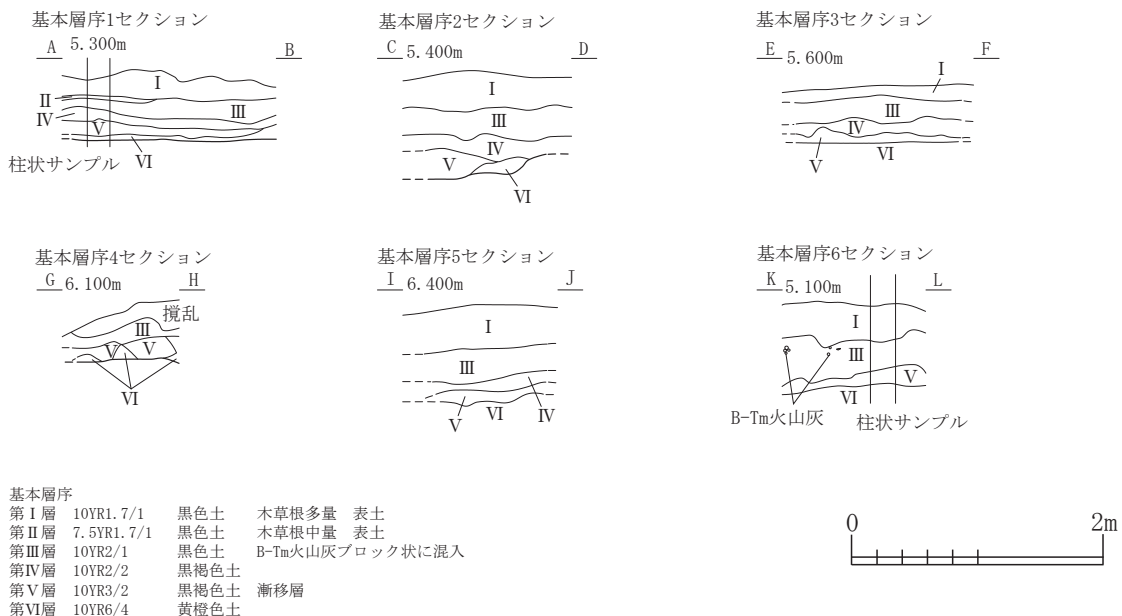


図1-4 高間(6)遺跡基本層序図

高間(6)遺跡A区遺構配置図 S=1/800

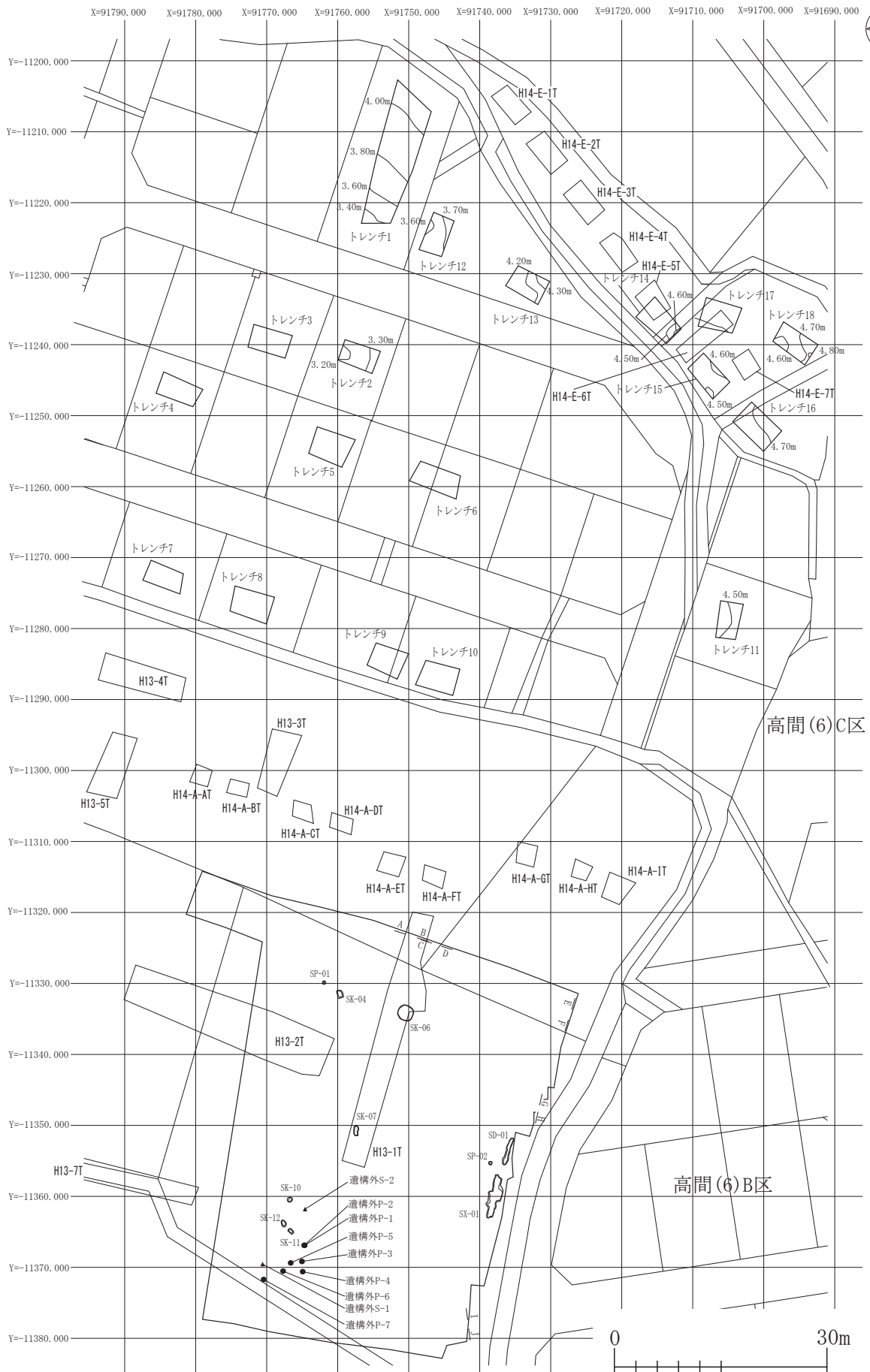


図 1-5 A 区遺構配置図

を測る。断面形は凹凸が顕著である。堆積土は5層に分層され、ブロック混じりの埋戻し土が底面直上に堆積している。

SK-06 (図1-6)

平面形は不整形円形を呈し、 $234 \times 221 \times 13$ cmを測る。断面形は皿形で、壁際の一部に浅い段がある。平面図上の記録はベルト部分の一部のみであるが、底面直上に炭化物が堆積しており、その上位にはB-Tm火山灰が堆積している。ただし、B-Tm火山灰については混入する土が幾重にも重なった堆積状況であることから二次的要因が強い。

SK-07 (図1-6)

平面形は不整形小判形を呈し、 $147 \times 66 \times 8$ cmを測る。断面形は凹凸があり、堆積土はブロック混じりの1層に分層されている。

SK-10 (図1-6)

平面形は不整形楕円形を呈し、 $75 \times 66 \times 63$ cmを測る。断面形は壁の一部で途中角度を変えた立ち上がりをしているが、垂直に近い形で立ち上がる部分が多い。堆積土は6層に分層し、埋め戻しの伴う人為的堆積状況を呈し、柱穴として機能した可能性がある。

SK-11 (図1-6)

平面形は小判形を呈し、 $85 \times 53 \times 22$ cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、壁は開き気味に立ち上がる箇所がある。堆積土は1層に分層し、パミス粒が若干混入する。

SK-12 (図1-6)

平面形は不整形楕円形を呈し、 $99 \times 78 \times 16$ cmを測る。断面形は若干凹凸が見られるが皿形を呈し、開き気味に立ち上がる。堆積土は1層に分層し、SK-11と同質の土が堆積している。

2. その他の遺構

SX-01 (図1-7)

SD-01の西側の同一軸線上に位置する不整形溝状の落ち込みである。最小幅47 cm、最大幅200 cmを測るいびつな形状で、断面形も凹凸があり、形状が一定ではなく、深さは9 cmを測る。堆積土は5層に分層し、パミス・ロームブロックの混入が顕著である。

3. ピット

SP-01 (図1-7)

平面形は不整形円形を呈し、 $48 \times 47 \times 15$ cm

を測る。断面形は凹凸があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況である。

SP-02 (図1-7)

平面形は不整形隅丸方形を呈し、 $52 \times 48 \times 7$ cmを測る。断面形は皿形で、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、底面直上には地山の流れ込みの堆積で、その上位にはパミス主体の堆積土が認められ、自然堆積である。

4. 溝跡

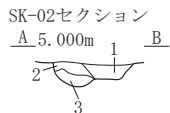
SD-01 (図1-7)

前述のSX-01の項目で触れたが、SX-01の同一軸線上に位置する溝跡で、長さ396 cm、幅47~80 cm、深さ17 cmを測る。SX-01に比べると溝の形態を保っているが、幅が不均一で、最小幅はSX-01の幅とも共通である。堆積土は5層に分層し、崩落を含む自然堆積状況を呈し、一部再掘削が伴っている。上層から不定形石器1点が出土した。石質は珪質頁岩である。

5. 遺構外出土遺物 (図1-7)

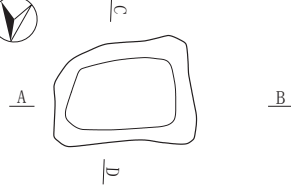
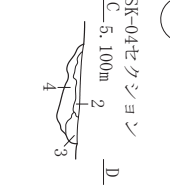
7点図示した。002~004は染付で、002・003は小碗ないしは猪口、004は蛸唐草文の施された銚子である。005は攪乱出土の不定形石器で石質は珪質頁岩、006は同じく攪乱出土の磨製石斧の刃部で、石質は流紋岩である。007は平成13年度試掘時に出土した木簡で、本遺跡群内で出土した最初の本木簡にあたる。『木簡研究』第24号(木簡学会2002)の中に概要が掲載されているが、下半部が欠損しており、長さ(4.5) cm、幅1.9 cm、厚さ0.4 cmを測る短冊状の木札で、文字の上端に穿孔がある。内外面とも文字が記入されており、表面には「 \circ 佐」、裏面には「 \circ □□」が記入されている。樹種はスギである。B-Tm火山灰の堆積層より5 cmほど上位の腐植土層から出土した。付近から出土している陶磁器は19世紀代の資料が多いことから比較的新しい時期の資料であると考えられるが、詳細な時期は不明である。本資料の発見があったことが、翌年度以降石江遺跡群内で古代に帰属する木簡等数多くの木製品の発見の可能性を示唆した資料で、その意味で非常に貴重な発見であった。008は用途不明の土製品である。

SK-02



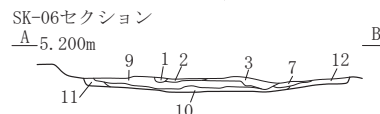
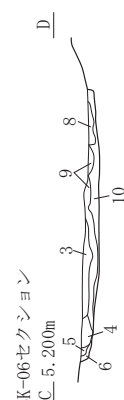
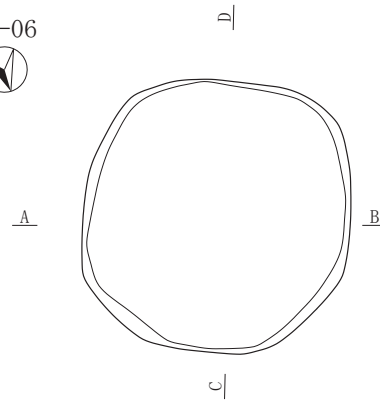
SK-02	第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ50mm)極微量
SK-02セクション	第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量
	第3層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量

SK-04

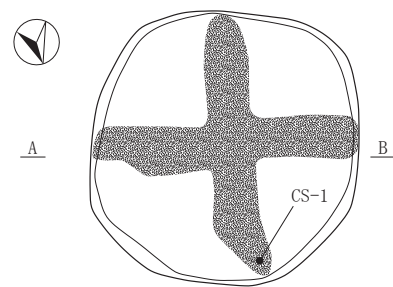


SK-04	第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
SK-04セクション	第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~10mm)極多量
	第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
	第4層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~10mm)中量, パミスブロック(φ15~30mm)少量
	第5層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~10mm)少量, パミスブロック(φ15~30mm)少量

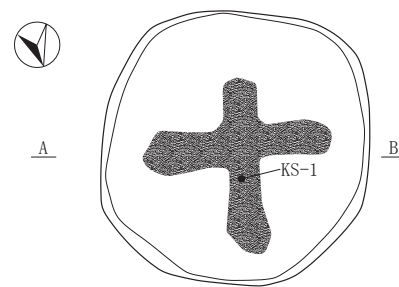
SK-06



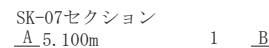
SK-06炭範囲・サンプル



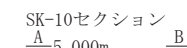
SK-06B-Tm火山灰範囲・サンプル



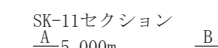
SK-07



SK-10



SK-11



SK-12



SK-06	第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量
	第2層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
	第3層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒・ブロック(φ1~10mm)少量, B-Tm火山灰粒(φ1~5mm), B-Tm火山灰ブロック(φ15~50mm)少量
	第4層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1mm程度)少量
	第5層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)少量
	第6層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~10mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)中量
	第7層	10YR1.7/1	黒色土	パミス粒(φ1~10mm)微量, 火山灰粒(φ1~10mm)少量
	第8層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量
	第9層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, B-Tm火山灰(φ40mm)多量
	第10層	10YR1.7/1	黒色土	炭化物極多量混入
	第11層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)中量
	第12層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~3mm)少量
SK-07	第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒・ブロック(φ20~50mm)中量

SK-10

SK-10	第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)極微量
	第2層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 褐色土(10YR4/4)ブロック(φ50mm)少量
	第3層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
	第4層	10YR2/1	黒色土	パミス粒・ブロック(φ1~10mm)中量, 焼土粒(φ1~3mm)極微量
	第5層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)極微量
	第6層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量
SK-11	第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~3mm)微量
SK-12	第1層	10YR2/1	黒色土	パミス粒(φ1~10mm)微量

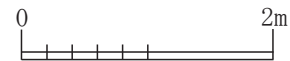
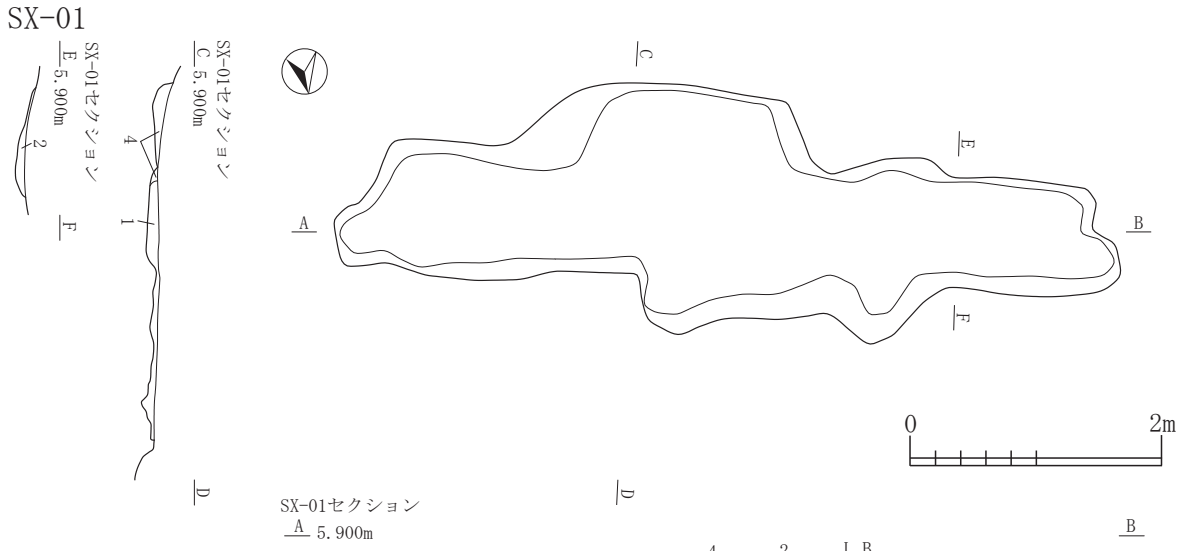
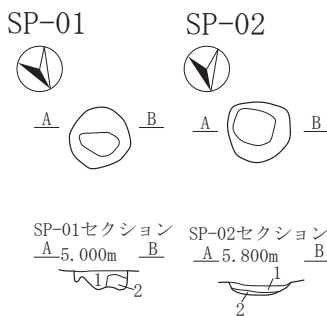


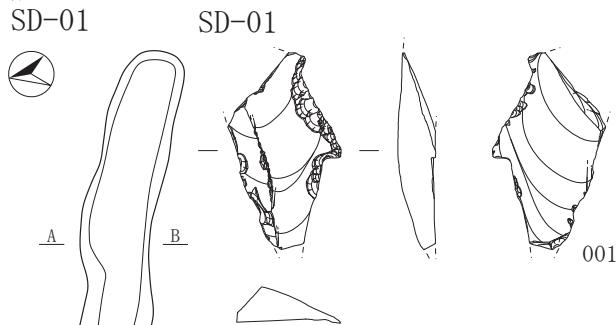
図 1-6 A区 SK



- SX-01
第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~10mm)多量,バミスブロック(φ15~50mm)中量,ローム粒(φ1~10mm)少量,淡黄色(2.5Y8/4)粘土ブロック(φ15~50mm)微量
第2層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~10mm)中量,バミスブロック(φ15~50mm)中量,ローム粒(φ1~10mm)少量
第3層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~10mm)少量,バミスブロック(φ15~50mm)少量,ロームブロック(φ15~30mm)少量
第4層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~10mm)多量,バミスブロック(φ15~50mm)中量,ロームブロック(φ15~50mm)中量
第5層 10YR6/6 明黄褐色土 黒褐色土(10YR2/2)少量,バミス層



- SP-01
第1層 10YR2/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~5mm)少量
第2層 10YR4/4 褐色土 バミス粒(φ1~7mm)微量
SP-02
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~5mm)少量
第2層 10YR6/6 明黄褐色土 にぶい黄褐色土(10YR4/3)少量,バミス層
SD-01
第1層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~10mm)中量,バミスブロック(φ15~50mm)少量
第2層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~10mm)中量
第3層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~10mm)少量
第4層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~10mm)少量,バミスブロック(φ15~30mm)多量
第5層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~10mm)多量



遺構外出土遺物

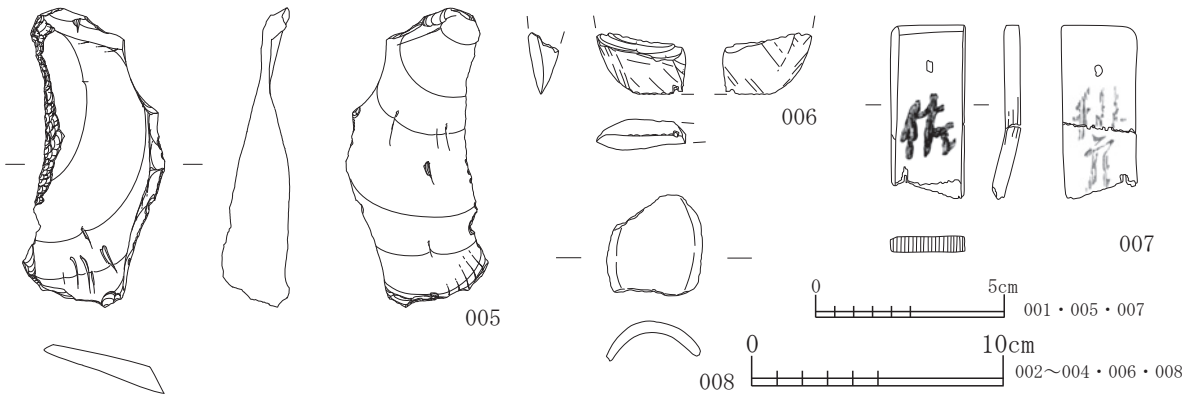


図1-7 A区SX・SP・SD・遺構外出土遺物

高間(6)遺跡B区遺構配置図 S=1/800

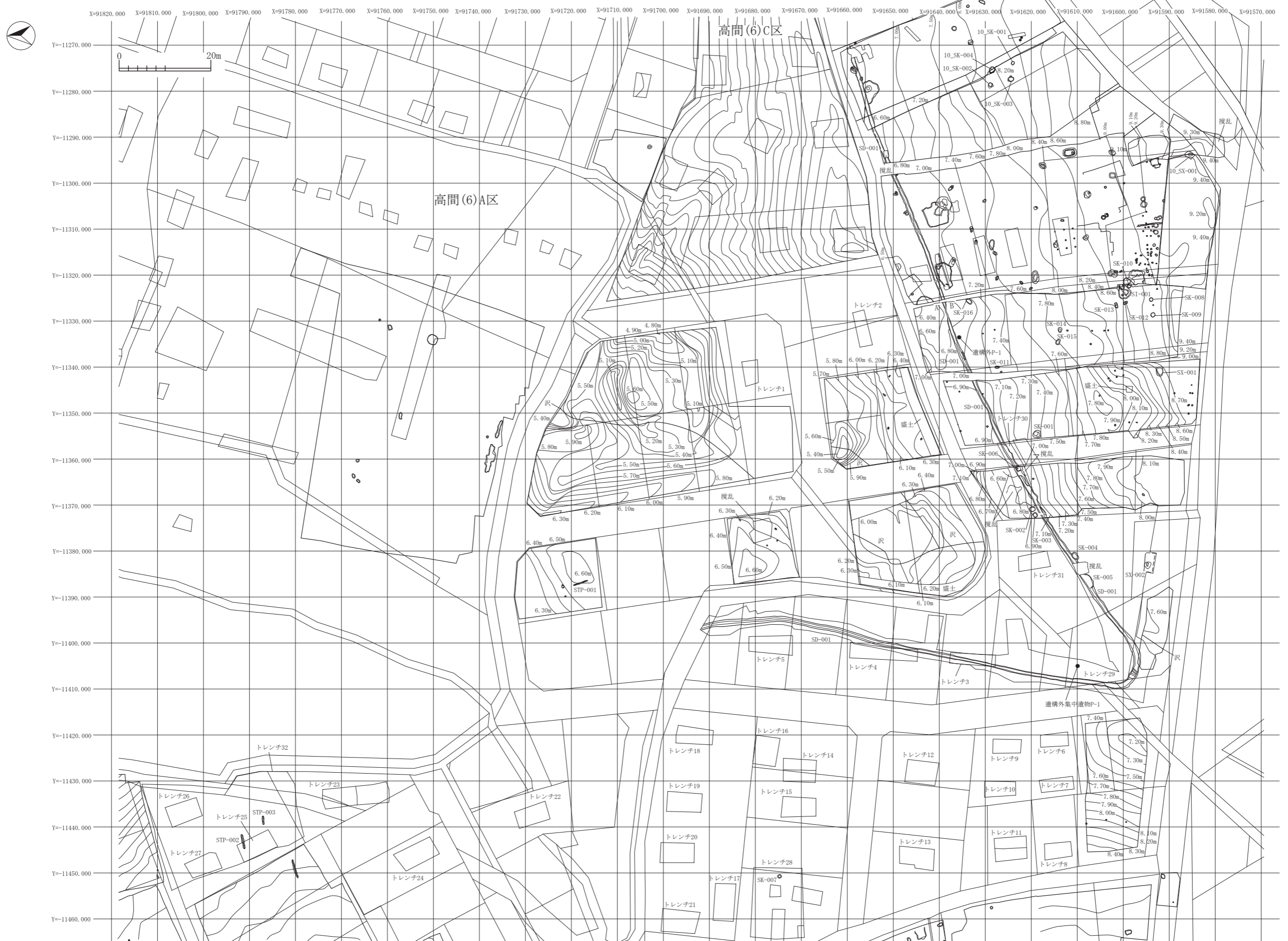


図 1-8 B区遺構配置図

第2節 B区

発掘調査は、低湿地が埋め戻された新興の住宅地部分はトレンチ優先の調査で、元々の丘陵東側の住宅地となっていた地点は一部分面的な調査を実施している。なお、平成25年度の調査については遺構名表記等に違いがあるため第5節として掲載した。

1. 竪穴遺構

SI-001 (図1-9)

東側が調査時の調査区域外の地点に相当し、一部欠測が生じている。平面形は不整形で、(341)×283×34cmを測る。床面相当からSK-01・02とした浅い土坑状の掘りこみとPit1・2としたピット状の掘りこみを検出している。堆積土は土坑部分の土層を含め5層に分層し、SK-01と02の間で新旧の時間差が生じている。壁際に流れ込みが起こった後、ブロック混じりの土が堆積し埋没が完了している。なお、遺物は出土していない。東側の隣接部について平成25年度に類似した不整形長楕円形の掘りこみを検出している。

2. 土坑

SK-001 (図1-10)

平面形は不整隅丸方形で、184×170×20cmを測る。断面形は壁の上部の一部で角度を変え緩やかに立ち上がる部分が見られ、開き気味に立ち上がる形状である。また、底面の中央が若干凹んだ形状を呈している。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。

SK-002 (図1-10)

平面形は不整隅丸方形で、120×105×14cmを測る。断面形は壁際の一部の底面で凹凸が見られ、壁は若干開き気味に立ち上がる部分が見られる。堆積土は2層に分層し、流れ込みに伴う自然堆積状況を呈する。

SK-003 (図1-10)

平面形は楕円形で、110×90×33cmを測る。断面形は底面に凹凸が見られ、壁の一部が袋状に入り込んでいる。堆積土は3層に分層し、ブロッ

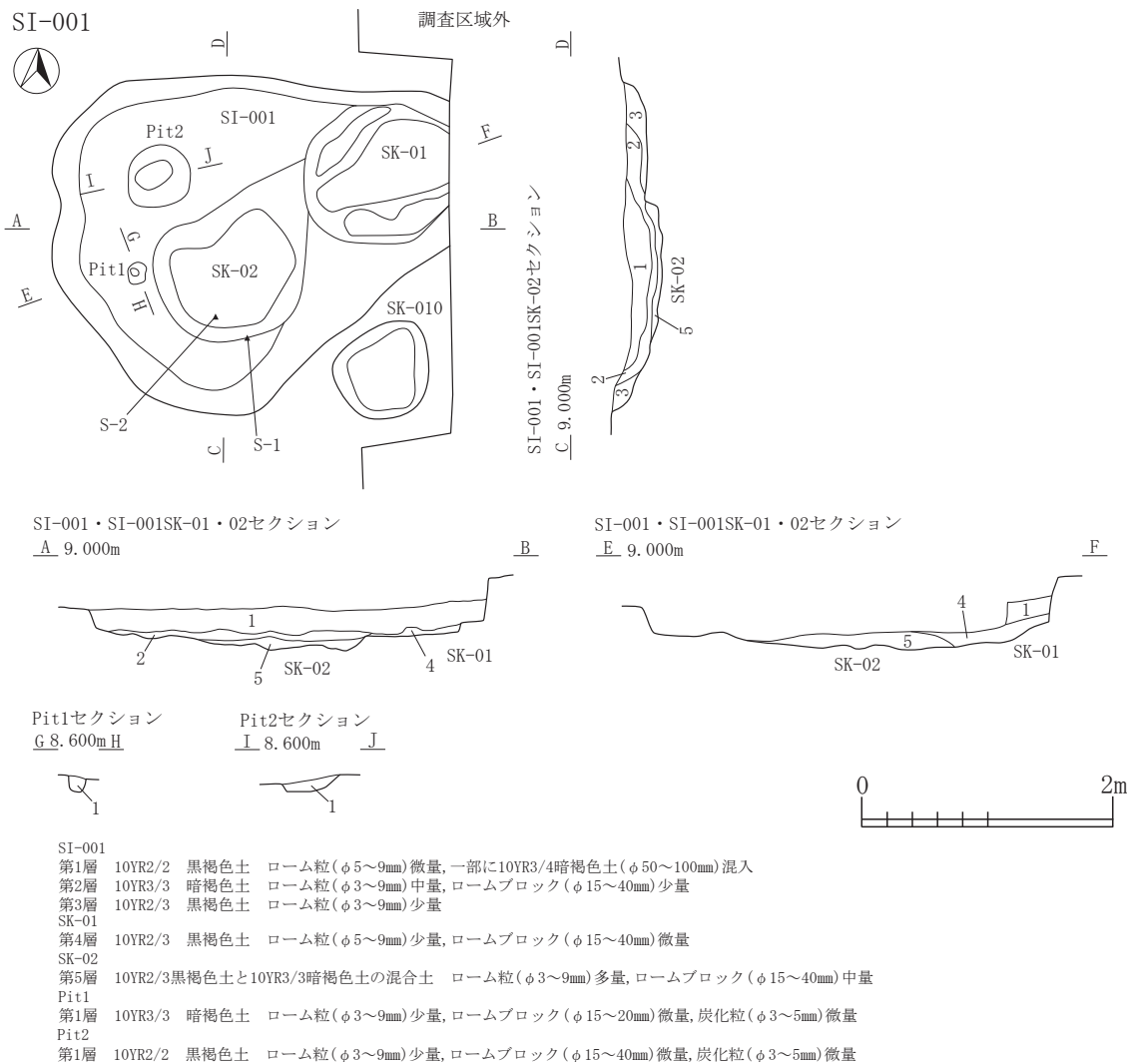


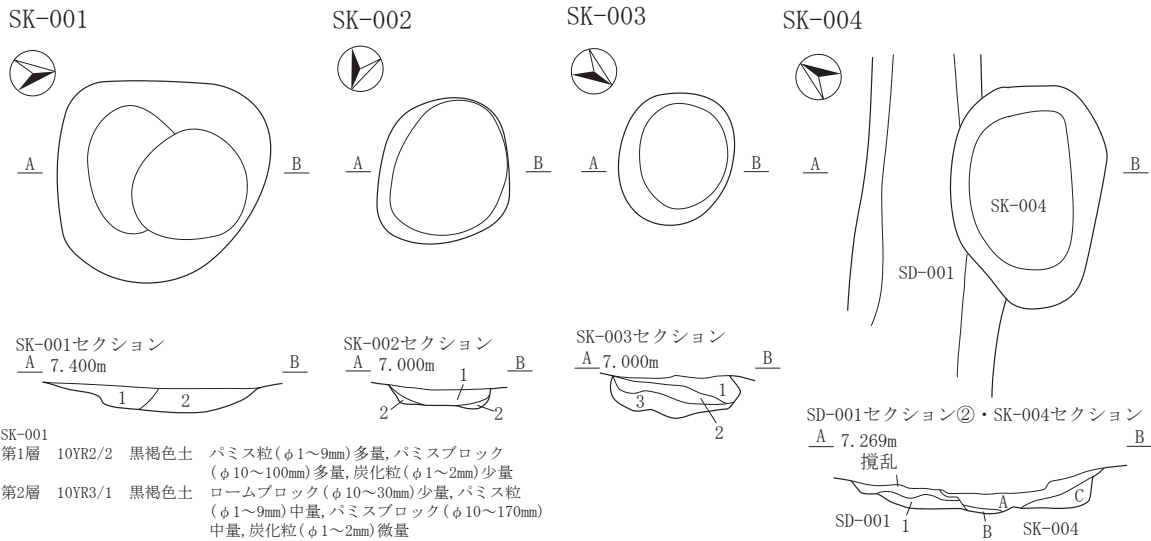
図1-9 B区SI

ク混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

凹凸があり、壁は一部の上部で角度を変え開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況で、上面には砂利の堆積層も含む攪乱土の堆積が見られる。

SK-004 (図1-10)

平面形は不整楕円形を呈する。SD-001と重複し、本遺構の方が新しい。断面形は底面に若干の



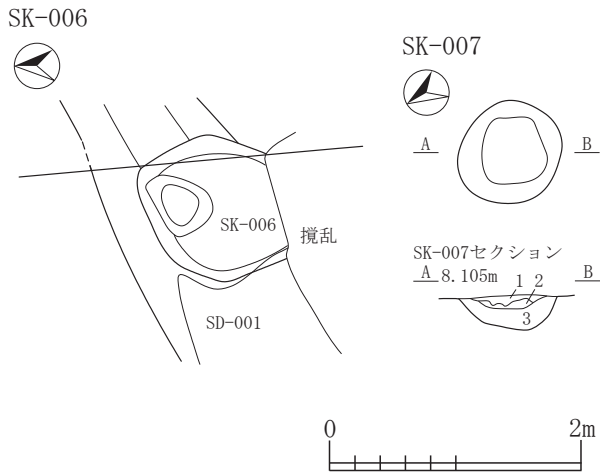
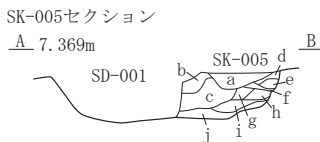
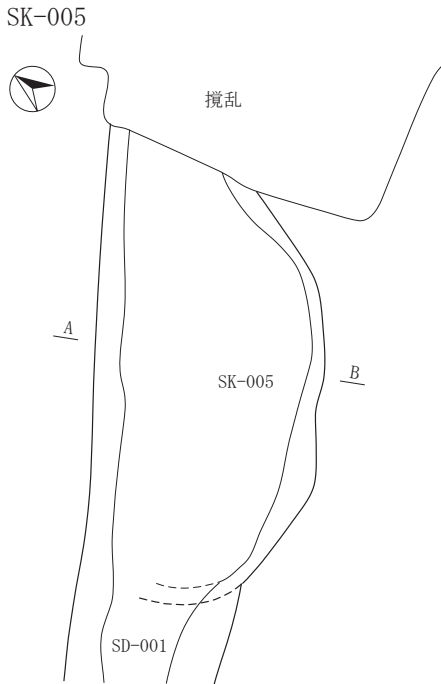
SK-001
第1層 10YR2/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)多量,パミスブロック(φ10~100mm)多量,炭化粒(φ1~2mm)少量
第2層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)少量,パミス粒(φ1~9mm)中量,パミスブロック(φ10~170mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量

SK-002
第1層 10YR2/1 黒色土 パミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)極微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,粘土粒(φ5~9mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量

SK-003
第1層 10YR2/1黒色土と10YR5/6黄褐色土の混合土
パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~30mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~40mm)中量,ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第3層 10YR5/6 黄褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量,ロームブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量

SD-001②
第1層 10YR2/3黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土
ローム粒・ブロック(φ5~30mm)少量

SK-004
第A層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ5mm)微量
第B層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)多量
第C層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)中量



SK-005
第a層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
第b層 10YR2/2黒褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合土
ローム粒(φ5~10mm)中量
第c層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
第d層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5mm)微量
第e層 10YR5/6 黄褐色土
第f層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量
第j層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5mm)微量
第h層 10YR5/6 黄褐色土
第1層 10YR2/2黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土 ローム粒(φ5~10mm)少量
第j層 10YR5/8 黄褐色土 粘土(10YR7/3にぶい黄褐色土)(φ10~20mm)中量

SK-007
第1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量
第2層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ10mm)微量
第3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)中量

図1-10 B区SK-1

SK-005 (図1-10)

平面形は不整長楕円形を呈する。SD-001と重複し、北側部分が切られており、本遺構の方が古い。規模は306×(51)×46cmを測る。断面形は段状を呈し、壁は途中で角度を変えるが垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は本遺構抜いで10層分記録しているが、上面の再掘削ないしは改変層に相当する第a層の下位に堆積する第b・c層については重複するSD-001の堆積土の可能性が高く、本遺構の堆積土として認定できるのは第d～j層である。流れ込みによる自然堆積状況を呈する。

SK-006 (図1-10)

南側が攪乱によって切られており、ほとんどがSD-001と重複している。土層記録が残されていないため、詳細については不明である。平面形は不整隅丸方形を呈し、112×(105)×40cmを測る。底面の北側にピット状の落ち込みがあり、底面から13cm程度の深さがある。

SK-007 (図1-10)

平面形は楕円形を呈し、83×78×27cmを測る。断面形は浅いU字状を呈しており、壁は一部が開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、流れ込みが伴う自然堆積状況を呈する。

SK-008 (図1-11)

平面形は楕円形を呈し、82×76×24cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は1層に分層し、ブロック混じりの黒褐色土が堆積している。

SK-009 (図1-11)

平面形は不整楕円形を呈し、97×90×9cmを測る。断面形は浅い鍋底形を呈し、底面に若干凹凸が見られるが、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は1層に分層し、SK-008と同質の土が堆積している。

SK-010 (図1-11)

平面形は不整楕円形を呈し、86×75×16cmを測る。断面形は皿形で、浅く開き気味に立ち上がる。堆積土は1層に分層し、ブロックが若干混入する。

SK-011 (図1-11)

平面形は小判形を呈し、96×52×29cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がり、壁上部の一部で角度を変え緩やかに立ち上がる。堆積土は4層に分層し、ブロックが少量

混入する自然堆積状況を呈する。

SK-012 (図1-11)

小判形を呈し、103×53×54cmを測る。断面形は段状に立ち上がる形状で、北側がピット状に下がっている。堆積土は1層で、一気に埋め戻された堆積状況である。

SK-013 (図1-11)

小判形を呈し、120×53×69cmを測る。断面形は柱穴状で、東側が深く入り込む。堆積土は1層に分層し、ブロックを多く含む埋め戻しに伴う堆積状況である。なお、SK-012と本遺構は近接した位置関係にあり、類似した形状であることから関連した可能性がある。

SK-014 (図1-11)

不整楕円形を呈し、107×85×15cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる部分がある。堆積土は1層に分層し、ブロックが混入する自然堆積状況を呈する。

SK-015 (図1-11)

不整楕円形を呈し、130×92×23cmを測る。断面形は中央が若干凹んだ形状で、壁際に向かって緩やかに立ち上がっている。壁は垂直に近い形で立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は1層に分層し、炭化粒が混入する自然堆積状況である。

SK-016 (図1-11)

小判形を呈し、147×86×25cmを測る。断面形は浅い段状を呈し、壁は緩やかに立ち上がっている。堆積土は3層に分層し、流れ込みに伴うブロックの混入が認められ、自然堆積状況を呈する。

10_SK-001 (図1-12)

不整形を呈し、80×58×44cmを測る。断面形は袋状を呈し、底面は凹んだ形状である。堆積土は4層に分層し、自然堆積状況を呈する。

10_SK-002 (図1-12)

不整楕円形を呈し、89×80×40cmを測る。断面形は底面に凹凸があり、壁は袋状を呈する部分がある。堆積土は5層に分層し、崩落・流れ込みの伴う自然堆積状況を呈する。

10_SK-003 (図1-12)

不整楕円形を呈し、130×98×34cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立

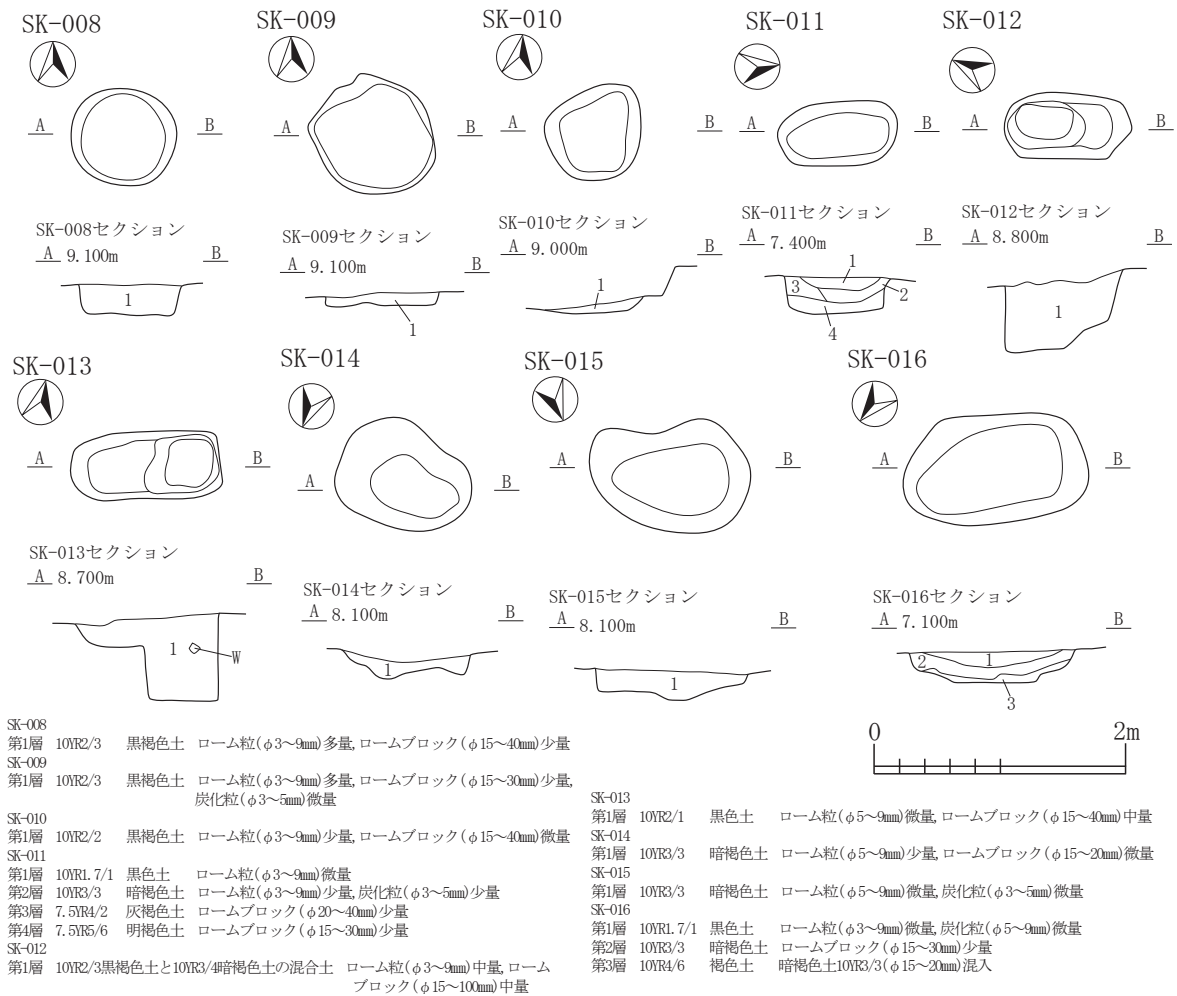


図 1-11 B区 SK-2

ち上がる。堆積土は5層に分層し、流れ込みを含む自然堆積状況を呈する。

10_ SK-004 (図 1-12)

平面形は不整長楕円形を呈する。規模は161×116×29cmを測る。堆積土は4層に分層し、ブロックなどの流れ込みが伴う自然堆積状況を呈する。

3. 焼土遺構

SN-001 (図 1-12)

不整楕円形を呈し、90×78cmを測る。掘りこみではなく、焼土化した状態で、被熱部分の最大厚は10cmを測る。

4. 溝状土坑

STP-001 (図 1-12)

平面形は溝状を呈し、316×25×63cmを測る。断面形は南側の長軸方向がスロープ状に傾斜し、北側は袋状に入り込んでいる。短軸側は垂直に近い形で立ち上がり、壁の一部で開き気味に角度を変えた部分が見られる。堆積土は3層に分層し、自然堆積状況を呈する。

STP-002 (図 1-12)

平面形は溝状を呈し、300×54×81cmを測る。断面形は東西の長軸方向の両端は袋状に入り込む形状、短軸方向は一部袋状に入り込む部分が認められるが、垂直に立ち上がる形状で、壁上部で角度を変え開き気味に立ち上がっている。堆積土は6層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

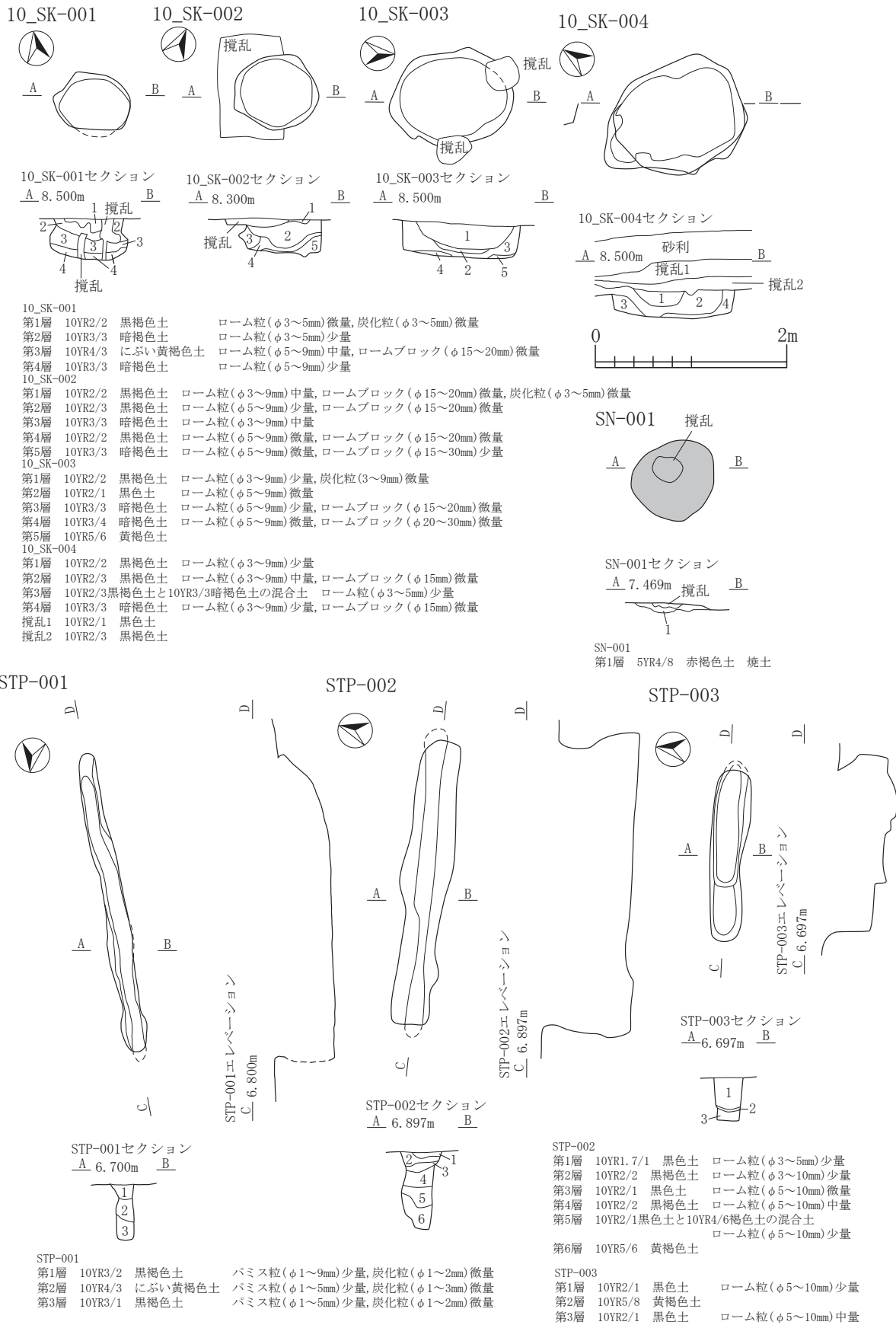
STP-003 (図 1-12)

平面形は溝状を呈し、180×40×63cmを測る。断面形は長軸方向の東側が一段下がった形状で、凹凸が顕著である。壁は東側が袋状に入り込み、それ以外の壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は3層に分層し、途中崩落に伴う流れ込みがある自然堆積状況を呈する。

5. その他の遺構

SX-001 (図 1-13)

平面形は隅丸長方形を呈し、200×142×26cmを測る。断面系は鍋底形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分が見られる。堆積土は4層に分層し、壁際に第4層が流れ込みで堆積した後に中央にB-Tm火山灰



II-2
B区

図 1-12 B区 SK-3・SN・STP

が堆積し、更にその上位に炭化粒を含む土が堆積して埋没している。遺物は出土していないが、古代に帰属する可能性がある。

SX-002 (図1-13)

平面形は長方形を呈し、405×200×11cmのプランを検出した。北壁のみが明瞭で、他の壁は浅く不明瞭である。北壁の西寄りの地点から145×130×13cmの浅い土坑状の落ち込みを検出している。いずれもブロック混じりの土で埋没している。

10_SX-001 (図1-13)

不整形を呈し、215×142×50cmを測る。断面形は凹凸があり、西～北壁にかけてやや緩やかに

に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。

6.ピット (図1-14～16)

53基検出した。個別の平面・セクション図は図1-15・16に掲載し、規模等の情報は遺構観察表に掲載した。単独で検出する事例より2～3基のピットが配置する事例が多く、建物として機能した可能性のある資料も含まれる。しかし、SP-025～028・030のピット以外は二列以上の配置を持つ資料がなく、詳細は不明である。

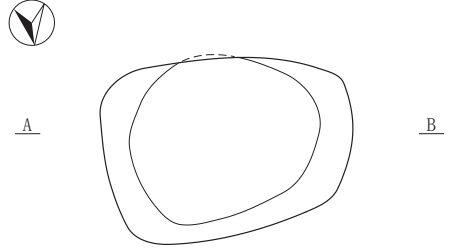
7.溝跡

SD-001 (図1-17～24)

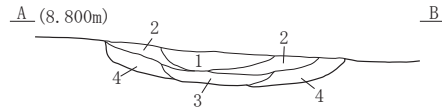
調査区内から断続的に検出し、総延長は253m

Ⅱ-2
B区

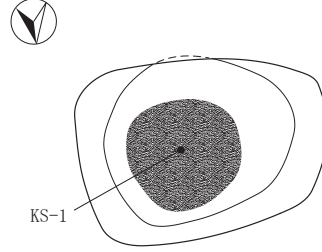
SX-001



SX-001セクション



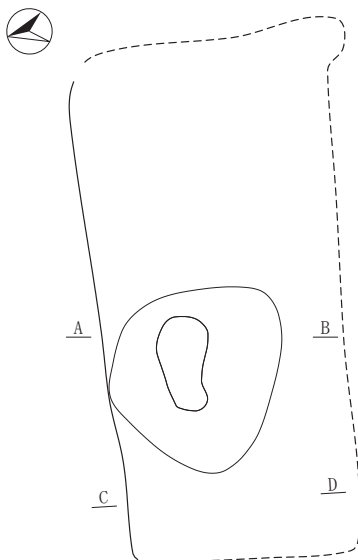
SX-001B-Tm火山灰範囲・サンプル



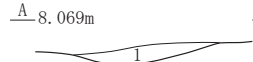
SX-001

- 第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
- 第2層 10YR5/2 灰黄褐色土 バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
- 第3層 10YR7/3 にぶい黄褐色土 火山灰(B-Tm)層
- 第4層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量

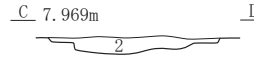
SX-002



SX-002セクション



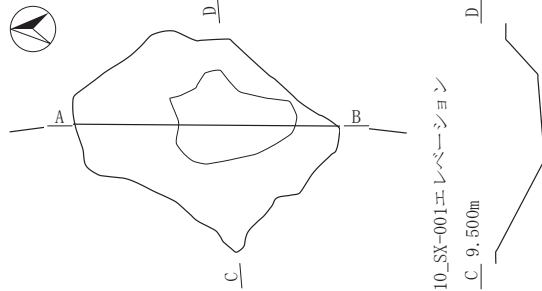
SX-002セクション



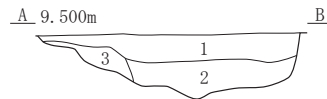
SX-002

- 第1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒・ブロック(φ5~20mm)微量
- 第2層 10YR2/3黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混泥土

10_SX-001



10_SX-001セクション



10_SX-001

- 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ20~40mm)微量,炭化粒(φ5mm)少量
- 第2層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~40mm)少量,炭化物粒(φ1~30mm)微量
- 第3層 10YR3/4 暗褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量



図1-13 B区SX

に及ぶ。北東方向に傾斜する沢地形に沿った形で構築されており、地形に沿い南南西側の部分で屈曲しており、北東方向にV字状に開いている。溝からは縄文・弥生土器、土師器、陶器、石匙・敲磨器類などが出土している。

SP配置図 S=1/800



8. 遺構外出土遺物 (図 1-24・25)

トレンチ・風倒木出土資料を含め20点図示した。縄文土器は円筒下層d₂期の資料が主体で、陶磁器については近世以外に近現代の資料も含まれる。碗・皿・鉢・蓋以外に目皿や五徳も出土してい

図 1-14 B区 SP-1

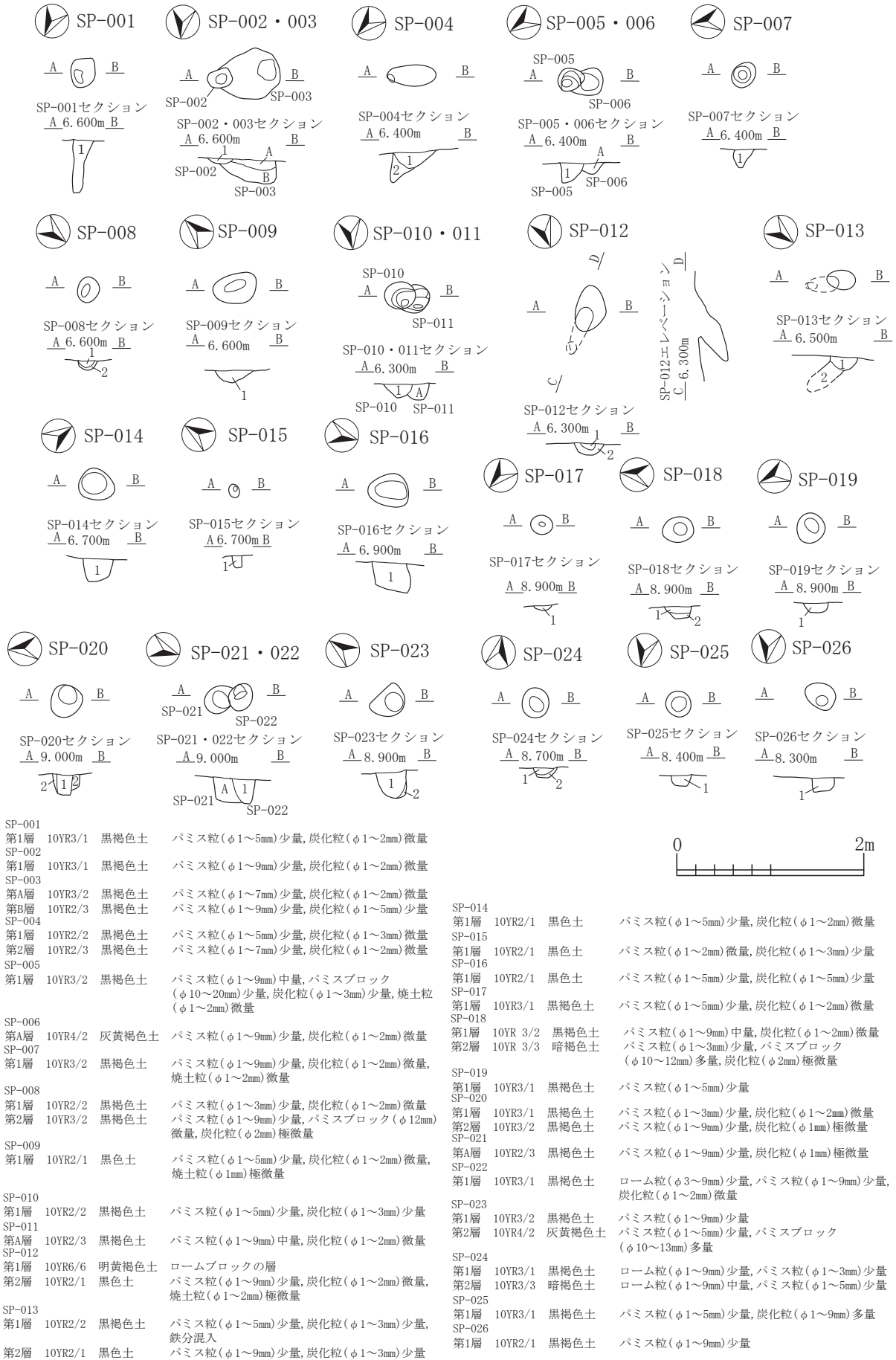


図 1-15 B区 SP-2

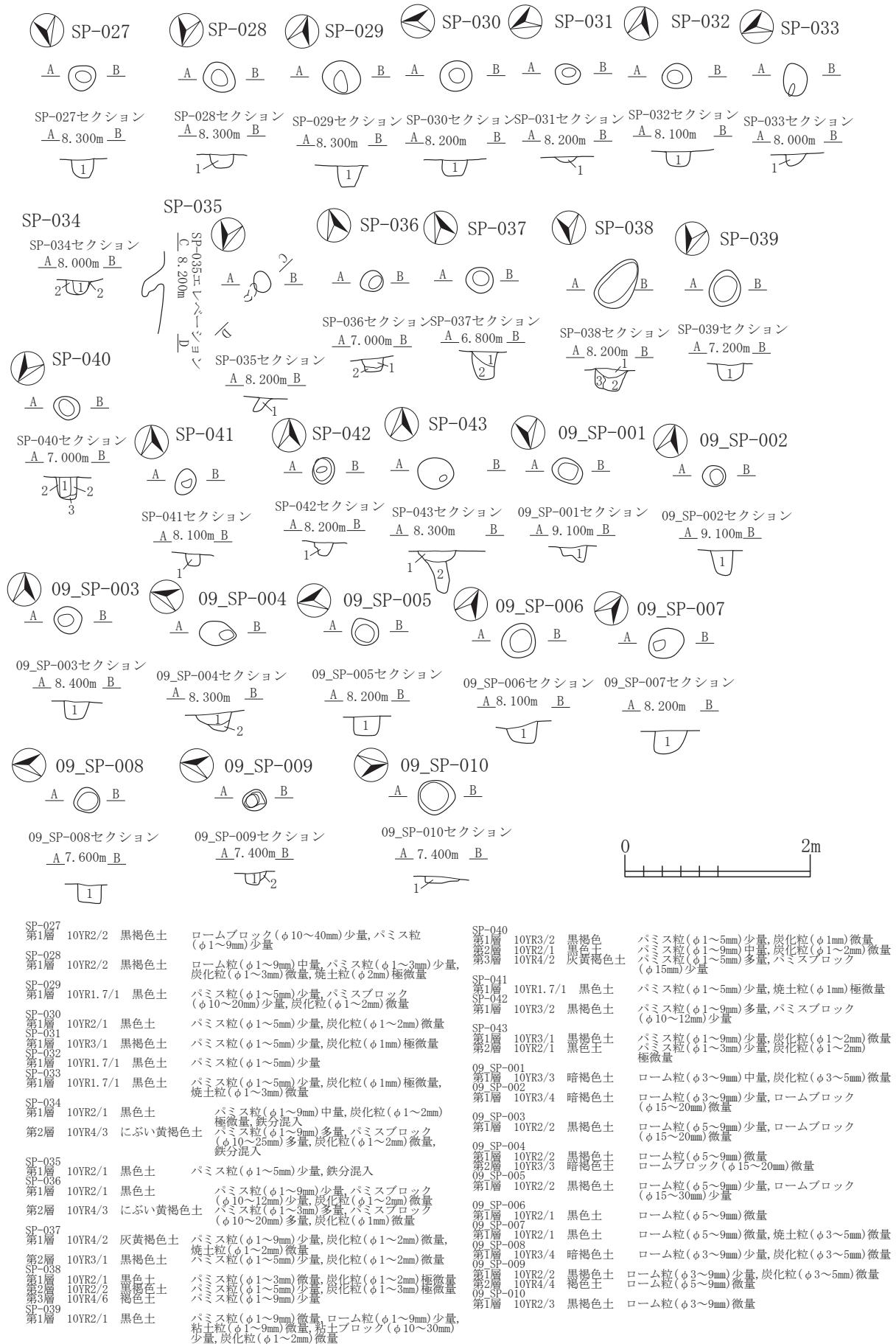
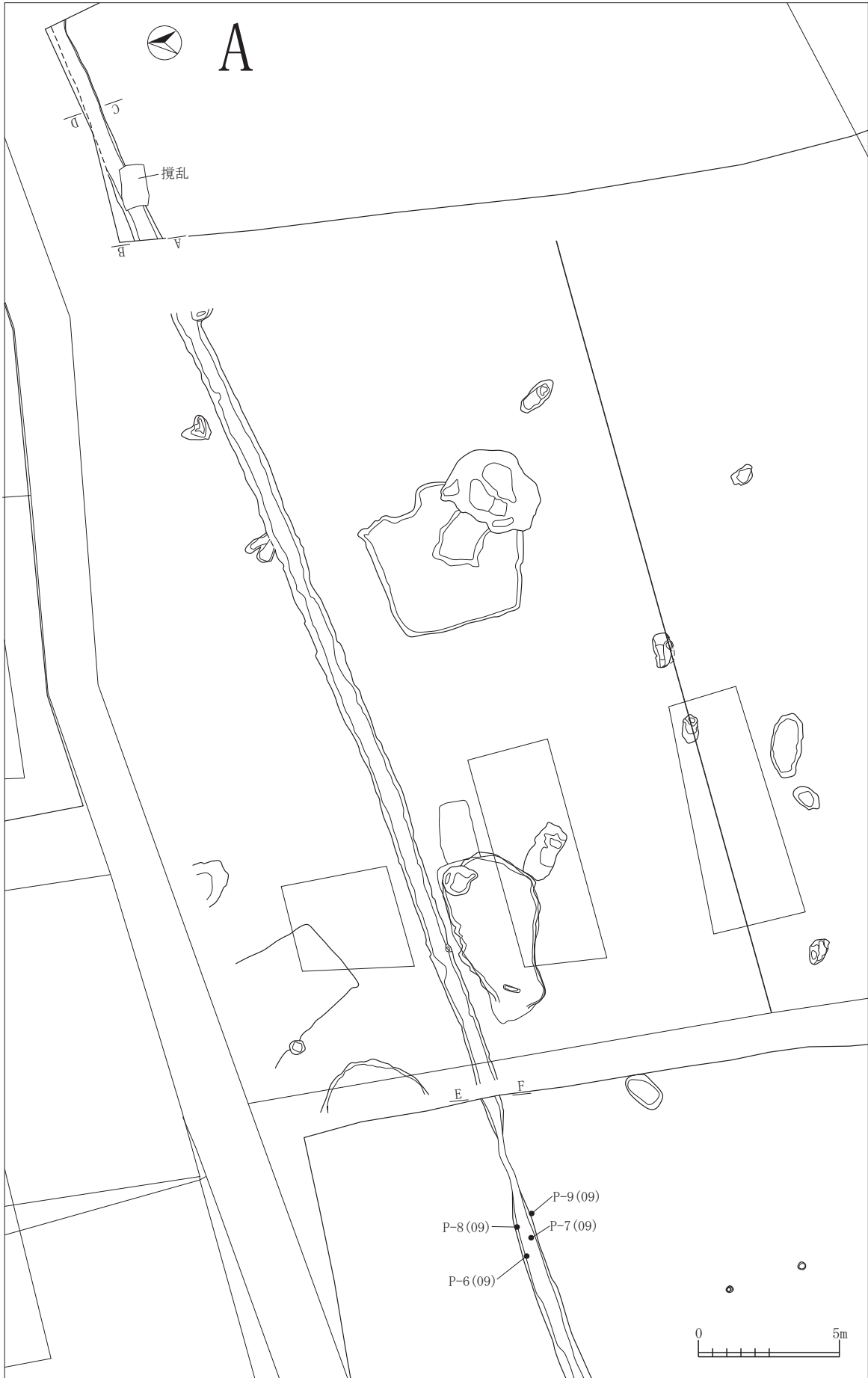


図 1-16 B 区 SP-3

Ⅱ-2
B区



図1-17 B区SD-1



II-2
B区

図 1-18 B区 SD-2

Ⅱ-2
B区

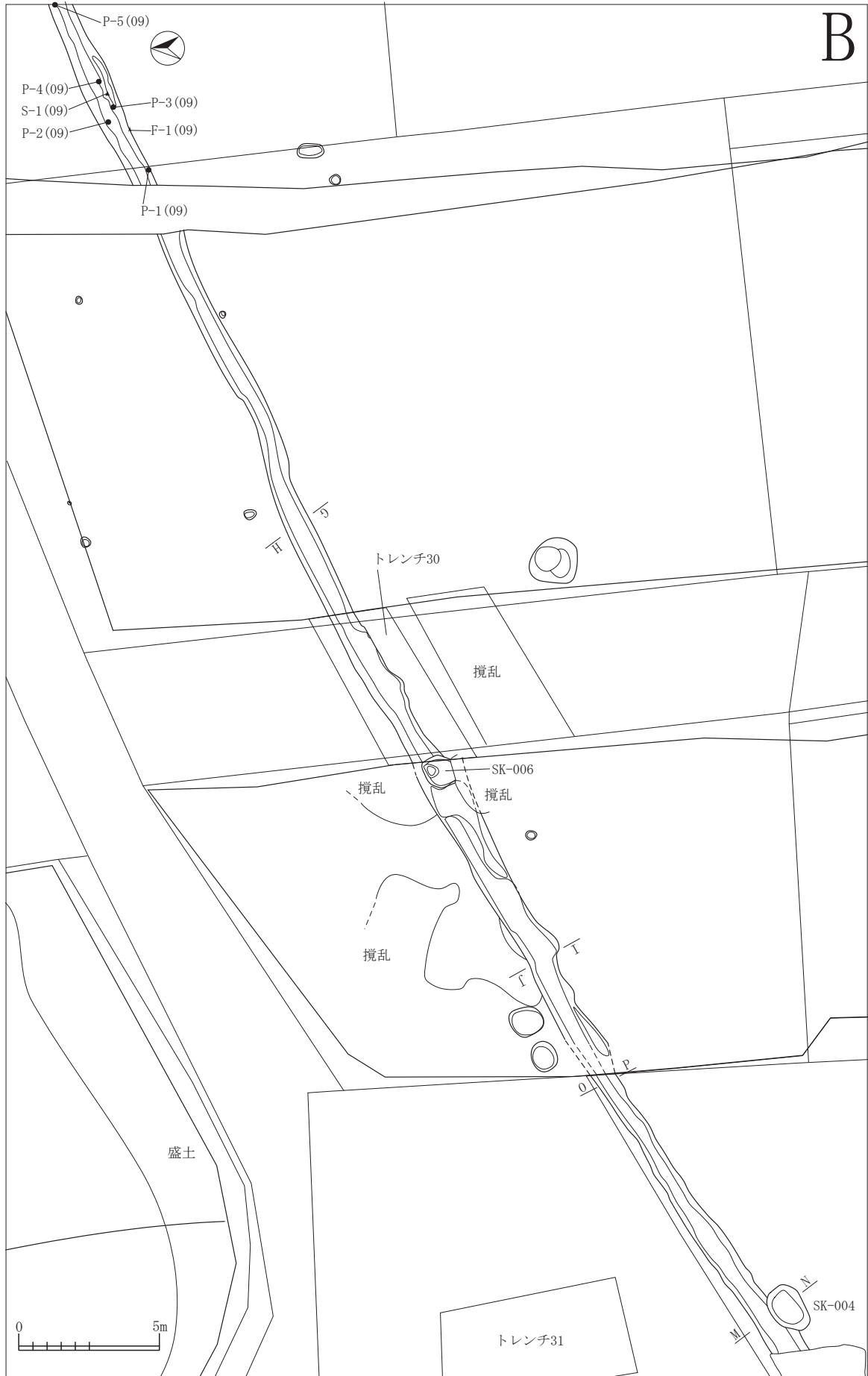
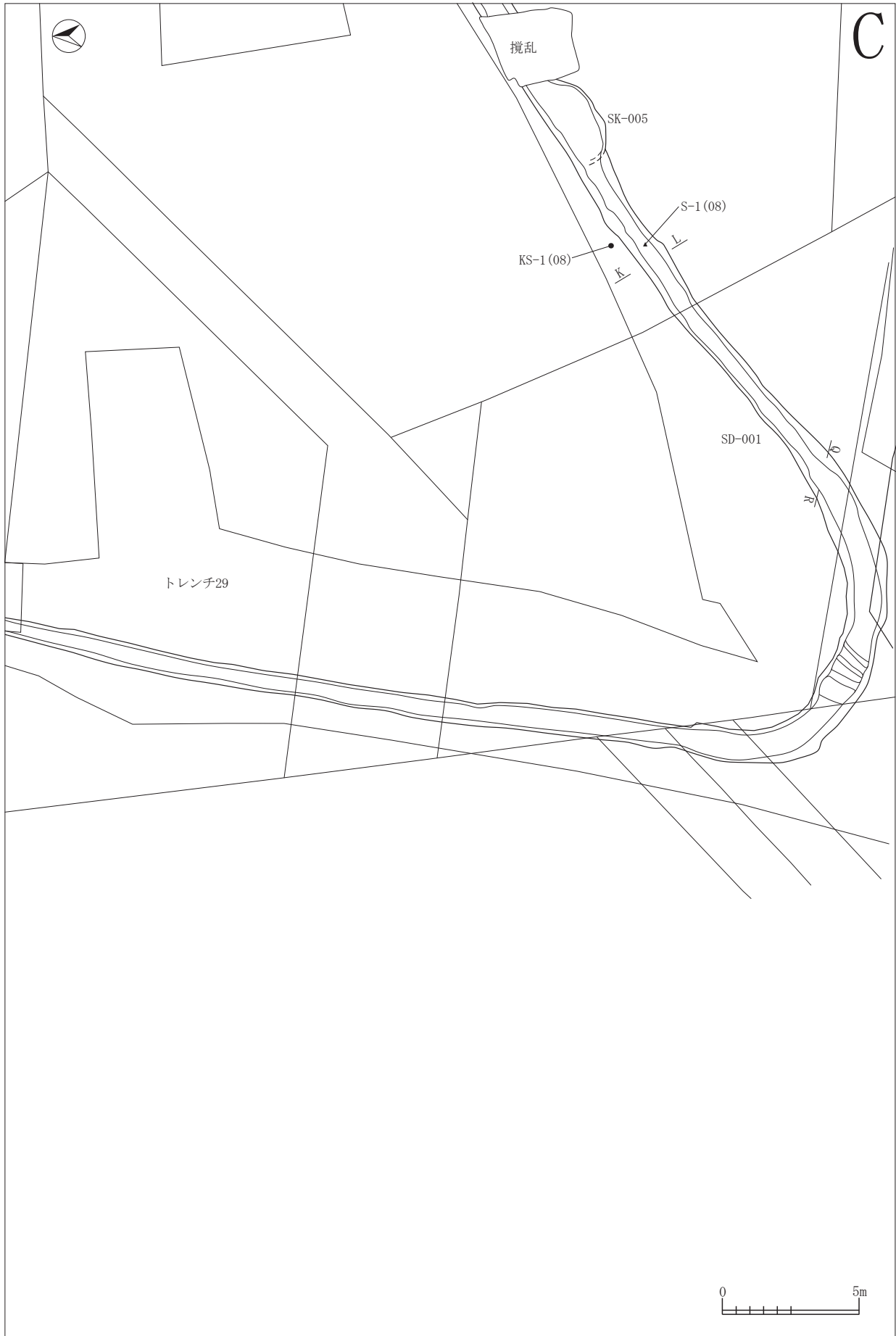


図 1-19 B区SD-3



II-2
B区

図 1-20 B区 SD-4

Ⅱ-2
B区

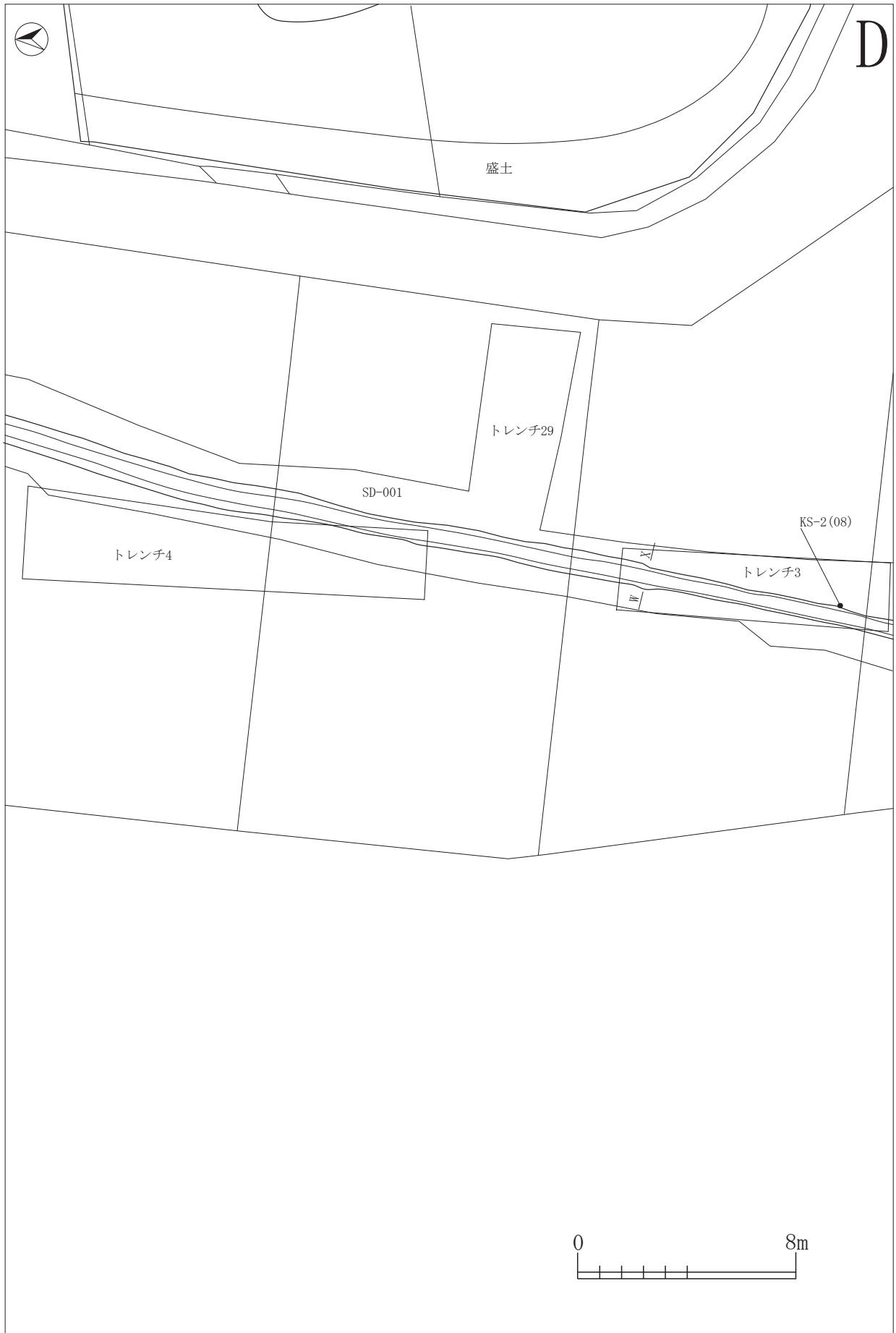
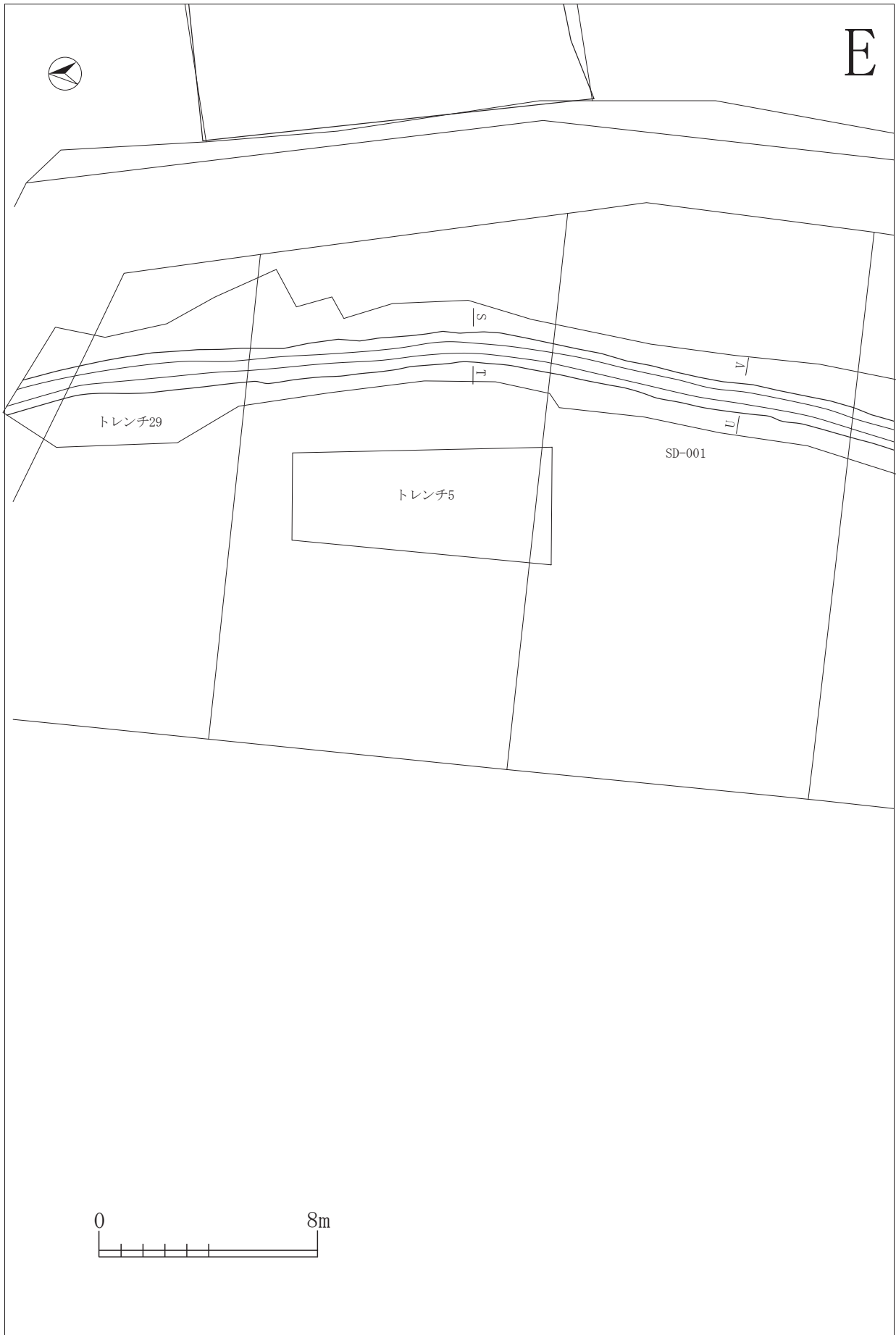


図 1-21 B区 SD-5



II-2
B区

図 1-22 B区 SD-6

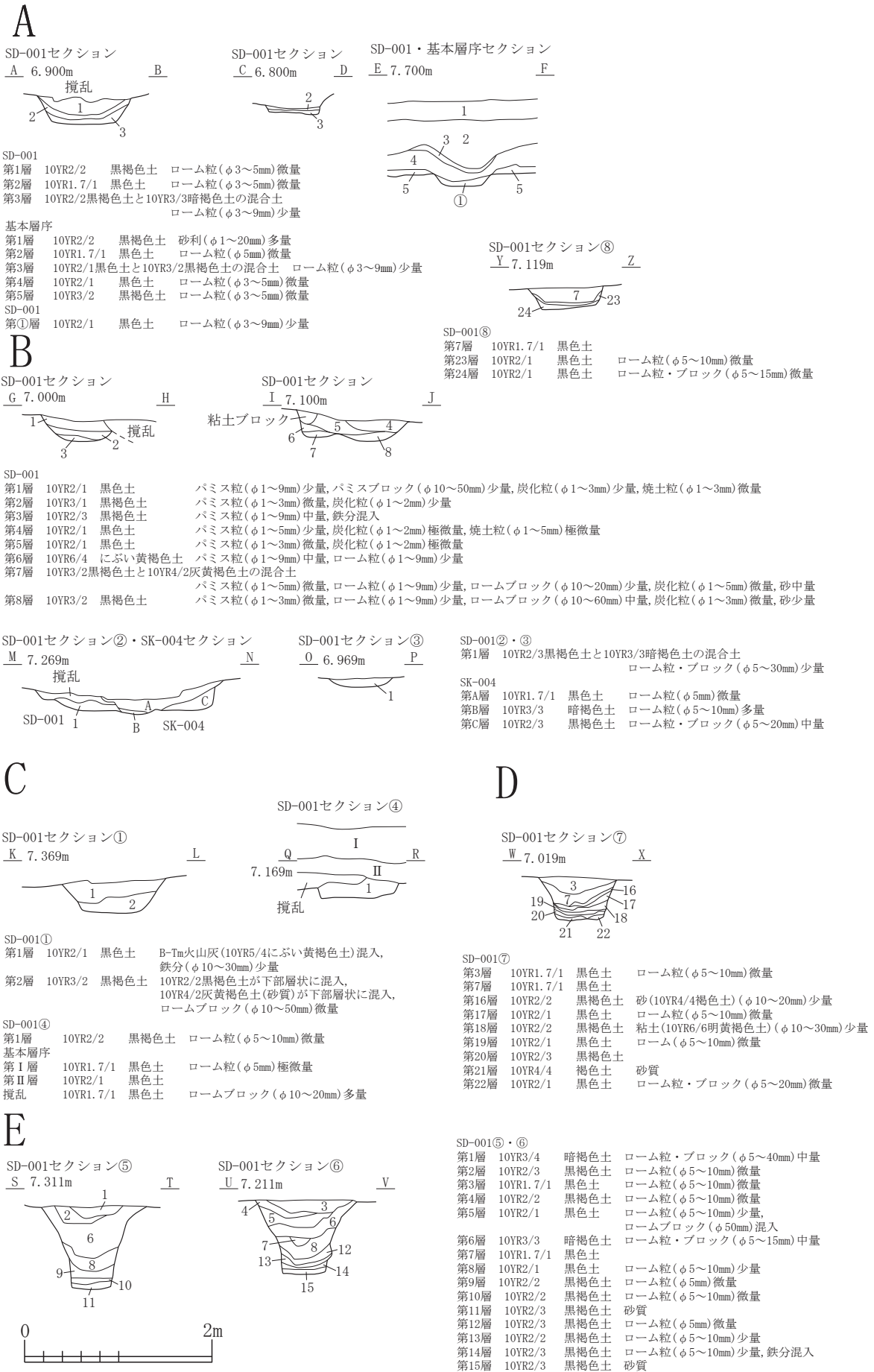


図 1-23 B区 SD-7

る。046・047は昭和初期の防衛食容器で、隣接する高間(1)遺跡C-1区遺構外からも出土している(青市埋文報第113集-1P. 163)。048は攪乱出土の漆器碗で、内外面とも黒地に赤漆が塗布されていた。

SD-001

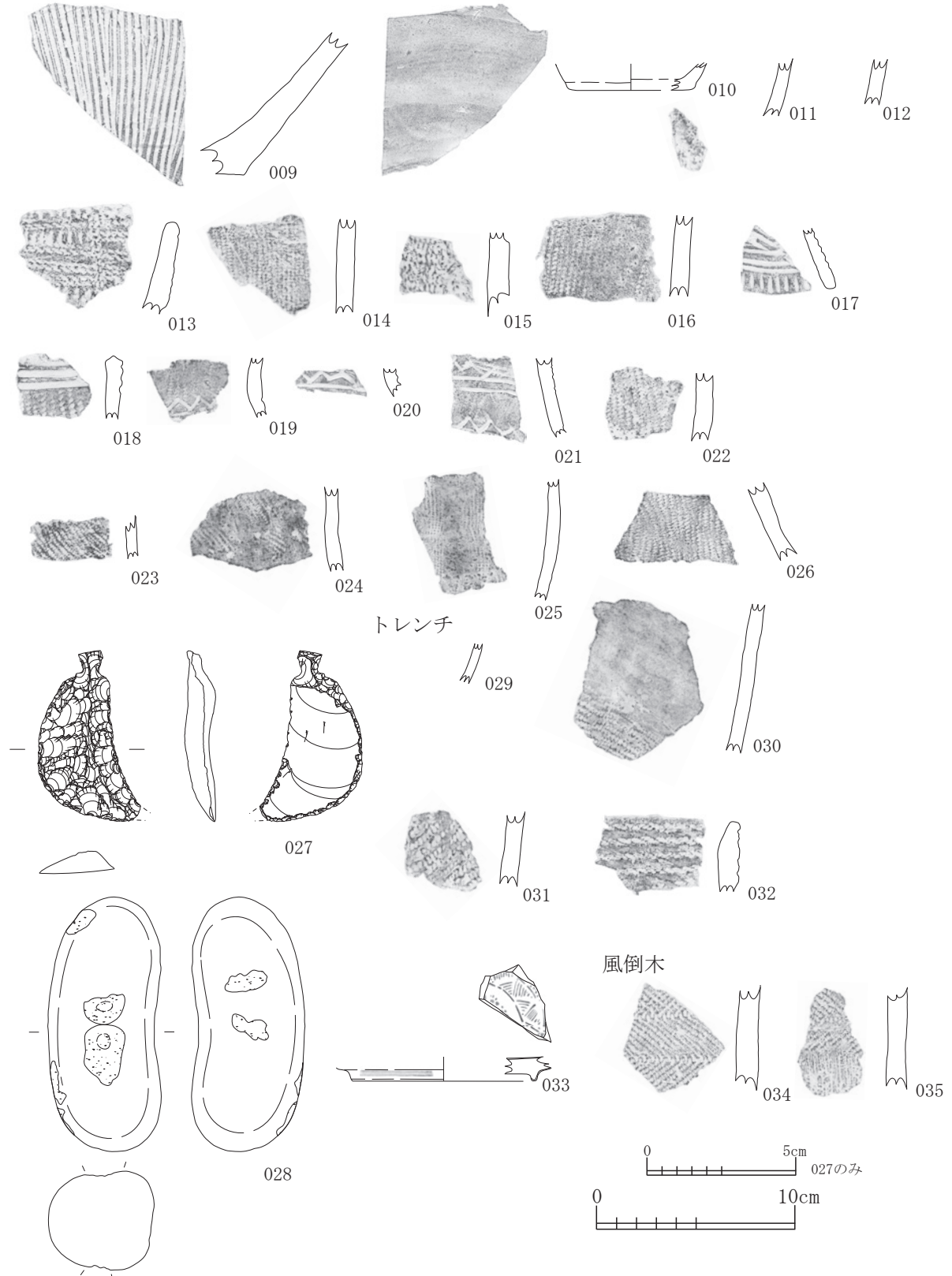


図 1-24 B区 SD-8, 遺構外出土遺物 -1

遺構外出土遺物

Ⅱ-2
B区

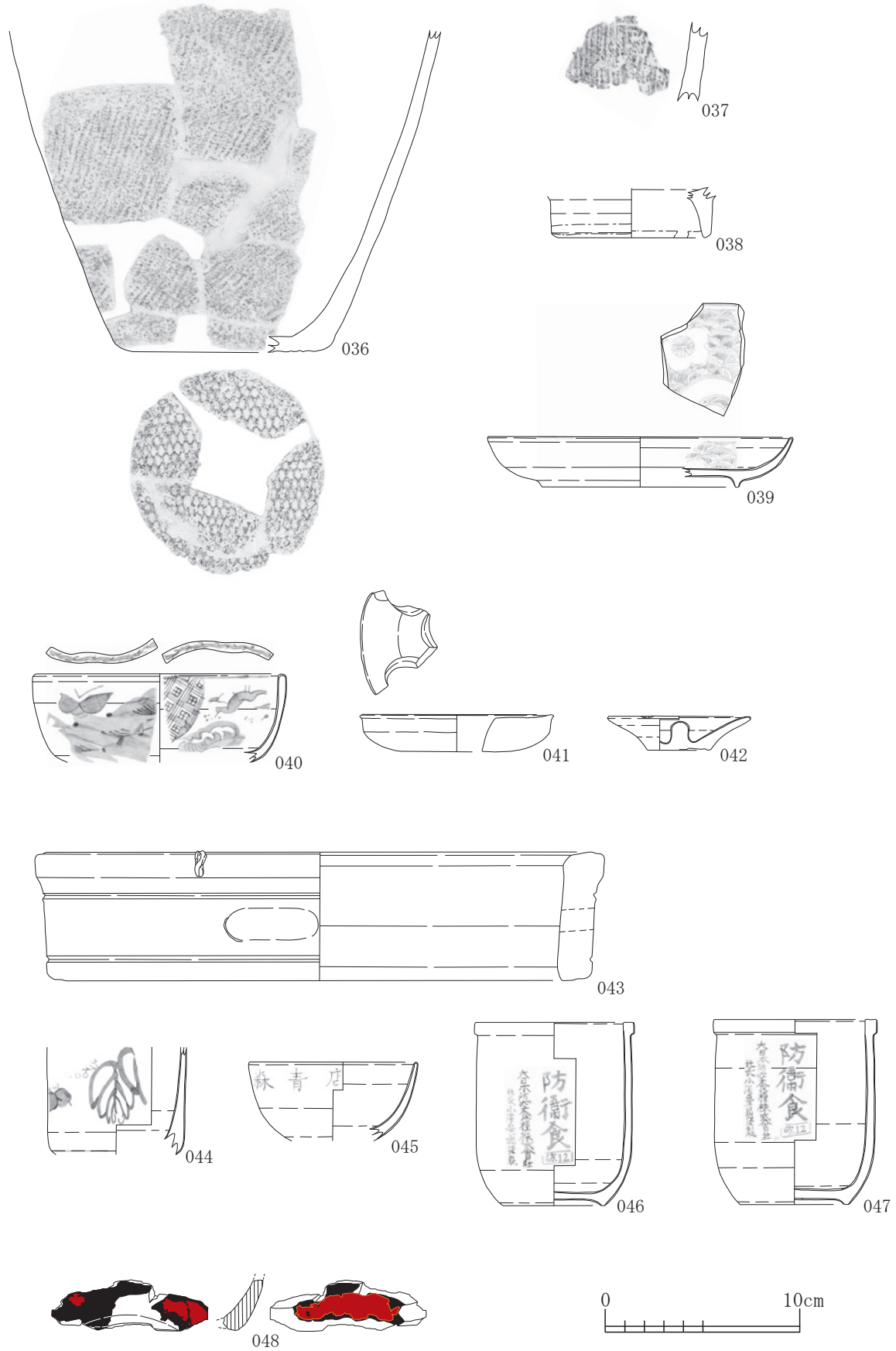


图 1-25 B区遺構外出土遺物 -2

第3節 C区

発掘調査は、東側に相当し、従前からあった住宅地と新興の住宅地の間にあたる。地形的には北向きに傾斜する地形主体で、標高は4～6m前後である。

測る。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は1層に分層し、ローム粒を若干含む黒褐色土の堆積が見られた。

1. 土坑

SK-001 (図1-27)

平面形は楕円形を呈し、94×83×28cmを

2. 溝跡

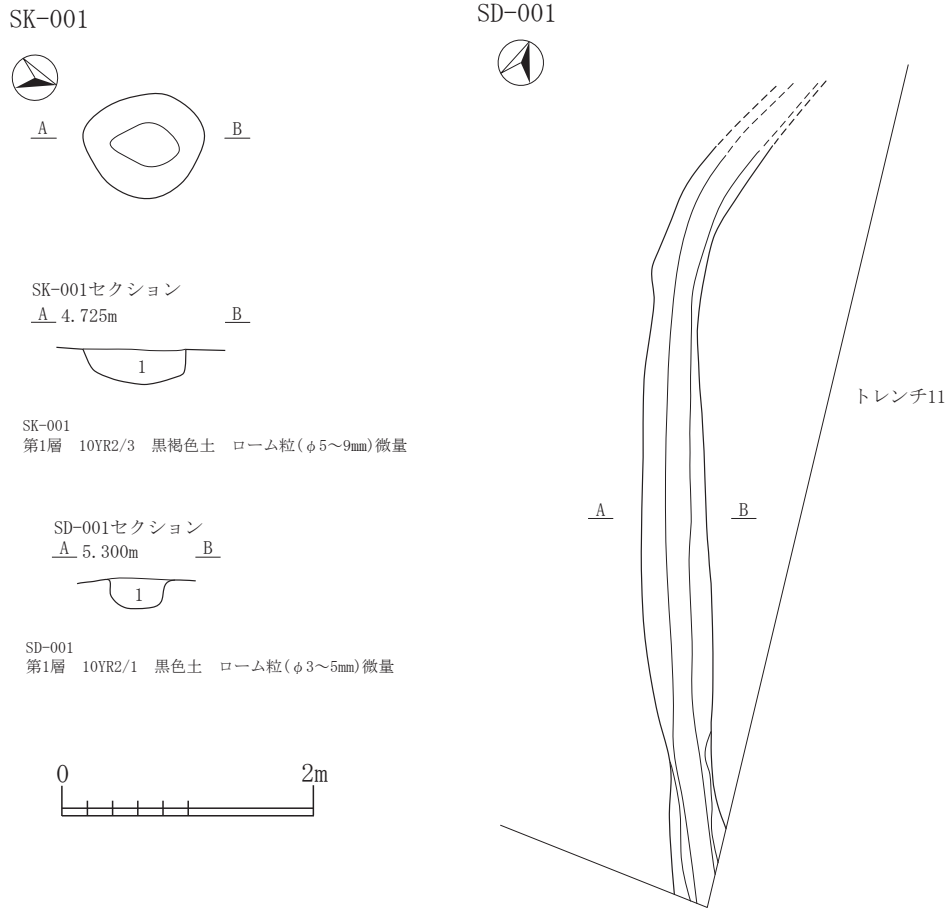
SD-001 (図1-27)

調査区の東側から検出した。地形に沿った流路で北向きの傾斜で、北端が若干東側に曲がっている。

高間(6)遺跡C区遺構配置図 S=1/500



図1-26 C区遺構配置図



Ⅱ-3
C区

図 1-27 C区 SK・SD

検出部分の規模は長さ630cm、幅32~56cm、深さ24cmを測る。断面形は鍋底形で、壁際がやや丸みを帯び壁は垂直に近い形で立ち上がる部分が多く見られる。堆積土は1層に分層し、ローム粒が若干混入している。

第4節 D区

発掘調査は調査区の西側、東北新幹線新青森駅舎の東西の隣接部に相当する。

1. 竪穴遺構

SI-01 (図1-29)

東側が調査時に道路部分に相当し、残存していない状況であるが、検出部分は不整形長方形を呈し、 $(243) \times 221 \times 16$ cmを測る。床面は全面掘り方に4~8 cm程度パミスブロック主体の土が充填されている。壁は開き気味に立ち上がっている。竪穴内から柱穴や壁溝等の構築物は認められないが、堆積土中から縄文土器が出土している。

2. 土坑

SK-01 (図1-29)

平面形は不整形長方形を呈し、 $106 \times 65 \times 33$ cmを測る。断面形は西側に向かって傾斜がついた凹凸のある形状で、壁は西側が若干袋状に入り込んでいる。堆積土は5層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。

SK-001 (図1-29)

平面形は不整形長方形を呈し、 $103 \times 87 \times 41$ cmを測る。断面形は袋状を呈し、所謂フラスコ状土坑である。堆積土は7層に分層し、崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

3. 焼土状遺構

SN-01 (図1-29)

平面形は不整形を呈し、 $145 \times 100 \times 13$ cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、堆積土は11層に分層し、パミスブロックと焼土ブロックが混在した堆積状況である。また、第6層としたにぶい黄褐色土の中にはB-Tm火山灰が混入している。

4. その他の遺構

SX-01 (図1-30)

溝跡と重複して 400×360 cmの範囲で確認した。粘土範囲のみであるため詳細は不明である。

06_SX-01 (図1-30)

平面形は不整形長方形を呈し、 $386 \times 150 \times$

高間(6)遺跡D区遺構配置図 S=1/800

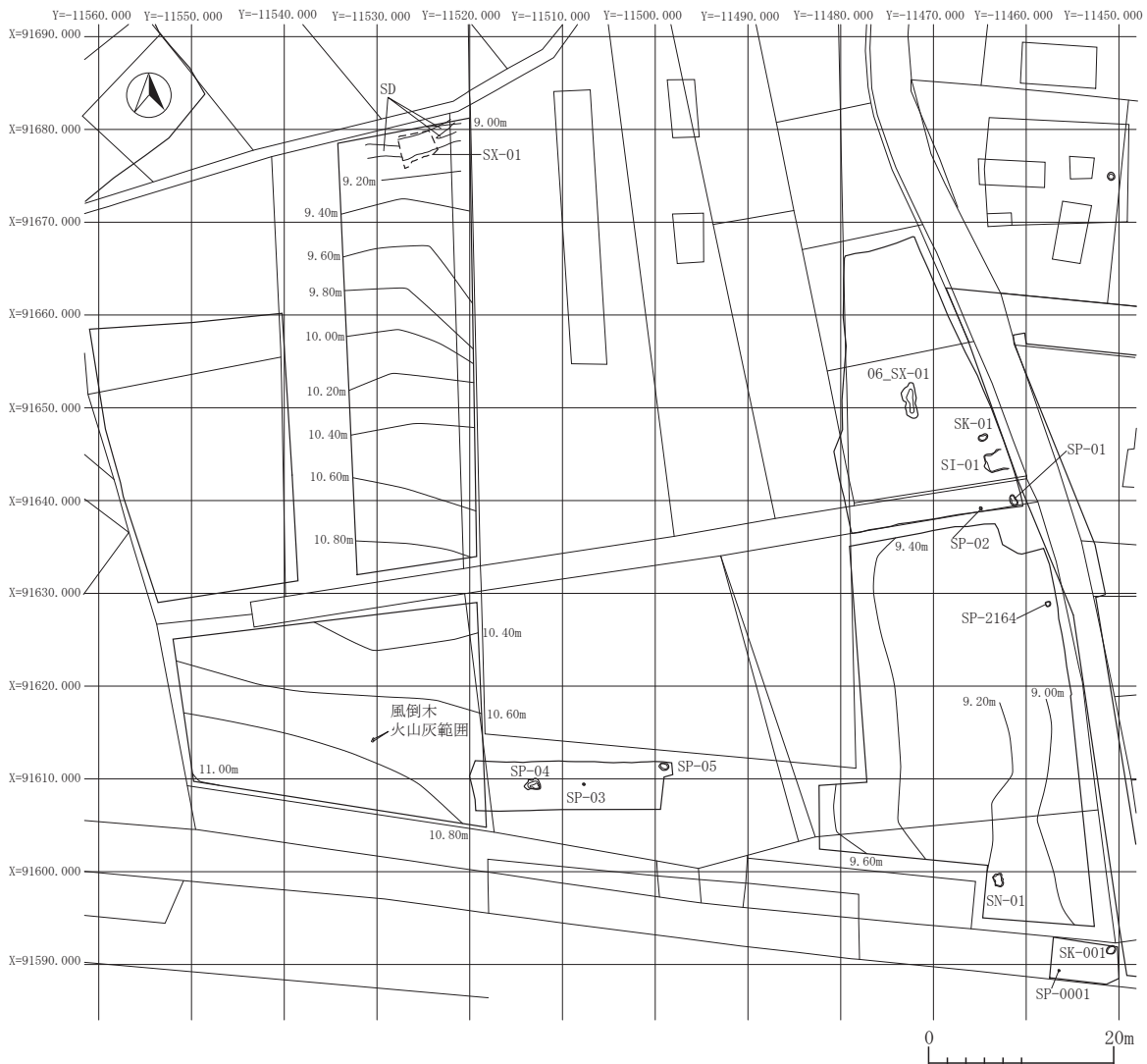


図1-28 D区遺構配置図

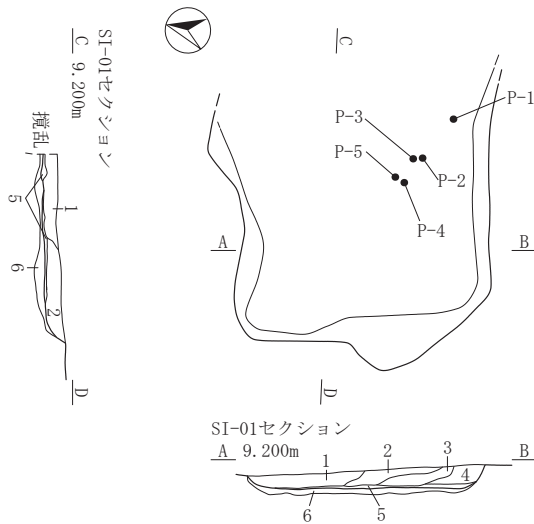
45cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は7層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。堆積土中から土師器甕と縄文土器深鉢の体部片が出土した。

5. ピット

SP-01 (図1-30)

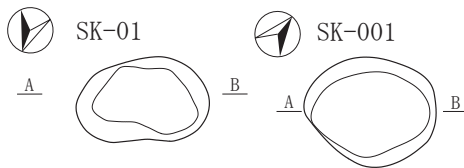
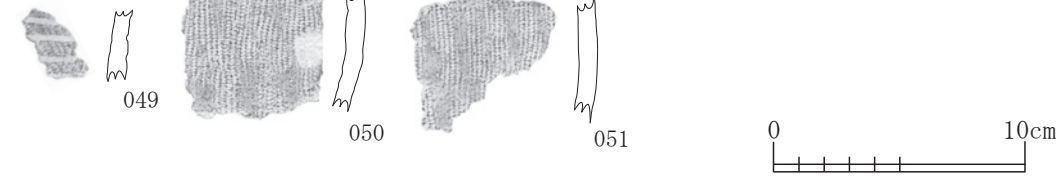
平面形は不整楕円形を呈し、120×72×17

SI-01

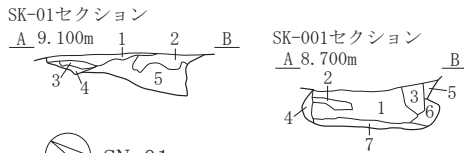


SI-01			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ3~9mm)中量, ローム粒(φ3~5mm)中量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ2~4mm)少量
第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ3~9mm)中量, ローム粒(φ3~9mm)中量, 炭化粒(φ1~2mm)少量, 白色ブロック粒(φ3~9mm)中量
第3層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ3~5mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)微量
第4層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ2~9mm)多量, ローム粒(φ3~9mm)中量
第5層	10YR2/1	黒色土	
第6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~25mm)多量

SI-01

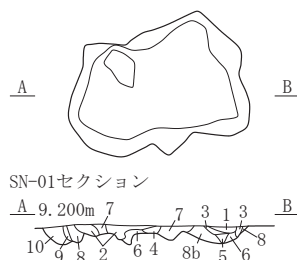


SK-01			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~30mm)多量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)多量, パミスブロック(φ10~20mm)多量
第3層	10YR5/8	黄褐色土	パミスブロック(φ50~150mm)に10YR3/3暗褐色土少量混入, パミスブロック層
第4層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ2~5mm)多量
第5層	10YR5/8	黄褐色土	パミスブロック(φ50~150mm)に10YR3/3暗褐色土少量混入, パミスブロック層



SK-001			
第1層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~8mm)中量
第2層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)少量
第3層	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~2mm)少量
第4層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ2~4mm)中量
第5層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒(φ2~3mm)中量
第6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~3mm)中量
第7層	10YR3/1	黒褐色土	炭化粒(φ2~3mm)少量

SN-01



SN-01			
第1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ2~6mm)少量, パミスブロック(φ10~12mm)微量
第3層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ2~9mm)微量
第5層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ2~8mm)微量
第6層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ3~5mm), パミスブロック(φ12~13mm)微量, 焼土ブロック(φ10~12mm)微量, B-Tm火山灰粒(φ6~8mm)微量
第7層	7.5YR4/1	褐灰色焼土	パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ25~30mm)微量
第8層	7.5YR4/1	褐灰色焼土	パミス粒(φ2~6mm), パミスブロック(φ10~12mm)微量
第8b層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量
第9層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	パミス粒(φ2~4mm)微量
第10層	10YR4/2	灰黄褐色土	パミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土ブロック(φ10~30mm)少量

cmを測る。断面形は凹凸が顕著で、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。

SP-02 (図1-30)

平面形は不整隅丸方形で、36×32×7cmを測る。断面形は皿形を呈し、緩やかに立ち上がる。堆積土は3層に分層し、パミス粒混じりの流れ込み

SI-01貼床範囲

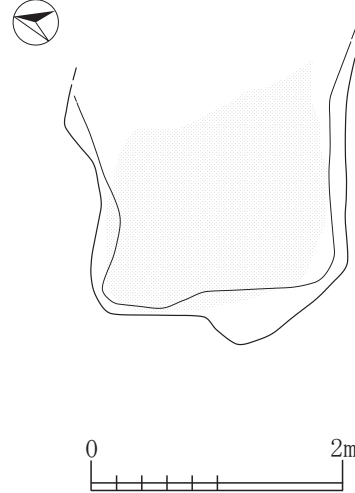
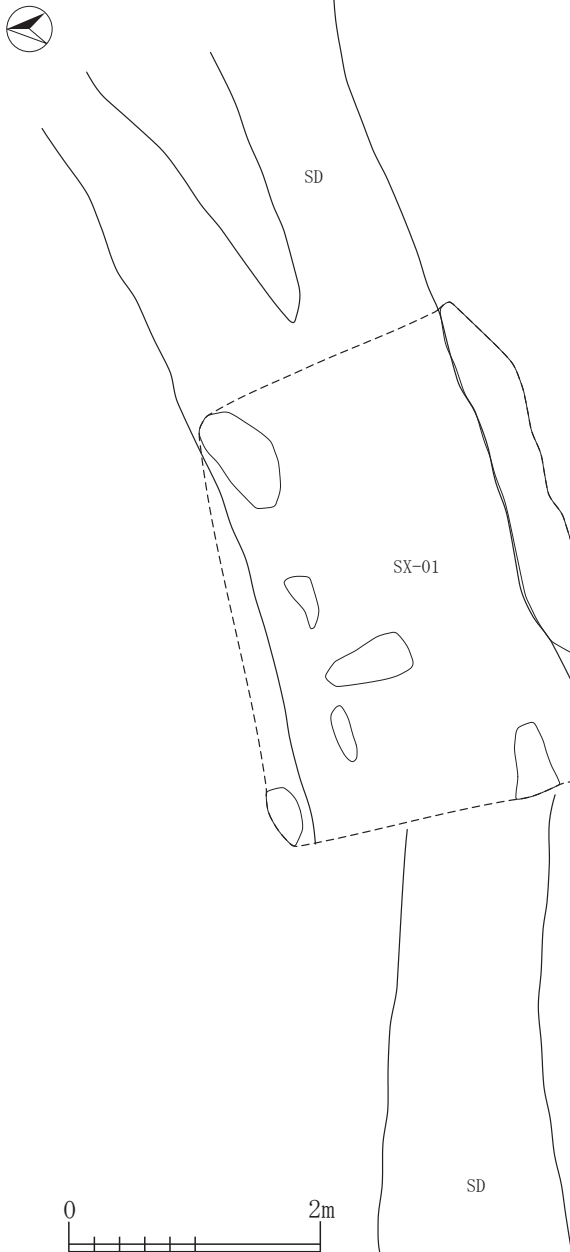
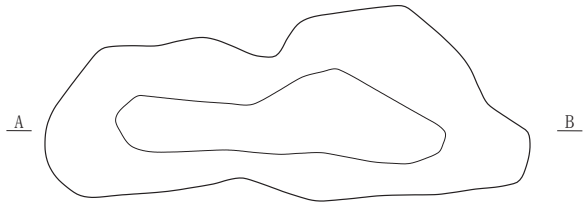


図1-29 D区SI・SK・SN

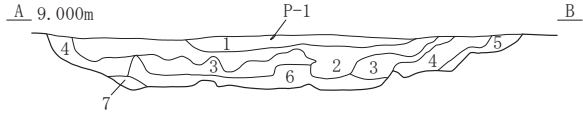
SX-01・SD



06_SX-01

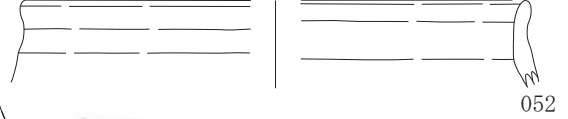


06_SX-01セクション

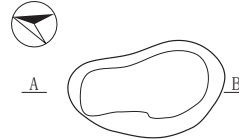


- | | | | |
|----------|-----------|----------------------|---|
| 06_SX-01 | | | |
| 第1層 | 10YR1.7/1 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~5mm)微量,バミスブロック(φ10mm)微量,炭化粒(φ2~3mm)少量,炭化物微量混入 |
| 第2層 | 10YR2/1 | 黒色土 | バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)微量,炭化粒(φ2~3mm)少量 |
| 第3層 | 10YR2/3 | 黒褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土 | バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10mm)極微量 |
| 第4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~50mm)少量 |
| 第5層 | 10YR4/6 | 褐色土 | バミス粒(φ1~5mm)少量 |
| 第6層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR2/1黒色土微量,バミス粒(φ1~5mm)微量 |
| 第7層 | 10YR4/4 | 褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土 | バミス粒(φ1~3mm)微量 |

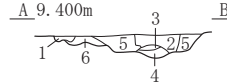
06_SX-01



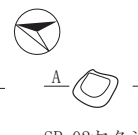
SP-01



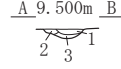
SP-01セクション



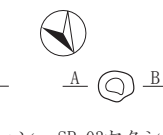
SP-02



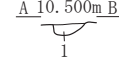
SP-02セクション



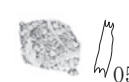
SP-03



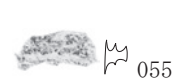
SP-03セクション



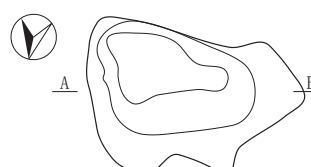
SP-02



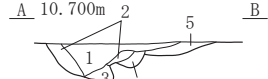
SP-05



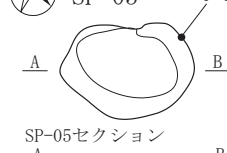
SP-04



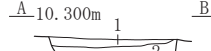
SP-04セクション



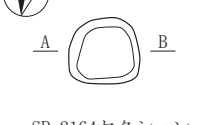
SP-05



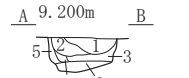
SP-05セクション



SP-2164



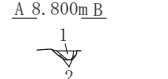
SP-2164セクション



SP-0001



SP-0001セクション



- | | | | |
|---------|-----------|---------|---|
| SP-01 | 10YR4/4 | 褐色土 | バミス粒(φ1~3mm)微量 |
| 第2層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ2~3mm)少量 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~3mm)微量,バミスブロック(φ10mm)微量 |
| 第4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | バミス粒(φ1~3mm)微量 |
| 第5層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ2~3mm)少量,炭化物微量混入 |
| 第6層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~7mm)中量,炭化粒(φ2~3mm)少量,炭化物微量混入 |
| SP-02 | 10YR2/1 | 黒色土 | バミス粒(φ1~3mm)極微量 |
| 第2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~2mm)微量 |
| 第3層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~3mm)微量,10YR3/4暗褐色土少量混入 |
| SP-03 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ5mm)微量 |
| SP-04 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)微量 |
| 第2層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)少量 |
| 第3層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~50mm)中量 |
| 第4層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ5~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)多量 |
| 第5層 | 10YR4/2 | 灰黄褐色土 | バミス粒(φ3~5mm)多量,バミスブロック(φ10~20mm)微量 |
| SP-05 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)少量 |
| 第2層 | 10YR5/3 | にぶい黄褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~30mm)多量,バミスブロック(φ50mm)微量 |
| SP-0001 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | ローム粒(φ2~3mm)微量 |
| 第2層 | 10YR5/4 | にぶい黄褐色土 | |
| SP-2164 | 10YR2/1 | 黒色土 | バミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1mm)極微量 |
| 第2層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | バミス粒(φ1~3mm)極微量,炭化粒(φ1mm)極微量 |
| 第3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~15mm)微量 |
| 第4層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ15mm)極微量 |
| 第5層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ15~20mm)微量 |
| 第6層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | バミス粒(φ1~9mm)多量,バミスブロック(φ10~40mm)少量,黒色土(10YR2/1)(φ1~9mm)少量 |

図 1-30 D区 SX・SP・SD

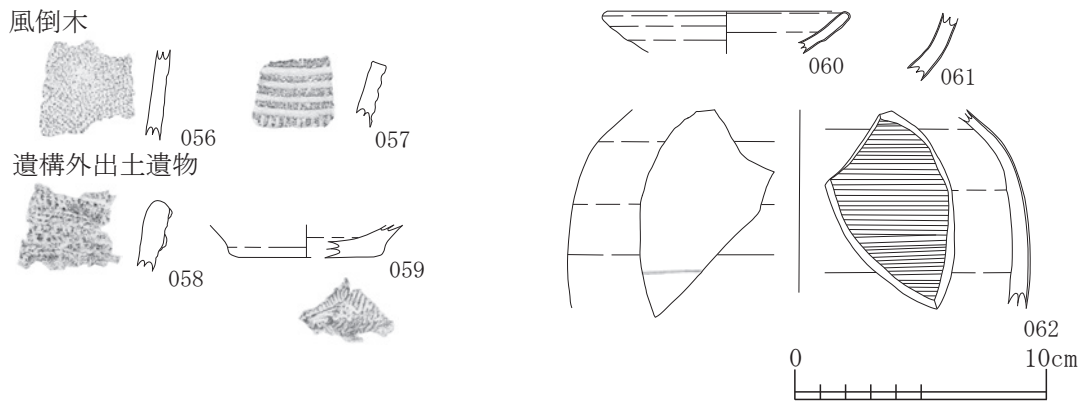


図 1-31 D区遺構外出土遺物

に伴う堆積状況である。堆積土中から縄文土器の破片が出土している。

SP-03 (図1-30)

不整楕円形を呈し、 $28 \times 25 \times 9$ cmを測る。壁は直立気味に立ち上がる部分と緩やかに立ち上がる部分が見られる。堆積土は1層に分層し、パミス粒・炭化粒が混入する。

SP-04 (図1-30)

不整形を呈し、 $166 \times 123 \times 32$ cmを測る。断面形は柱穴状を呈するが、凹凸が顕著である。堆積土は5層に分層し、ブロック混じりの土が堆積している。

SP-05 (図1-30)

不整楕円形を呈し、 $103 \times 71 \times 18$ cmを測る。断面形は鍋底形を呈するが、底面に凹凸があり、東側が浅く一段下がった形状である。堆積土は2層に分層し、ブロック混じりの土で埋め戻された堆積状況である。上面から詳細時期不明の円筒土器の体部片が出土している。

SP-0001 (図1-30)

不整楕円形を呈し、 $23 \times 22 \times 7$ cmを測る。断面形はV字状に開き気味に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、柱穴状の堆積状況である。

SP-2164 (図1-30)

隅丸方形を呈し、 $53 \times 52 \times 26$ cmを測る。断面形は底面に若干の凹凸があり、壁は角度を変え段状に立ち上がっている。堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

6. 遺構外出土遺物 (図1-31)

7点図示した。056・057は風倒木出土の縄文土器と弥生土器片で、いずれも破片である。また、

058は耕作土から出土した縄文時代円筒上層式の口縁部片、059は土師器底部片で、いずれも摩滅が顕著である。

060は近代以降の瀬戸の灰釉皿で口径9.4 cmを測る。061は詳細時期不明の瀬戸の褐釉碗の体部片、062は近世の肥前系磁器の瓶で内面はカキメ状の調整がされ、外面に一本若干緑がかった線が描かれている。

第5節 B区追加(平成25年度調査区)

平成25年度に実施した発掘調査区は第2節で報告したB区の調査区内に相当する。検出遺構等はB区検出の遺構と連続性のある遺構が含まれるが、調査方法の変更に伴い遺構の表記方法などに変更が生じたため、本節中でまとめることとした。なお、第2節の遺構配置図上では本節中で報告する遺構図を配置した図面を掲載している。

前述のとおり、平成25年度の調査では、遺構の表記方法について変更を加えている。具体的には従前の遺構略号に種別ごとの確認順の番号を組み合わせた表記方法(例:SI-01=第1号竪穴建物跡)ではなく、調査年度の遺構の確認順の番号を調査時に付す形にし(例:13-0001=2013年の1番目に確認した遺構)、整理時に遺構種別を付加する形(例:13-0001-SP=2013年の

1番目に確認した遺構はピット)とした。なお、図版上では煩雑な表記となるため、末尾の略号を付さない調査時の表記形式とした。種別ごとの確認順に番号を付す形は種別ごとの数を知る上では便利であるが、同一の数字番号が多数生じる(SI-01・SK-01・SD-01等)ことになり、その後の注記作業等によるヒューマンエラーによって混同される恐れがあることや、遺構確認時の略号がその後の調査経過や解釈の変更で略号変更が生じる懸念があった。これまで既報告の石江遺跡群の発掘調査の中で、数多く問題が生じてきた。これらの事由により、調査最終年度時点での変更という問題のある対応ではあるが、状況を改善すべく試験的に一つの遺構に一つの番号を付す形での取り扱いで実施した。

また、今回の調査区では昭和以降の遺物の包含が一定量認められ、一部の資料では縄文土器等の前代

平成25年度高間(6)遺跡遺構配置図(平成22年度含む)

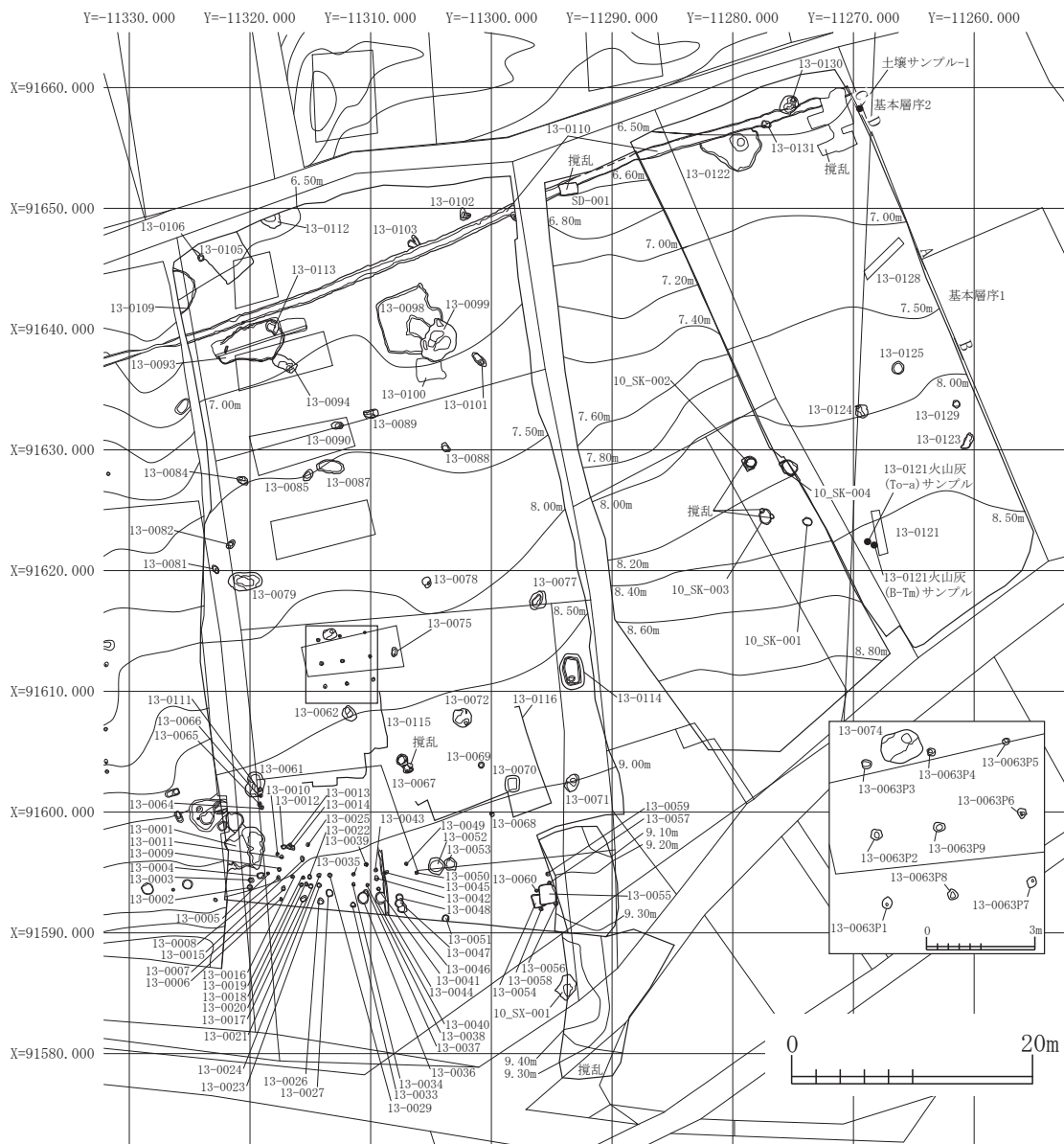


図 1-32 平成 25 年度調査区遺構配置図 -1

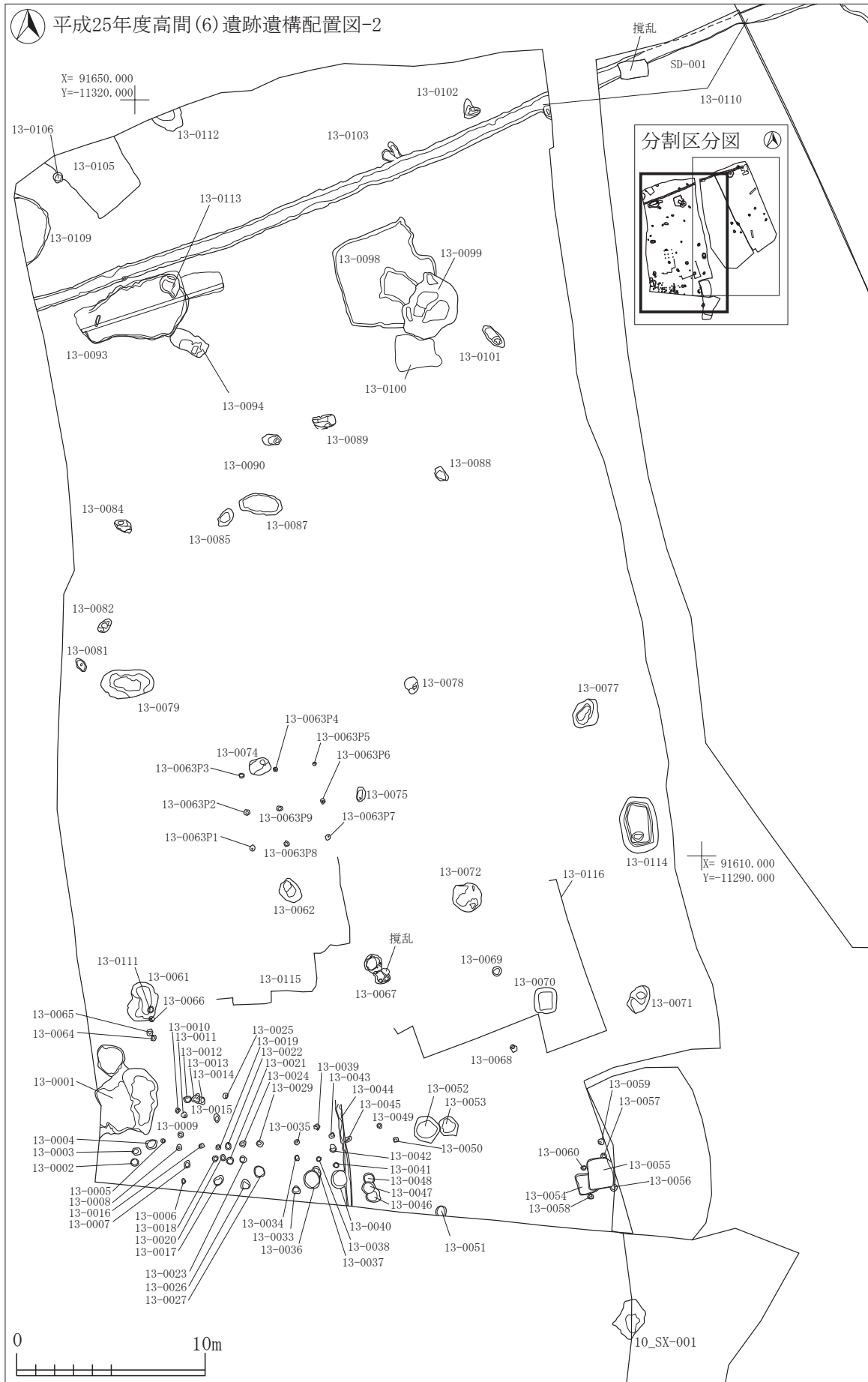
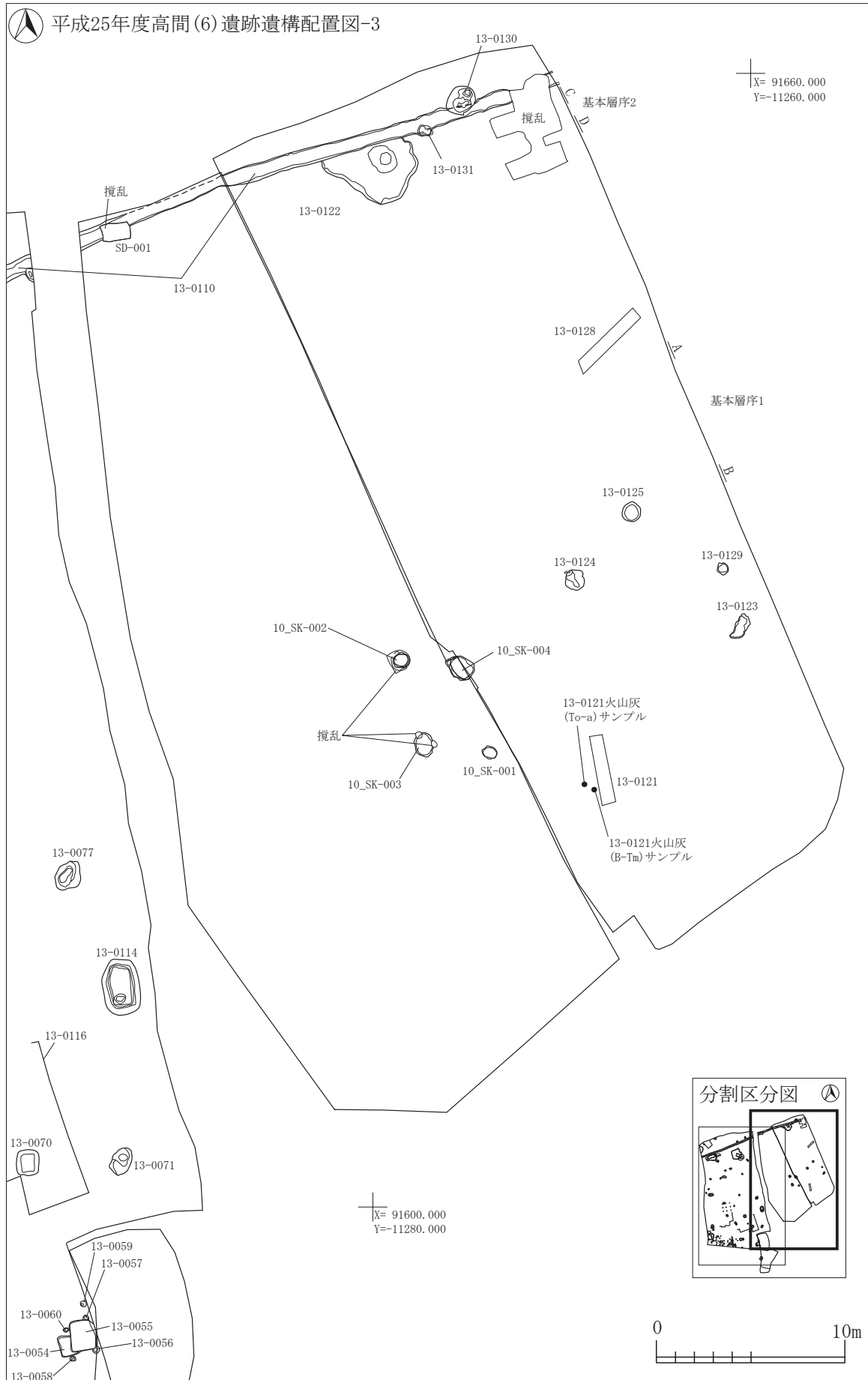


図 1-33 平成 25 年度調査区遺構配置図 -2

II - 5
B 区追加
(平成25年度)



II-5
B区追加
(平成25年度)

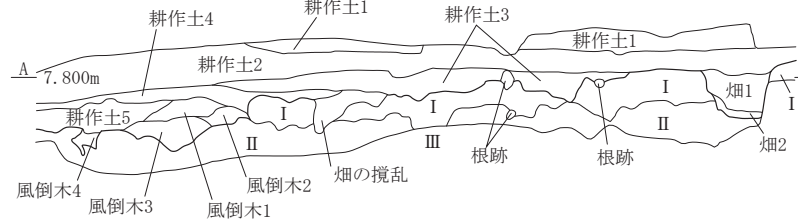
図 1-34 平成 25 年度調査区遺構配置図 -3

の遺物の混入が認められた。直接の帰属資料でない資料でも出土位置に関する記録上全くの遺構外資料ではない意味を含め、時期の下った昭和以降の遺構についても一部平面図や土層堆積図を記録した。

平成25年度の調査区内での基本層序図は図1-35に図示した。調査前の土地利用状況は宅地及び畑地として利用されていた部分がほとんどで、畑の

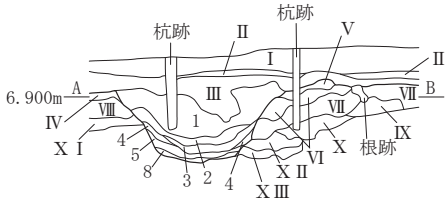
耕作土や整地に伴う攪乱や風倒木痕が顕著に検出している。一部で新城平岡(4)遺跡A区や市内の小牧野遺跡の基本土層中で検出する市内共通で確認できる赤みを帯びた黒褐色土が検出した。降下火山灰についてはB-Tm火山灰が基本土層中で一部検出したほか、風倒木痕の堆積土中からT o - a火山灰とB-Tm火山灰を検出したが、限定的である。

基本層序1セクション

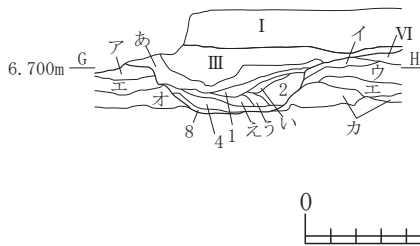


基本層序1	耕作土第1層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒・ブロック(φ5~30mm)多量, ロームブロック(φ20~80mm)多量, 下層に砂が薄く入る
	耕作土第2層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ3~9mm)少量
	耕作土第3層	10YR2/1	黒色土	暗褐色土(10YR3/4)少量, バミス粒(φ1~9mm)微量
	耕作土第4層	10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量
	耕作土第5層	10YR2/3	黒褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土	バミス粒(φ1~9mm)少量
	風倒木第1層	10YR1.7/1	黒色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	バミス粒(φ1~3mm)微量
	風倒木第2層	10YR3/4	暗褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	バミス粒(φ1~5mm)微量, バミスブロック(φ10~50mm)微量
	風倒木第3層	10YR3/4	暗褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合土	褐色土(10YR4/4)少量, バミス粒・ブロック(φ1~50mm)中量
	風倒木第4層	10YR4/4	褐色土	バミス粒・ブロック(φ1~30mm)少量
	畑攪乱層	10YR2/1	黒色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	バミス粒・ブロック(φ1~20mm)多量
	畑第1層	10YR2/2	黒褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合土	バミス粒・ブロック(φ1~20mm)中量
	畑第2層	10YR4/6	褐色土	バミスブロック(φ10~50mm)多量
	第I層	10YR3/4	暗褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	黄褐色土(10YR5/8)少量, バミス粒(φ1~5mm)少量
	第II層	10YR5/8	黄褐色土	バミス層
	第III層	7.5YR6/6	橙色土	粘土質, バミス粒(φ1~3mm)微量
	基本層序2			
	第I層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 上層に碎石
	第II層		砂利層	
	第IV層	10YR2/1	黒色土	バミスブロック(φ10mm)微量
	第I層	10YR2/2	黒褐色土	
	第ウ層	10YR2/1	黒色土	
	第ウ'層	10YR2/1	黒色土	
	第エ層	10YR2/2	黒褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	バミス粒(φ1~3mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量

13-0110セクション



13-0110セクション



基本層序2

第I層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 上層に碎石
第II層		砂利層	
第III層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ10~15mm)微量
第IV層	10YR2/1	黒色土	バミスブロック(φ10mm)微量
第V層	10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~2mm)極微量
第VI層	7.5YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量
第VII層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量, バミスブロック(φ10~15mm)微量
第VIII層	10YR6/8	明黄褐色土	バミスブロック層, 黒色土(10YR2/1)少量, 暗褐色土(10YR3/3)少量
第IX層	7.5YR6/8	橙色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	
第X層	7.5YR3/2	黒褐色土	バミスブロック(φ10~50mm)極多量
第XI層	7.5YR3/3	暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量, バミスブロック(φ10~20mm)少量
第XII層	7.5YR3/3	暗褐色土	バミスブロック(φ10~50mm)中量
第XIII層	10YR6/8	明黄褐色土	バミスブロック層, 暗褐色土(7.5YR3/3)少量
第ア層	7.5YR3/4	暗褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
第I層	10YR2/2	黒褐色土	
第ウ層	10YR2/1	黒色土	
第エ層	10YR2/2	黒褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合土	バミス粒(φ1~3mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
第オ層	10YR2/3	黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土	ローム粒・ブロック(φ1~30mm)中量
第カ層	10YR3/4	暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合土	黒褐色土(10YR2/2)微量, バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒・ブロック(φ1~30mm)中量
13-0110			
第1層	10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~3mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, バミスブロック(φ10mm)微量
第3層	10YR2/1	黒色土	バミス粒(φ1~5mm)微量
第4層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量
第5層	10YR3/1	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)中量
第6層	10YR2/3	黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)多量, 砂質土
第あ層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~2mm)微量, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第い層	10YR2/2	黒褐色土	褐色土ブロック(10YR4/4)中量
第う層	10YR2/2	黒褐色土	暗褐色土ブロック(10YR3/3)中量
第え層	10YR2/2	黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量

図1-35 平成25年度調査区基本層序図

1. 竪穴遺構

竪穴遺構として認定した遺構は13-0098(図1-39・40)、13-0109(図1-41)、13-0122(図1-43)の3基で、13-0098が台形、13-0109が不整楕円形、13-0122が不整長方形を呈する。いずれの竪穴も柱穴が伴っておらず建物跡として機能したかどうかは不明である。

2. 土坑

土坑として認定した遺構は13-0036・0040・0046・0047・0048・0052・0053・0054・0055(以上図1-33)・0061・0062(以上図1-36)・0070・0071・0072・0074(以上図1-37)・0077・0079・0084・0085・0087・0088・0089・0090(以上図1-38)・0101・0102・0103(以上図1-41)・0112(図1-43)・0113(図1-39)・0114・0123・0124・0125・0130・0131(以上図1-43)の34基である。調査時には平成22年度調査区の作業用として13-0117と13-0119を付した掘り込みが別に存在する。13-0123から縄文土器体部片(図1-44-077)、13-0130から土師器甕体部片(図1-44-078)が出土しているがいずれも碎片である。

また、図1-43に図示した13-0114からは夥しい量の陶磁器、レンガ、鉄瓶、鉄屑、ガラス瓶(薬瓶・目薬等含む)、焼夷弾部品、小火器銃弾、メダルが出土した。メダルについて拓影図を図1-44-076として図示したが、裏面に「青森市文明堂本店1931」と年号が記入された資料で太平洋戦争時に投下された焼夷弾の部品などが含まれることから戦後の時点で埋没が完了したようであるが、資料的には戦前(昭和初期)の資料が主体を占める。

3. カマド跡

13-0067(図1-37)と13-0094(図1-39)の2基を認定した。13-0067については構築材の煉瓦が出土しており、後述する13-0116-SBと関連した可能性が高い資料である。また、13-0094は隣接する13-0093-SXなどと関連した可能性が高い資料で、いずれの資料も現在より一世代前の資料である。

4. その他の遺構

風倒木資料を含め9基認定した。13-0001

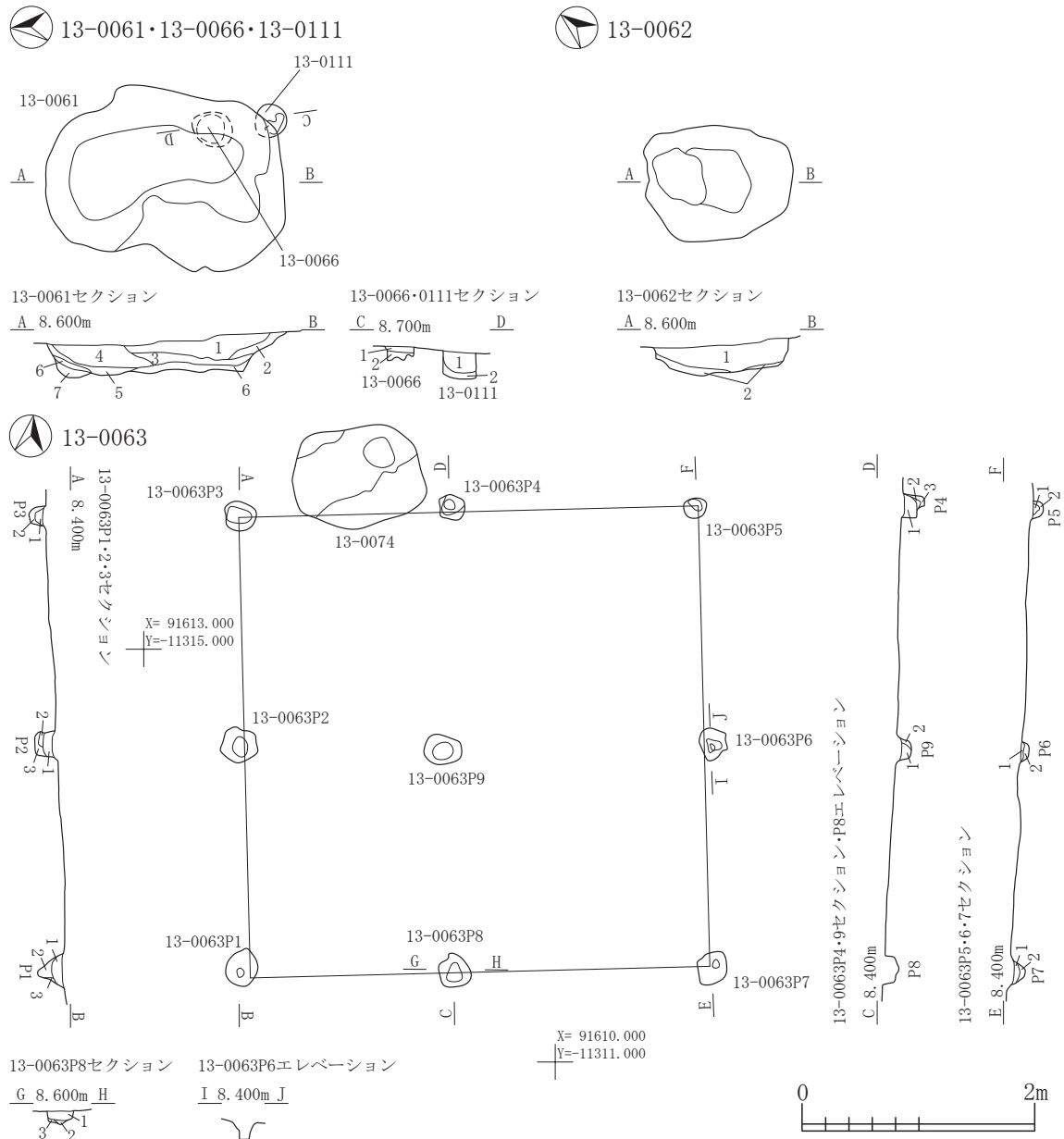
(図1-33)・0076(風倒木)・0093(図1-39)・0097(風倒木)・0099(図1-39、風倒木)・0100(図1-40)・0105(図1-41)・0121(図1-34、風倒木)・0128(風倒木)で、風倒木が多く、その他の資料は粘土範囲や硬化した部分である。13-0093については周辺に13-0105やカマドに相当する13-0094-SNが配置しており、建物跡の一部である可能性がある。

5. ピット・掘立柱建物跡

ピットは調査区内から57基検出した。その他平成22年度調査区内から作業用として番号を一つ付与したピットが存在する。現代のビニール等が混入する資料が多く、帰属時期は限りなく現代に近い資料が多い。13-0008・0016・0019・0022・0024・0029・0035・0043・0049などは東西方向に列状をなしており、既存の道路と並行する軸線であることから柵列の可能性もある。また、調査前に建っていた既存の建物の基礎は13-0116が相当し、それ以外は建物が建っていない状態であったが、13-0115とした部分が硬化した土間の範囲として確認でき、斜面下方の延長線上には13-0063(図1-36)とした二間×二間の総柱の掘立柱建物跡が検出している。13-0116地点の建物の撤去前の状況を確認していないが、敷地内に相当する位置から13-0067-SNとしたカマド跡が検出しており、元々は土間敷きのカマドが付属した建物跡であると判断できる。現在よりどのくらい前の時期まで遡るかについて詳細は不明であるが、13-0114-SKなど付近の廃棄土坑を判断すると戦前～戦後の時点では確実に生活が営まれていたものとする。

6. 溝跡

調査区内から13-0044(図1-33)、13-0110(図1-42)が検出している。その他平成22年度調査区内から作業用として番号を付した溝跡が存在する。このうち13-0110は第2節のB区の報告でSD-001と取り扱った溝跡の一部に相当する。堆積土中からガラスや陶器(図1-44-073)などとともに縄文土器(図1-44-067～071)・弥生土器(図1-44-072)が出土した。図1-35と図1-42に図示した土層堆積図のとおり、掘りこみ面はかなり高い位置からの掘削ではあるが、畑の耕作土などの影響が強い第I・II層より下位に堆積する第III層が遺構上面に堆積していることなどから近代以前の可能性が残る。



13-0061 第1層 10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,パミスブロック(φ10~20mm)微量,にぶい黄褐色土(10YR5/4)中量	13-0063P3 第1層 10YR3/2 黒褐色土	しまりなし,パミス粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)少量
第2層 10YR5/6 黄褐色土	パミスブロック層	第2層 10YR5/6 黄褐色土	パミスブロック(φ20~30mm)中量
第3層 10YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)極微量	13-0063P4 第1層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量
第4層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量	第2層 10YR2/3 黒褐色土	パミスブロック(φ20mm)少量
第5層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量	13-0063P5 第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒少量
第6層 10YR6/4 にぶい黄褐色土	パミスブロック層,黒褐色土(10YR3/2)少量	第1層 10YR5/4 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ5mm)微量,黒褐色土(10YR3/2)少量
第7層 10YR7/4 にぶい黄褐色土	パミスブロック層,ロームブロック(φ30mm)微量,黒褐色土(10YR3/2)少量	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ5mm)微量
13-0066 第1層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~15mm)微量,炭化粒(φ3mm)微量	13-0063P6 第1層 10YR3/1 黒褐色土	パミス粒(φ5mm)少量
第2層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)中量	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ5mm)微量
13-0111 第1層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量	13-0063P7 第1層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,しまりなし
第2層 10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ5mm)微量	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1mm)少量
13-0062 第1層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~15mm)微量,下部に炭化物(φ50mm)極微量	13-0063P8 第1層 10YR3/2 黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~20mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第2層 10YR5/6 黄褐色土	パミスブロック層,黒褐色土(10YR3/2)少量	第2層 10YR5/8 黄褐色土	パミスブロック層,黒褐色土(10YR3/2)少量
13-0063P1 第1層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~15mm)微量	第3層 10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ5~9mm)少量
第2層 10YR3/2 黒褐色土	しまりなし,パミス粒(φ1~5mm)少量	13-0063P9 第1層 10YR2/3 黒褐色土	ロームブロック(φ20mm)微量
第3層 10YR5/6 黄褐色土	パミスブロック層,黒褐色土(10YR3/2)少量	第2層 10YR3/2 黒褐色土	ロームブロック(φ10~15mm)少量

図 1-36 平成 25 年度調査区遺構図 -1

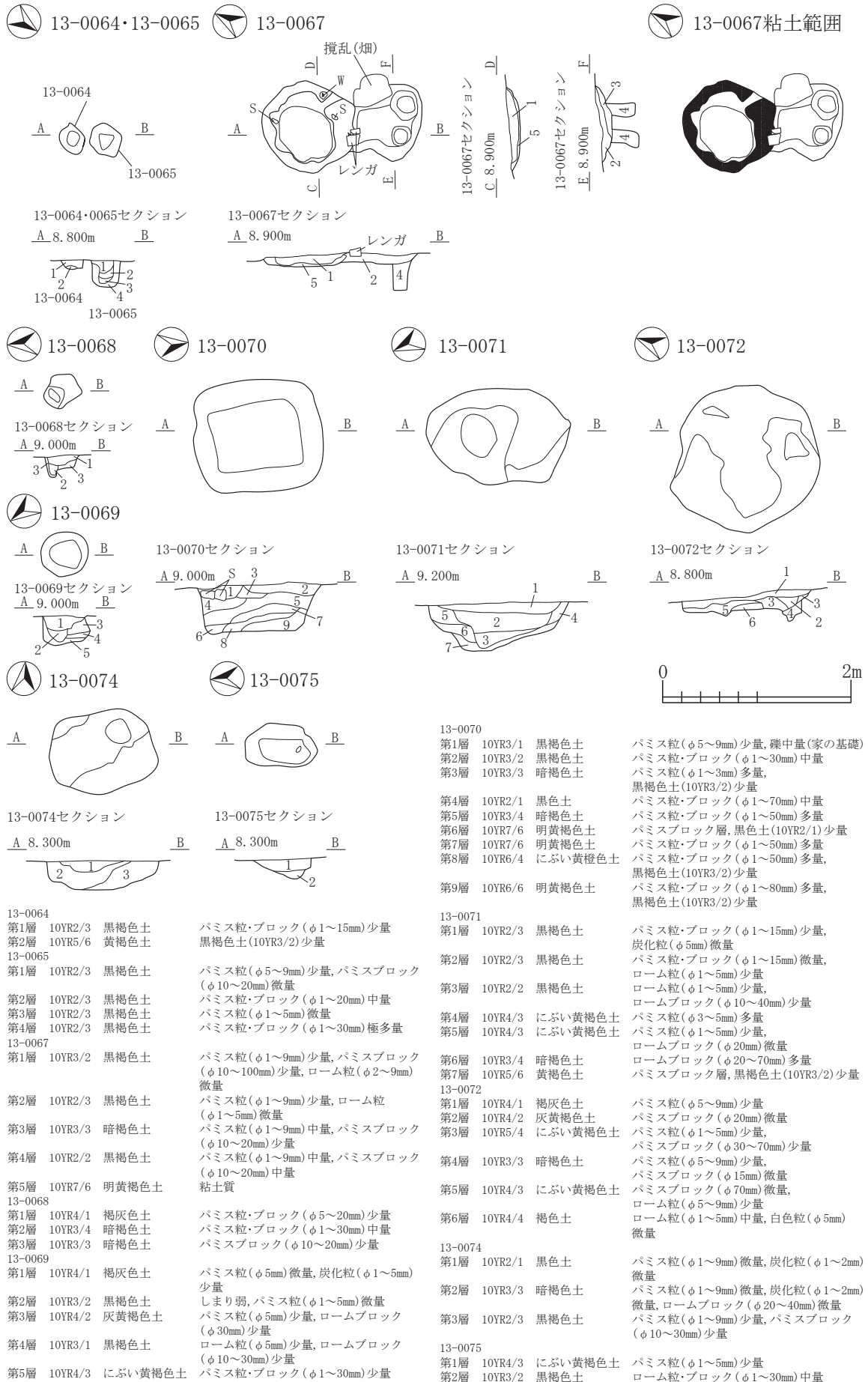


図 1-37 平成 25 年度調査区遺構図 -2

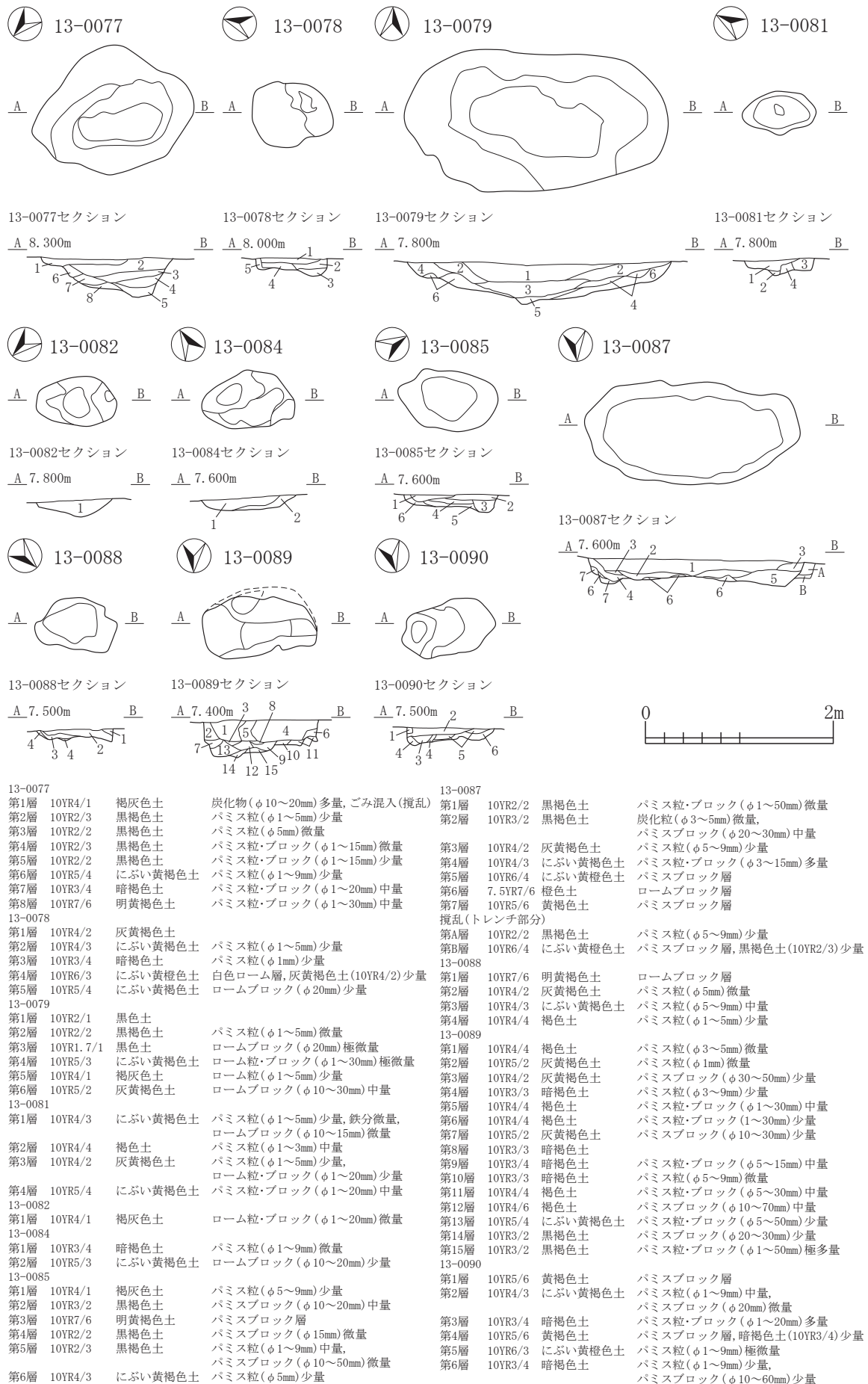
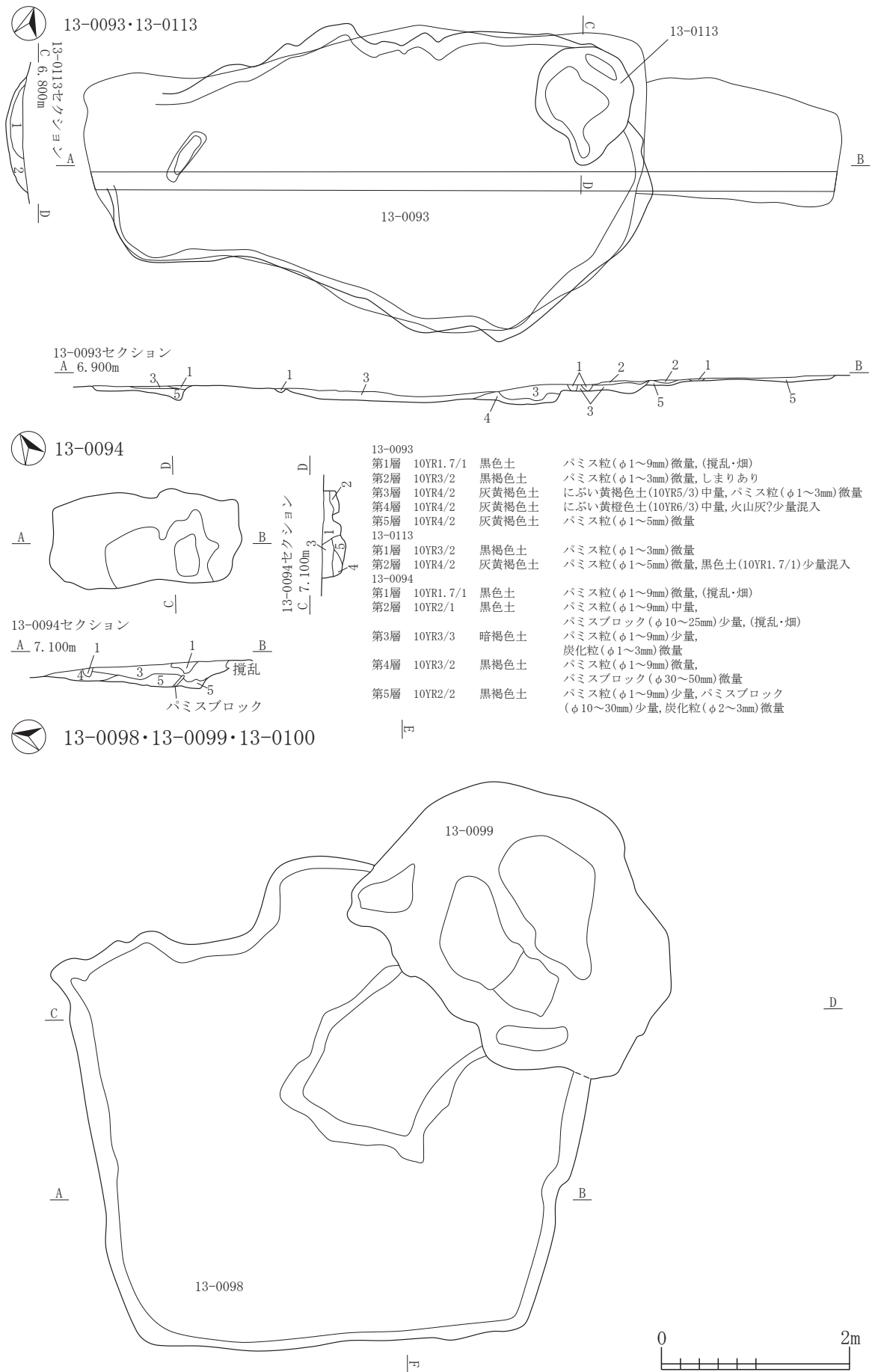


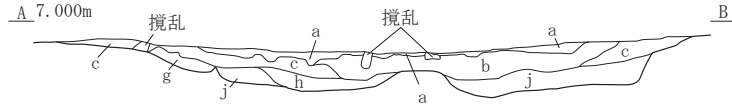
図 1-38 平成 25 年度調査区遺構図 -3



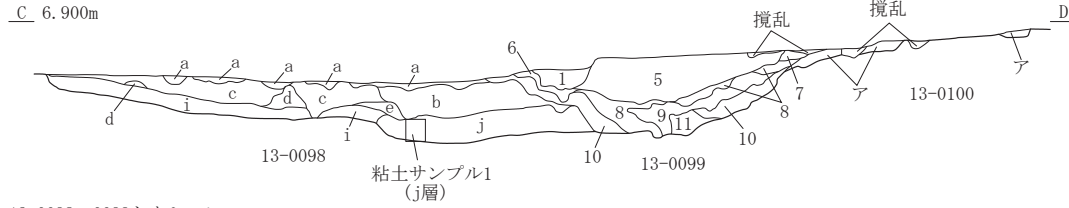
II-5
B区追加
(平成25年度)

図 1-39 平成 25 年度調査区遺構図 -4

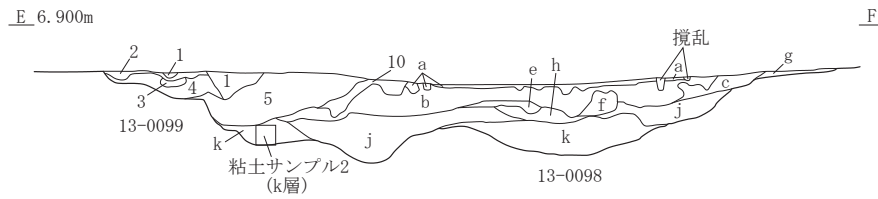
13-0098セクション



13-0098・0099・0100セクション



13-0098・0099セクション



13-0098		13-0099	
第a層	10YR1.7/1 黒色土	第1層	10YR1.7/1 黒色土
第b層	10YR2/1 黒色土	第2層	10YR1.7/1 黒色土
第c層	10YR3/2 黒褐色土	第3層	10YR1.7/1 黒色土
第d層	10YR3/2 黒褐色土	第4層	10YR3/1黒褐色土10YR3/2黒褐色土の混合土
第e層	10YR4/1 褐灰色土	第5層	10YR5/4にぶい黄褐色土10YR7/3にぶい黄褐色土の混合土
第f層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	第6層	10YR2/1 黒色土
第g層	10YR4/2 灰黄褐色土	第7層	10YR3/1 黒褐色土
第h層	10YR5/4にぶい黄褐色土と10YR4/2灰黄褐色土の混合土	第8層	10YR2/1 黒色土
第i層	10YR6/6 明黄褐色土	第9層	10YR5/4 にぶい黄褐色土
第j層	2.5Y8/2 灰白色土	第10層	10YR1.7/1 黒色土
第k層	10YR8/3浅黄褐色土と10YR8/6黄褐色土の混合土	第11層	10YR2/1 黒色土
		13-0100	第7層
			10YR4/2 灰黄褐色土

13-0098粘土サンプル・13-0099・13-0100粘土範囲

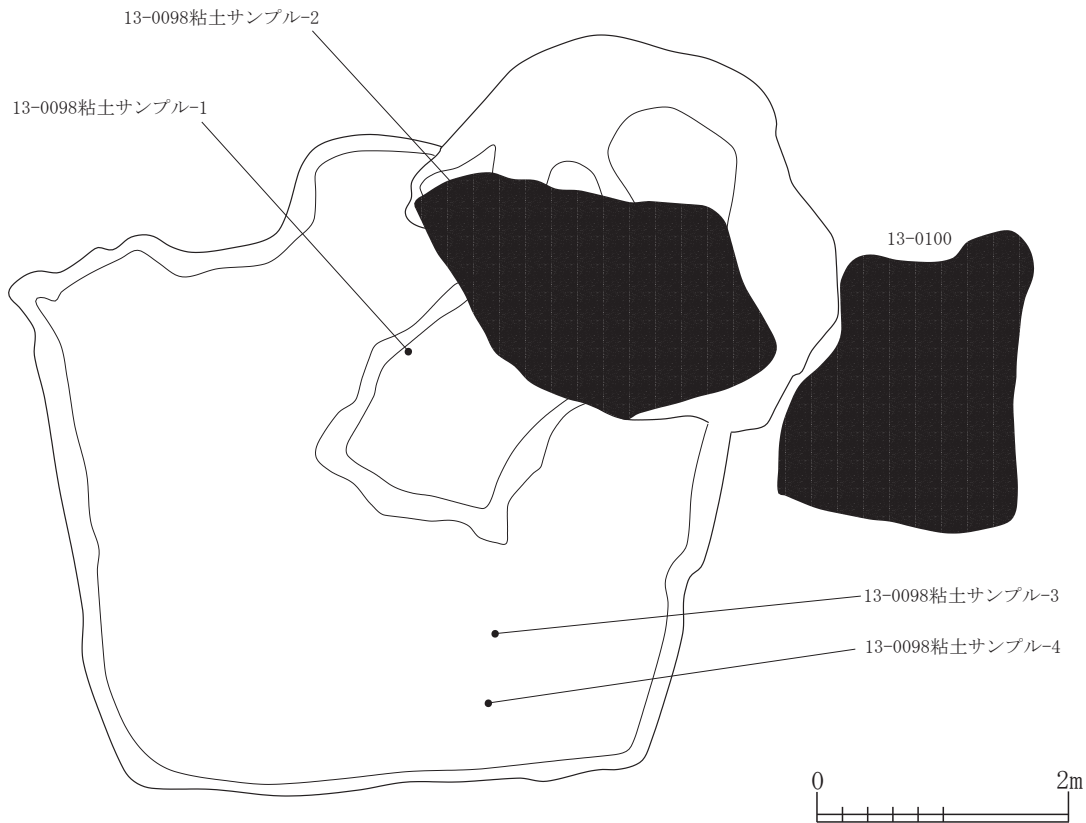
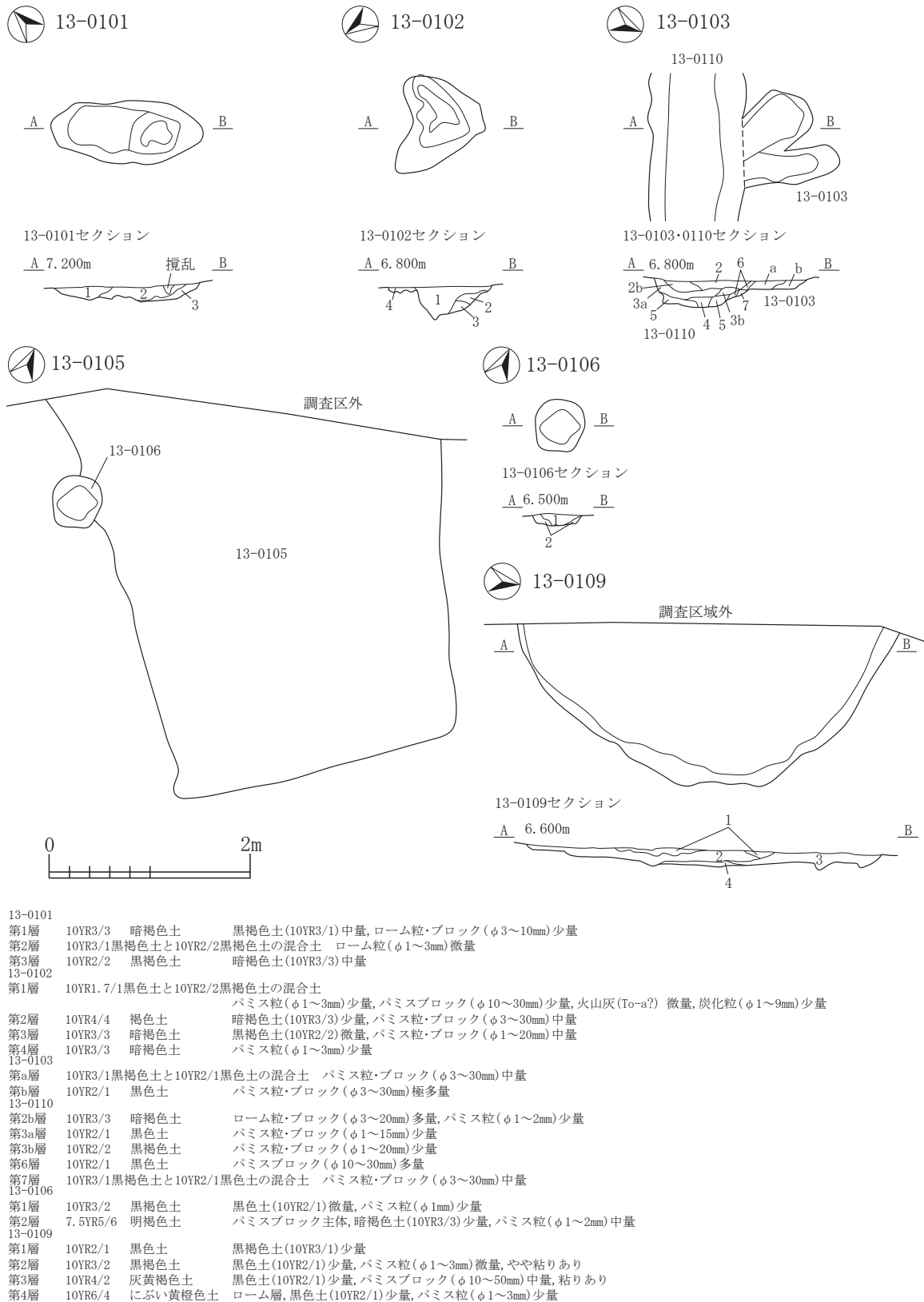


図 1-40 平成 25 年度調査区遺構図 -5



II-5
B区追加
(平成25年度)

図 1-41 平成 25 年度調査区遺構図 -6

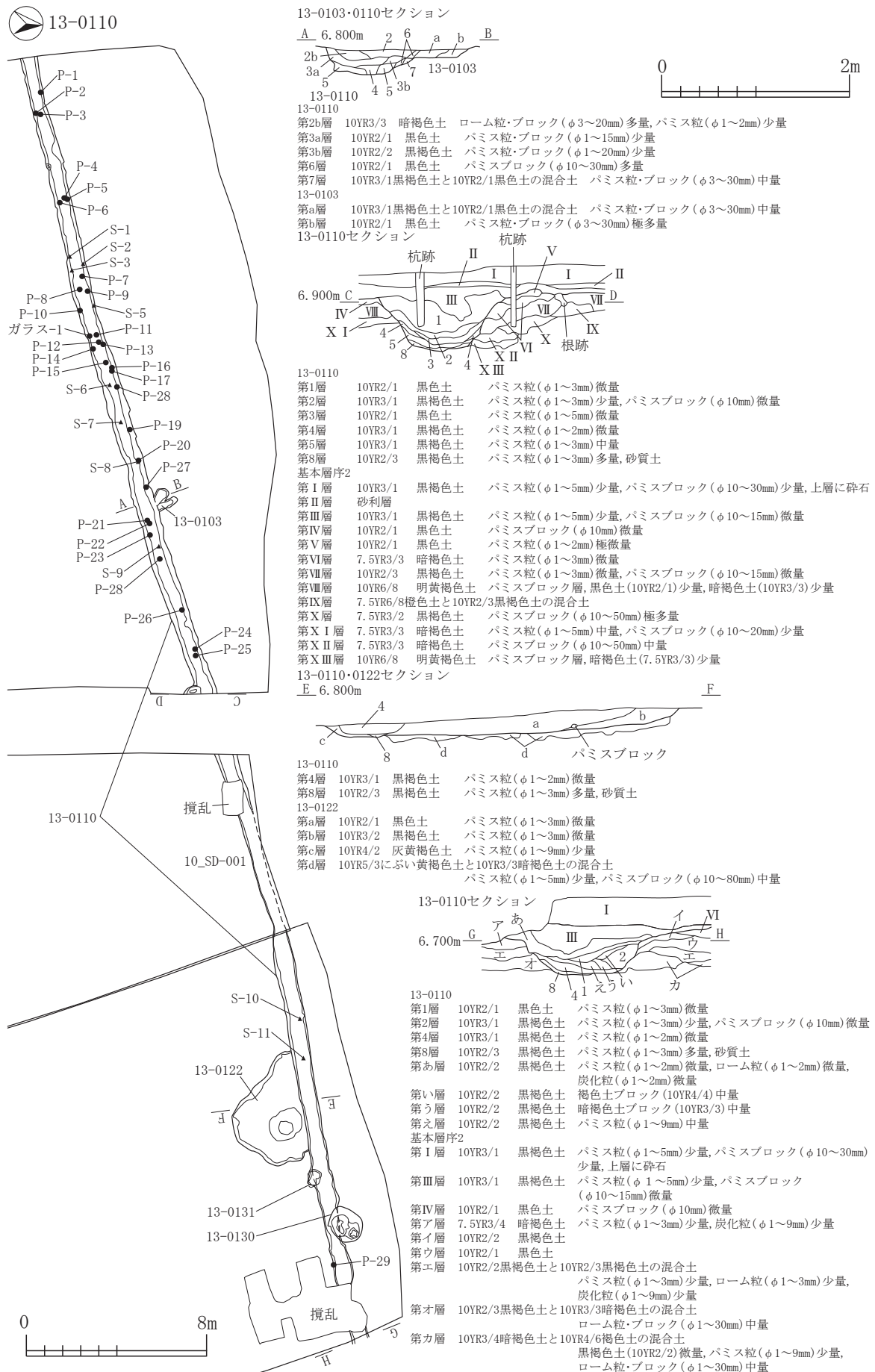
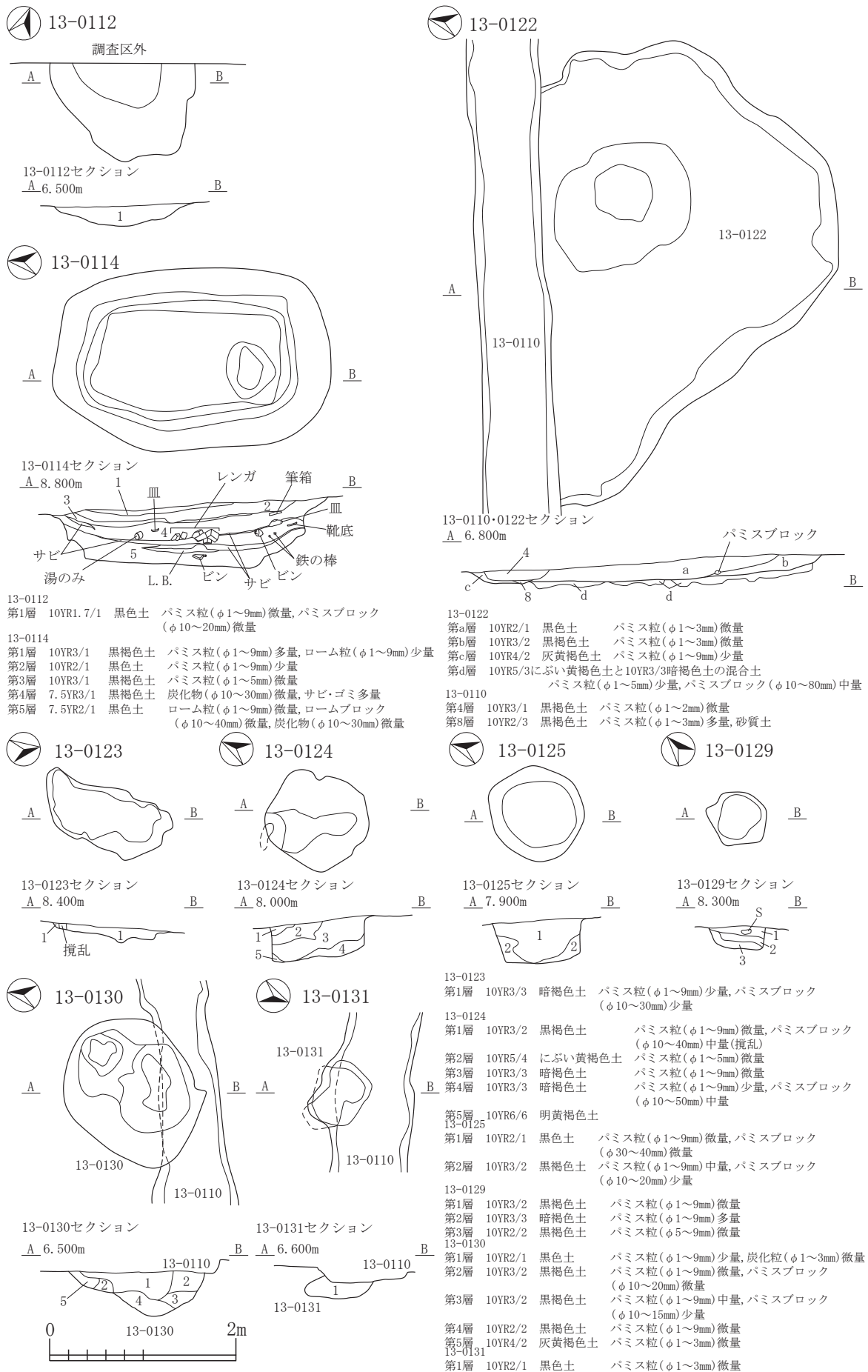


図 1-42 平成 25 年度調査区遺構図 -7



- 13-0112
第1層 10YR1.7/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ10~20mm)微量
- 13-0114
第1層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)多量,ローム粒(φ1~9mm)少量
第2層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)少量
第3層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~5mm)微量
第4層 7.5YR3/1 黒褐色土 炭化物(φ10~30mm)微量,サビ・ゴミ多量
第5層 7.5YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~9mm)微量,ロームブロック(φ10~40mm)微量,炭化物(φ10~30mm)微量

- 13-0122
第a層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm)微量
第b層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~3mm)微量
第c層 10YR4/2 灰黄褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量
第d層 10YR5/3にぶい黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合土
バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10~80mm)中量
- 13-0110
第4層 10YR3/1 黒褐色土 バミス粒(φ1~2mm)微量
第8層 10YR2/3 黒褐色土 バミス粒(φ1~3mm)多量,砂質土

- 13-0123
第1層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量
- 13-0124
第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ10~40mm)中量(攪乱)
第2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 バミス粒(φ1~5mm)微量
第3層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~9mm)微量
第4層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~50mm)中量
第5層 10YR6/6 明黄褐色土
- 13-0125
第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ30~40mm)微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~20mm)少量
- 13-0129
第1層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)微量
第2層 10YR3/3 暗褐色土 バミス粒(φ1~9mm)多量
第3層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ5~9mm)微量
- 13-0130
第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第2層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)微量,バミスブロック(φ10~20mm)微量
第3層 10YR3/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~15mm)少量
- 13-0131
第4層 10YR2/2 黒褐色土 バミス粒(φ1~9mm)微量
第5層 10YR4/2 灰黄褐色土 バミス粒(φ1~3mm)微量
- 13-0131
第1層 10YR2/1 黒色土 バミス粒(φ1~3mm)微量

II-5
B区追加
(平成25年度)

図 1-43 平成 25 年度調査区遺構図 -8

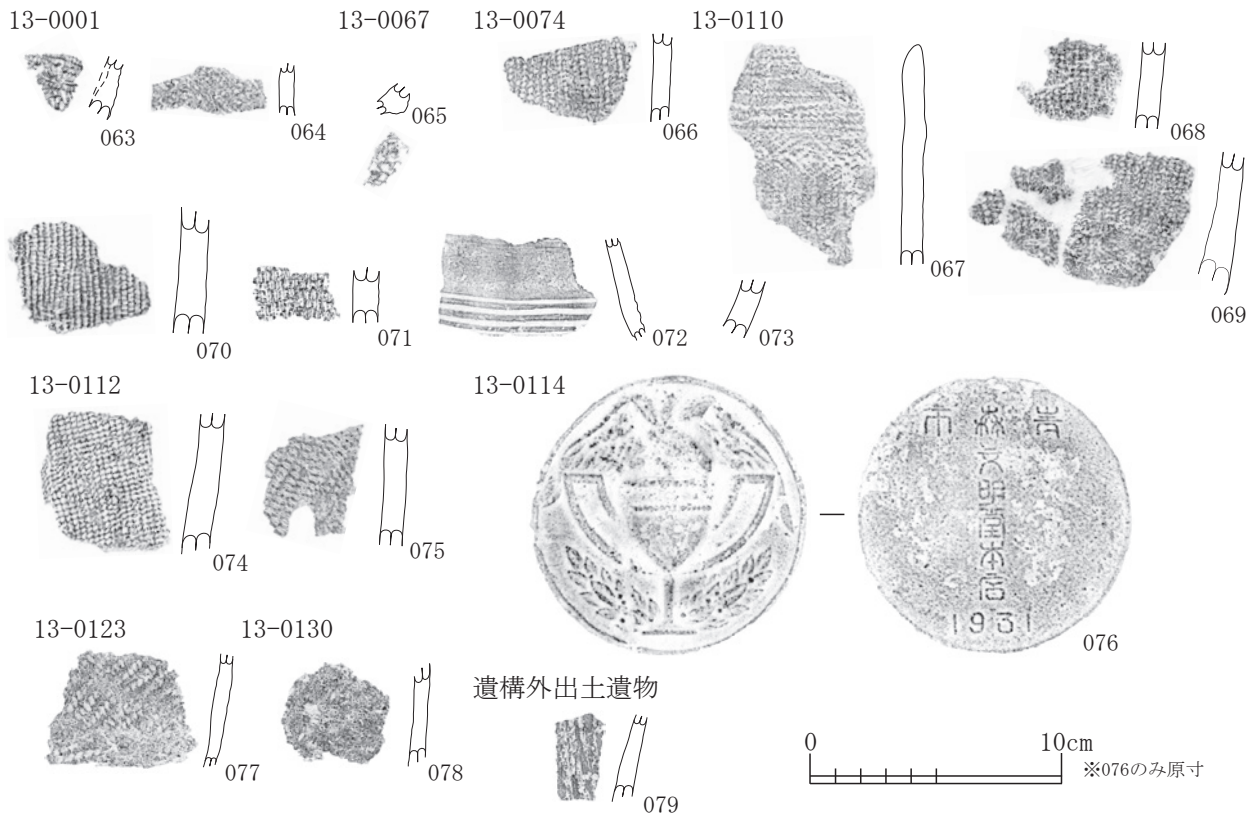


図 1-44 平成 25 年度調査区出土遺物



写真1-1 A区SK-06セクション(N→)



写真1-2 A区SK-06完掘(S→)



写真1-3 A区SD-01セクション(W→)



写真1-5 A区調査区風景(SW→)



写真1-4 A区SD-01完掘(W→)



写真1-6 A区作業風景(SW→)



写真1-7 B区SK-008セクション(S→)



写真1-8 B区SK-008完掘(S→)



写真1-9 B区10_SK-001セクション(W→)



写真1-10 B区10_SK-001完掘(W→)

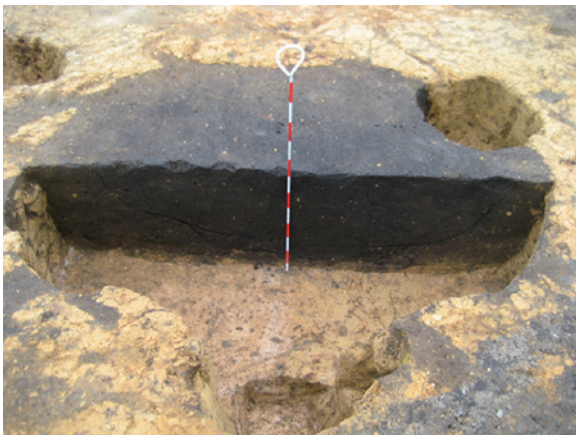


写真1-11 B区10_SK-003セクション(E→)



写真1-12 B区10_SK-003完掘(E→)



写真1-13 B区STP-001セクション(N→)



写真1-15 B区STP-002セクション(W→)



写真1-17 B区STP-003セクション(E→)

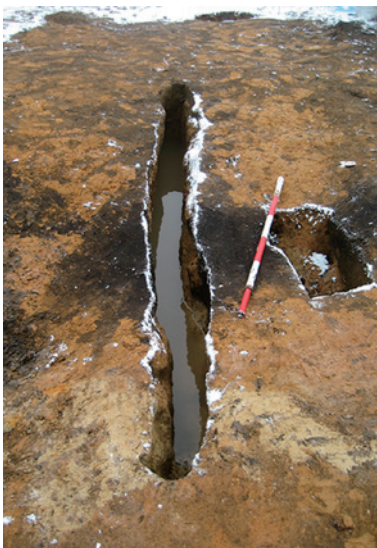


写真1-14 B区STP-001完掘(S→)



写真1-16 B区STP-002完掘(NE→)



写真1-18 B区STP-003完掘(E→)



写真1-19 B区SD-001セクション(SW→)



写真1-20 B区SD-001完掘(SW→)



写真1-21 B区SD-001セクション1(S→)



写真1-22 B区SD-001セクション2(S→)



写真1-23 B区SD-001セクション3(S→)



写真1-24 B区SD-001完掘(S→)



写真1-25 B区SD-001完掘(SW→)



写真1-26 B区SD-001・調査区遠景(SW→)



写真1-27 C区SK-001セクション(E→)



写真1-28 C区SK-001完掘(E→)



写真1-29 C区SD-001セクション(S→)



写真1-31 C区作業風景(E→)



写真1-30 C区SD-001完掘(N→)



写真1-32 C区調査区風景(SW→)



写真1-33 D区SI-01セクション(W→)



写真1-34 D区調査区風景

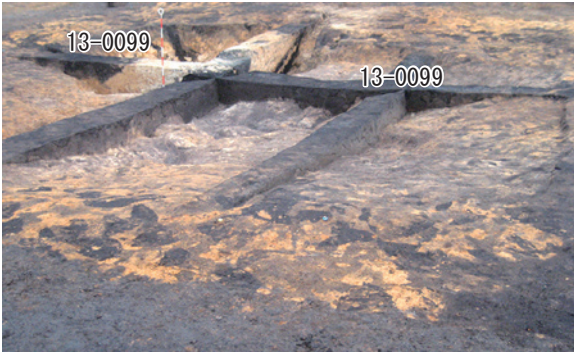


写真1-35 13-0098・0099セクション(NW→)



写真1-36 13-0098・0099・0100セクション(W→)



写真1-37 13-0098・0099・0100完掘(S→)



写真1-38 13-0098セクション床面下(W→)



写真1-39 13-0110セクション1(W→)



写真1-40 13-0110セクション2(W→)



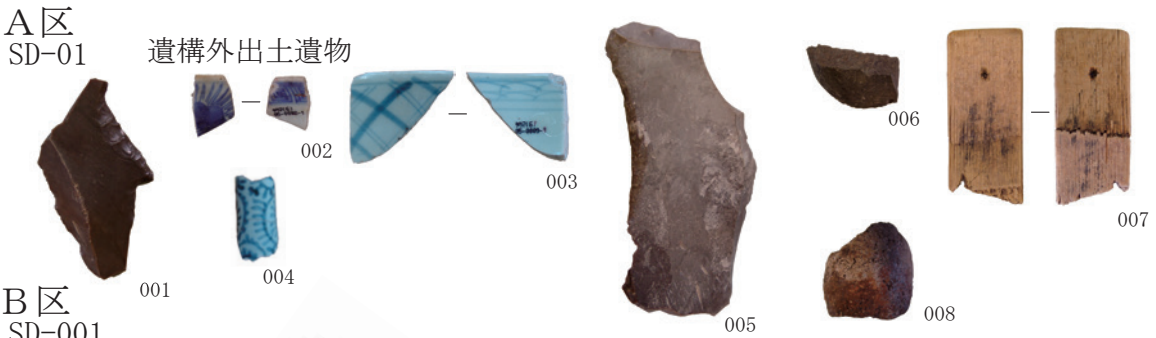
写真1-41 13-0110東側作業風景(W→)



写真1-42 13-0110西側完掘(W→)

A区
SD-01

遺構外出土遺物



B区
SD-001



トレンチ



遺構外出土遺物



写真 1-43 出土遺物 1

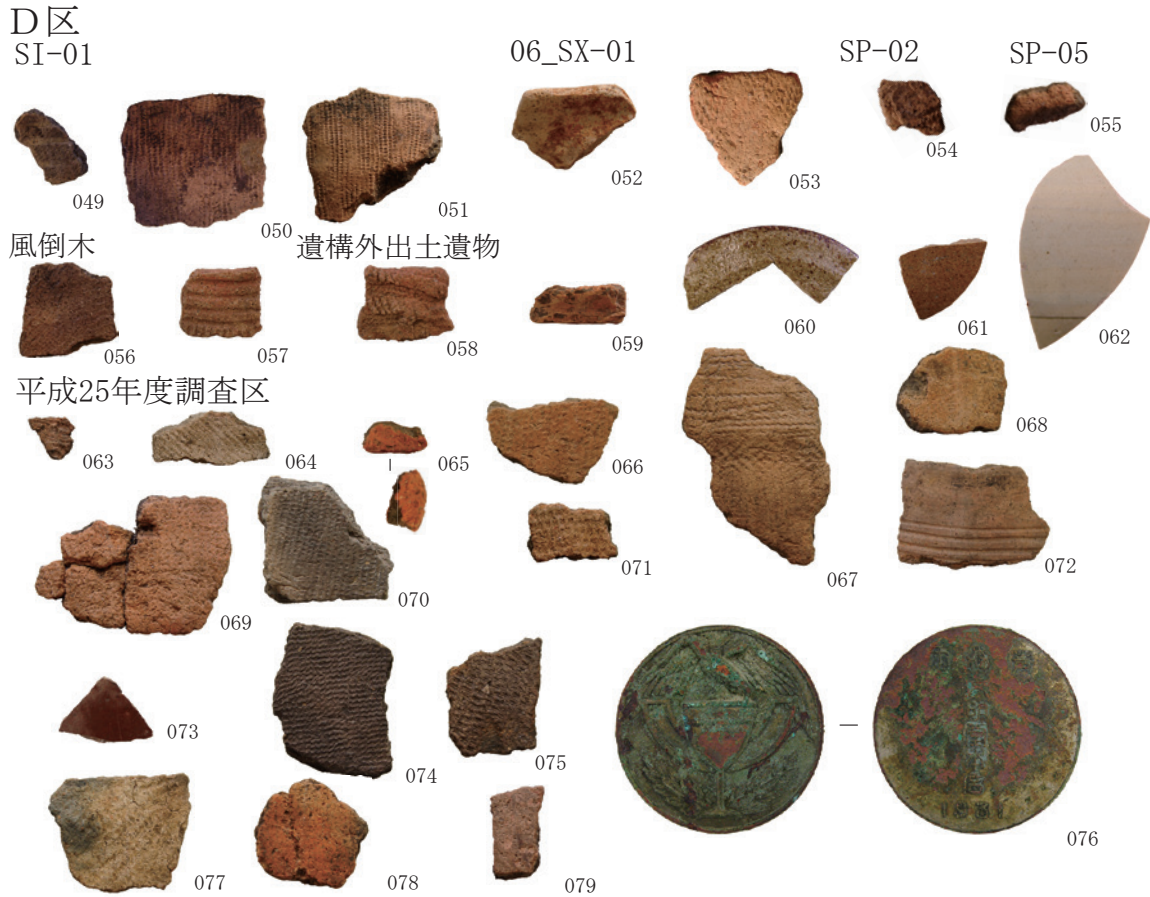


写真 1-44 出土遺物 2

表 1-1 高間(6)遺跡 A区 SK 観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-6	SK-02	-	-	-	-	64	18	19	-	段状に立ち上がる	セクション図のみ
1-6	SK-04	91759.599	-11331.508	-	-	110	86	20	不整長方形	凹凸がある	
1-6	SK-06	91750.350	-11334.160	-	-	234	221	13	不整円形	皿形で壁際の一部に浅い段がある	
1-6	SK-07	91757.331	-11350.803	-	-	147	66	8	不整小判形	凹凸がある	
1-6	SK-10	91766.647	-11360.498	-	-	75	66	63	不整楕円形	垂直に近い形で立ち上がるが壁の途中で角度を変えて立ち上がる箇所がある	
1-6	SK-11	91766.517	-11364.936	-	-	85	53	22	小判形	凹凸があり開き気味に立ち上がる	
1-6	SK-12	91767.545	-11363.791	-	-	99	78	16	不整楕円形	やや凹凸がある皿形で開き気味に立ち上がる	

表 1-2 高間(6)遺跡 A区 SX 観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-7	SX-01	91737.720	-11359.898	-	-	626	47~200	9	不整溝状	凹凸がある	

表 1-3 高間(6)遺跡 A区 SP 観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-7	SP-01	91761.837	-11329.899	-	-	48	47	15	e	a・i	
1-7	SP-02	91738.408	-11355.340	-	-	52	48	7	e	d	

表 1-4 高間(6)遺跡 A区 SD 観察表

図版番号	遺構番号	位置	規模(cm)			断面形	重複(溝関係のみ)	新旧関係(溝関係のみ)	備考
			長軸	短軸	深さ				
1-7	SD-01	X 91735.930, Y -11353.739	396	47~80	17	段状に立ち上がる	-	-	

表 1-5 高間(6)遺跡 B区 SI 観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複(ピット以外)	関連ピット	規模(cm)			床面積(m ²)	主軸方位	平面形	断面形	カマド	土坑	ピット	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ								
1-9	SI-001	91599.790	-11323.690	-	-	(341)	283	34	(6.544)	-	不整形	緩やかに立ち上がる	-	2	2	

II
遺物写真

II
遺構観察表

表1-6 高間(6)遺跡B区SK観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-10	SK-001	91618.726	-11354.555	-	-	184	170	20	不整隅丸方形	開き気味に立ち上がり壁上部の一部で角度を変え緩やかに立ち上がる箇所がある。中央部は若干凹んだ形状	
1-10	SK-002	91619.629	-11370.923	-	-	120	105	14	不整隅丸方形	若干開き気味に立ち上がり壁際の一部の底面に凹凸がある	
1-10	SK-003	91619.065	-11372.208	-	-	110	90	33	楕円形	壁の一部が袋状に入り込み底面に凹凸がある	
1-10	SK-004	91610.498	-11381.056	SD-001	SK-004>SD-001	175	120	25	不整楕円形	壁上部の一部で角度を変え開き気味に立ち上がり底面に若干の凹凸がある	
1-10	SK-005	91607.399	-11386.408	SD-001	SK-005>SD-001	306	(51)	46	不整長楕円形	段状を呈し壁は途中で角度を変え垂直に近い形で立ち上がる	
1-10	SK-006	91622.801	-11361.996	SD-001	SK-006>SD-001	112	(105)	40	不整隅丸方形	-	平面図のみ
1-10	SK-007	91674.755	-11450.763	-	-	83	78	27	楕円形	浅いU字状で壁の一部が開き気味に立ち上がる	
1-11	SK-008	91593.926	-11325.434	-	-	82	76	24	楕円形	鍋底形で壁は垂直に近い形で立ち上がる	
1-11	SK-009	91593.550	-11328.750	-	-	97	90	9	不整楕円形	浅い鍋底形で壁は垂直に近い形で立ち上がる。底面に若干凹凸がある	
1-11	SK-010	91598.740	-11322.514	-	-	86	75	16	不整楕円形	皿形で浅く開き気味に立ち上がる	
1-11	SK-011	91627.552	-11340.274	-	-	96	52	29	小判形	鍋底形で壁は垂直に近い形で立ち上がり壁上部の一部で角度を変え緩やかに立ち上がる	
1-11	SK-012	91599.526	-11326.146	-	-	103	53	54	小判形	段状に立ち上がり北側がビット状に下がっている	
1-11	SK-013	91601.494	-11326.670	-	-	120	53	69	小判形	柱穴状で東側が深く入り込む	
1-11	SK-014	91613.778	-11332.120	-	-	107	85	15	不整楕円形	凹凸があり壁は開き気味に立ち上がる	
1-11	SK-015	91614.284	-11334.704	-	-	130	92	23	不整楕円形	垂直に近い形で立ち上がる箇所と緩やかに立ち上がる箇所がある。中央が若干凹んだ形状で壁際に向かって緩やかに立ち上がる	
1-11	SK-016	91633.664	-11325.866	-	-	147	86	25	小判形	浅い段状で壁は緩やかに立ち上がる	
1-12	10_SK-001	91624.006	-11273.766	-	-	80	58	44	不整形	袋状に入り込み底面は凹んだ形状	調査時SK-001
1-12	10_SK-002	91628.845	-11278.459	-	-	89	80	40	不整楕円形	袋状に入り込み底面には凹凸がある	調査時SK-002
1-12	10_SK-003	91624.411	-11277.263	-	-	130	98	34	不整楕円形	鍋底形で壁は垂直に近い形で立ち上がる	調査時SK-003
1-12	10_SK-004	91628.414	-11275.421	-	-	161	116	29	不整長楕円形	鍋底形で壁は垂直に近い形で立ち上がる	調査時SK-004, H25調査区で追加調査

表1-7 高間(6)遺跡B区SN観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-12	SN-001	-	-	-	-	90	78	10	不整楕円形	-	

表1-8 高間(6)遺跡B区STP観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-12	STP-001	91718.242	-11387.133	-	-	316	25	63	溝状	長軸・スロープ状の箇所と袋状に入り込む箇所がある 短軸・垂直に近い形で立ち上がり壁の一部で開き気味に立ち上がる	
1-12	STP-002	91791.551	-11443.237	-	-	300	54	81	溝状	長軸・袋状 短軸・垂直に近い形で立ち上がり一部袋状に入り込む箇所がある。壁上部では開き気味に立ち上がる	
1-12	STP-003	91787.157	-11438.628	-	-	180	40	63	溝状	壁は垂直に近い形で立ち上がるが長軸方向の東側が袋状に入り込み凹凸がある	

表1-9 高間(6)遺跡B区SX観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-13	SX-001	91591.999	-11341.019	-	-	200	142	26	隅丸長方形	鍋底形で壁は緩やかに立ち上がる箇所と垂直に近い形で立ち上がる箇所がある	
1-13	SX-002	91594.255	-11382.533	-	-	405	200	11	長方形	凹凸があり緩やかに立ち上がる	
1-13	10_SX-001	91585.350	-11293.715	-	-	215	142	50	不整形	凹凸があり西～北壁にかけてやや緩やかに立ち上がる	調査時SX-001

表1-10 高間(6)遺跡B区SP観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-14・15	SP-001	91721.358	-11389.970	-	-	34	26	56	e	b	
1-14・15	SP-002	91722.009	-11387.564	SP-003	SP-002>SP-003	25	21	5	e	h	
1-14・15	SP-003	91721.836	-11388.029	SP-002	SP-003>SP-002	(51)	41	25	e	h	
1-14・15	SP-004	91683.304	-11373.347	-	-	52	22	30	g	g	
1-14・15	SP-005	91675.579	-11375.187	SP-006	SP-005>SP-006	30	23	21	e	g	
1-14・15	SP-006	91685.416	-11375.330	SP-005	SP-006>SP-005	30	(21)	12	e	h	
1-14・15	SP-007	91675.186	-11377.818	-	-	32	23	20	f	g	
1-14・15	SP-008	91677.373	-11378.873	-	-	26	24	10	e	h	
1-14・15	SP-009	91643.798	-11355.618	-	-	46	31	14	e	h	
1-14・15	SP-010	91650.961	-11353.196	SP-011	SP-010>SP-011	33	28	14	h	h	

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-14・15	SP-011	91651.040	-11353.381	SP-010	SP-011<SP-010	31	15	17	(f)	h	
1-14・15	SP-012	91651.770	-11346.095	-	-	49	27	12	e	f	
1-14・15	SP-013	91650.791	-11342.013	-	-	31	20	40	e	f	
1-14・15	SP-014	91635.361	-11353.925	-	-	37	33	24	e	h	
1-14・15	SP-015	91635.939	-11352.509	-	-	13	11	13	f	a	
1-14・15	SP-016	91629.524	-11352.913	-	-	43	35	31	e	d	
1-14・15	SP-017	91584.946	-11343.874	-	-	26	21	5	h	h	
1-14・15	SP-018	91585.242	-11345.583	-	-	33	26	13	e	d	
1-14・15	SP-019	91584.745	-11345.641	-	-	33	29	10	e	d	
1-14・15	SP-020	91584.798	-11348.279	-	-	35	34	22	e	j	
1-14・15	SP-021	91585.496	-11348.210	SP-022	SP-021<SP-022	(25)	27	26	e	d	
1-14・15	SP-022	91585.712	-11348.310	SP-021	SP-022>SP-021	30	25	25	e	h	
1-14・15	SP-023	91585.575	-11350.076	-	-	39	32	28	e	h	
1-14・15	SP-024	91588.690	-11345.640	-	-	32	28	10	f	d	
1-14・15	SP-025	91600.116	-11340.220	-	-	26	25	11	h	d	
1-14・15	SP-026	91599.852	-11341.765	-	-	32	26	14	e	a	
1-14・16	SP-027	91601.639	-11340.744	-	-	29	24	19	e	h	
1-14・16	SP-028	91601.290	-11342.092	-	-	36	29	14	e	h	
1-14・16	SP-029	91601.613	-11352.603	-	-	35	25	22	e	d	
1-14・16	SP-030	91603.061	-11342.431	-	-	33	32	17	h	a	
1-14・16	SP-031	91602.754	-11342.965	-	-	29	20	6	e	h	
1-14・16	SP-032	91598.540	-11352.009	-	-	30	24	16	e	a	
1-14・16	SP-033	91605.028	-11346.169	-	-	35	25	11	h	h	
1-14・16	SP-034	-	-	-	-	26	-	15	-	h	セクション図のみ
1-14・16	SP-035	91596.838	-11352.043	-	-	22	17	14	e	f	
1-14・16	SP-036	91630.482	-11345.798	-	-	25	21	14	e	a	
1-14・16	SP-037	91638.307	-11343.176	-	-	29	28	30	e	h	
1-14・16	SP-038	91595.436	-11367.758	-	-	60	33	24	e	a	
1-14・16	SP-039	91619.505	-11364.295	-	-	40	32	16	e	h	
1-14・16	SP-040	91635.594	-11345.286	-	-	27	24	24	e	j	
1-14・16	SP-041	91599.201	-11439.044	-	-	29	20	12	f	a	
1-14・16	SP-042	91603.558	-11438.547	-	-	29	24	14	f	h	
1-14・16	SP-043	91607.873	-11439.377	-	-	37	34	45	e	j	
1-14・16	09_SP-001	91592.563	-11323.149	-	-	31	26	9	f	e	調査時SP-001
1-14・16	09_SP-002	91593.444	-11326.673	-	-	24	21	26	e	h	調査時SP-002
1-14・16	09_SP-003	91603.325	-11332.238	-	-	29	27	19	e	d	調査時SP-003
1-14・16	09_SP-004	91604.167	-11332.311	-	-	39	18	20	e	h	調査時SP-004
1-14・16	09_SP-005	91606.838	-11332.311	-	-	30	28	20	e	a	調査時SP-005
1-14・16	09_SP-006	91607.131	-11335.239	-	-	39	35	21	e	d	調査時SP-006
1-14・16	09_SP-007	91612.254	-11332.275	-	-	40	28	24	e	h	調査時SP-007
1-14・16	09_SP-008	91628.136	-11332.165	-	-	28	27	19	e	a	調査時SP-008
1-14・16	09_SP-009	91630.697	-11332.970	-	-	24	23	12	e	e	調査時SP-009
1-14・16	09_SP-010	91626.709	-11341.387	-	-	40	39	6	e	a	調査時SP-010

表 1-11 高間(6)遺跡B区SD観察表

図版番号	遺構番号	位置	規模(cm)			断面形	重複(溝関係のみ)	新旧関係(溝関係のみ)	備考
			長さ	幅	深さ				
1-17~24	SD-001	X 91654.347, Y -11287.841~ X 91639.175, Y -11326.176	253m	84	88	緩やかに立ち上がるが壁上部の一部で角度を変え開き気味に立ち上がる箇所がある	-	-	

表 1-12 高間(6)遺跡C区SK観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-27	SK-001	91703.218	-11292.223	-	-	94	83	28	楕円形	鍋底形で壁は垂直に近い形で立ち上がる	

表 1-13 高間(6)遺跡C区SD観察表

図版番号	遺構番号	位置		規模(cm)			断面形	重複(溝関係のみ)	新旧関係(溝関係のみ)	備考
		X	Y	長さ	幅	深さ				
1-27	SD-001	X 91688.545, Y -11245.545~ X 91682.265, Y -11243.818	630	32~56	24	鍋底形で壁隙がやや丸みを帯び壁は垂直に近い形で立ち上がる箇所がある	-	-		

表 1-14 高間(6)遺跡D区SI観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複(ピット以外)	関連ピット	規模(cm)			床面積(m ²)	主軸方位	平面形	断面形	カマド	土坑	ピット	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ								
1-29	SI-01	91644.239	-11463.333	-	-	(243)	221	16	(4.205)	-	不整形長方形	開き気味に立ち上がる	-	-	-	

表 1-15 高間(6)遺跡D区SK観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-29	SK-01	91646.803	-11464.628	-	-	106	65	33	不整形楕円形	西側に向かって傾斜がついた凹凸のある形状で壁は西側が若干袋状に入り込む	
1-29	SK-001	91591.603	-11450.840	-	-	103	87	41	不整形楕円形	袋状	

表 1-16 高間(6)遺跡D区SN観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-29	SN-01	91599.083	-11463.005	-	-	145	100	13	不整形	凹凸がある	

表 1-17 高間(6)遺跡D区SX観察表

図版番号	遺構番号	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
		X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-30	SX-01	91678.238	-11525.576	SD	SX-01>SD	400	360	-	不明	不明	
1-30	06_SX-01	91650.809	-11472.408	-	-	386	150	45	不整形長楕円形	凹凸があり壁は開き気味に立ち上がる	調査時SX-01

II
遺構観察表

第Ⅲ章 試掘・確認調査

石江土地区画整理事業に伴う石江遺跡群の発掘調査については、付帯する上下水道工事等についても石江区画整理事務所からの依頼で調査を実施している。

その成果の一部は、既報告の報告書中にも含まれているが、一部成果について未報告資料が残っていた。

高間(1)遺跡内確認調査 S=1/1,500

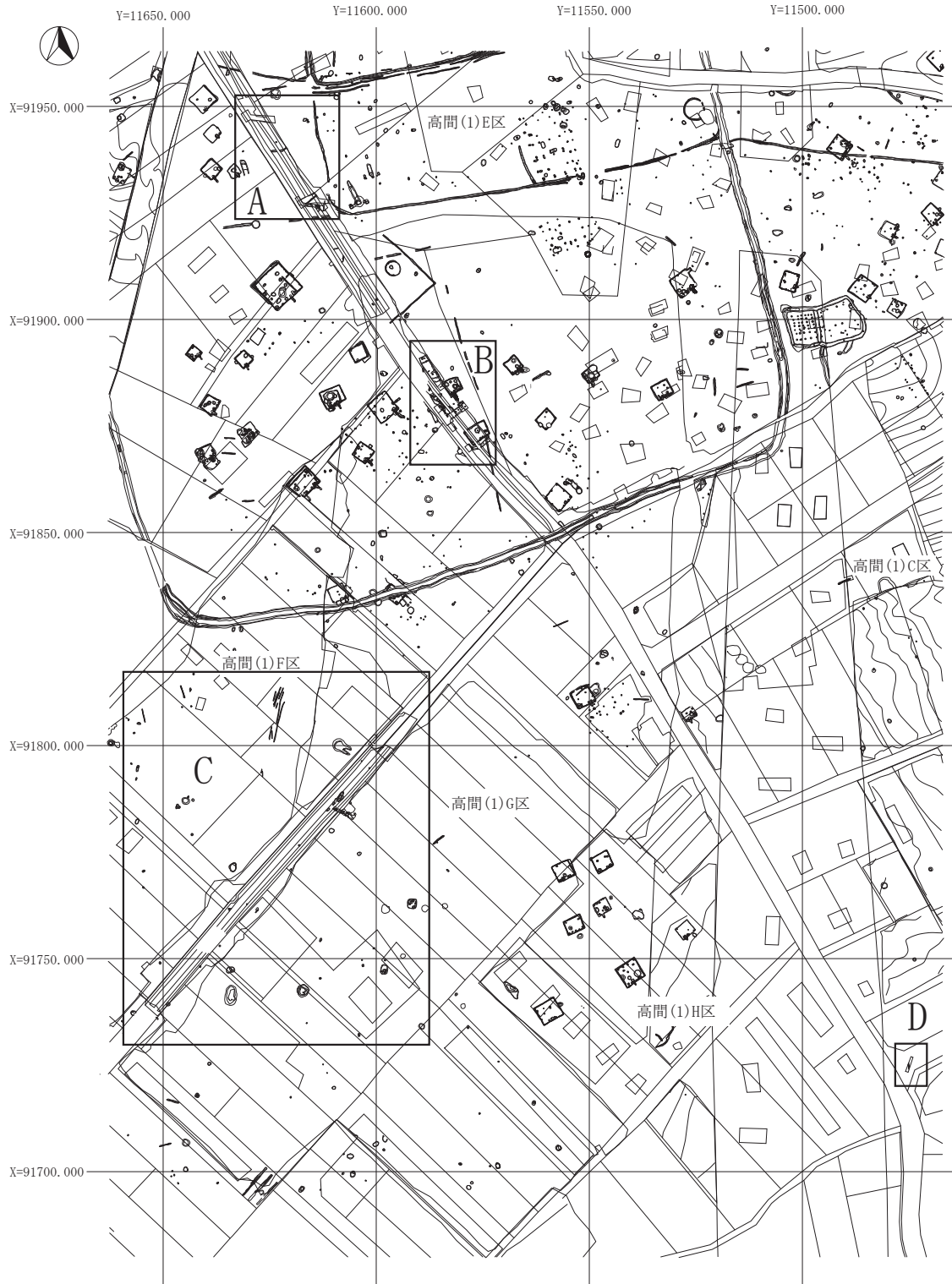


図 1-45 高間(1)遺跡確認調査位置図

そこで、未報告の成果について本章で報告することとした。

なお、新田(1)・(2)遺跡については上下水道工事に伴う調査で、一括した取扱いで報告することとし、既に遺構について報告済の新城平岡(4)遺跡の成果については、追加資料として本報告第3分冊の補遺編の中で出土遺物を報告した。

第1節 高間(1)遺跡

調査は、調査前の現道に埋設されていた上水道の切り替えに伴い、全面発掘調査に先行して調査が実施された。調査面積は812㎡である。E区とF区、F区とG区の境界およびC区の南側の地点を調査したが、報告に際し、遺構数が少ないことからA～Dの4地点に分け記述した。なお、昨年度刊行された青森市埋蔵文化財調査報告書第113集『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅵ』内での高間(1)遺跡の全面発掘調査成果の中では、本調査の成果が盛り込まれておらず、本報告は補遺資料にもあたる。

1. A地点

前述のとおりE区とF区(F-1区)の境界に相当する。水道管の切り回しで南北2箇所を精査し、

A地点

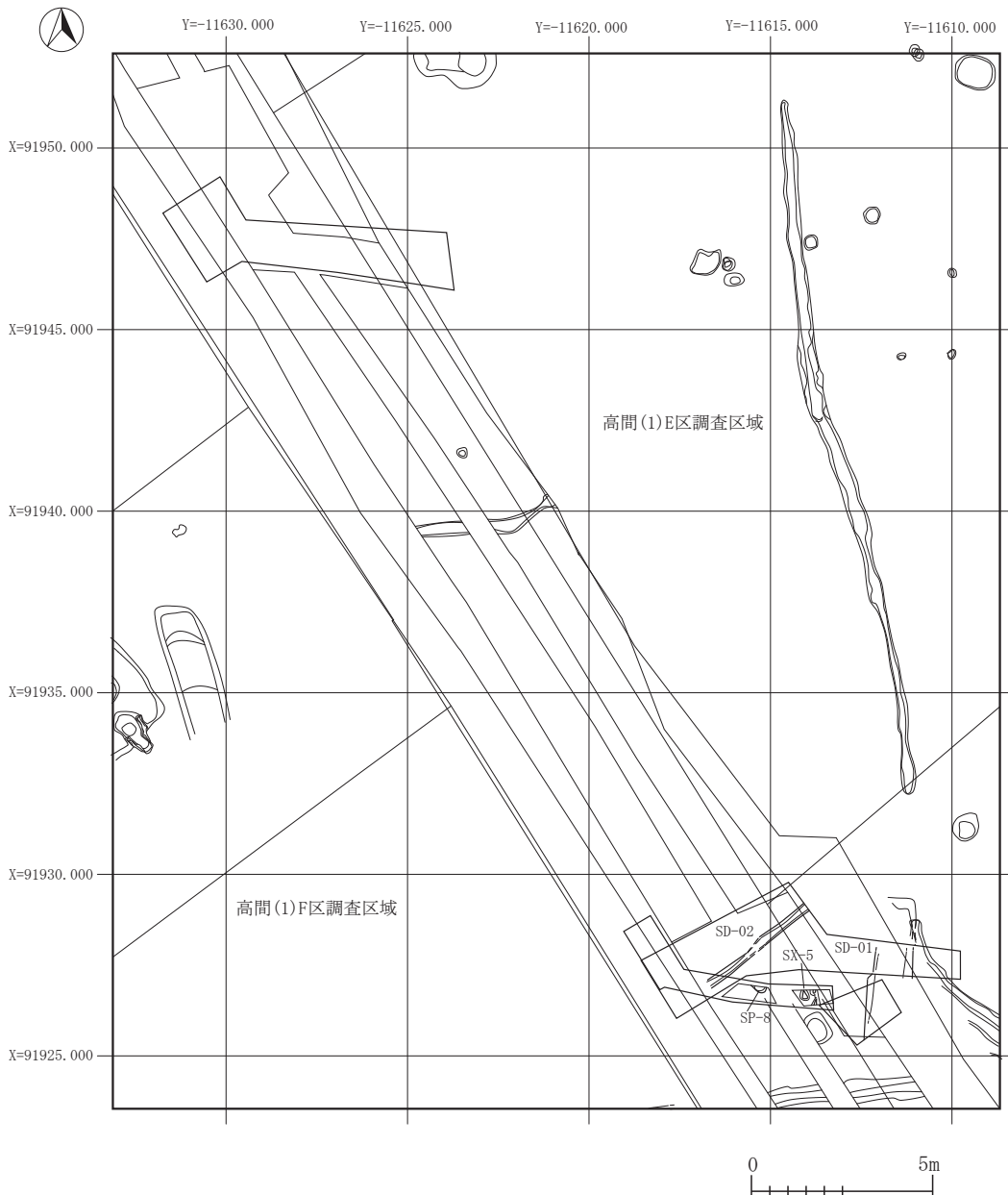


図 1-46 高間(1)遺跡確認調査A地点遺構配置図

遺構の検出した南側は水道管の切り回しで、地点が拡張されている。

SX-05 (図1-47)

F-1区07__SK-012の北側に相当する位置から検出した。平面図のみの記録で、53×43cm程度の範囲で、凹凸の見られる土地の改変箇所を検出した。検出は部分的で、全面調査時には周辺で類似する隆起面は確認していないことから詳細は不明である。

SP-8 (図1-47)

南側のみを検出で、平面形は(不整形)を呈し、42×(13)×8cmを呈する。付近に類似のピットが見当たらず、詳細は不明である。

SD-01 (図 1-47)

検出部分は幅106cm、長さ(401)cm、深さ54cmを測る。E区で検出した中世の区画溝であるSD-62より古い。覆土から土師器が出土した。付近の東側のE区内ではSK-224やSK-226など古代の溝状の細長い土坑が掘り込まれており、中世の区画溝より古いことなどを踏まえると本遺構も古代の土坑である可能性が高い。

SD-02 (図 1-47)

検出部分は幅16~26cm、長さ(345)cm、深さ36cmを測る。E区内で区画溝として機能しているSD-67と近接しており、関連した可能性もあるが、部分的な検出で詳細は不明である。

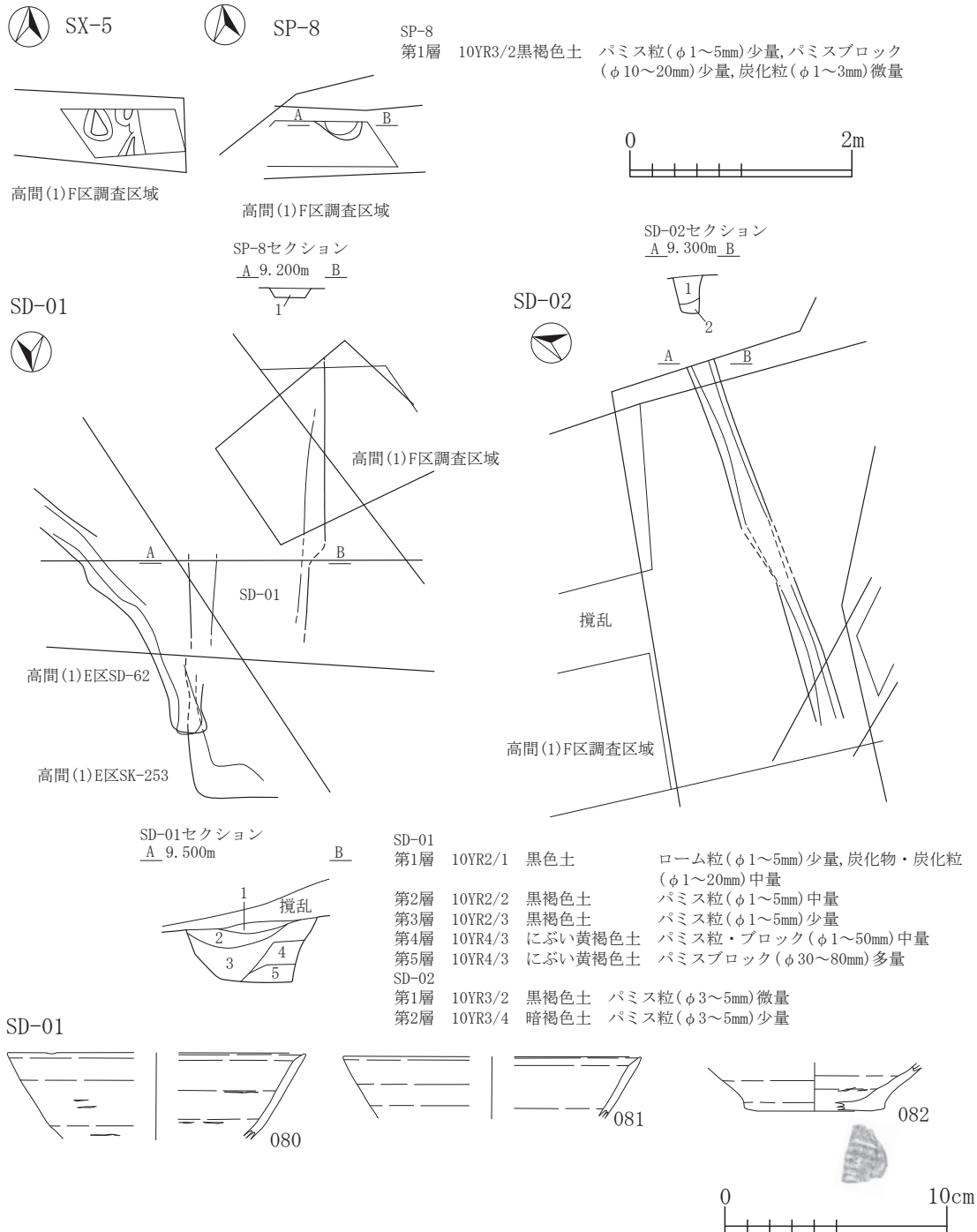


図 1-47 高間(1)遺跡確認調査A地点-1

2. B地点

B地点はA地点と同様にE区とF区の境界に相当し、A地点より南東側に位置する。水道管の切り替えに伴い、トレンチ状に掘削して遺構確認を実施し、検出した遺構について精査している。

SI-1 (図1-49)

F-2区で検出したSI-005の東壁に相当する。SX-1・2とした掘りこみと重複し、SX-2<SI-1 (=F-2区SI-005)<SX-1の関係である。既設の水道管によって既に破壊を受けている影響で、若干変形を受けている状況であるが、F-2区SI-005の調査成果を含めた本

堅穴の規模は、342×330×23cmを測り、主軸方位はN-159°-Eである。東壁の壁際に沿ってPit1~8の小ピットを検出した。軸線は堅穴の壁に並行しているが、延長線上の堅穴外にSP-1が配置している。堅穴の堆積土も残存がほとんど認められないことから明確な帰属については不明である。

SX-1 (図1-50)

SI-1と重複する掘削痕で、検出範囲は(180)×(56)×22cmである。F-2区SX-013とも重複する位置関係であるが、痕跡が不明瞭である。SI-1との重複関係は前述のと

B地点

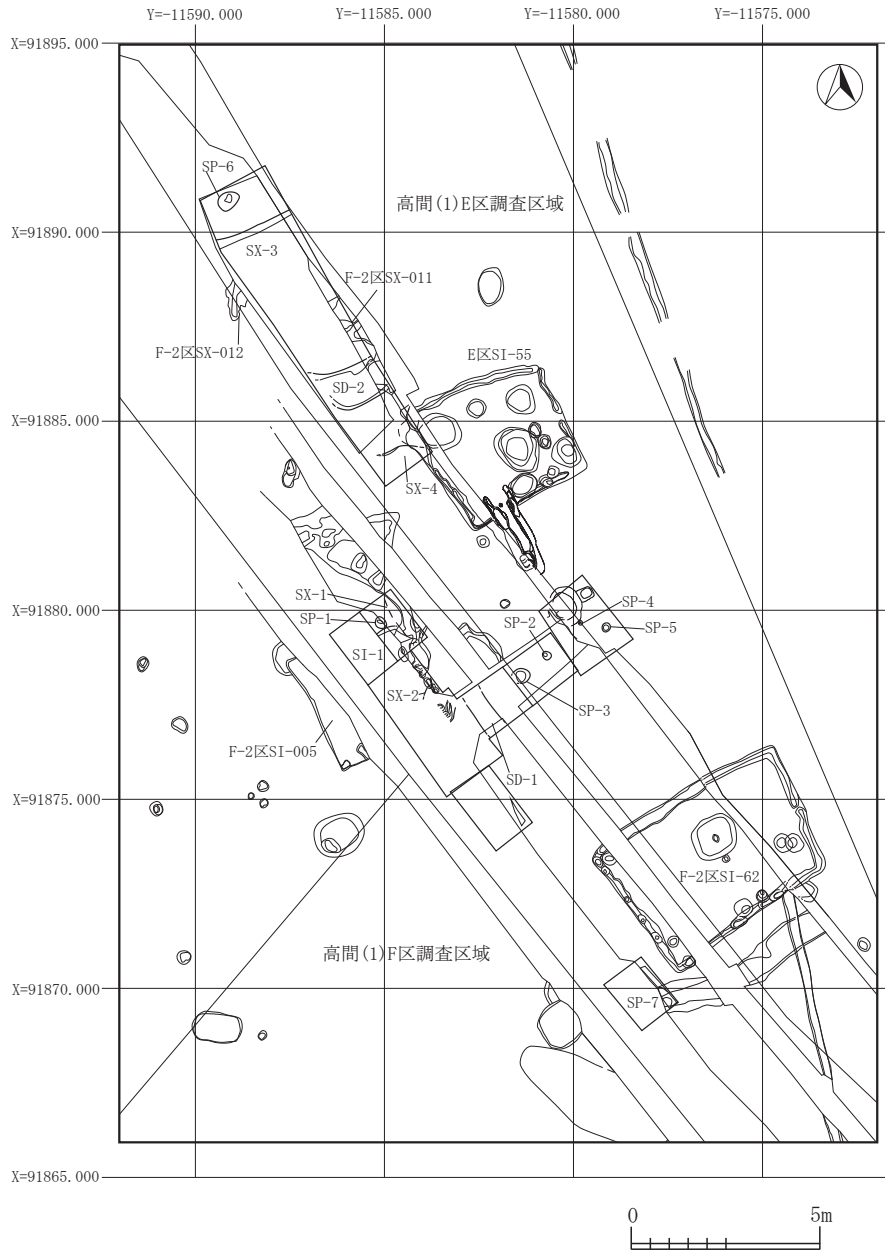


図1-48 高間(1)遺跡確認調査B地点遺構配置図

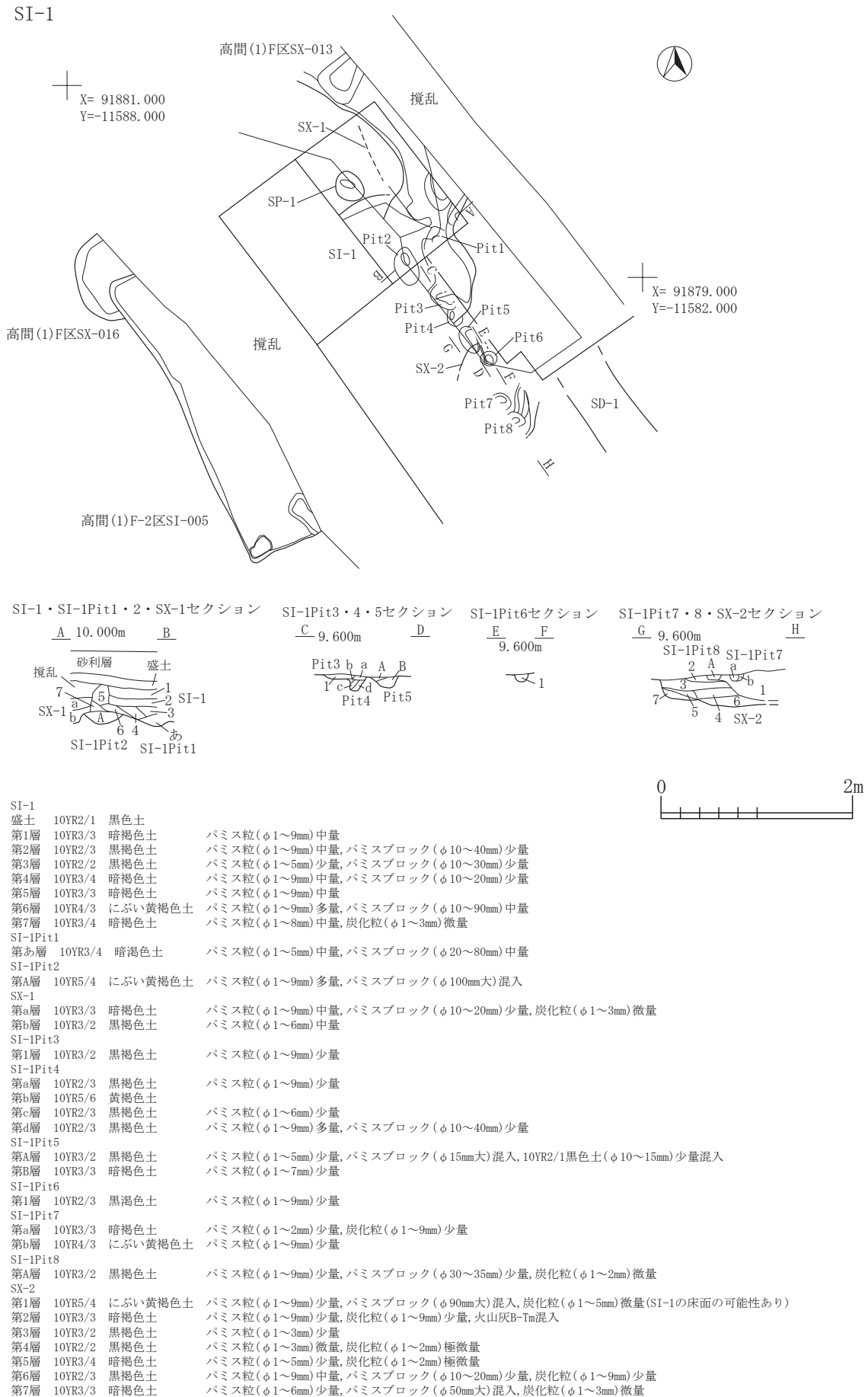


図 1-49 高間(1)遺跡確認調査B地点 -1

SX-1・2

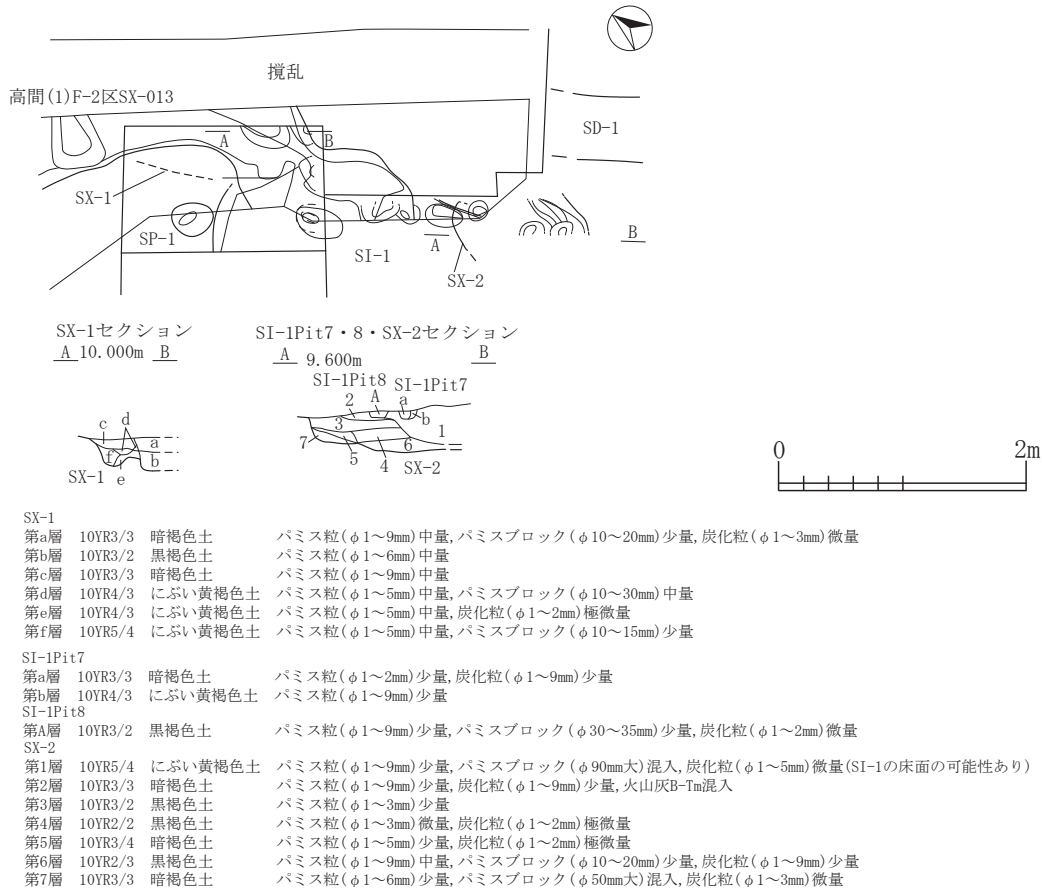


図 1-50 高間(1)遺跡確認調査B地点-2

おりで本遺構が新しく、東側のSD-1から延びる地点の掘削痕に切られている。SI-1(=F-2区SI-005)やF-2区SX-013など土地利用の掘削に伴う掘削痕にあたる。

SX-2 (図1-50)

SI-1と重複する掘削痕で、(89)×(55)×32cmを測る。前述のとおりSI-1に帰属するPitより古いことからSI-1より古い取扱いであるが、SI-1の壁面を超えた位置まで掘削が延びていないことから、SI-1の掘り方としての可能性も残される。SI-1(=F-2区SI-005)の床面にも面する第2層からB-Tm火山灰を検出している。

SX-3 (図1-51)

F-2区SX-011・012に接する掘削痕で、実質的に同一遺構であると考えられる。また、SD-2と重複し、本遺構が古い。検出部分の規模は441×(194)×22cmを測る。SX-011の調査時に堆積土中からB-Tm火山灰を検出しているが、SX-3扱いの部分からは検出しておらず、焼土を面的に検出している。

SX-4 (図1-51)

E区SI-55に接する掘削痕で、(150)×(127)×16cmを測る。SI-55と接する形で、関連した掘削痕である。

SD-1 (図1-52)

平面のみの検出で、幅50cm、長さ110cmを測る。SX-1の項目で記述したが、北側の部分はSX-1を切る掘削痕があり、本遺構の延長線にあたる。南側は明瞭な痕跡が残存しておらず詳細は不明である。

SD-2 (図1-52)

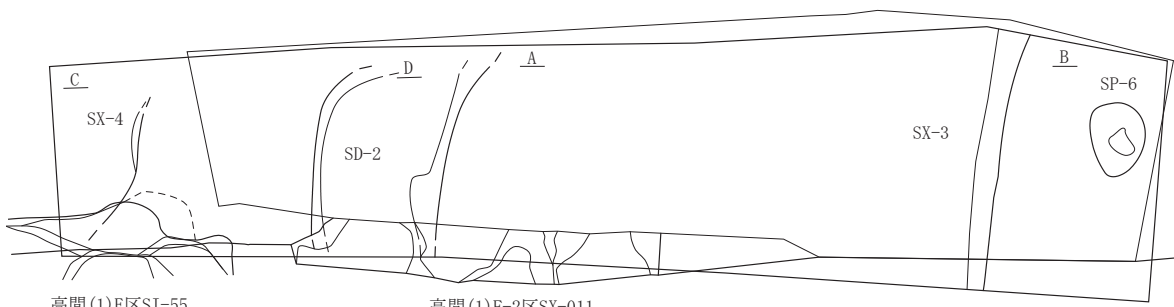
SX-3と重複し、本遺構の方が新しい。また、F-2区SX-011は本遺構の一部を一括した遺構の取扱いで精査され、報告されている(第113集第3分冊P.193の土層堆積図上で、第2層の一部と第3・6・7・8層が相当する)。(172)×108×18cmを測り、溝扱いのSDが付されているものの、SX扱いの遺構同様掘削痕の可能性が高い。

ピット (図1-52)

7基検出した。個別の記載はしないが、SP-6

のように柱穴として機能した明瞭な堆積状況を呈する資料もみられるが、他は比較的浅い資料である。遺物等の出土はなく、建物跡として認定できる配置状況も認められないことから詳細については不明である。

SX-3・4



高間(1)E区SI-55

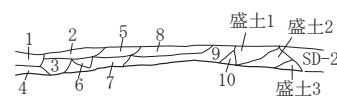
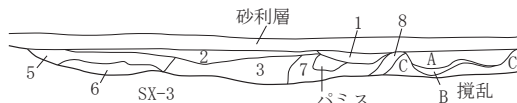
高間(1)F-2区SX-011

SX-3セクション
A 10.000m

B

SX-4セクション
C 10.000m

D



層	土質	特徴
SX-3 第1層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, パミスブロック(φ10~30mm)少量, 10YR3/3暗褐色土少量混入
第2層	7.5YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~6mm)少量
第3層	10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~30mm)少量
第4層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~200mm)中量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
第5層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ15~20mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)微量
第6層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~6mm)少量, パミスブロック(φ10~200mm)多量, 炭化粒(φ1~7mm)微量
第7層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量, パミスブロック(φ10~100mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第8層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~8mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
攪乱		
第A層	10YR2/1 黒色土	パミス粒(φ1~9mm)少量
第B層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~6mm)少量, パミスブロック(φ10~15mm)少量, 10YR2/1黒色土混入
第C層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ20~80mm)少量
SX-4 第1層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR2/3 黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ5mm)微量
第3層	10YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)少量
第4層	10YR4/4 褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量
第5層	10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)少量
第6層	7.5YR3/3 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第7層	7.5YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第8層	10YR3/2 黒褐色土	パミス粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)少量
第9層	10YR3/4 暗褐色土	パミス粒(φ1~3mm)中量, ローム粒(φ5~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第10層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	パミス粒(φ1~5mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)微量

SX-3焼土範囲

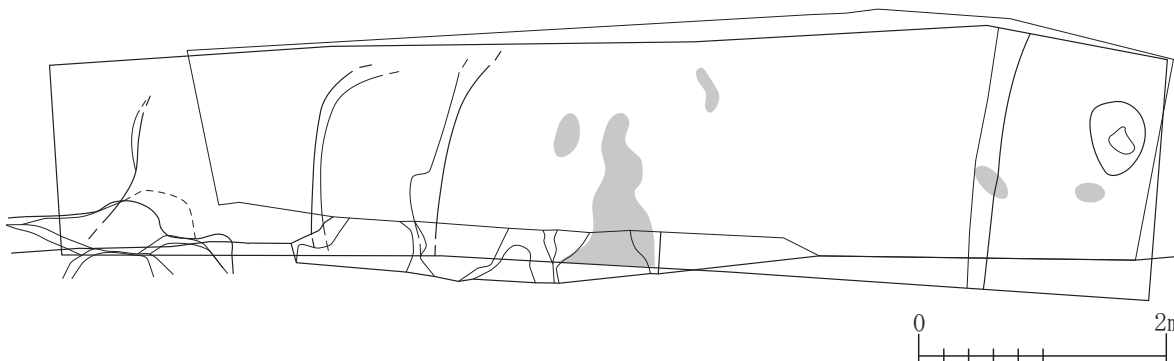


図 1-51 高間(1)遺跡確認調査B地点-3

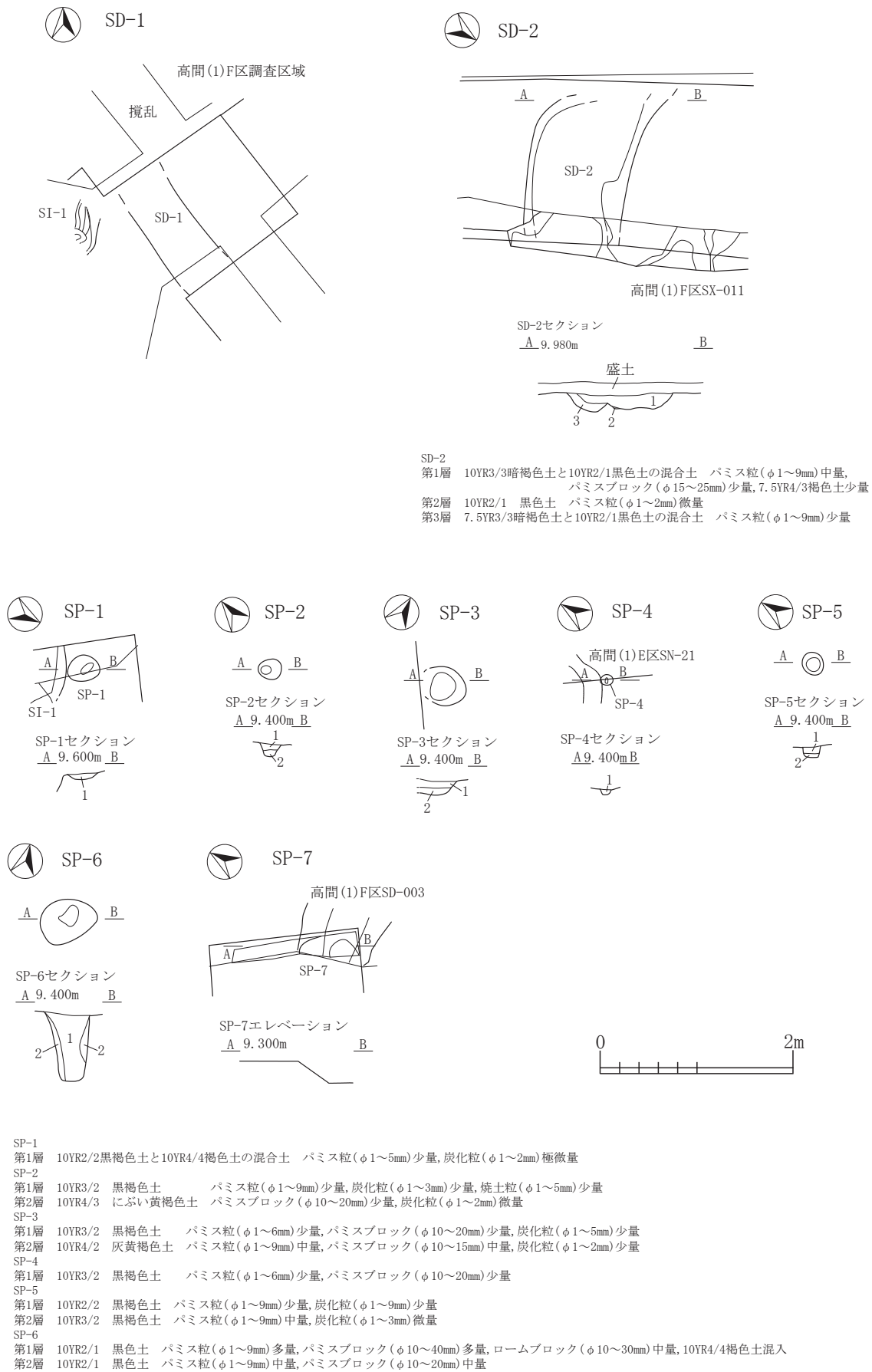


図 1-52 高間(1)遺跡確認調査B地点-4

3. C地点

C地点はF区（F-2区）とG区（G-1区）の間の道路部分に相当する。

他の調査地点と同様に水道管の切り替えに伴う調査で検出した遺構を精査している。

SK-101（図1-54）

平面形は不整楕円形を呈し、90×78×27cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は一部途中で角度を変え開き気味に立ち上がっている。堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴うもので、柱穴状の堆積状況を呈する。後述するピットとともに道路に沿う配置を呈しており、関連が想定さ

れる。

SK-102（図1-54）

平面形は不整長楕円形を呈し、268×124×92cmを測る。G-1区で検出したSI-003（SI-001c）の竪穴内に相当し、本遺構はSI-003に帰属した可能性がある。堆積土は7層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。

ピット（図1-55）

12基検出した。他の地区同様個別に記載は行わないが、単独で検出するケースがほとんどである。

C地点

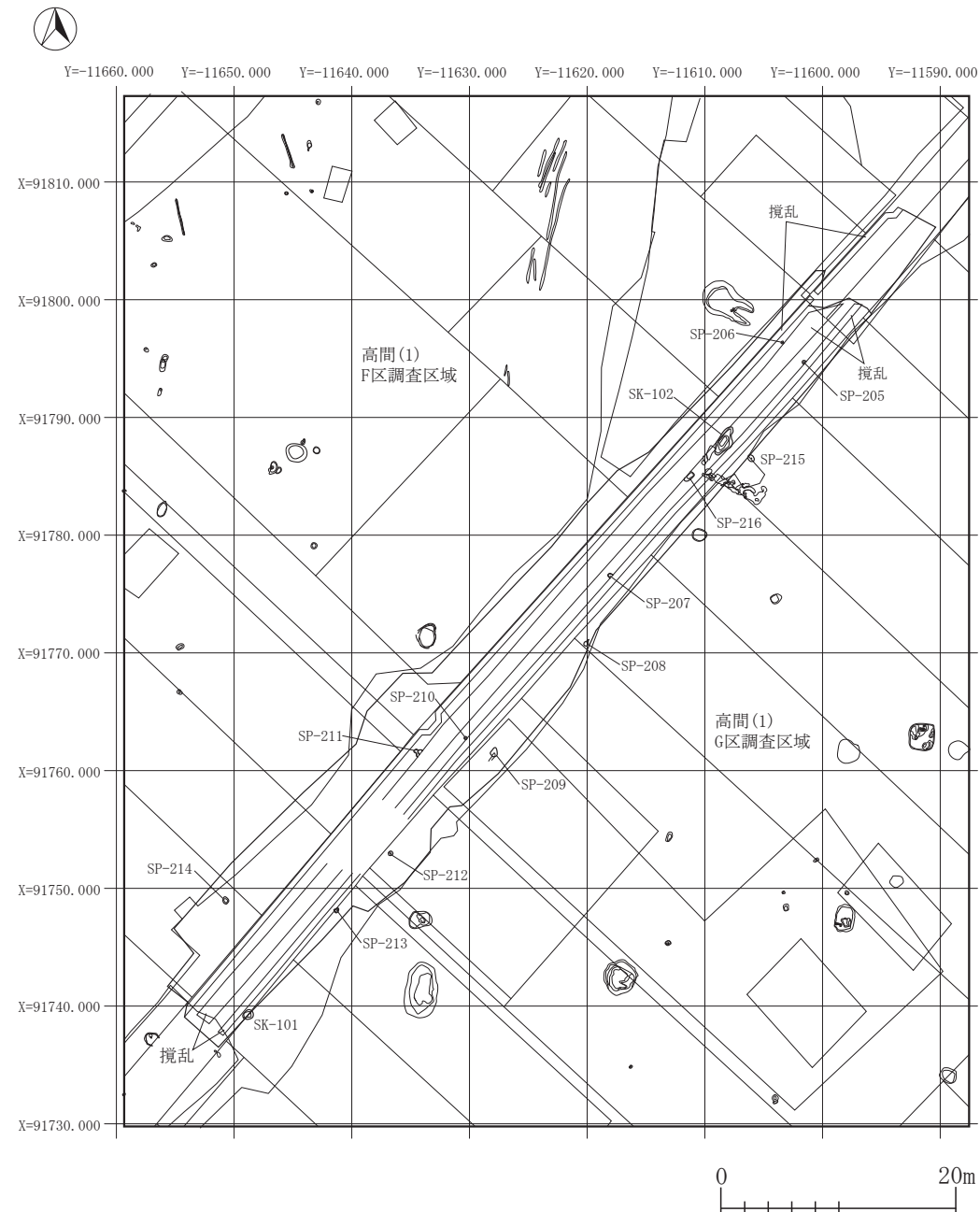


図 1-53 高間(1)遺跡確認調査C地点遺構配置図

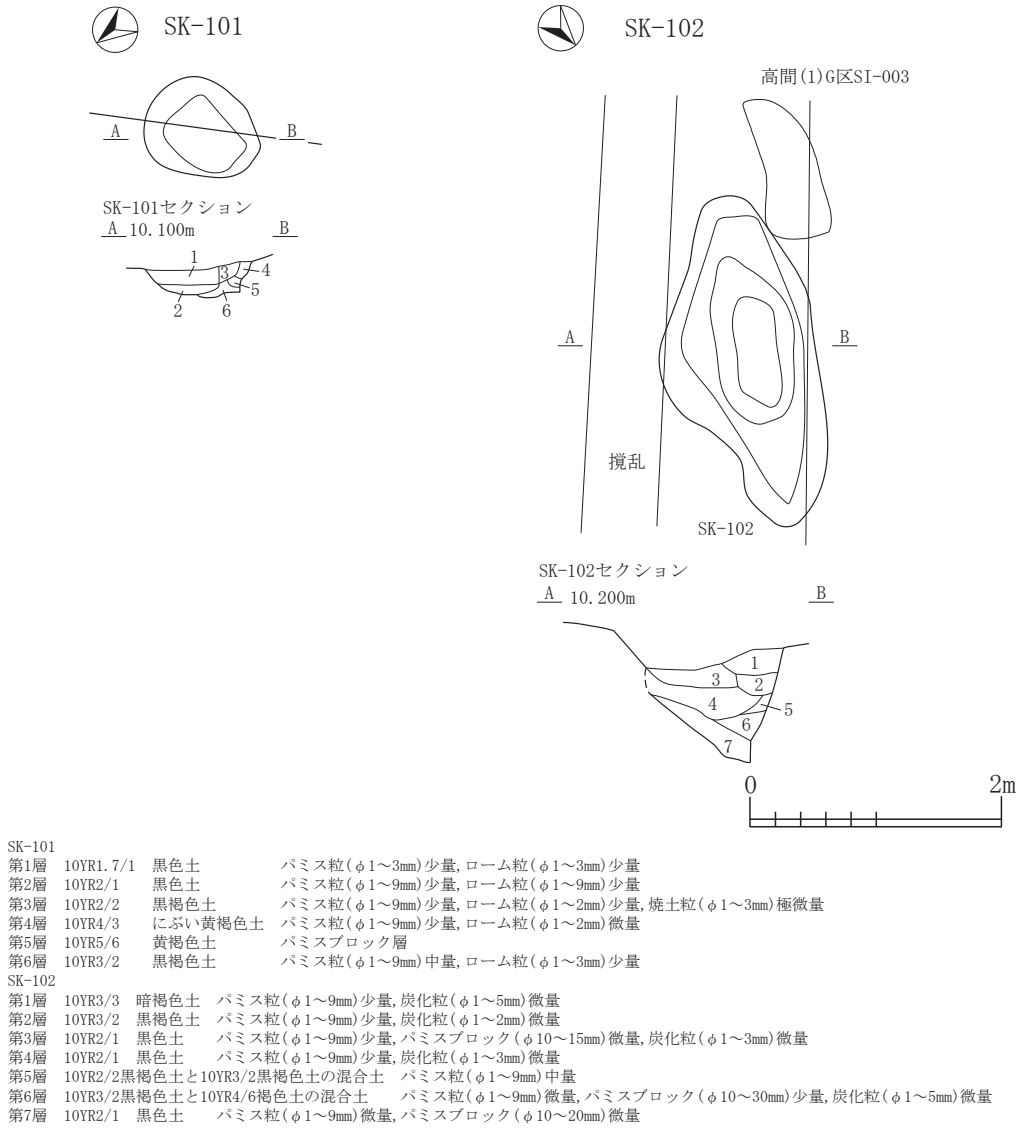
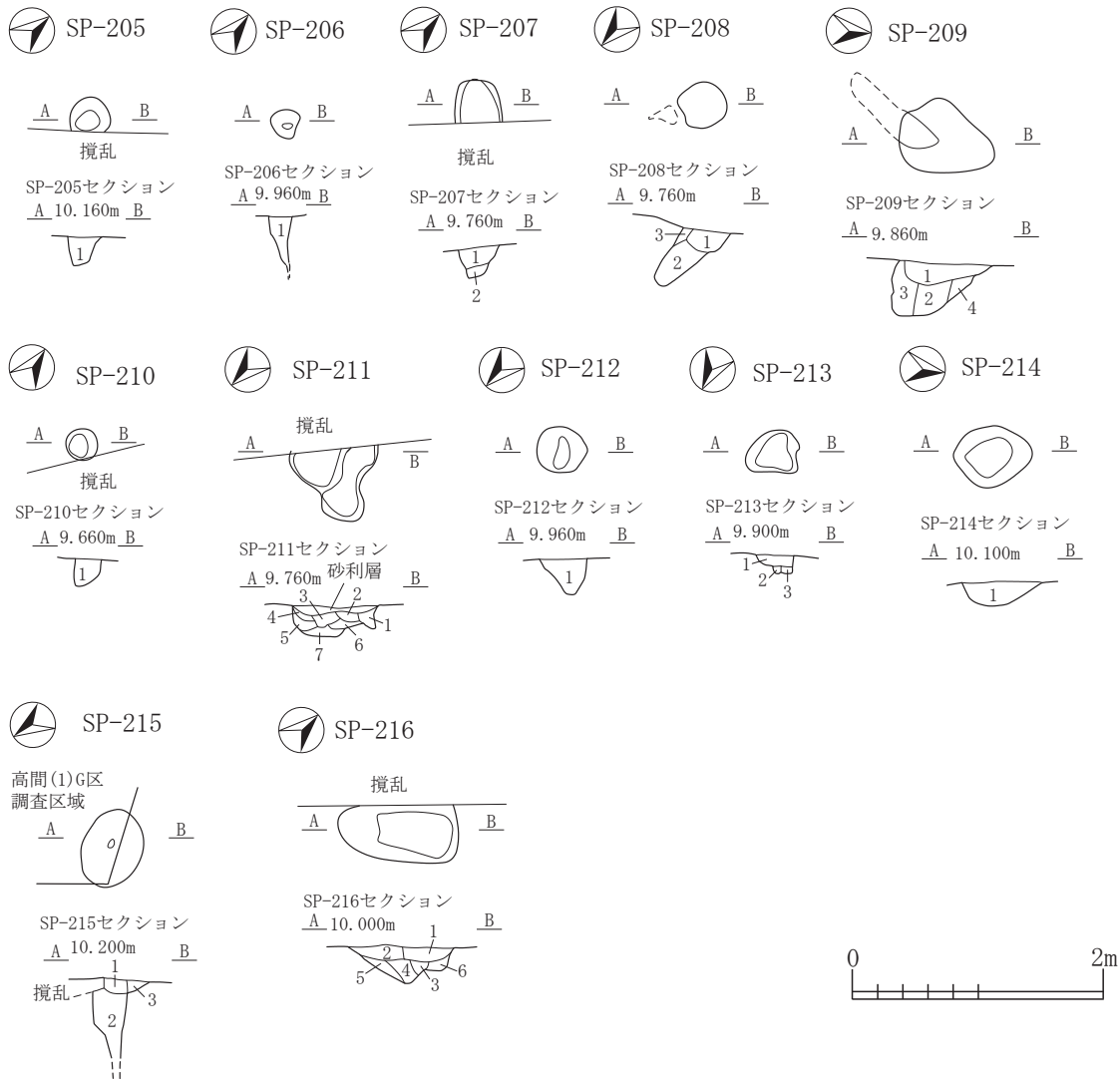


図 1-54 高間(1)遺跡確認調査C地点-1

ただし、SP-205・206、SP-207・210、SP-208・209・212・213及びSK-101は調査時に使用されていた道路の軸線ないしは土地境界の軸線に沿って配置しており、建物跡としての機能より道路に付属した構築物や土地境界の柵等の可能性が高い。



SP-205 第1層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量	SP-212 第1層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量
SP-206 第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~8mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	SP-213 第1層 10YR1.7/1 黒色土	バミス粒(φ1~2mm)微量,ローム粒(φ1~3mm)微量
SP-207 第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~20mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	第2層 10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~3mm)微量,ローム粒(φ1~2mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ50mm)中量,10YR6/1褐灰色粘土ブロック(φ30mm)中量	第3層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ30mm大)混入,ローム粒(φ1~2mm)極微量
SP-208 第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	SP-214 第1層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,バミスブロック(φ10mm)混入,ローム粒(φ1~2mm)微量,10YR1.7/1黒色土粒(φ3~5mm)微量
第2層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)微量	SP-215 第1層 10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量
第3層 10YR5/3 にぶい黄褐色土	バミスブロック(φ10~12mm)微量	第2層 10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~60mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量
SP-209 第1層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量	第3層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量
第2層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~7mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量		
第3層 10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量		
第4層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量,10YR5/3 にぶい黄褐色土中量		
SP-210 第1層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量	SP-216 第1層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,10YR3/2黒褐色土中量
SP-211 第1層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)中量,炭化粒(φ1~2mm)極微量,焼土粒(φ1mm)極微量	第2層 10YR5/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第2層 10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量	第3層 10YR3/3 暗褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量
第3層 10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	第4層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量,バミスブロック(φ10~30mm)少量
第4層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~7mm)少量	第5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量
第5層 10YR5/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)極微量	第6層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ10~18mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)少量
第6層 10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~5mm)少量		
第7層 10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量,バミスブロック(φ13mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量		

図 1-55 高間(1)遺跡確認調査 C 地点 -2

4. D地点

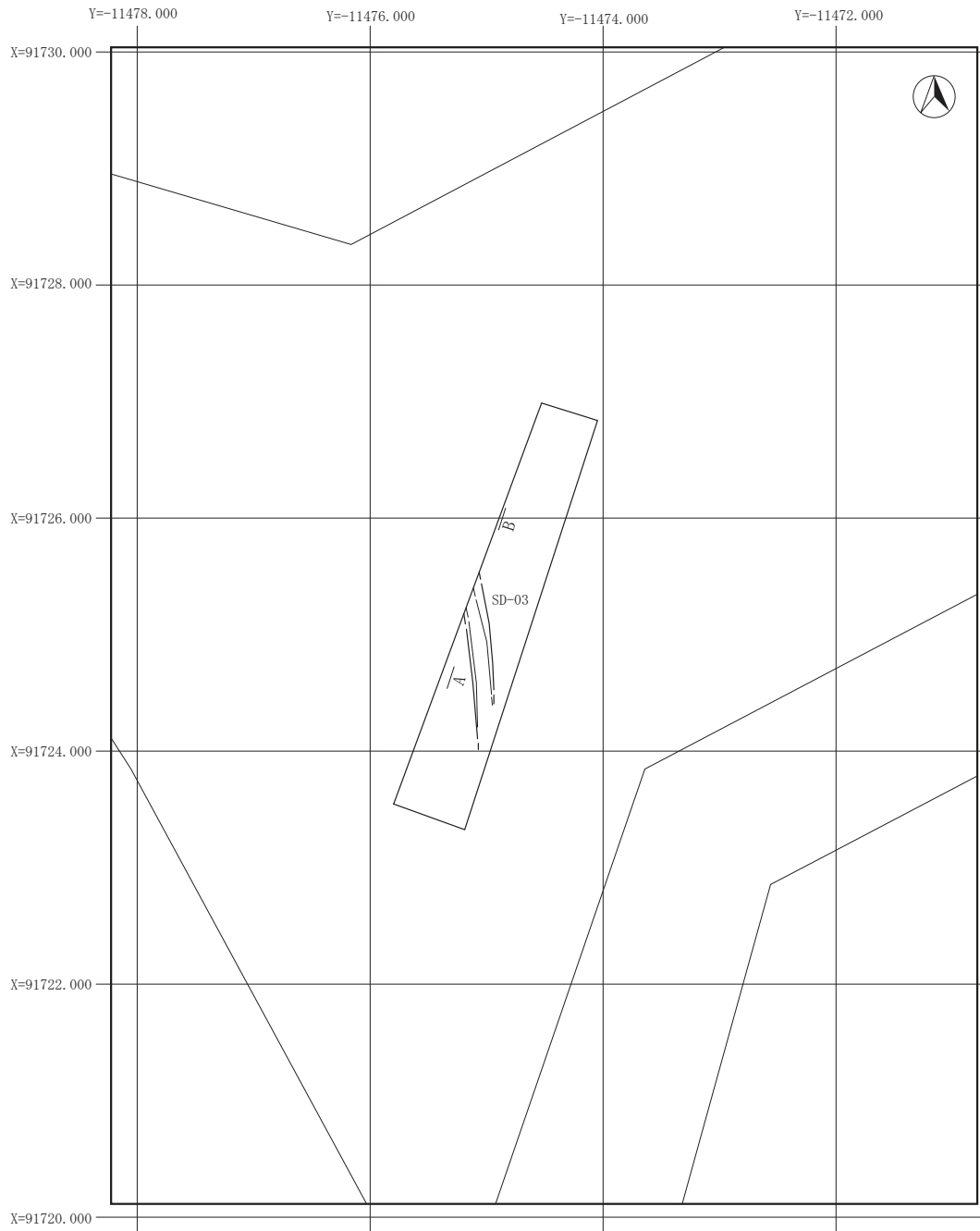
D地点は、本調査のC-4区に近接した位置にあたり、他の地点とは離れている。

断面形は緩やかに立ち上がる形状で、堆積土は2層に分層し、黒褐色を呈する土が自然堆積している。遺物が伴わず、帰属時期等は不明である。

SD-03 (図1-56)

0.5×3.7mのトレンチを開け、トレンチの中から幅20cm、長さ118cm、深さ26cmの溝跡を検出した。

D地点



SD-03セクション

A 7.200m B



第1層 10YR3/1 黒褐色土 パミス粒(φ1~3mm)微量
 第2層 10YR3/2 黒褐色土 パミス粒(φ1~9mm)少量

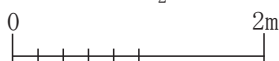


図1-56 高間(1)遺跡確認調査D地点遺構図



写真1-45 SI-1・SX-1セクション1(W→)



写真1-46 SI-1・SX-1セクション2(W→)



写真1-47 SK-102セクション(E→)



写真1-48 SK-102完掘(S→)



写真1-49 SD-01セクション(N→)



写真1-50 SD-01完掘(E→)



写真1-51 SD-03セクション(E→)



写真1-52 SD-03完掘(N→)

A地点
SD-01



写真 1-53 出土遺物

表 1-26 高間(1)遺跡 SI 観察表

図版番号	遺構番号	地点名	位置		重複(ピット以外)	関連ピット	規模(cm)			床面積(m ²)	主軸方位	平面形	断面形	カマド	土坑	ピット	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ								
1-49	SI-1	B	91878.619	-11584.344	SX-2<SI-1CSX-1		342	330	23	(9.337)	N-159° -E	不整形	垂直に近い形で立ち上がる。	-	-	8	F-2区SI-005の東壁側に相当

表 1-27 高間(1)遺跡 SK 観察表

図版番号	遺構番号	地点名	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-54	SK-101	C	91739.609	-11648.917			90	78	27	不整形円形	壁の一部で緩やかに立ち上がる。	道路ないしは敷地境界に関連か。
1-54	SK-102	C	91788.192	-11608.477			268	124	92	不整形長円形	垂直に近い形で立ち上がる。	G-1区SI-003(SI-001e)に付属か。

表 1-28 高間(1)遺跡 SX 観察表

図版番号	遺構番号	地点名	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-50	SX-1	B	91880.206	-11584.598	SI-1	SI-1<SX-1	(180)	(56)	22	詳細不明	垂直に近い形で立ち上がる。	SD-1から延びる裾削痕に切られている。
1-50	SX-2	B	91878.024	-11583.892	SI-1	SX-2<SI-1	(89)	(55)	32	不整形円形	垂直に近い形で立ち上がる。	SI-1(F-2区SI-005)の付属施設の可能性有。
1-51	SX-3	B	91889.315	-11587.910	SD-2	SX-3<SD-2	441	(194)	22	(不整形長方形)	緩やかに立ち上がる。	F-2区SX-011の延長部に相当、焼土検出。
1-51	SX-4	B	91885.215	-11585.323			(150)	(127)	16	-	緩やかに立ち上がる。	E区SI-55iに接し、関連した可能性。
1-47	SX-5	A	91926.881	-11614.168			53	43	-	詳細不明	詳細不明	凹凸箇所のみ、詳細不明。

表 1-29 高間(1)遺跡 SP 観察表

図版番号	遺構番号	地点名	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-52	SP-1	B	91879.969	-11585.309			32	27	6	e	h	
1-52	SP-2	B	91879.095	-11580.924			24	20	13	e	d	
1-52	SP-3	B	91878.568	-11581.609			41	(38)	15	(c)	(d)	
1-52	SP-4	B	91879.958	-11580.034			14	11	5	e	h	
1-52	SP-5	B	91879.835	-11579.336			24	22	10	e	a	
1-52	SP-6	B	91891.152	-11589.324			59	43	68	e	j	
1-52	SP-7	B	91869.999	-11577.711	F-2区SD-003	SP-7>SD-003	(59)	(23)	26	(e)	x	
1-47	SP-8	A	91927.185	-11615.492			42	(13)	8	(f)	d	
1-55	SP-205	C	91794.994	-11601.611			32	(27)	23	e	c	
1-55	SP-206	C	91796.677	-11603.493			23	21	(50)	e	g	
1-55	SP-207	C	91776.855	-11618.096			36	(33)	24	(b)	e	
1-55	SP-208	C	91771.091	-11620.136			39	36	35	e	f	
1-55	SP-209	C	91761.879	-11627.928			73	57	45	e	f	
1-55	SP-210	C	91763.098	-11630.390			25	24	22	h	h	
1-55	SP-211	C	91761.749	-11634.278			70	(54)	24	e	i	
1-55	SP-212	C	91753.301	-11636.757			40	37	28	e	g	
1-55	SP-213	C	91748.450	-11641.328			41	32	15	e	e	
1-55	SP-214	C	91749.276	-11650.778			62	50	20	e	h	
1-55	SP-215	C	91786.828	-11606.092			60	49	(80)	f	e	
1-55	SP-216	C	91785.270	-11611.397			95	(44)	28	f	e	

表 1-30 高間(1)遺跡 SD 観察表

図版番号	遺構番号	地点名	位置			規模(cm)			断面形	重複(溝関係のみ)	新旧関係(溝関係のみ)	備考
			X	Y	Z	幅	長さ	深さ				
1-47	SD-01	A	X 91927.484, Y -11611.866			106	(401)	54	開き気味に立ち上がる	E区SD-62	SD-01<E区SD-62	
1-47	SD-02	A	X 91929.008, Y -11614.547~ X 91927.430, Y -11616.494			16~26	(345)	36	垂直に近い形で立ち上がる			
1-52	SD-1	B	X 91877.588, Y -11582.598			50	110	-	-			確認面のみ
1-52	SD-2	B	X 91886.195, Y -11586.033			(172)	108	18	緩やかに立ち上がる			F-2区SX-011の一部として報告, SX-3と重複。溝より掘削痕の可能性有。
1-56	SD-03	D	X 91724.910, Y -11475.125			20	118	26	開き気味に立ち上がる			

表 1-31 高間(1)遺跡土器観察表

図版	No.	年度	出土地区	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径(cm)	器高(cm)	口径		底径(cm)	残存率	色調外面	色調内面	焼成	釉	砂	骨	赤	口部	外面調整	内面調整	底部調整	備考	整理番号	実測番号
											口縁部	底部																
1-47	080	06	水道区	SD-01	覆土P-X	土師器	碗	口縁~体部	13.4	-	-	0.5/12	-	7.5YR8/4	5YR7/6	並	-	微	微	少	打欠	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱・付着物有、内面付着物有・指土付着。#1-2002・2003と同一個体	0001-1	T1-2001	
1-47	081	06	水道区	SD-01	覆土P-X	土師器	碗	口縁~体部	13.4	-	-	1.2/12	-	5YR7/6	5YR7/6	並	-	微	-	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	T1-2001・2003と同一個体	0001-2	T1-2002	
1-47	082	06	水道区	SD-01	覆土P-X	土師器	碗	体~底部	-	-	-	1.5/12	7.5YR8/4	7.5YR7/4	並	-	微	-	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	T1-2001・2002と同一個体	0001-6	T1-2003		

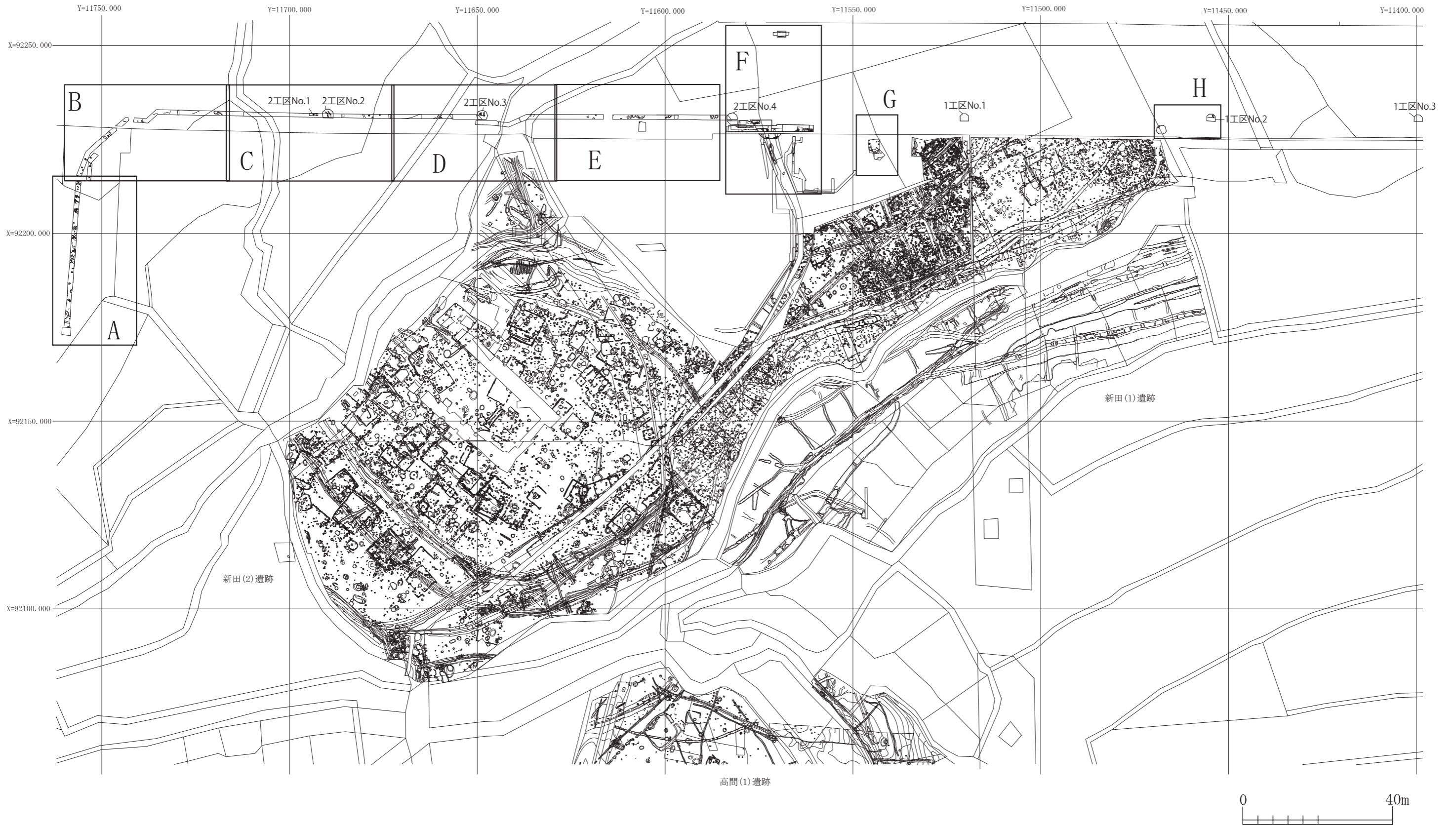


図 1-57 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査全体図

第2節 新田(1)・(2)遺跡

調査は、平成17年度(2005年)に下水道の推進工に伴うケーシングの塹坑設置部分(*工区No. *と表記)、翌平成18年度(2006年)には上水道の切り替え工事等で国道7号青森西バイパス沿いを東西方向にトレンチ状に調査した。さらに平成19年度(2007年)には新田(1)遺跡と新田(2)遺跡の境界部の上水道工事に伴う調査と西側の新田(2)遺跡の延長部分の下水道工事に伴う開削工事に伴い試掘・確認調査を実施し、遺構を検出・調査を実施している。調査面積は489㎡で、新田(1)遺跡が175㎡、新田(2)遺跡が314㎡である。

複数年次に渡り、工事の施工内容により掘削深度が異なった影響もあり、同一地点の精査でも遺構の検出深度まで至らないものも見られた。

報告に際し、各年次の調査内容を統括し、遺構番号について重複するものは調査年の情報を遺構略号の先頭に付す形で表記し(例:2007年調査SK-01→07__SK-01)、地点ごとの報告とした。

遺跡としては新田(1)遺跡、新田(2)遺跡の資料であるが、先に触れたとおり調査時に工事に伴う一連の調査とされた地点が含まれることから、両遺跡をまとめ地点表記で報告することとする。

地点の区分けは西側の新田(2)遺跡寄りの部分からA地点とし、東側の新田(1)遺跡側をH地点まで区分した。さらに遺物のみ出土した下水道調査の1工区No. 3の地点を便宜的にI地点とし、H地点に後続して出土遺物を図示した。

1. A地点

前述のとおり、西側の新田(2)遺跡内に所在する。国道7号青森西バイパスに接し、国道280号の南側に延長する市道3・2・4号石江西田沢線に沿った下水道工事に対応する開削工事である。上水道の工事に比べると掘削深度が深く、調査時の地表面から2m程度下がった地点からの検出で、遺構確認面の標高は6.4～6.7m前後である。最深の地点は調査時の地表面から3.1m下がった地点から黒色土の堆積と基盤層を検出した。

SI-1 (図1-59)

西側の約半分が調査区外へ延びている。検出部分の形状は不整楕円形を呈し、(183)×(159)×21cmを測る。07B__SD-1と重複し、本遺構の方が新しい。断面形は開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分があり、底面は若干凹凸が見られるが平坦に近い形状である。底面からピット等の検出はなく、塹穴遺構としての要

素が強い。堆積土中から土師器椀・甕の破片資料が出土している。

07B__SK-1 (図1-60)

東側の約半分が調査区外へ延びており、検出部分の形状は不整楕円形を呈し、(101)×(50)×27cmを測る。07B__SP-10と重複しており、本遺構の方が古い。断面形は鍋底形を呈し、底面は丸みを若干帯びながら壁はやや垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は7層に分層し、流れ込みを含む自然堆積状況を呈しており、最上層の第1層は鉄分を多く含んでいる。第1層中から土師器椀破片が出土した。

07B__SK-2 (図1-60)

西側が調査区外へ延びている。検出部分の平面形は小判形を呈し、(69)×58×34cmを測る。断面形は柱穴状を呈する。堆積土は4層に分層し、第3・4層が人為的、上面の第1・2層は自然堆積状況を呈する。遺物は出土していない。

SK-3 (図1-60)

平面形は不整楕円形を呈し、118×80×6cmを測る。07B__SP-28と重複し、本遺構の方が古い。断面形は底面が若干傾斜があり、壁は垂直に近い形で立ち上がる箇所が多い。堆積土は1層に分層し、砂混じりの灰色土が堆積している。

SK-4 (図1-60)

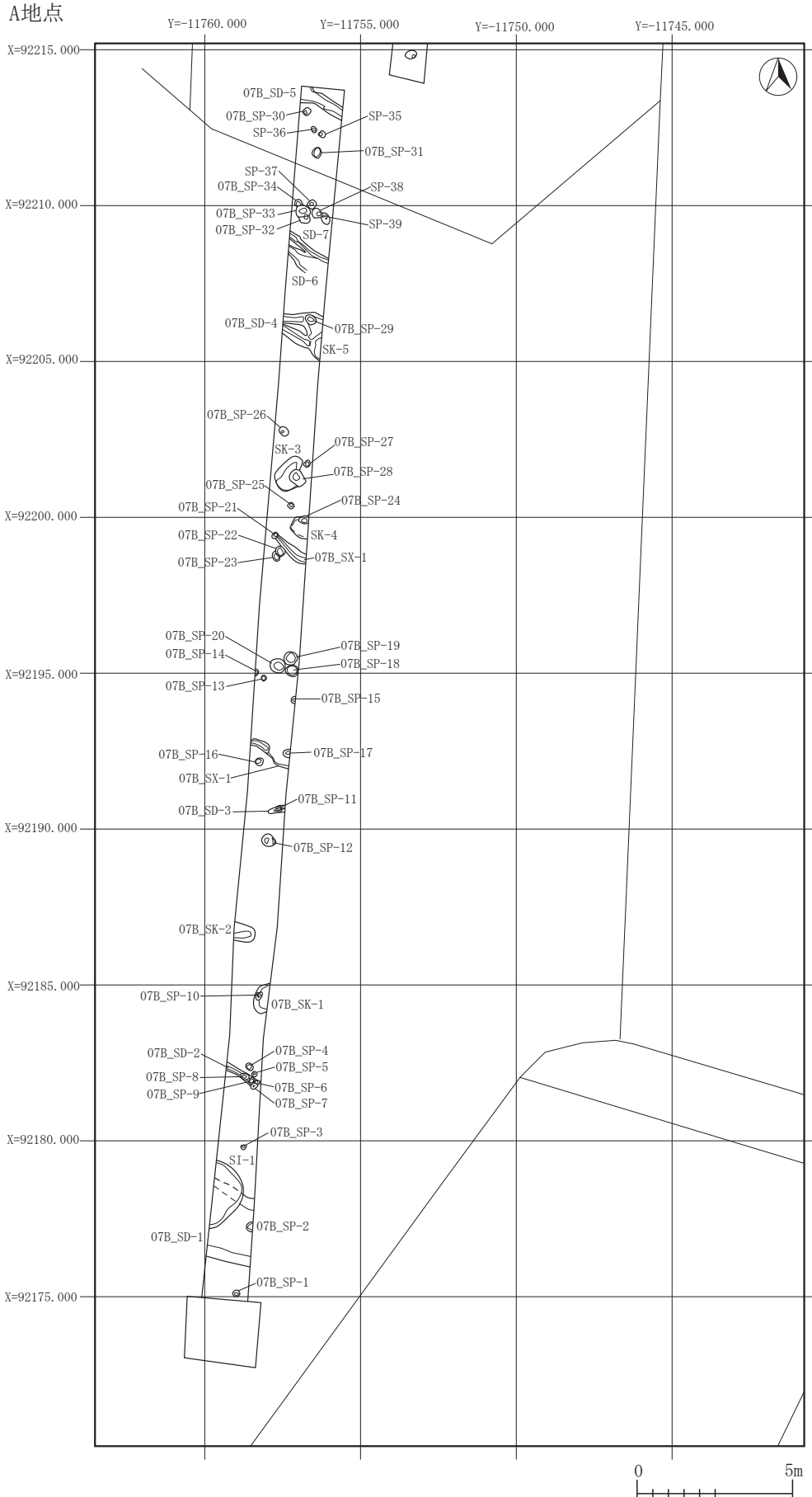
東側が調査区外へ延びている。検出部分の平面形は不整長方形を呈し、(68)×71×14cmを測る。07B__SP-24と重複しており、本遺構の方が古い。断面形は鍋底形を呈し、底面は平坦に近く壁は若干開き気味に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、底面直上に堆積する第B層は炭化物層で、製炭土坑の可能性はある。

SK-5 (図1-60)

東側が調査区外へ延びている。検出部分の平面形は不整円形を呈し、(92)×(36)×54cmを測る。07B__SD-4が上面に重複し、本遺構が古い。断面形は底面に若干凹凸があり、壁上部は07B__SD-4によって切られているが、底面側から垂直に近い形で立ち上がっている。堆積土は3層に分層し、流れ込みに伴う堆積状況を呈する。

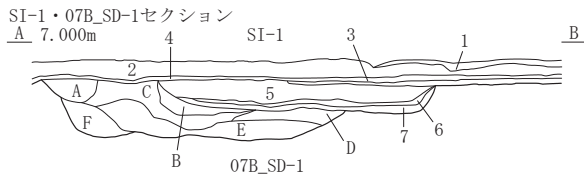
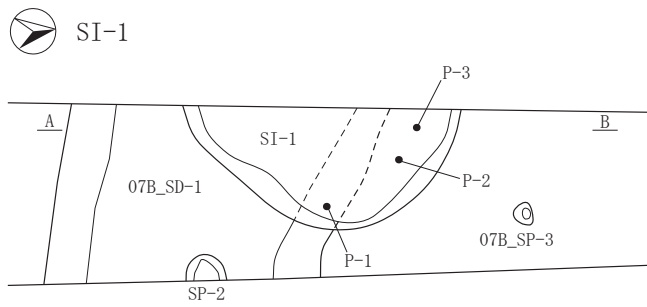
07B__SX-1 (図1-61)

平面形は不整形で、浅い掘りこみと南北の壁溝状の溝の掘削及び焼土・炭化物の検出範囲で遺構認定をした。トレンチ内で(701)×(138)×



Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡

図 1-58 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 A 地点遺構配置図



SI-1		
第1層	2.5Y4/3	オリーブ褐色土 炭化粒(φ1~9mm)少量
第2層	10BG4/1	暗青灰色土 遺物包含層
第3層	7.5YR5/8	明褐色土
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土 シルト質, 炭化粒(φ5mm)少量
第5層	7.5YR3/3	暗褐色土 焼土粒(φ5~9mm)少量, 炭化粒(φ8~9mm)少量
第6層	10YR3/1	黒褐色土 炭化粒(φ1~9mm)多量
第7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土 バミスブロック(φ15mm)微量
07B_SD-1		
第A層	7.5YR4/4	褐色土 白色ブロック(φ10~20mm)中量
第B層	7.5YR5/4	にぶい褐色土 焼土粒(φ1mm)微量
第C層	7.5YR4/3	褐色土 炭化粒(φ5~9mm)微量
第D層	10YR5/6	黄褐色土 ローム粒(φ5~9mm)中層, 炭化粒(φ5~9mm)少量
第E層	10YR5/4	にぶい黄褐色土 ロームブロック(φ10~20mm)中量
第F層	10YR4/6	褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)中量, 10YR3/1黒褐色土混入



SI-1

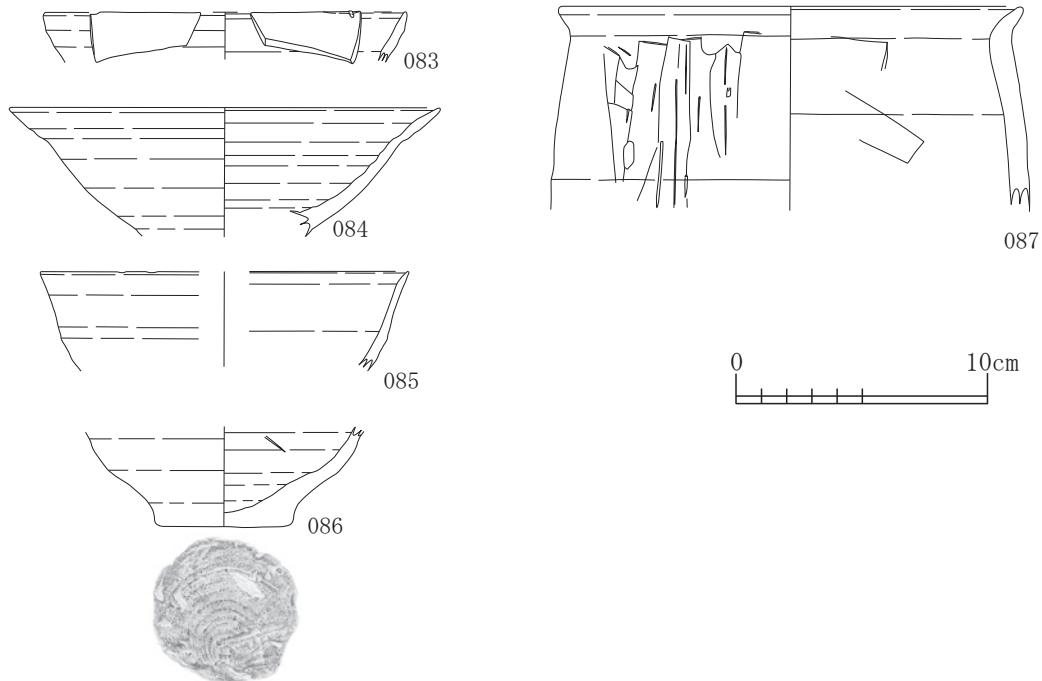
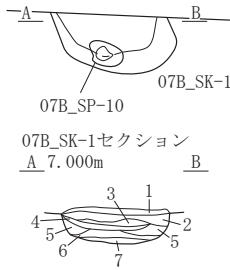
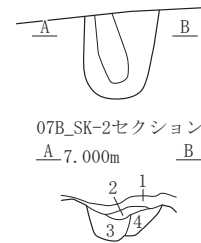


図 1-59 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 A 地点 -1

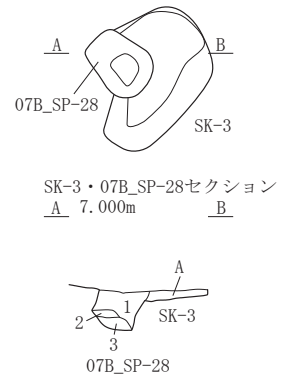
07B_SK-1



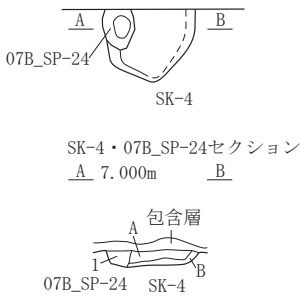
07B_SK-2



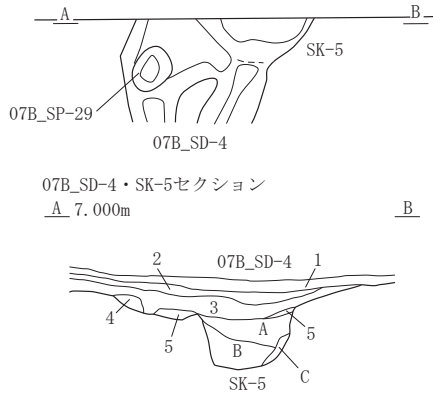
SK-3



SK-4



SK-5



07B_SK-1		
第1層	7.5YR3/4 暗褐色土	鉄分の層
第2層	7.5YR3/2 黒褐色土	炭化粒(φ1~2mm)微量, 白色ローム粒(φ3~5mm)少量
第3層	7.5YR3/1 黒褐色土	炭化粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR2/2 黒褐色土	炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, 白色ロームブロック(φ30mm大)混入
第5層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~5mm)微量, 白色ローム粒(φ1~3mm)微量
第6層	5Y4/1 灰色土	炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)微量
第7層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, 5Y4/1灰色土(φ10~30mm)少量
07B_SK-2		
第1層	10YR3/2 黒褐色土	5Y4/1灰色土の粘土粒(φ3~4mm)少量
第2層	5Y2/1 黒色土	ローム粒(φ2~3mm)微量
第3層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	ローム粒(φ3~4mm)少量
第4層	10YR4/4 褐色土	ローム粒(φ2~3mm)微量
07B_SP-28		
第1層	5Y4/1 灰色土	炭化粒(φ2~3mm)微量
第2層	5Y5/3 灰オリーブ色土	砂質多量
第3層	5Y4/2 灰オリーブ色土	砂質多量
SK-3		
第A層	5Y4/1 灰色土	砂質多量
07B_SP-24		
第1層	5Y3/1 オリーブ黒色土	炭化粒(φ1~9mm)少量, 白色ローム粒(φ5mm大)混入
SK-4		
第A層	2.5Y4/2 暗灰黄色土	砂粘質, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第B層	2.5Y2/1 黒色土	炭化物層, 2.5Y4/2暗灰黄色の砂粘質土粒(φ1~9mm)少量
07B_SD-4		
第1層	10YR2/3 黒褐色土	鉄分混入
第2層	10YR3/2 黒褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, 土師器混入
第3層	10YR4/2 灰黄褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, 土師器混入
第4層	10YR3/2 黒褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量
第5層	10YR3/4 暗褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, 土師器混入
SK-5		
第A層	10YR4/2 灰黄褐色土	砂質多量
第B層	10YR4/2 灰黄褐色土	炭化粒(φ10~20mm)少量
第C層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ10~20mm)微量

07B_SK-1

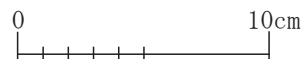


図 1-60 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 A 地点 -2

10 cmを測る。断面形は凹凸のある底面で、壁は不明瞭で、南側は8 cm程度立ち上がる部分が認められる。前述の通り焼土・炭化物の検出範囲と溝の検出範囲で遺構として認定したが、図1-58で図示した遺構配置図を確認すると本遺構の南壁と壁溝と認定した部分と北側のSP-21に接する溝の軸線は、本遺構の南側に所在するSD-2、及び北側に所在するSD-5～7とほぼ同軸であり、全体的に同時期ないしは近似した時期の同軸の遺構配置を呈した可能性を有する。また、遺構内からピットを9基検出したが、本遺構の堆積土上面から掘り込まれているものがほとんどで、本遺構の方が古い。堆積土は本遺構の埋没後の堆積土も含め15層（別地点で12層）に分層しているが、底面直上に炭化物層が堆積し、その上位に焼土混じりの砂質土が堆積し、自然堆積状況を呈する。確認面および堆積土中から擦文土器破片が出土し、図1-61に図示した。同一個体資料がほとんどで、外面は摩滅が顕著である。内面にはヘラミガキが施され、口縁部～体部上半は部分的な黒斑、底部は黒色化している。

ピット（図1-62～64）

39基検出した。各遺構の規模等は遺構観察表で取りまとめたが、小規模なものが多く、柱穴として機能したと考えられるものも認定できたが、検出トレンチ内で建物として認定できたものは無かった。

遺物が出土したピットは7基あるが、いずれも土師器の破片で、一部資料は摩滅・剥落が顕著であった。

07B__SD-1（図1-65）

SI-1と07B__SP-2と重複し、本遺構が古い。調査区内では幅254 cm、長さ143 cm、深さ45 cmを測る。断面形は箱形を呈し、底面はやや凹凸がある形状で、堆積土は6層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。

07B__SD-2（図1-65）

07B__SP-6～9と重複し、07B__SP-8より新しく、他のピットより古い。西側が調査区外に延び、調査区内では幅25 cm、長さ122 cm、深さ16 cmを測る。壁は垂直に近い形で立ち上がる。07B__SX-01の部分で前述したが、類似した軸線である。堆積土は2層に分層し、一部崩落の伴う自然堆積状況を呈する。

07B__SD-3（図1-65）

07B__SP-11と重複し、本遺構の方が古い。調査区内では幅22 cm、長さ56 cm、深さ6 cmを測る。壁は段状に立ち上がる部分が見られる。

堆積土は2層に分層し、流れ込みに伴う自然堆積状況を呈する。

07B__SD-4（図1-65）

SK-5、07B__SP-29と重複し、SK-5よりも新しく07B__SP-29より古い。調査区内では幅143 cm、長さ129 cm、深さ19 cmを測る。断面形は皿形で、壁は緩やかに立ち上がる。また、西側では溝状の部分が二叉に分岐しており、幅30 cm程度の細い溝状を呈している。堆積土は5層に分層し、流れ込みの伴う自然堆積状況を呈する。

07B__SD-5（図1-66）

地点の北側から検出した溝跡で、軸線は前述の07B__SX-1や07B__SD-2などと近似した軸線である。調査区内では幅58 cm、長さ155 cm、深さ13 cmを測る。断面形は浅い箱形で、底面に若干凹凸が見られ、壁は開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、焼土粒混じりの土が流れ込んでいる。覆土中から土師器甕の体部片が出土している。

SD-6（図1-66）

SD-7と重複して検出した溝跡で、本遺構の方が古い。SD-7と類似した軸線であることから近接した時期の掘削である。調査区内では幅57 cm、長さ139 cm、深さ27 cmを測る。断面形はU字状に直立気味の壁を持ち、堆積土はブロック混じりの土が堆積し、埋め戻しに伴う堆積状況である。覆土中から土師器甕の体部片が出土している。

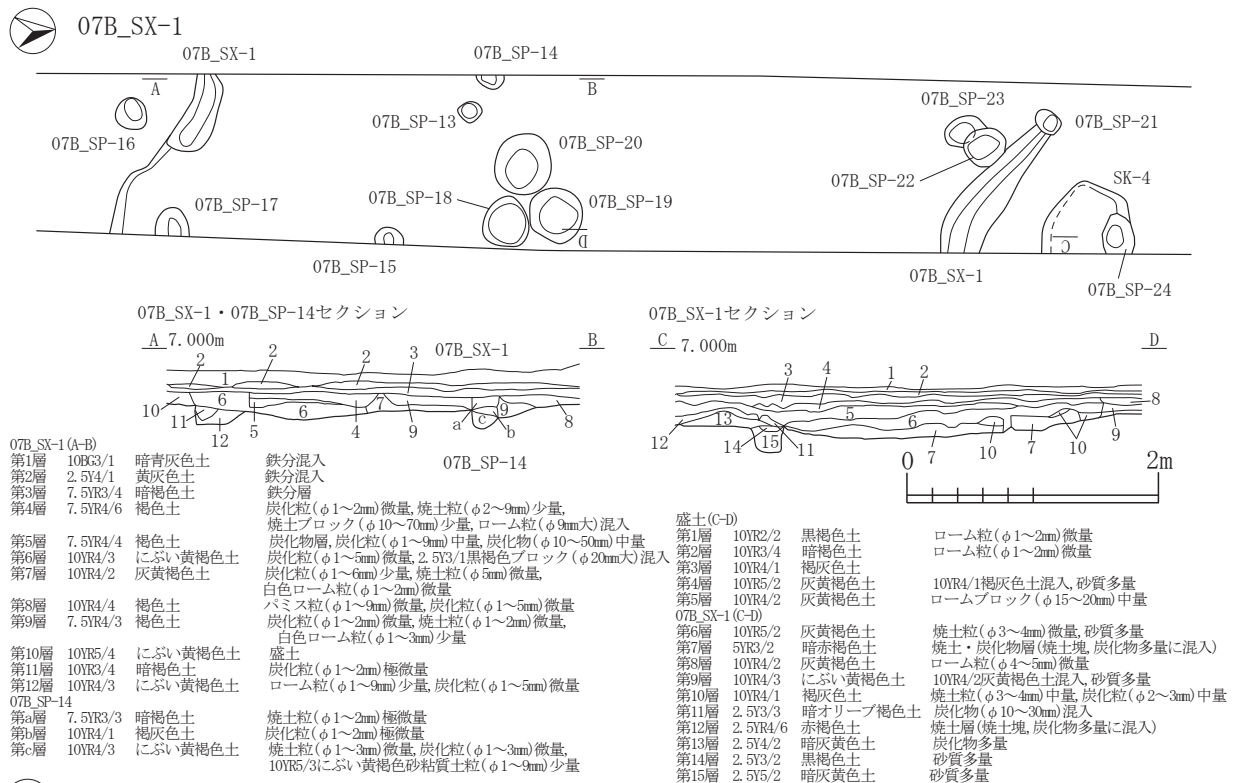
SD-7（図1-66）

前述のとおりSD-6と重複した溝跡で、本遺構の方が新しい。前述の07B__SX-1や07B__SD-2などと近似した軸線である。調査区内では幅24 cm、長さ157 cm、深さ10 cmを測る。重複するSD-6より浅めで、幅の狭い溝跡で、堆積土は炭化粒とローム粒を含む単層の堆積である。

A地点遺構外出土遺物（図1-66）

12点図示した。いずれも古代の土師器・擦文土器で、107～112が食膳具、113～117が煮炊具、118が擦文土器甕の体部片である。

食膳具は口径が14 cmを超えるやや大型の部類が多く、煮炊具も頸部幅の狭小、把手の存在など新田（2）遺跡の古代の主たる時期に帰属する資料である。



07B_SX-1焼土範囲・炭範囲

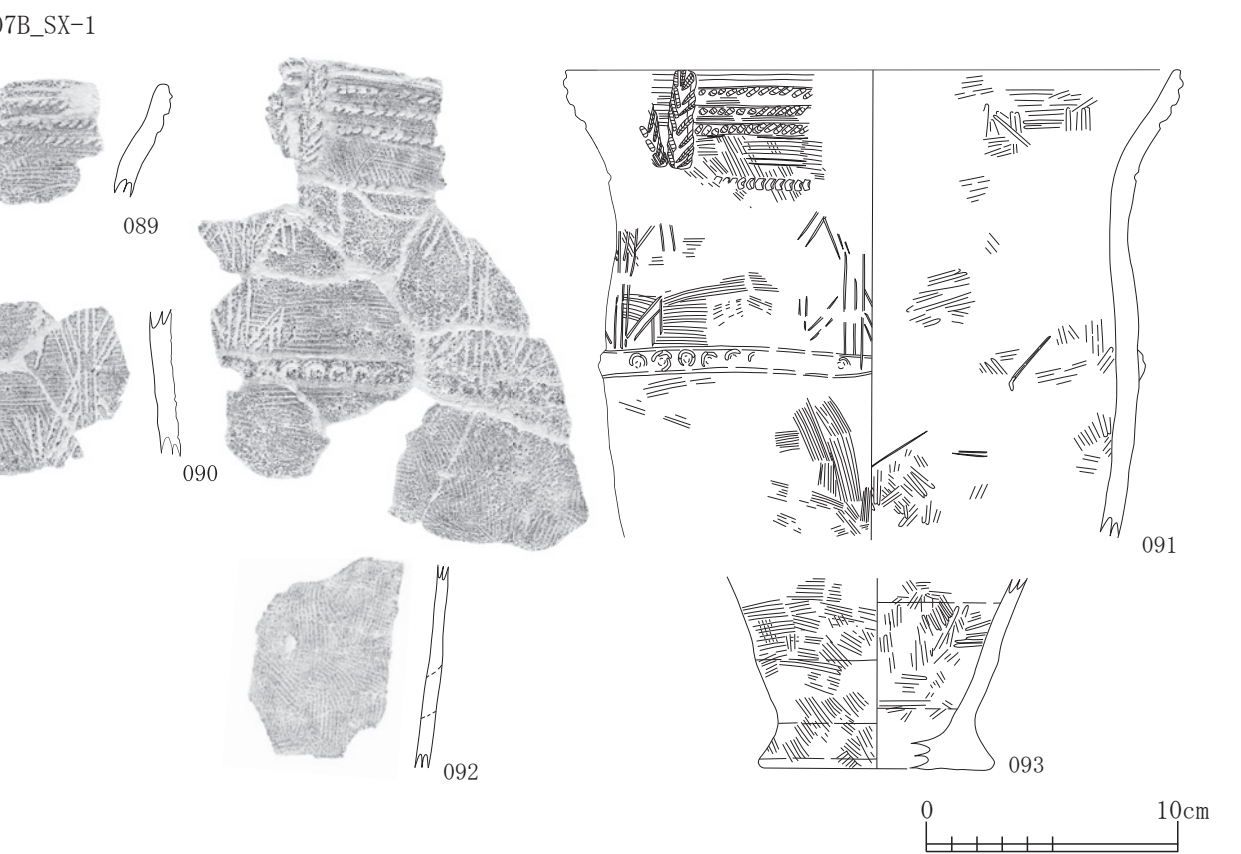
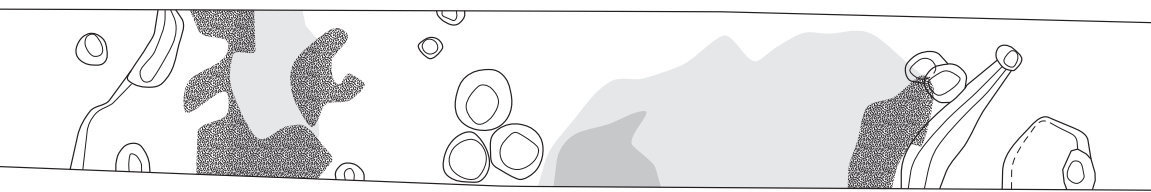


図 1-61 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 A 地点-3

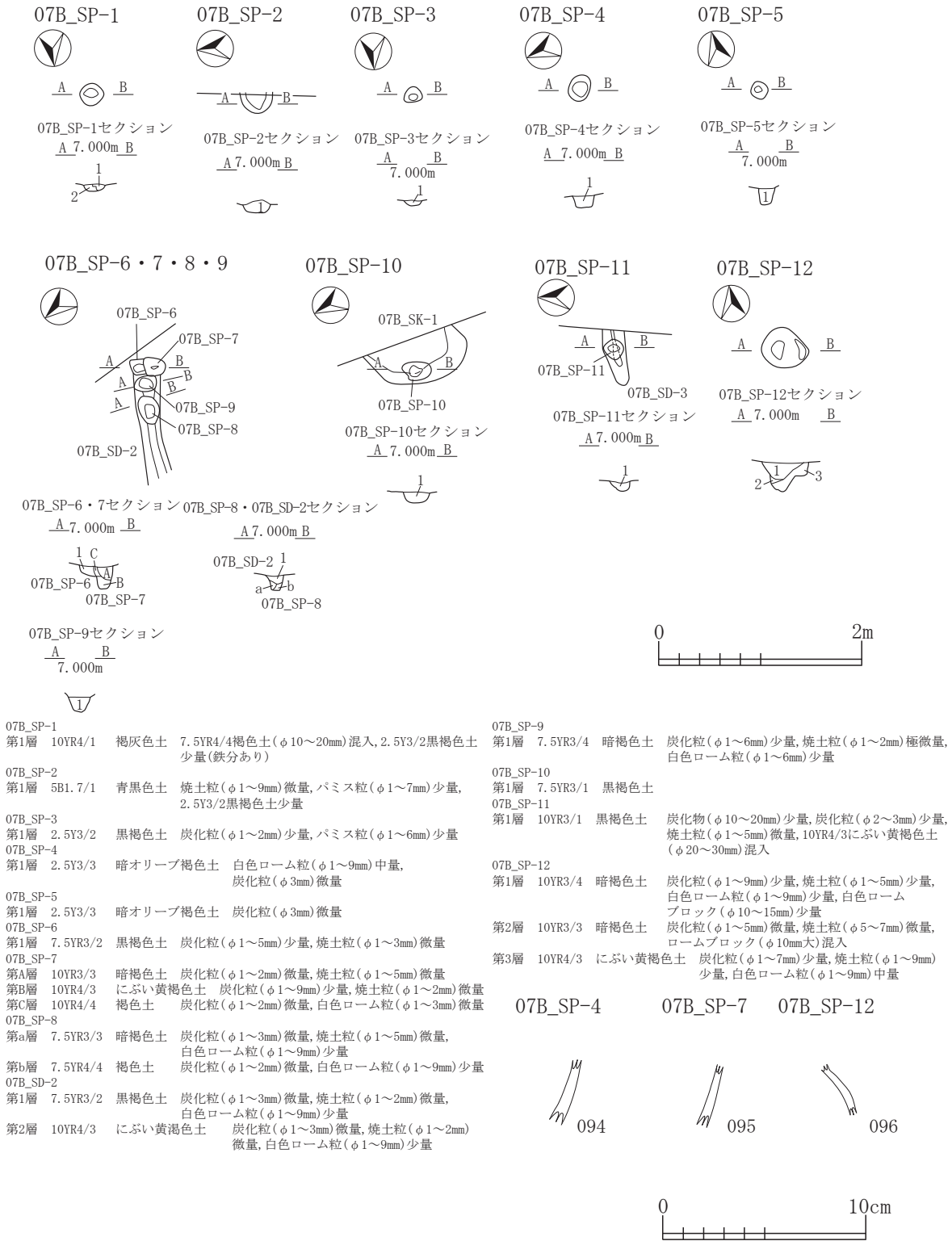
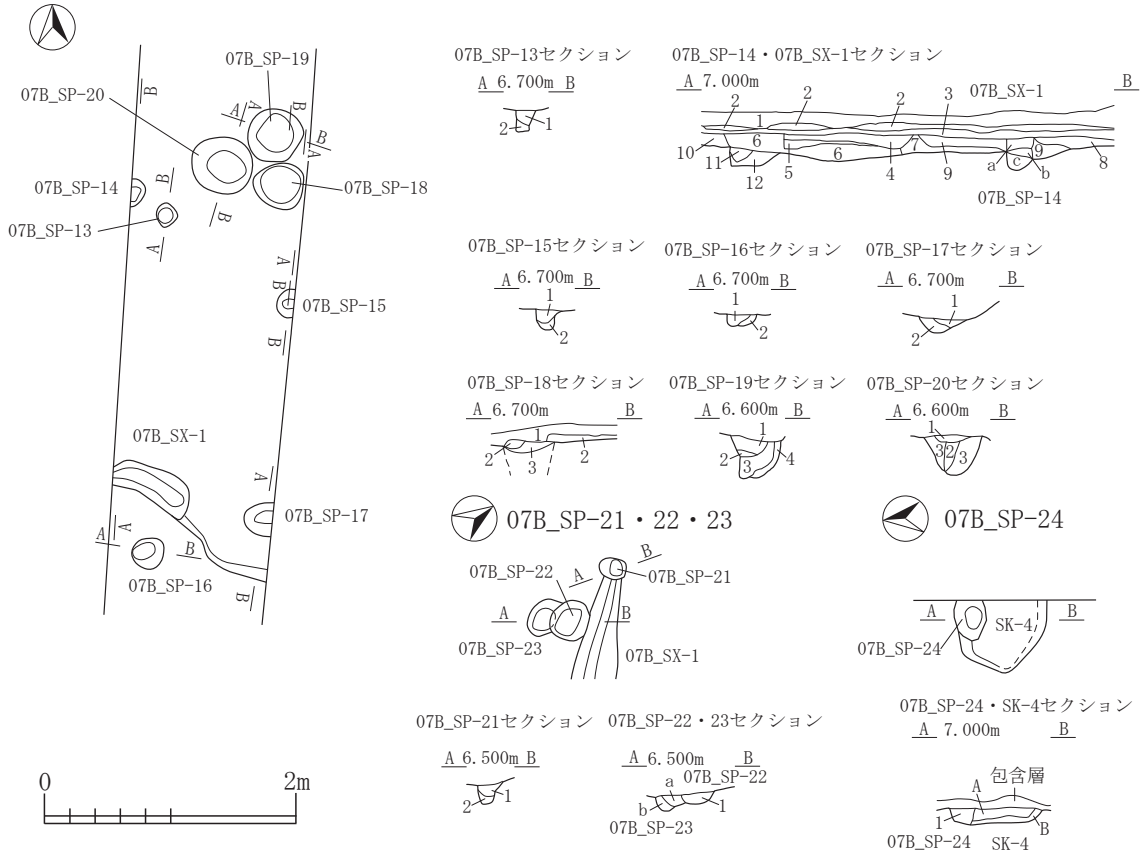


図 1-62 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 A 地点 -4

07B_SP-13・14・15・16・17・18・19・20



07B_SP-13		07B_SP-17		
第1層	10YR4/1 褐灰色土	10YR4/3にぶい黄褐色砂粘質土粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~2mm)微量	第1層 7.5YR4/4 褐色土 炭化粒(φ1~2mm)極微量	
第2層	10YR4/2 灰黄褐色土	砂粘質,10YR4/1褐灰色土混入	第2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 砂粘質,炭化粒(φ1~6mm)微量	
07B_SP-14		07B_SP-18		
第a層	7.5YR3/3 暗褐色土	焼土粒(φ1~2mm)極微量	第3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土	
第b層	10YR4/1 褐灰色土	炭化粒(φ1~2mm)極微量	盛土	
第c層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	焼土粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~3mm)微量,10YR5/3にぶい黄褐色砂粘質土粒(φ1~9mm)少量	第1層 7.5YR3/4 暗褐色土 炭化物(φ10~30mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量	
07B_SX-1(A-B)		07B_SP-19		
第1層	10BG3/1 暗青灰色土	鉄分混入	第1層 2.5Y3/1 黒褐色土 炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量	
第2層	2.5Y4/1 黄灰色土	鉄分の層	第2層 10YR4/1 褐灰色土 ブロック状に混入,焼土粒(φ7~8mm)少量	
第3層	7.5YR3/4 暗褐色土	炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ2~9mm)少量,焼土ブロック(φ10~70mm)少量,ローム粒(φ9mm大)混入	第3層 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 炭化粒(φ1~2mm)微量	
第4層	7.5YR4/6 褐色土	炭化物層,炭化粒(φ1~9mm)中量,炭化物(φ10~50mm)中量	第4層 7.5YR4/4 褐色土 砂粘質,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ5~9mm)微量	
第5層	7.5YR4/4 褐色土	炭化粒(φ1~5mm)微量,2.5Y3/1黒褐色ブロック(φ20mm大)混入	07B_SP-20	
第6層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~6mm)少量,焼土粒(φ5mm)微量,白色ローム粒(φ1~2mm)微量	第1層	10YR4/1 褐灰色土 炭化粒(φ1~9mm)中量,焼土粒(φ1~9mm)中量,10YR5/4にぶい黄褐色砂粘質土粒(φ1~9mm)少量
第7層	10YR4/2 灰黄褐色土	パミス粒(φ1~9mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)微量	第2層	10YR3/3 暗褐色土 炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ2~9mm)微量
第8層	10YR4/4 褐色土	炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)微量,白色ローム粒(φ1~3mm)少量	第3層	10YR4/4 褐色土 砂粘質 炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ2~4mm)微量
第9層	7.5YR4/3 褐色土	盛土	07B_SP-21	
第10層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~2mm)極微量	第1層	2.5Y3/2 黒褐色土 炭化粒(φ1~5mm)少量
第11層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量	第2層	2.5Y3/1 黒褐色土 炭化粒(φ3~9mm)微量
第12層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	微量	07B_SP-22	
07B_SP-15		07B_SP-23		
第1層	10YR3/3 暗褐色土	炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量,ローム粒(φ1~9mm)微量	第a層	5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR4/6 褐色土	砂粘質,炭化粒(φ1~2mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量	第b層	5Y3/2 オリーブ黒色土 炭化粒(φ1~6mm)微量,焼土粒(φ1~3mm)微量
07B_SP-16		07B_SP-24		
第1層	10YR4/3 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~2mm)極微量	第1層	5Y3/1 オリーブ黒色土 炭化粒(φ1~9mm)少量,白色ローム粒(φ5mm大)混入
第2層	10YR4/4 褐色土	砂粘質,炭化粒(φ1~2mm)微量	SK-4	
07B_SP-18		SK-4		
第A層	2.5Y4/2 暗灰黄色土	砂粘質,炭化粒(φ1~2mm)微量	第A層	2.5Y4/2 暗灰黄色土 砂粘質,炭化粒(φ1~2mm)微量
第B層	2.5Y2/1 黒色土	炭化物層,2.5Y4/2暗灰黄色砂粘質土粒(φ1~9mm)少量	第B層	2.5Y2/1 黒色土 炭化物層,2.5Y4/2暗灰黄色砂粘質土粒(φ1~9mm)少量

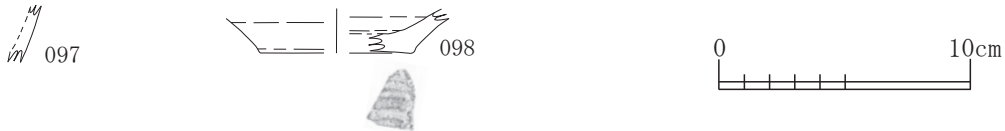


図 1-63 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 A地点-5

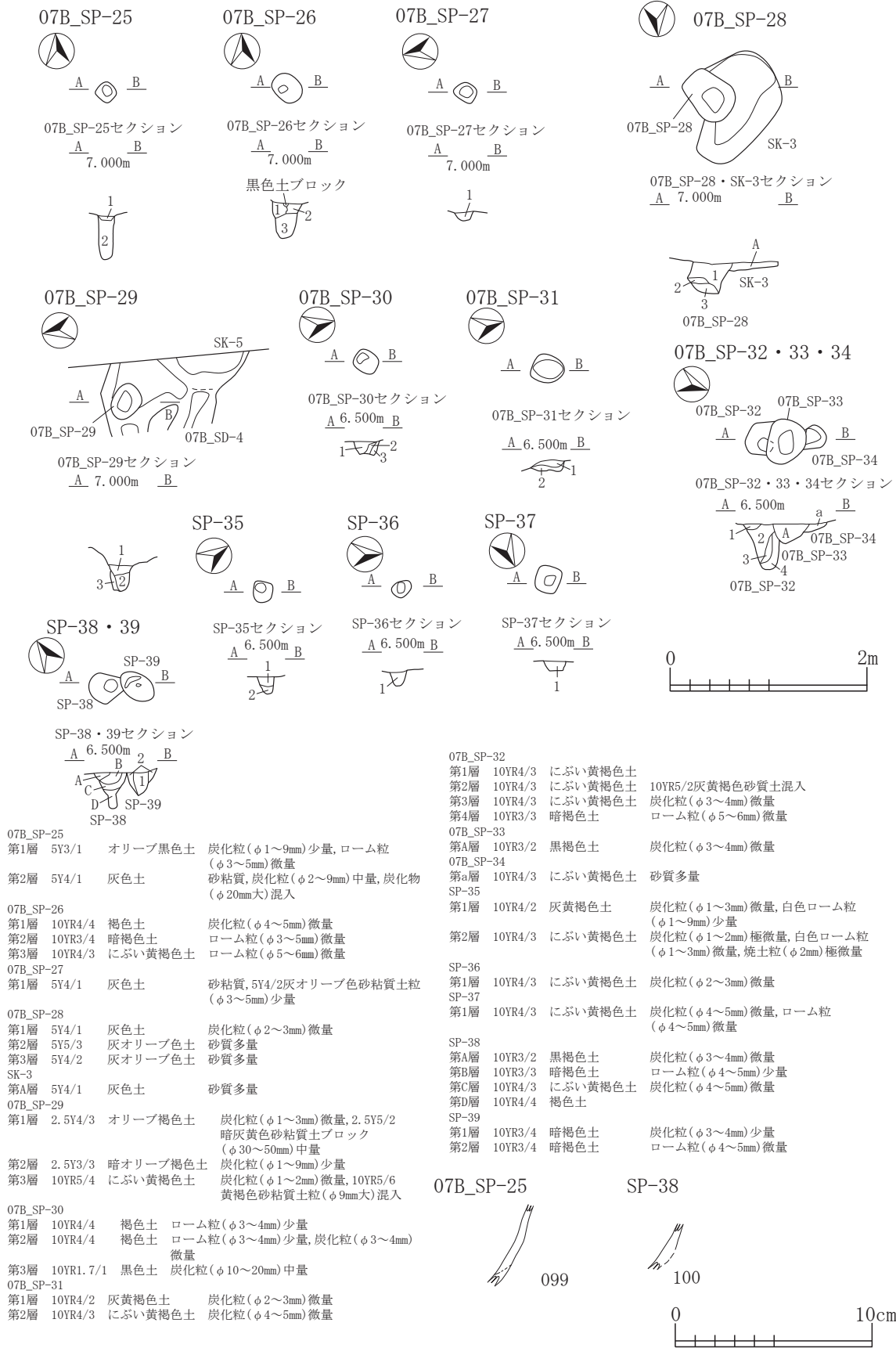
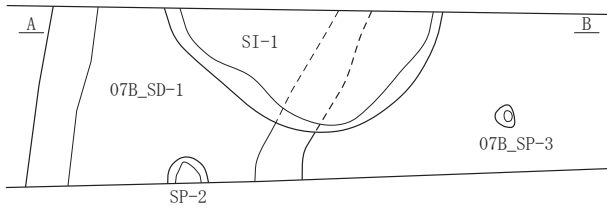
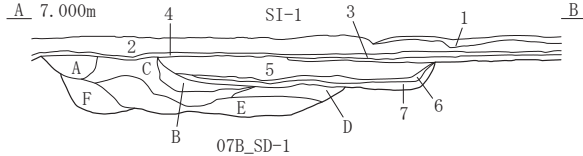


図 1-64 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 A 地点 -6

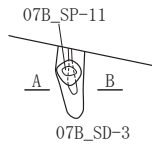
07B_SD-1



07B_SD-1・SI-1セクション



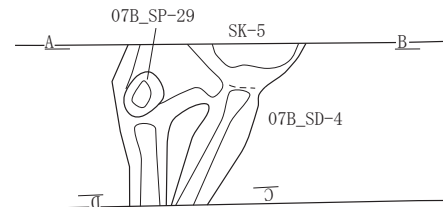
07B_SD-3



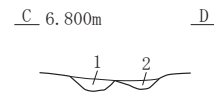
07B_SD-3セクション



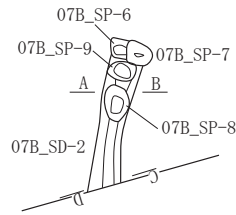
07B_SD-4



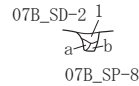
07B_SD-4セクション



07B_SD-2



07B_SD-2・07B_SP-8セクション



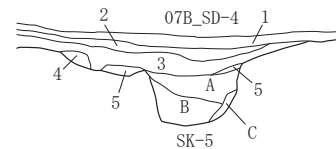
07B_SD-2セクション



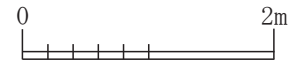
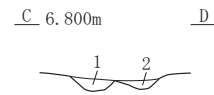
07B_SD-4・SK-5セクション

セクション A

セクション B



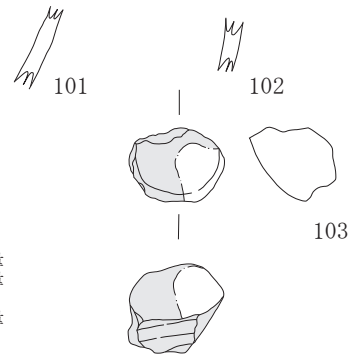
07B_SD-4セクション



SI-1			
第1層	2.5Y4/3	オリーブ褐色土	炭化粒(φ1~9mm)少量
第2層	10B4/1	暗青灰色土	遺物包含層
第3層	7.5YR5/8	明褐色土	
第4層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	シルト質, 炭化粒(φ5mm)少量
第5層	7.5YR3/3	暗褐色土	焼土粒(φ5~9mm)少量, 炭化粒(φ8~9mm)少量
第6層	10YR3/1	黒褐色土	炭化粒(φ1~9mm)多量
第7層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	バミスブロック(φ15mm)微量
07B_SD-1			
第A層	7.5YR4/4	褐色土	白色ブロック(φ10~20mm)中量
第B層	7.5YR5/4	にぶい褐色土	焼土粒(φ1mm)微量
第C層	7.5YR4/3	褐色土	炭化粒(φ5~9mm)微量
第D層	10YR5/6	黄褐色土	ローム粒(φ5~9mm)中層, 炭化粒(φ5~9mm)少量
第E層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	ロームブロック(φ10~20mm)中量
第F層	10YR4/6	褐色土	ロームブロック(φ10~30mm)中量, 10YR3/1黒褐色土混入
07B_SD-2			
第1層	7.5YR3/2	黒褐色土	炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, 白色ローム粒(φ1~9mm)少量
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, 白色ローム粒(φ1~9mm)少量
07B_SP-8			
第a層	7.5YR3/3	暗褐色土	炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~5mm)微量, 白色ローム粒(φ1~9mm)少量
第b層	7.5YR4/4	褐色土	炭化粒(φ1~2mm)微量, 白色ローム粒(φ1~9mm)少量
07B_SD-3			
第1層	10YR3/2	黒褐色土	炭化粒(φ1~5mm)少量, 焼土粒(φ1~5mm)微量
第2層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~7mm)微量, 10YR3/2黒褐色土少量
07B_SD-4(A-B)			
第1層	10YR2/3	黒褐色土	鉄分混入
第2層	10YR3/2	黒褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, 土師器混入
第3層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, 土師器混入
第4層	10YR3/2	黒褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量
第5層	10YR3/4	暗褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, 土師器混入
SK-5			
第A層	10YR4/2	灰黄褐色土	砂質多量
第B層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化粒(φ10~20mm)少量
第C層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ10~20mm)微量
07B_SD-4(C-D)			
第1層	2.5Y3/1	黒褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量
第2層	2.5Y3/3	暗オリーブ褐色土	炭化物(φ10~20mm)微量, ローム粒(φ4~5mm)微量

07B_SD-1

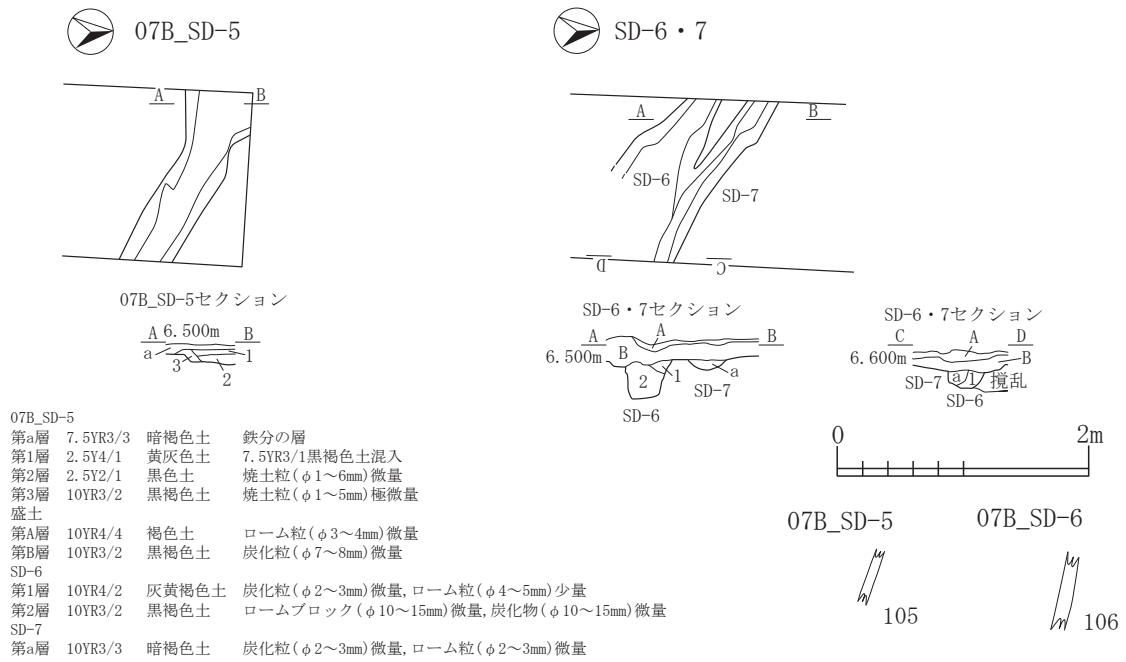
07B_SD-2



07B_SD-3



図 1-65 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 A 地点 -7



A地点遺構外出土遺物

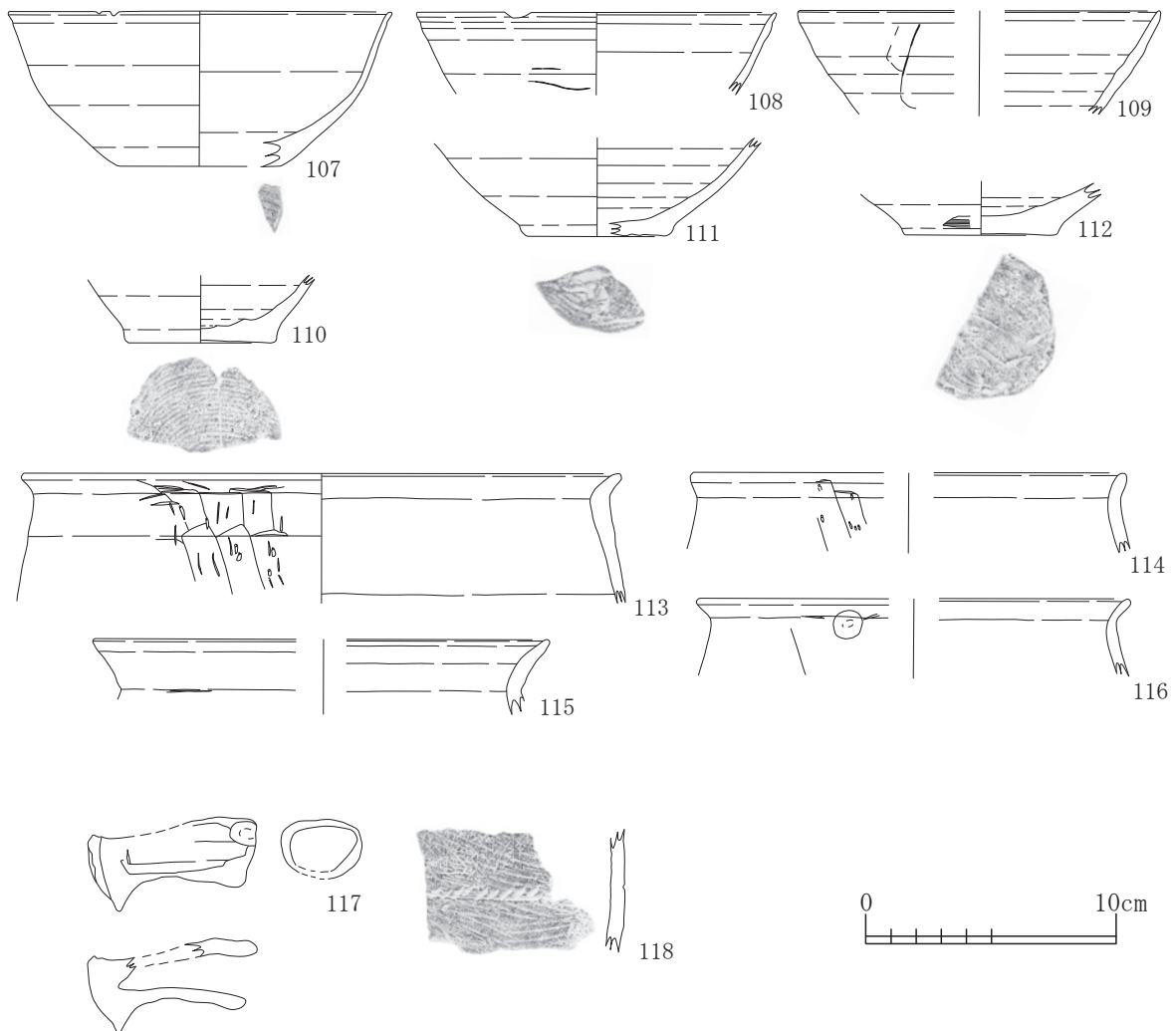
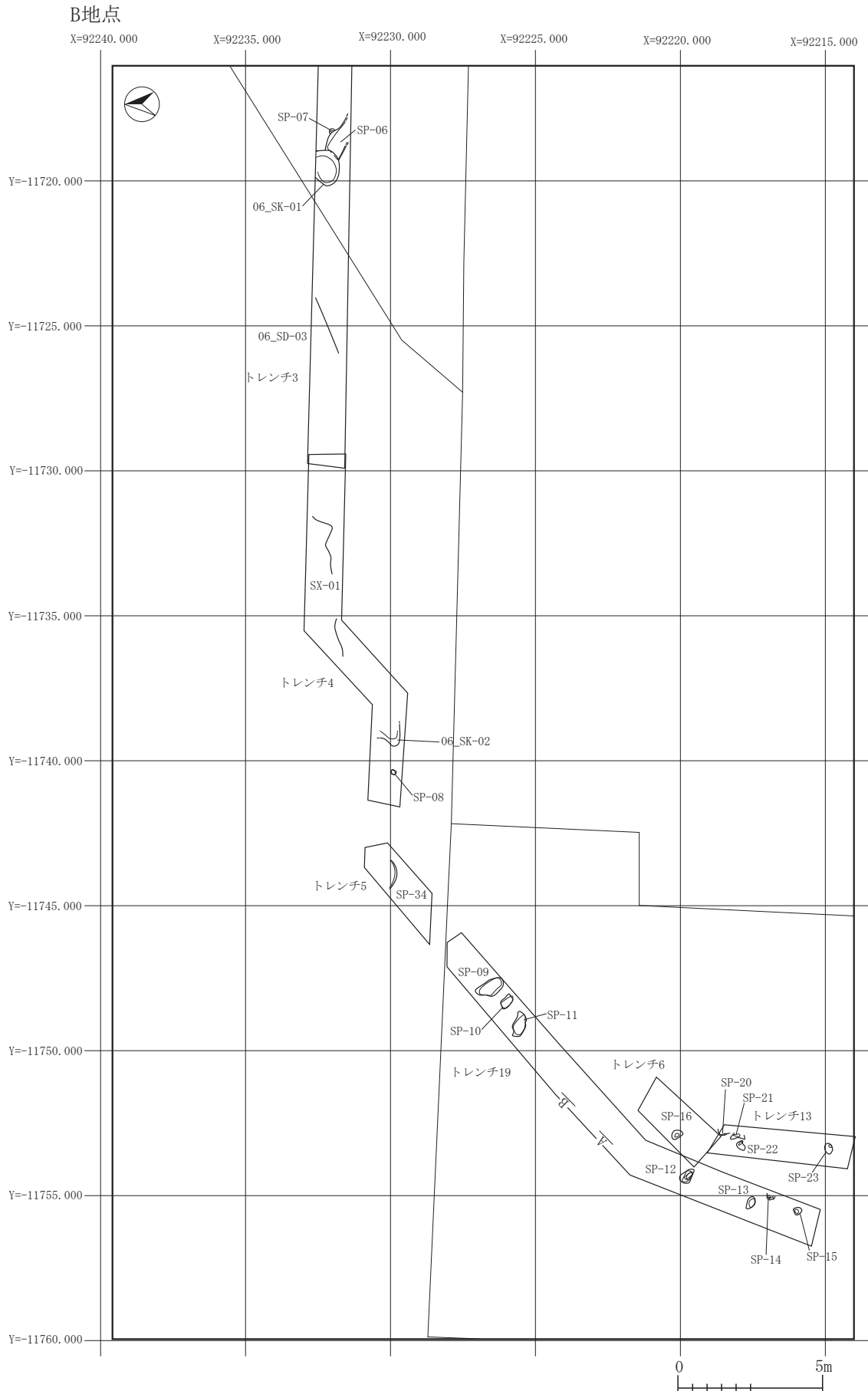


図 1-66 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 A 地点 -8



Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡

図 1-67 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 B 地点遺構配置図

2. B地点

国道7号青森西バイパスに面した新田(2)遺跡の西側の地点に該当する。自動車販売店(青森三菱自動車販売株式会社青森西バイパス店)の店舗前に相当する。一部下水道の推進工に伴う調査が含まれるが、ほとんどは上水道工事に伴う開削地点の調査で、現路盤から2m程度掘削して調査している。遺構確認面の標高は6.4m前後である。

06__SK-01 (図1-68)

北側が調査区外へ延びる楕円形を呈する土坑で、調査区内では126×(96)×26cmを測る。SP-06と取り扱った溝状の遺構と重複しており、本遺構の方が古い。断面形は鍋底形を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上がり、壁上部で角度を変え緩やかに立ち上がる。堆積土は4層に分層し、第1～3層は重複するSP-06の影響が見られる。覆土扱いの出土遺物も実質的にSP-06出土遺物と時期差がない資料である。

06__SK-02 (図1-68)

東側に延びる遺構であるが、工事掘削の影響で調査が掘削範囲に留められ精査された。検出部分の平面形は不整形を呈し、(77)×(68)×50cmを測る。断面形は箱形を呈し、壁は開き気味に立ち上がり、途中で角度を変え立ち上がっている。堆積土は底面直上に鉄分を多く含む土の堆積が見られ、その上位に焼土粒や炭化物等が混入する土が堆積し、流れ込みに伴う堆積を呈している。覆土中から土師器食膳具と煮炊具が出土した。

SX-01 (図1-68)

精査はトレンチ内で不整形な(423)×(110)cmの範囲を検出するに留まった。出土遺物は五所川原産須恵器大甕口縁部と頸部幅がかなり狭まった甕の口縁部資料を図示した。

ピット (図1-69)

17基検出した。他の地点同様遺構観察表に集約したが、06__SK-01と重複するSP-06はSP扱いとしているが、溝状の掘削痕で、幅68cm、長さ235cm、深さ20cmを測る。06__SK-01で前述したとおり、古代の土師器食膳具と煮炊具が出土しており、132は口縁部～体部の一部に挟りが入れられ転用された土師器碗で口径14.4cm、器高5.0cm、底径6.0cm、器高指数34.7、底径指数41.6を測る。非ロクロで成形されているが、整形時に外面体部中半～口縁部にかけて回転ナデで調整されている。底部切離しは静止糸切で、底部資料である135・137も同

様の切離しである。

06__SD-03 (図1-70)

幅101cm、長さ200cm、深さ26cmを測る。精査は部分的な内容に留まっているが、底面は若干凹凸があり、壁は検出部分は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は2層に分層し、下層からは焼土粒と炭化粒を含む灰褐色土が堆積しており、自然堆積である。堆積土中から土師器碗(140)・甕(141)・擦文土器(142)が出土している。

B地点遺構外出土遺物 (図1-70)

9点図示した。いずれも古代の土師器で、143・144、146～149が食膳具、145・150・151が煮炊具である。

食膳具は全体形の追える資料はないが、口唇部が先細りで開き気味立ち上がる器形で、147・148のように口縁部に厚みが有る段を持つタイプも見られる。144は体部下半を打欠き、挟りを入れ転用した資料である。煮炊具はトレンチ4出土の145は頸部幅がやや広く外反する資料であるが、150は直立気味に立ち上がる器形である。

3. C地点

B地点の東側に相当する国道7号青森西バイパス沿いの自動車販売店(青森三菱自動車販売株式会社)の敷地前で、下水道2工区No.1・2と上水道の開削調査に伴うトレンチが該当する。新田(2)遺跡の範囲内である。

SK-01 (図1-72)

下水道工事に伴う調査で部分的に精査した。検出部分是不整形を呈し、(60)×(54)×16cmを測る。断面形は鍋底形を呈し、開き気味に立ち上がる。出土遺物は土師器煮炊具3点を図示した。152は口径16.0cmを測る。口唇端部が上向きで、凹線が一条施されている。小甕である153・154は直胴気味の器形で、13.6・13.2cmと近似した口径である。

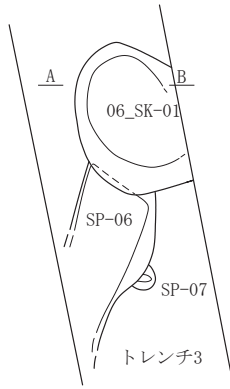
SK-02 (図1-72)

下水道工事に伴う調査で部分的に精査した。検出部分是不整形楕円形を呈し、(90)×130×46cmを測る。SD-02と重複しており、本遺構の方が古い。堆積土中に炭化粒・灰・焼土粒などを含み、中段から埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。

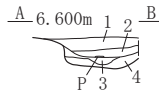
SD-02 (図1-72)

下水道工事に伴う調査で部分的に精査した。検出部分は幅120cm、長さ110cm、深さ23c

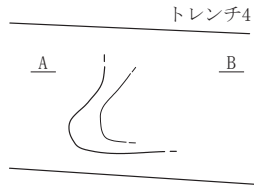
06_SK-01



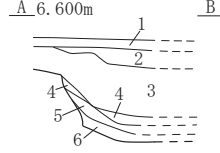
06_SK-01セクション



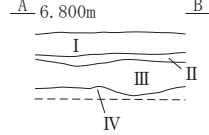
06_SK-02



06_SK-02セクション



基本層序セクション



基本層序

- 第I層 2.5Y4/1 黄灰色土
- 第II層 10YR6/8 明黄褐色土 鉄分が層状に混入
- 第III層 10YR3/4 暗褐色土 パミス粒(φ1~5mm)少量, パミスブロック(φ10~20mm)中量, 焼土粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ5~9mm)少量
- 第IV層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 砂粘質土

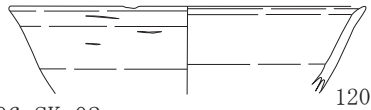
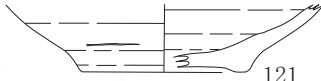
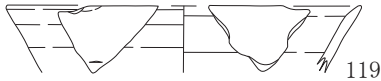
06_SK-01

- 第1層 2.5Y4/1 褐灰色土砂 パミスブロック(φ10~30mm)少量
- 第2層 2.5Y4/2 暗灰黄色土砂 炭化物(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ5~9mm)多量, 焼土粒(φ5~9mm)中量
- 第3層 N2/0 黒色土 炭化物層
- 第4層 2.5Y6/4 にぶい黄褐色土砂

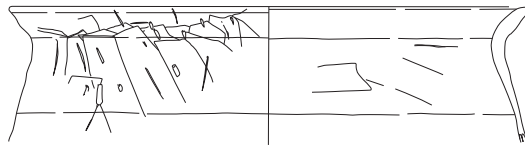
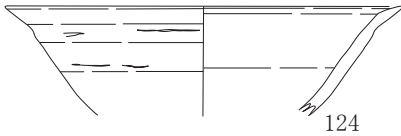
06_SK-02

- 第1層 7.5YR3/1 黒褐色土
- 第2層 10YR5/2 灰黄褐色土 焼土粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ3~5mm)少量
- 第3層 10YR5/3 にぶい黄褐色土
- 第4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~3mm)中量
- 第5層 10YR2/1 黒色土 炭化物・粒(φ1~20mm)中量, 焼土粒(φ1~3mm)少量
- 第6層 10YR4/2 灰黄褐色土 鉄分中量

06_SK-01



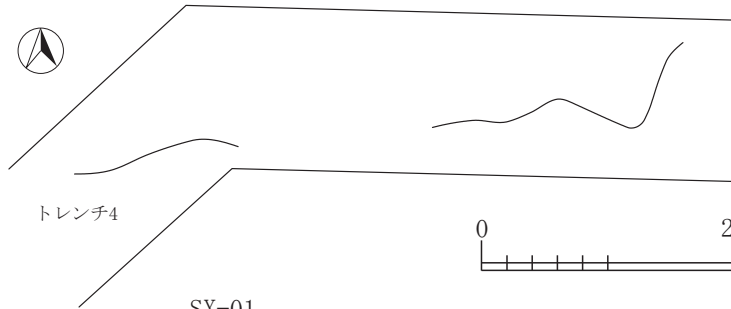
06_SK-02



127



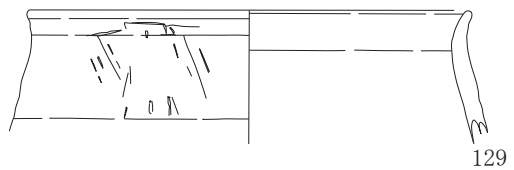
SX-01



SX-01



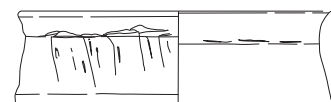
128



129



130



131



図 1-68 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 B 地点 -1

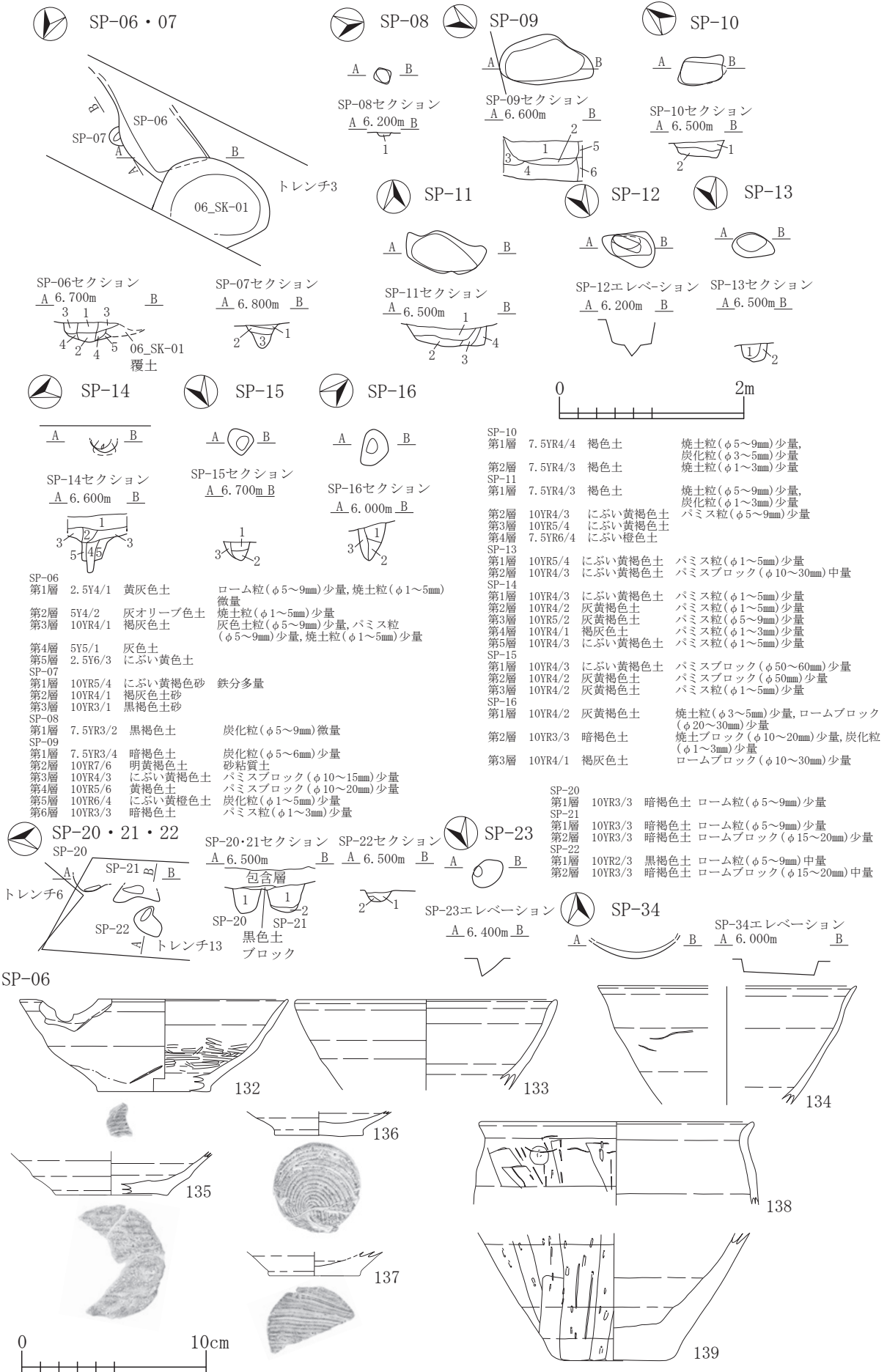
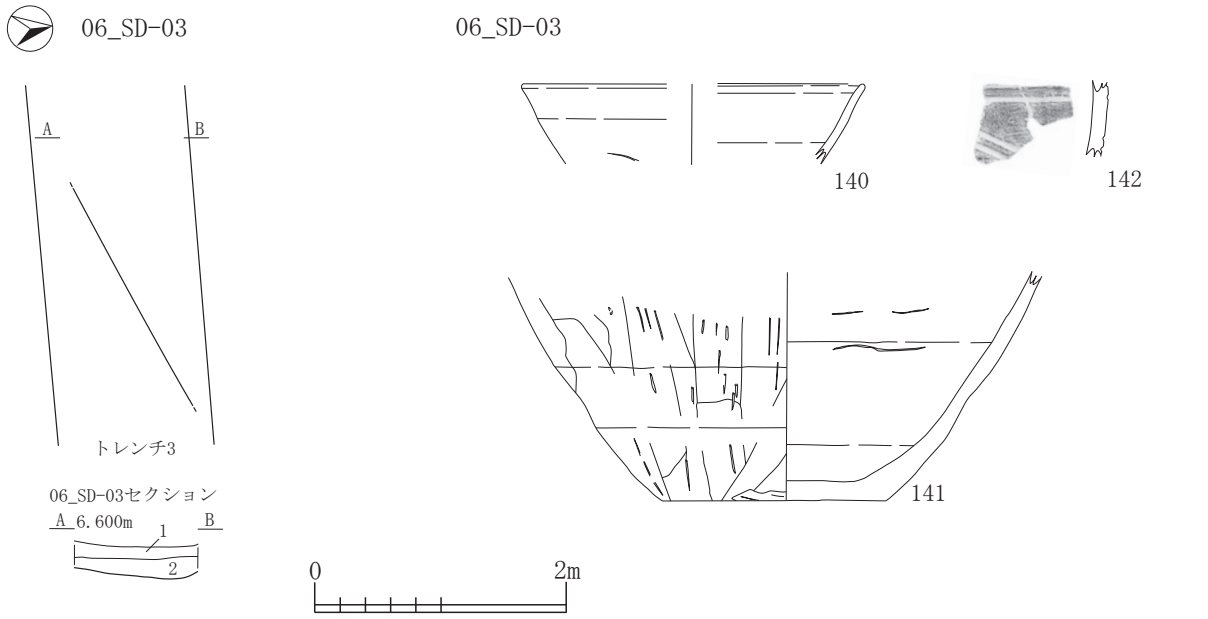


図 1-69 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 B 地点 -2



06_SD-03
第1層 N3/0 暗灰色土
第2層 7.5YR4/2 灰褐色土 焼土粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)中量

B地点遺構外出土遺物

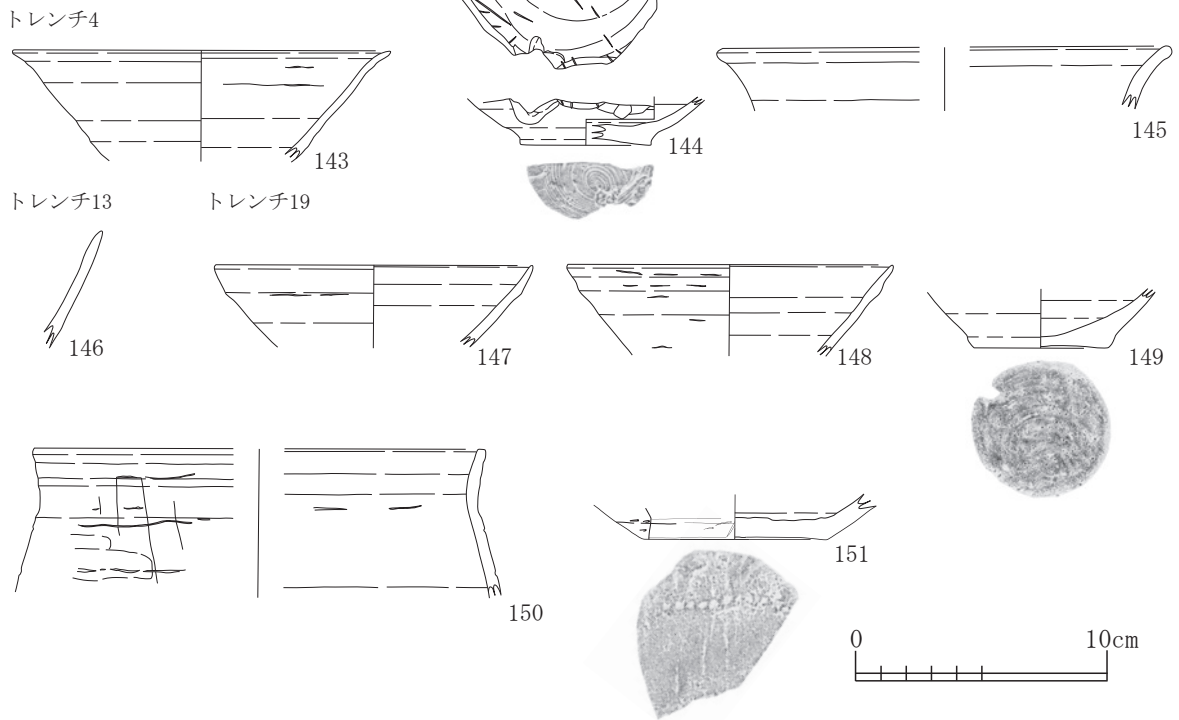
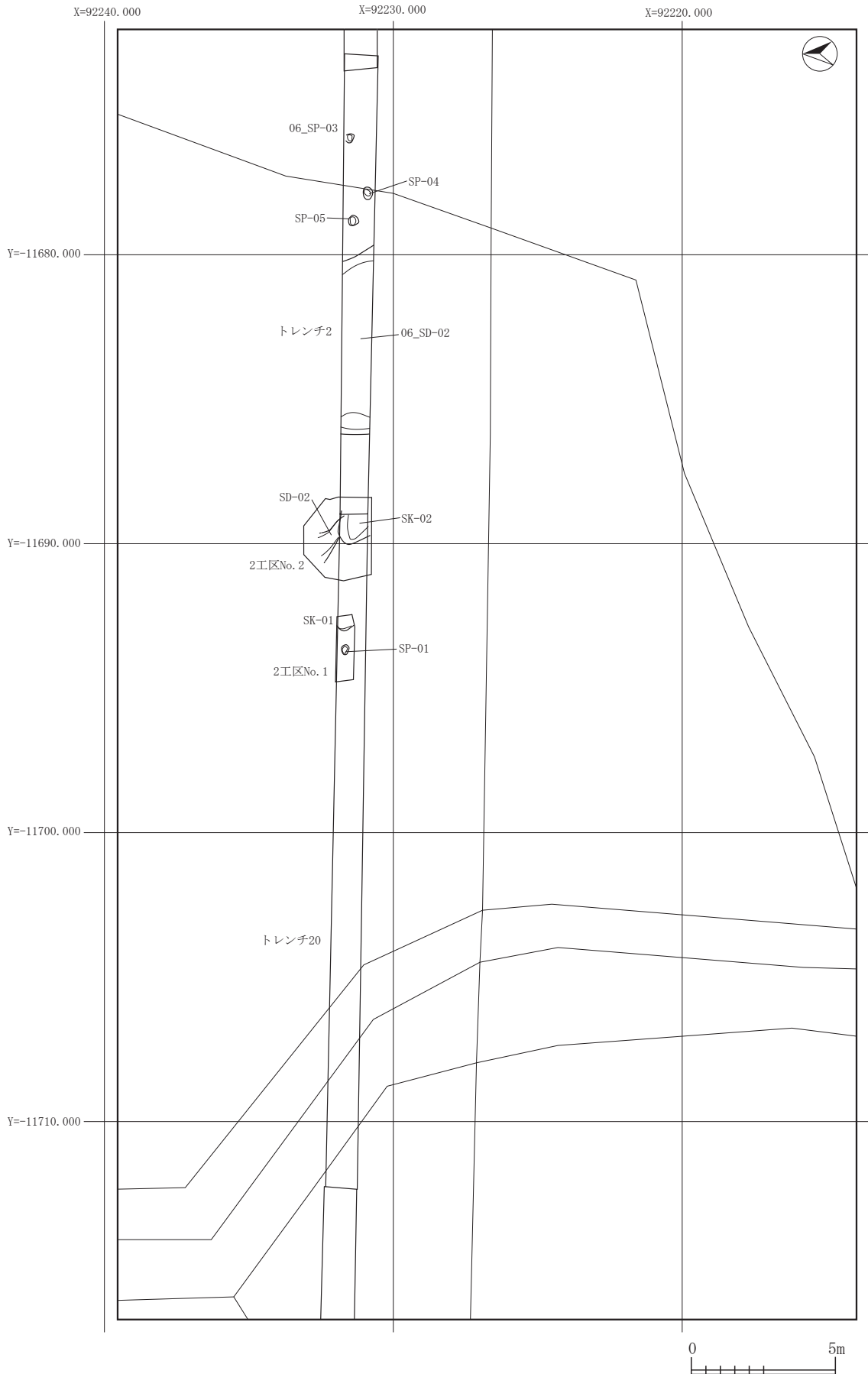


図 1-70 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査 B地点 -3

Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡

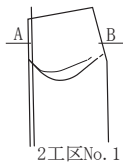
C地点



III-2
新田(1)・(2)
遺跡

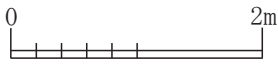
図 1-71 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査C地点遺構配置図

SK-01



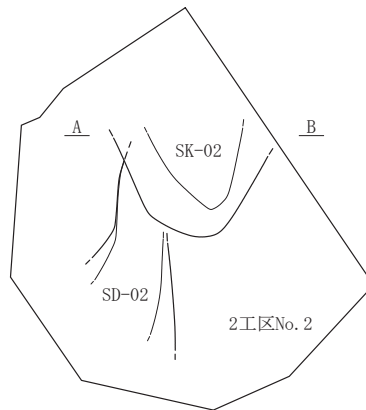
SK-01セクション
A 6.800m B

1/2



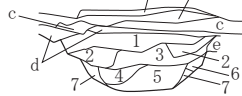
SK-02			
第a層	5Y5/1	灰色土	鉄分多量
第b層	2.5Y6/1	黄灰色土	
第c層	2.5Y5/1	黄灰色土	
第d層	10YR5/1	褐灰色土	鉄分多量
第e層	10YR5/2	灰黄褐色土	灰白色粘土・炭化粒混入
第1層	10YR6/1	褐灰色土	
第2層	10YR5/1	褐灰色土	炭化粒・焼土粒・灰微量
第3層	2.5Y5/1	黄灰色土	炭化粒・焼土粒・焼土ブロック微量
第4層	5Y4/1	灰色土	炭化粒・焼土粒微量
第5層	2.5Y4/1	黄灰色土	炭化粒少量, 焼土粒微量
第6層	2.5Y7/1	灰白色土	炭化粒少量, 焼土粒微量
第7層	5Y7/1	灰白色土	灰色土混入

SK-02

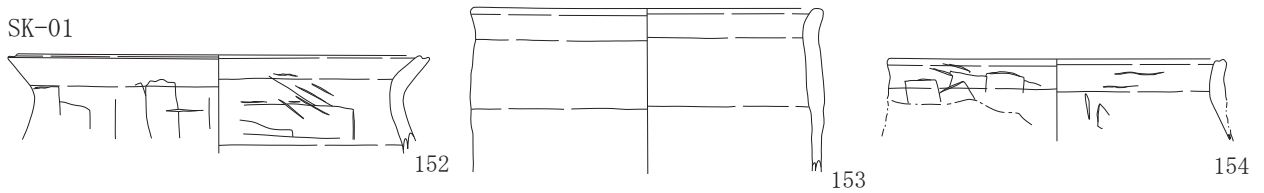


SK-02セクション

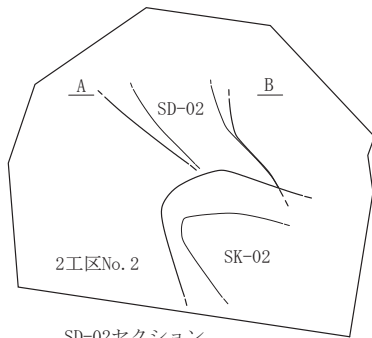
A 7.000m B



SK-01

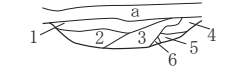


SD-02



SD-02セクション

A 7.000m B



SD-02			
第a層	N5/0	灰色土	鉄分少量
第1層	10Y5/1	灰色土	
第2層	N6/0	灰色土	
第3層	2.5Y5/1	黄灰色土	
第4層	2.5Y4/1	黄灰色土	
第5層	2.5Y7/1	灰白色土	灰色土混入
第6層	2.5Y6/1	黄灰色土	

SD-02

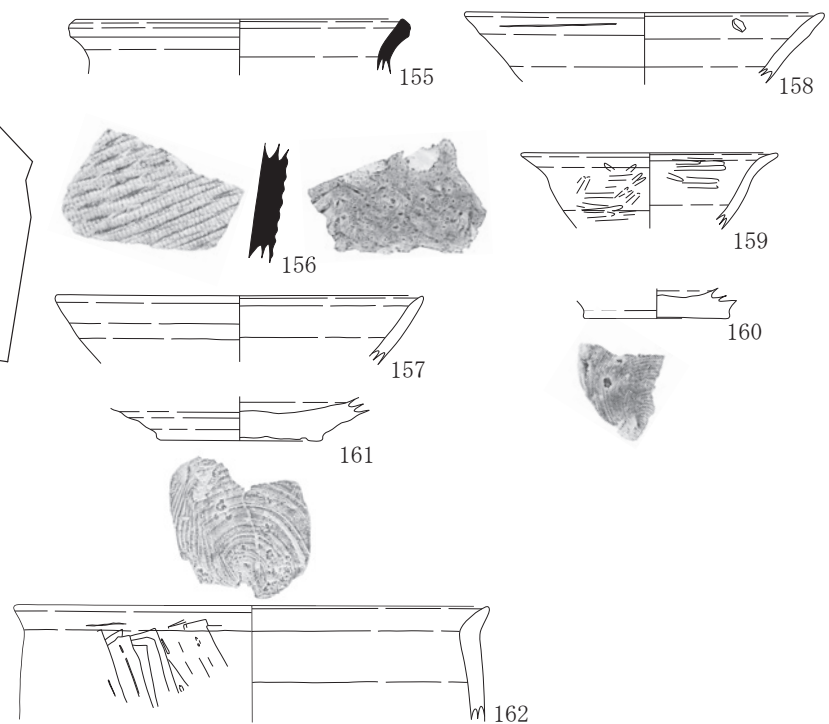


図 1-72 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査C地点 -1

mを測る。堆積土は一部再掘削された堆積状況であるが、流れ込みに伴う堆積である。碎片に近いが須恵器鉢・甕、土師器食膳具・煮炊具が出土した。

06__SD-02 (図1-73)

調査区外の南北方向に遺構が延びており、全体形は不明であるが、調査時に溝跡として取り扱った。検出部分の規模は幅660cm、長さ106cm、深さ36cmを測る。堆積土中から土師器食膳具・煮炊具・製塩土器・擦文土器、焼成粘土塊が出土している。全体形のわかる163は口径11.0cm、器高4.5cm、底径4.0cm、器高指数40.9、底径指数36.3を測り、比較的小ぶりな資料である。器面は摩滅・浸食が顕著であるが、巻上げ成形痕が残存して観察される。

ピット (図1-73)

4基検出した。他の地点同様遺構観察表に集約したが、小規模な単層のものがほとんどである。遺物は出土していない。

C地点遺構外出土遺物 (図1-73)

5点図示した。トレンチ2の部分から出土した170と171のうち170は土師器甕の体部片で、砂礫をやや多く胎土で、やや硬質な焼成である。171は陶器の体部片で、外面はタタキ調整の後、ロクロ回転による調整が行われている。172～174は土師器甕の口縁部資料でいずれも短頸で、174については無頸に近い器形である。

4. D地点

自動車販売店(青森三菱自動車販売株式会社)敷地前の下水道工事の2工区No. 3と上水道工事のトレンチ部分が相当する。新田(2)遺跡の範囲内である。

SI-01 (図1-75)

上水道トレンチ1から確認した東西幅530cm、南北幅110cmの掘りこみで、工事による破壊を免れたため上面のみの確認と確認面での出土遺物の採集に留まった。確認面の覆土中から土師器甕体部片が出土している。

ピット (図1-75)

調査区内から4基検出した。規模等の情報は他の地点同様観察表に集約した。いずれも溝に近接し、溝の両壁上に配置した共通点がある。遺物は出土していない。

SD-01 (図1-76)

下水道工事に伴う調査で検出した。南側が破壊されており、流路は北側に延びている。検出部分の規模は幅100cm、長さ110cm、深さ19cmを測る。前述のとおり壁面の両端にSP-02・03が並んで配置している。堆積土は3層に分層し、焼土粒・炭化粒混じりの土が自然堆積し、その上面に更に水の影響に伴う流れ込みの土が堆積している。出土遺物は短頸の土師器甕1点と焼成粘土塊2点を図示した。

06__SD-01 (図1-76)

トレンチの南北方向に延びる溝跡で、幅74cm、長さ140cm、深さ16cmを測る。前述のピットの記述のとおり、溝の両端に06__SP-01と06__SP-02が配置している。また、図1-74に図示した遺構配置図上にトレンチの配置図以外に土地の境界線を併せて図示しているが、本遺構の軸線と土地の境界線の軸線がほぼ一致する形である。同様の事例は後述するSD-04にも当てはまり、本遺構の出土遺物は古代の土師器碗のみであるが比較的新しい段階に帰属する可能性がある。

SD-04 (図1-76)

上水道工事の調査地点で確認した。破壊を免れたためSI-01同様平面の範囲確認のみで幅80cm、長さ70cmを範囲として記録した。前述の06__SD-01の項目で記載したとおり、図1-61で図示した土地の境界線の軸線と本遺構の軸線が合致するもので、本遺構については出土遺物もなく詳細が不明ではあるが、比較的新しい段階に帰属する可能性がある。

D地点遺構外出土遺物 (図1-76)

トレンチ9から出土した土師器甕碎片を1点のみ図示した。短頸で、口唇端部をやや先細り気味にした形状である。器面は摩滅・浸食が顕著で、外面側に鉄分の付着が著しい。外面側は使用に伴う煤等の付着の影響で茶褐色気味の色調を呈するが、内面側は元々の素地である淡黄橙褐色気味の色調を呈している。

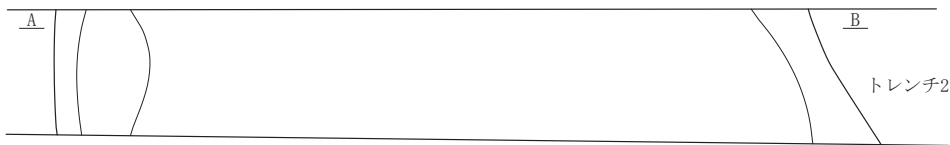
5. E地点

ガソリンスタンド(カメイ(株)Dr. Drive 青森西バイパス店、青森オートガス・スタンド)の敷地前に相当し、上水道工事のトレンチのみである。新田(2)遺跡の範囲内である。

SK-03 (図1-78)

調査区外の北方向に遺構が延び約半分の精査である。西側がSD-07と重複し、本遺構の方が古い。

06_SD-02



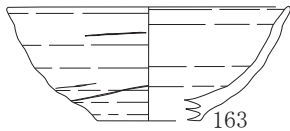
06_SD-02エレベーション

A 6.800m

B



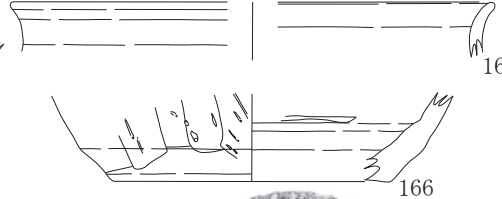
06_SD-02



163



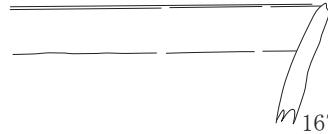
164



165



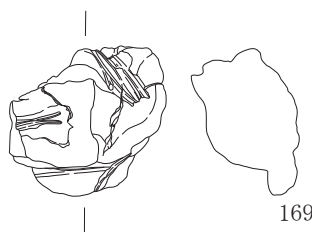
166



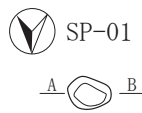
167



168



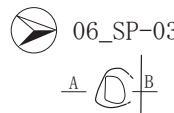
169



SP-01



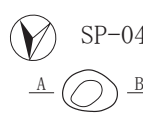
A 6.800m B



06_SP-03



A 6.700m B



SP-04



A 6.700m B



SP-05



A 6.700m B

SP-01エレベーション 06_SP-03セクション SP-04セクション SP-05セクション

- | | | |
|---|---|---|
| 06_SP-03
第1層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 炭化粒(φ1~9mm)中量, 焼土粒(φ1~5mm)中量, 焼土ブロック(φ20mm)少量 | SP-04
第1層 10YR6/4 にぶい黄橙色土 粘土粒・粘土ブロック(φ1~20mm)少量, 炭化粒混入 | SP-05
第1層 10YR5/1 褐灰色土 焼土粒(φ5mm)微量, パミス粒(φ5mm)少量 |
|---|---|---|

C地点遺構外出土遺物

トレンチ2



170

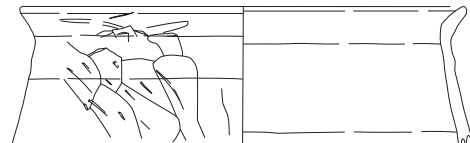
下水道2工区-No.2



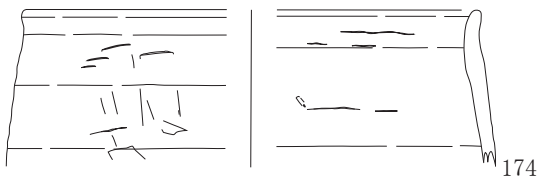
171



172



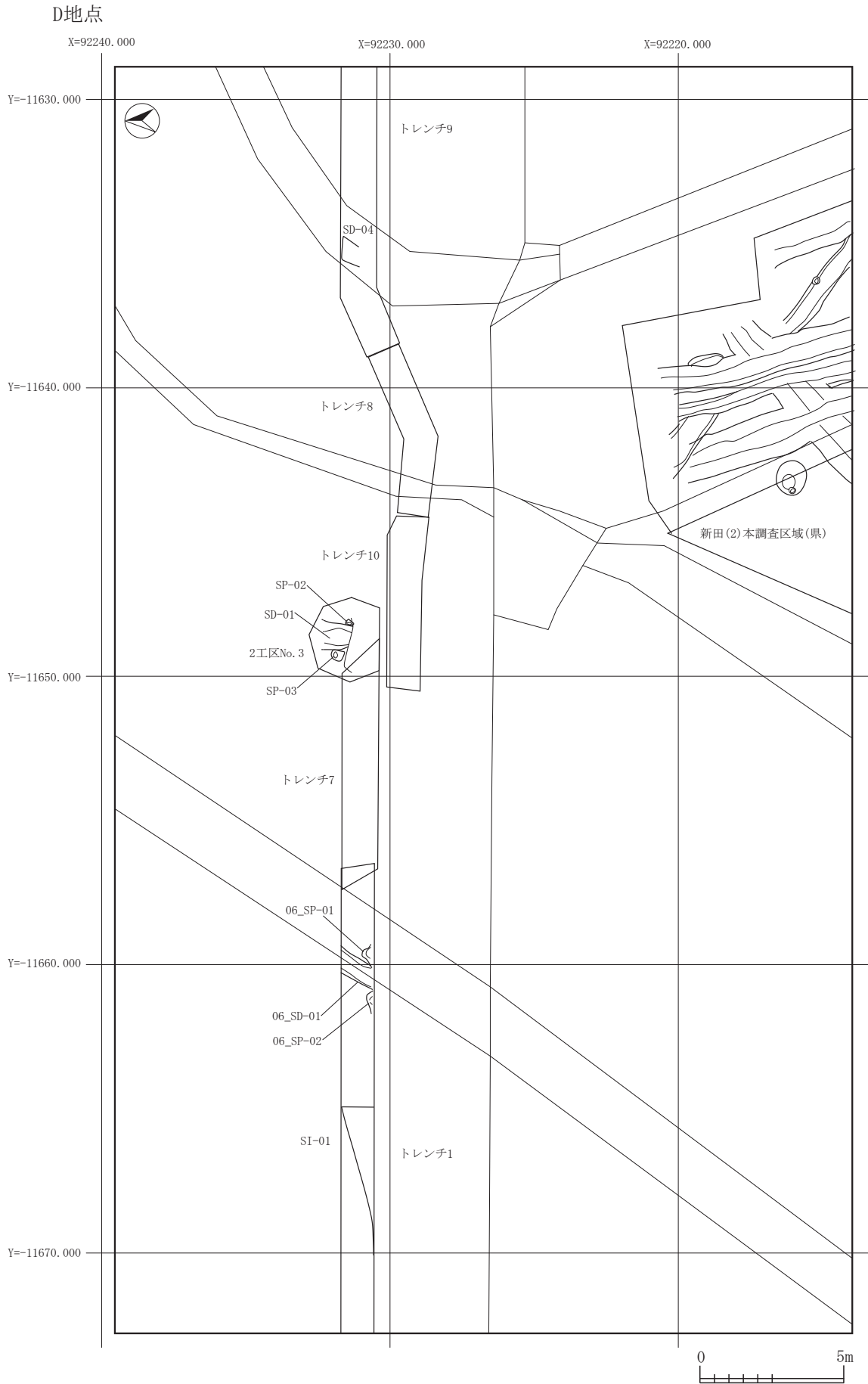
173



174



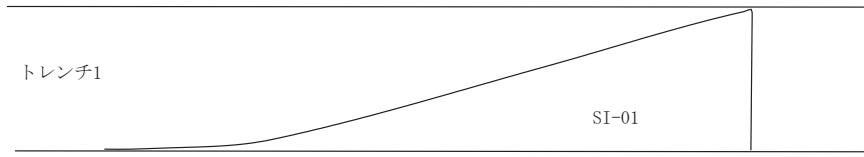
図 1-73 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査C地点-2



III-2
新田(1)・(2)
遺跡

図 1-74 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査D地点遺構配置図

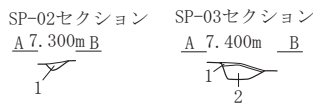
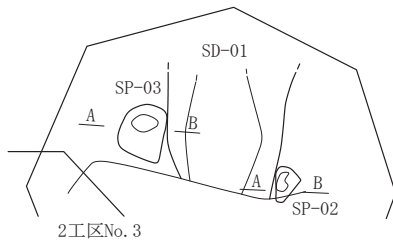
SI-01



SI-01



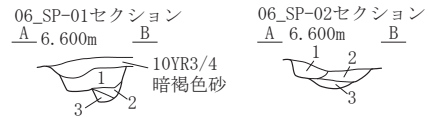
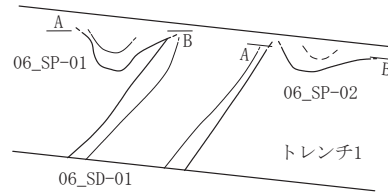
SP-02・03



SP-02
第1層 7.5YR3/2 黒褐色土

SP-03
第1層 10YR4/1 褐灰色土
第2層 10YR5/1 褐灰色土

06_SP-01・02



06_SP-01
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色の砂粘質土
第2層 10YR6/4 にぶい黄褐色の砂粘質土
第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色の砂粘質土
06_SP-02
第1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土
第2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土
第3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 白色砂混入

図 1-75 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査D地点-1

平面形は不整楕円形を呈し(86)×(68)×38cmを測る。断面形は鍋底形で、底面は中央が凹んだ形状で、壁は若干開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、埋め戻しに伴う堆積状況を呈する。堆積土中から土師器甕体部片が出土した。

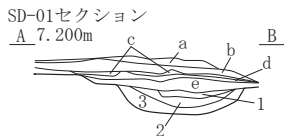
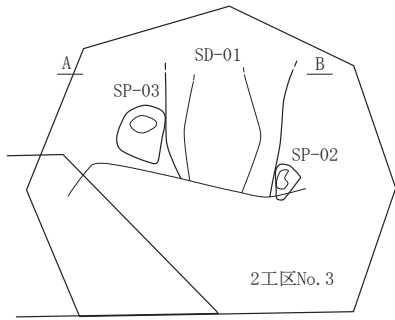
06_SE-01 (図 1-78)

平面形は不整円形を呈し、88×86×133cmを測る。断面形は底部に向かって内側に窄まっているが円筒形に近い形状である。堆積土は土層図が崩落により底部周辺の記録が欠落しているが、5層に分層し、有機物混じりの粘質土が堆積し、中層に相当する第2層からはブロック混じりの土と焼土が堆積している。須恵器と土師器の甕破片が出土しているがいずれも煤が付着した資料で、摩滅している。

06_SE-02 (図 1-78)

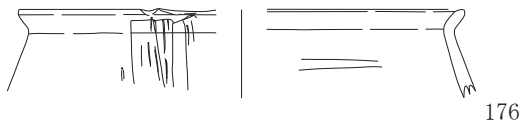
北側に遺構が延び、約半分の検出である。遺構略号は井戸跡である「SE」を付し精査しているが、湧水層まで掘削が達しておらず、実質的に土坑扱いである。SP-30・31と重複し、本遺構の方が古い。平面形は隅丸方形を呈し、(196)×(93)×63cmを測る。断面形は鍋底形で、壁際が若干丸みを帯び、壁は垂直に近い形で立ち上がる。堆積土は4層に分層したが第2～4層で坑部分の埋没は完了しており、自然堆積状況を呈する。出土遺物は4点図示したが須恵器甕体部片(185)、土師器食膳具(186・187)、煮炊具(188)で、食膳具のうち187は非クロコの椀で、口径13.4cm、器高4.3cm、底径4.0cm、器高指数32.0、底径指数29.8と底径幅の狭い浅身の資料で、内外面とも一部ミガキが施されている。底部切離しは静止糸切で、「静止かけ引き糸切り」(小川1979)である。煮炊具の甕破片である188は

SD-01

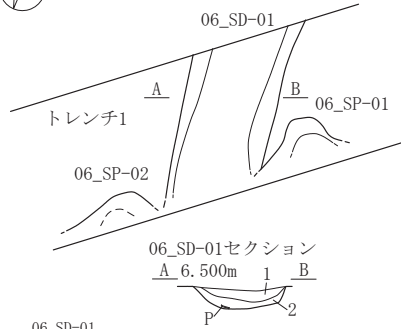


- SD-01
- 第a層 10YR8/8 黄褐色土 鉄分少量
 - 第b層 N4/0 灰色土
 - 第c層 2.5Y5/1 黄灰色土
 - 第d層 10YR5/2 灰黄褐色土
 - 第e層 10YR4/1 褐灰色土 焼土粒・炭化粒少量, 上面鉄分層状
 - 第1層 10YR4/2 灰黄褐色土 焼土粒・炭化粒少量, ローム粒・ブロック中量
 - 第2層 10YR3/3 暗褐色土 焼土粒・炭化粒少量
 - 第3層 10YR3/2 黒褐色土 焼土粒・炭化粒少量

SD-01

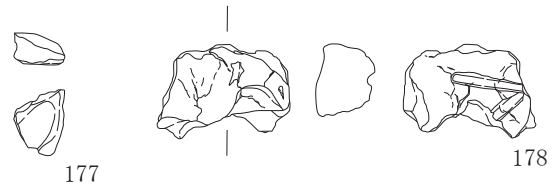
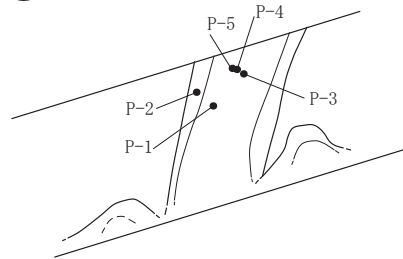


06_SD-01

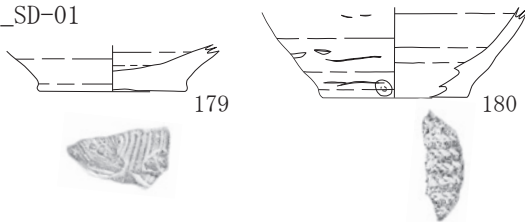


- 06_SD-01
- 第1層 10YR3/1 黒褐色土 砂粘質
 - 第2層 10YR3/2 黒褐色土 炭化粒少量, 礫混入, 深灰色粘土粒

06_SD-01土器出土位置図



06_SD-01



SD-04

D地点遺構外出土遺物
トレンチ9

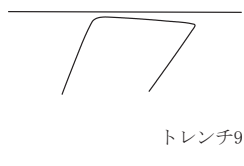


図 1-76 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査D地点 -2

E地点

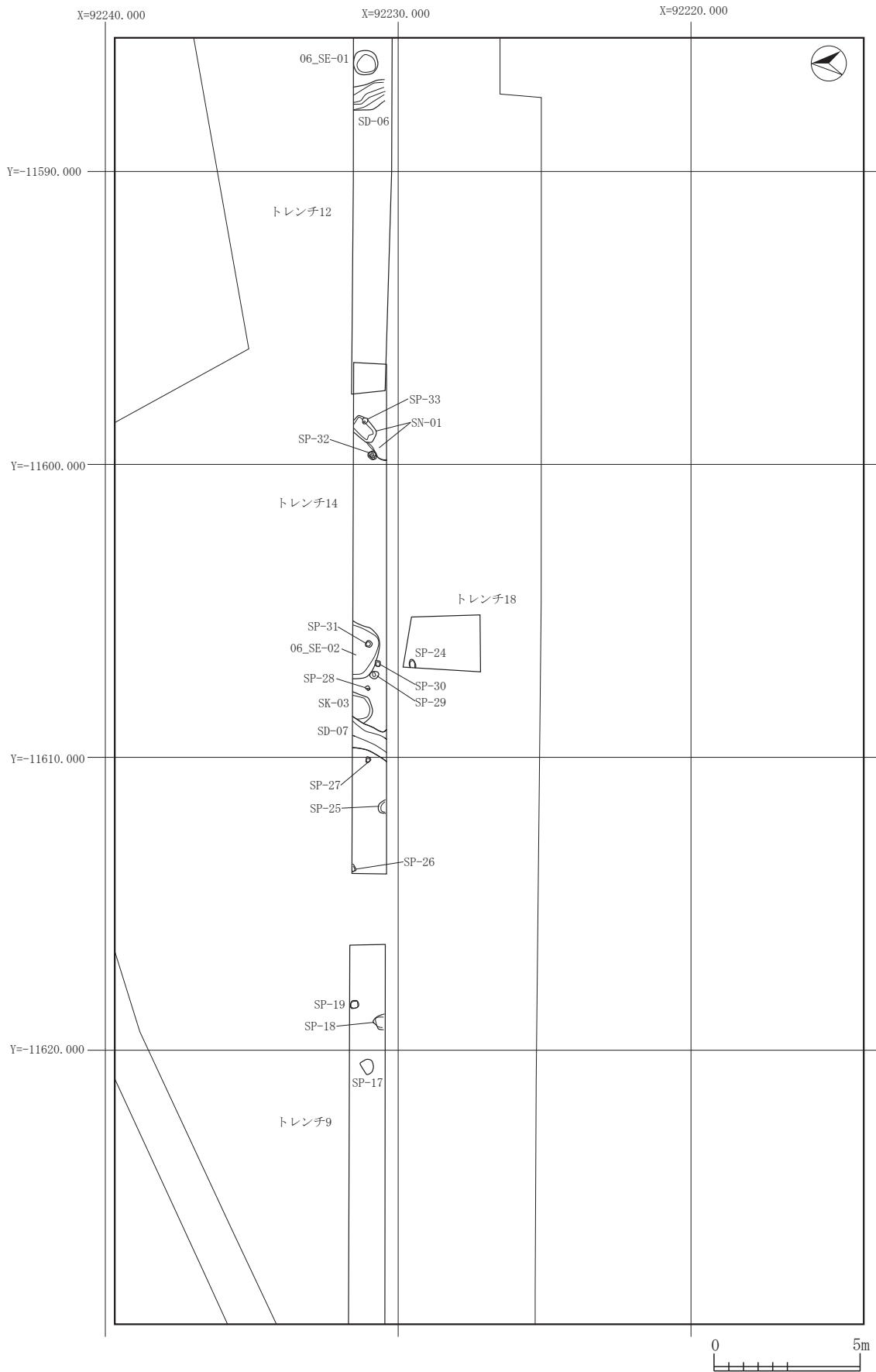


図 1-77 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査E地点遺構配置図

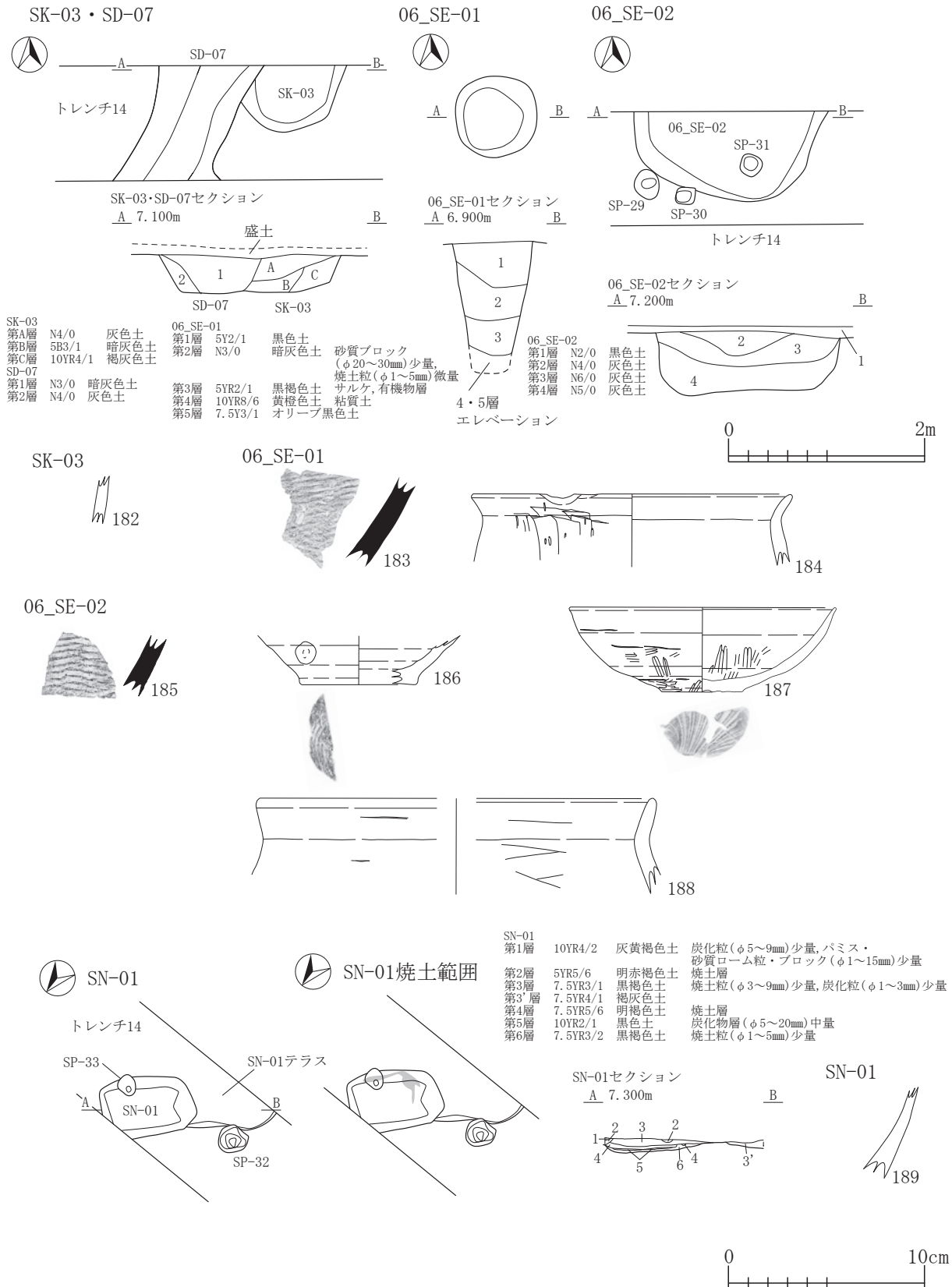


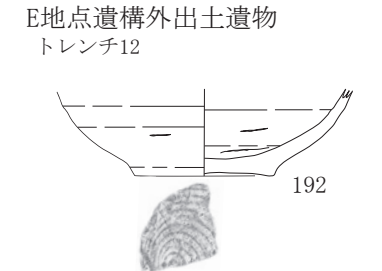
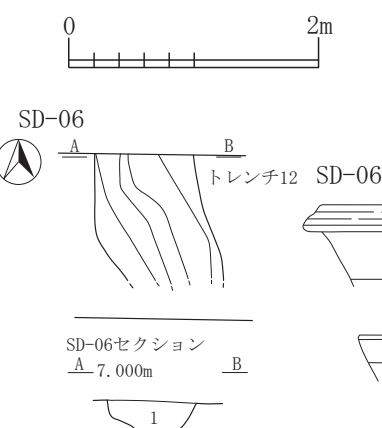
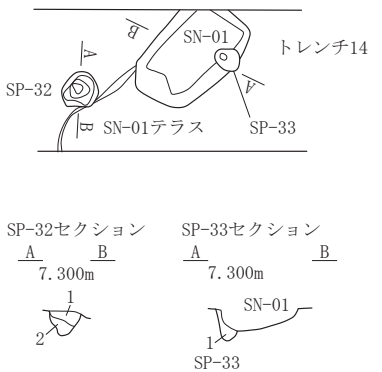
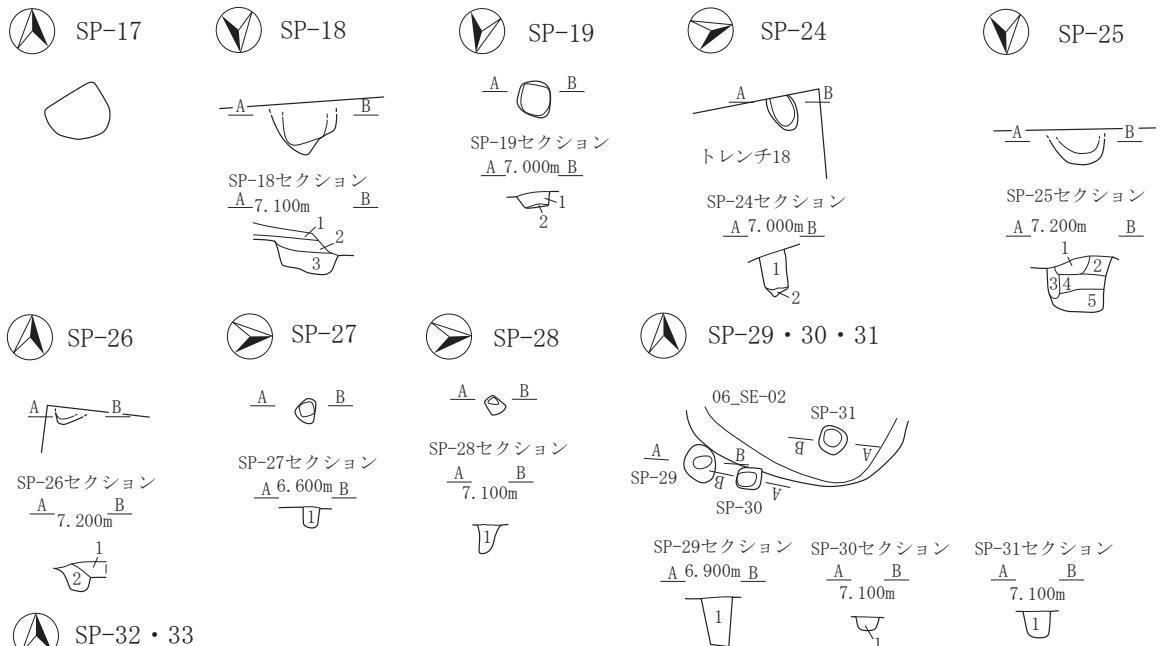
図 1-78 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 E 地点 -1

口径 20.0 cm を測る。頸部幅があるタイプであるが口縁部は直立気味に立ち上がる。

SN-01 (図 1-78)

北側が一部調査区外へ延びているが、平面形は不

整長方形を呈し、90×61×14 cm を測る。SP-33 と重複し、本遺構が古い。また、長軸方向の南西側の延長部にはテラス状の浅い段があり、本遺構に堆積する第3層に類似した土が堆積している。底面直上に炭化物の堆積層が認められ本遺構は



SP-18	第1層	N3/0	暗灰色土	
	第2層	N4/0	灰色土	炭化物粒(φ5~9mm)少量
	第3層	2.5GY5/1	オリーブ灰色土	
SP-19	第1層	N3/0	暗灰色土	砂粘ブロック
	第2層	10YR4/6	褐色土	
SP-24	第1層	10YR4/1	褐灰色土	炭化粒(φ5~9mm)少量, 砂粘ローム粒・ブロック(φ1~30mm)中量
	第2層	10YR4/1	褐灰色土	第1層よりブロックのサイズが大きい
SP-25	第1層	10YR4/2	灰黄褐色土	砂粘ローム粒(φ5~9mm)少量
	第2層	10YR3/2	黒褐色土	
	第3層	10YR3/1	黒褐色土	
	第4層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	
	第5層	10YR4/1	褐灰色土	砂質ブロック(φ10~20mm)少量
SP-26	第1層	5G5/1	緑灰色土	
	第2層	N3/0	暗灰色土	
SP-27	第1層	7.5YR3/2	黒褐色土	砂粘ブロック(φ10~20mm)少量
SP-28	第1層	7.5YR2/2	黒褐色土	砂粘ローム粒(φ5~9mm)少量
SP-29	第1層	7.5YR3/2	黒褐色土	炭化粒(φ5~9mm)微量, 鉄分(φ5~9mm)少量, 砂粘ローム粒(φ5~9mm)少量
SP-30	第1層	7.5YR2/2	黒褐色土	炭化粒(φ5~9mm)少量
SP-31	第1層	7.5YR2/2	黒褐色土	焼土粒(φ3~5mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
SP-32	第1層	10YR3/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色の砂粘質土粒(φ2~5mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
	第2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR5/6黄褐色砂粘質土粒(φ2~5mm)微量, 10YR6/3にぶい黄褐色砂粘質土粒(φ5~9mm)微量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
SP-33	第1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR6/3にぶい黄褐色粘土粒(φ3~9mm)微量, 炭化粒(φ1~2mm)極微量
SD-06	第1層	10GY4/1	暗緑灰色土	砂質ブロック(φ10~20mm)中量

図 1-79 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査E地点-2

Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡

製炭土坑である。

ピット (図 1-79)

13基検出した。他の地点同様遺構観察表に集約したが、小規模な単層主体の資料で明確に建物として認定できたものはない。ただ、06__SE-02周辺でピットがまとまって検出し、N-25°-Eかその軸線に直交する軸線にのるピットが多く存在する。付近に建物跡が存在した可能性が高い。

SD-06 (図 1-79)

南北方向に延びる溝跡で、調査区内での規模は幅94cm、長さ105cm、深さ28cmを測る。断面形は段状に立ち上がり、壁は垂直に近い形で立ち上がっている。堆積土は1層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。堆積土中から190に図示した珠洲焼Ⅱ期に属する壺の口縁部資料、土師器碗の碎片(191)が出土している。

SD-07 (図 1-78)

南北方向に延びる溝跡で、SK-03と重複し、本遺構の方が新しい。調査区内の規模は幅106cm、長さ124cm、深さ38cmを測る。断面形は箱形で、開き気味に立ち上がる。堆積土は2層に分層し、流れ込みを含む自然堆積状況を呈する。

E地点遺構外出土遺物 (図 1-79)

トレンチ12から出土した土師器碗の体部～底部にかけての資料と土師器甕体部片の碎片を図示した。192は底径5.6cmを測る。微高台状に底部が作出され、体部は丸みを帯び膨らみながら立ち上がる器形である。外面体部には煤状の炭化物がバンド状に付着しており、外底面及び内面体部も色調変化が生じている。193は土師器甕の体部片で淡橙褐色を基調とする。長石等が多少混入するが主だった砂礫の混入が少なく、食膳具にも似た質感である。外面は二次被熱が顕著で、器面の一部は剥落している。

6. F地点

ガソリンスタンド(カメイ(株)青森オートガス・スタンド)の敷地前から国道7号バイパスへの取り付け道路部分、洋食店(調査時:キッチンカフェやき、調査後平成25年度取り壊し→家電量販店)の前及び駐車場敷地内が相当する。さらに国道7号青森西バイパスの北側の歩道部分も一部調査対象となっている。遺跡は取り付け道路部分を境に西側が新田(2)遺跡、東側が新田(1)遺跡として登録されており、国道7号青森西バイパスの北側部分は新田(1)遺跡に相当する。

07A__SK-1 (図 1-81)

トレンチ17とした掘削地点で検出した。07A__SK-2、07A__SP-1と重複しており、07A__SK-2より新しく07A__SP-1より古い。円形の1/4程度の弧状を呈する掘削部分を検出し、(100)×(90)×50cmを測る。堆積土は4層に分層し、底面直上は崩落等に伴う流れ込みによる堆積で、上面は埋め戻し等により一気に埋まった堆積状況である。本遺構扱いの東側の延長部に07A__SX-1とした溝状の掘削痕を検出しており、本遺構の壁は延長線上に相当する。土坑として精査しているが、溝跡の可能性が残され、仮に帰属した場合は長さが(460)cmを測る。

07A__SK-2 (図 1-81)

07A__SK-1と07A__SP-1と重複しており、本遺構がいずれの遺構よりも古い。検出部分の平面形は小判形状を呈しており、(60)×(26)×47cmを測る。壁は開き気味に立ち上がっている。堆積土は2層に分層し、いずれも焼土・炭化粒混じりの埋め戻しに伴う堆積である。堆積土中から縄文土器の底部資料と口縁部資料が出土している。

SK-161 (図 1-81)

上水道の既設の水道管によりほとんど破壊されており、部分的な検出に留まった。検出部分の平面形は不整形長方形を呈し、(92)×(23)×17cmを測る。断面形は箱形で、若干開きながらも垂直に近い形で立ち上がっている。堆積土は4層に分層し、上面の第1層が炭化物層に相当し、埋没途中で焼成が行われた可能性が高い。

07A__SX-1 (図 1-82)

断続したトレンチ内で検出した溝状の掘削痕で、調査時にこの番号として取り扱った部分の規模は、幅(57)cm、長さ(276)cm、深さ45cmを測る。ただし、前述の07A__SK-1が本遺構の西端である可能性があり、その場合の長さは(460)cmを測る。堆積土は埋没完了後の堆積土も含め7層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。堆積土中から短頸の土師器甕が出土し、179として図示した。

SX-2 (図 1-82)

掘削したトレンチ内で部分的に検出した。南側に遺構が延びるものと考えられ、検出部で(140)×(23)×26cmを測る。南側の延長部にはSX-5と取り扱った溝状の掘削痕を検出しており、本遺構はSX-5の一部である可能性がある。

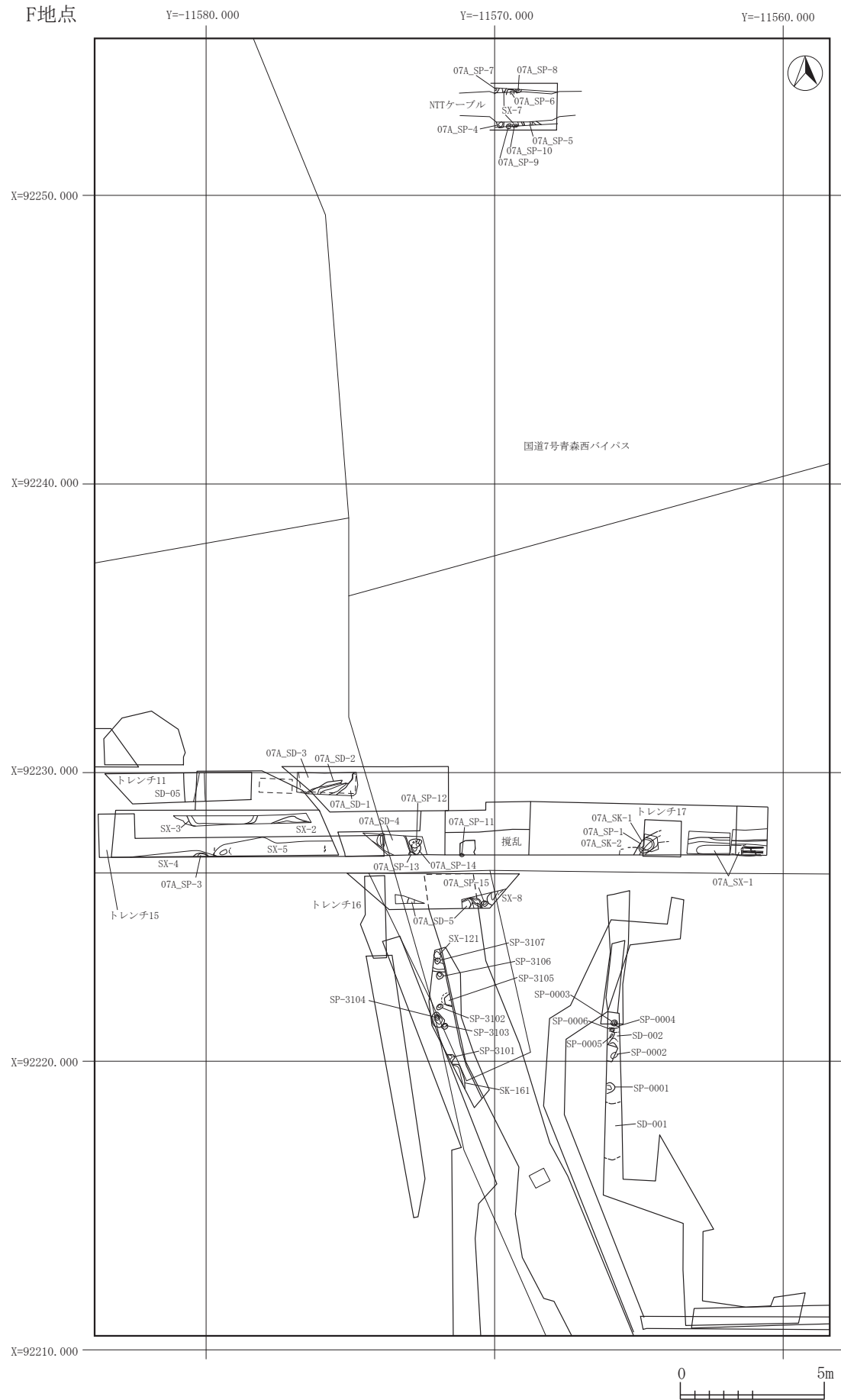
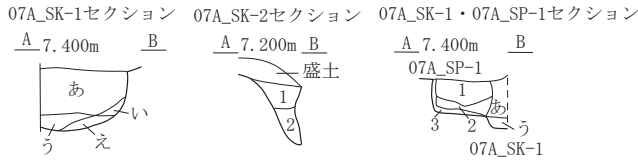
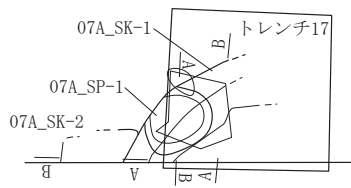


図 1-80 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点遺構配置図

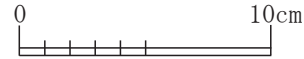
Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡

07A_SK-1・2・07A_SP-1



07A_SK-1	第1層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~6mm)少量,焼土粒(φ1~9mm)少量
	第2層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ3~5mm)微量,炭化粒(φ1~2mm)微量
	第3層	10YR2/3	黒褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~70mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量
	第4層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~100mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量
07A_SK-2	第1層	10YR3/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~6mm)微量
	第2層	10YR2/2	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~3mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ3~5mm)微量
07A_SP-1	第1層	10YR3/1	黒褐色土	パミス粒(φ1~9mm)中量,ローム粒(φ1~5mm)中量,白色ローム(φ1~50mm)中量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~6mm)少量
	第2層	2.5Y4/3	オリーブ褐色土	砂粘質土層
	第3層	2.5Y6/4	にぶい黄褐色土	ローム層
SK-161	第1層	N1.5/0	黒色土	炭層,焼土粒(φ1~2mm)極微量
	第2層	5Y2/2	オリーブ黒色土	パミス粒(φ1~5mm)少量,炭化粒(φ1~6mm)少量
	第3層	10YR3/4	暗褐色土	パミス粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量
	第4層	7.5Y3/1	オリーブ黒色土	炭化粒(φ1~3mm)微量
SP-3101	第a層	2.5Y2/1	黒色土	パミス粒(φ1~6mm)少量,炭化粒(φ1~9mm)少量,焼土粒(φ1~4mm)少量
	第b層	5Y2/1	黒色土	パミス粒(φ2~6mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~2mm)微量
	第c層	5Y3/1	オリーブ黒色土	パミス粒(φ1~8mm)少量,炭化粒(φ1~3mm)微量,焼土粒(φ1~4mm)極微量

07A_SK-2



SK-161・SP-3101

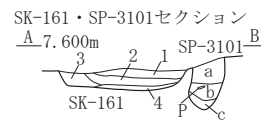
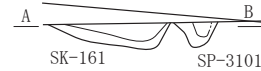


図1-81 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点-1

SX-3 (図1-82)

掘削したトレンチ内で部分的に検出した。北側に延びる形で、北側の別調査のトレンチ内にはSD-05として検出した掘削痕があり、本遺構とSD-05は同一遺構である可能性が高い。本遺構名として検出した部分の規模は幅246cm、長さ(36)cm、深さ34cmを測る。また、北側のSD-05を加えた規模は幅246cm、長さ(362)cm、深さ63cmを測る。堆積土は9層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積状況である。出土遺物は堆積土中から出土した土師器甕の体部資料(197)と確認面から出土した近世の白磁碗(198)で高台径8.2cmを測る。外面は体部下半~高台部が露胎しており、内面の見込部分は蛇の目釉剥ぎである。17世紀中葉以降に帰属する。

SX-4 (図1-83)

トレンチから部分的に検出し、南端側に遺構は延びる。07A_SP-3と重複し、本遺構の方が古い。検出部分は幅(23)cm、長さ280cm、深さ21cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は開き気味に立ち上がる。なお、本遺構の東側には後述するSX-5が配置しており、SX-5も同軸線上

に延びる溝状の掘削痕であることから、連続ないしは断続しながらも関連した遺構である可能性を持っている。

SX-5 (図1-83)

トレンチから部分的に検出し、南および東側に延びる。前述のとおり本遺構の北側の別トレンチから検出したSX-2と同一トレンチの西側から検出したSX-4が本遺構と関連した可能性がある。本遺構として精査した部分単独の規模は幅(66)cm、長さ435cm、深さ66cmを測る。断面形は凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土中から須恵器甕、土師器椀、土製支脚などが出土し、7点図示した。土師器食膳具のうち204は体部中半を意図的に打欠き整形し転用している。図上では表現されていないが、202・203についても破断面が丸みを帯び、底部破片として利用された可能性がある。200は口唇部に刻み状の抉りが入っており、体部には刻線がある。

SX-7 (図1-84)

国道7号青森西バイパスの北側地点から検出した。トレンチ中央が水道管理設部分で既に破壊され

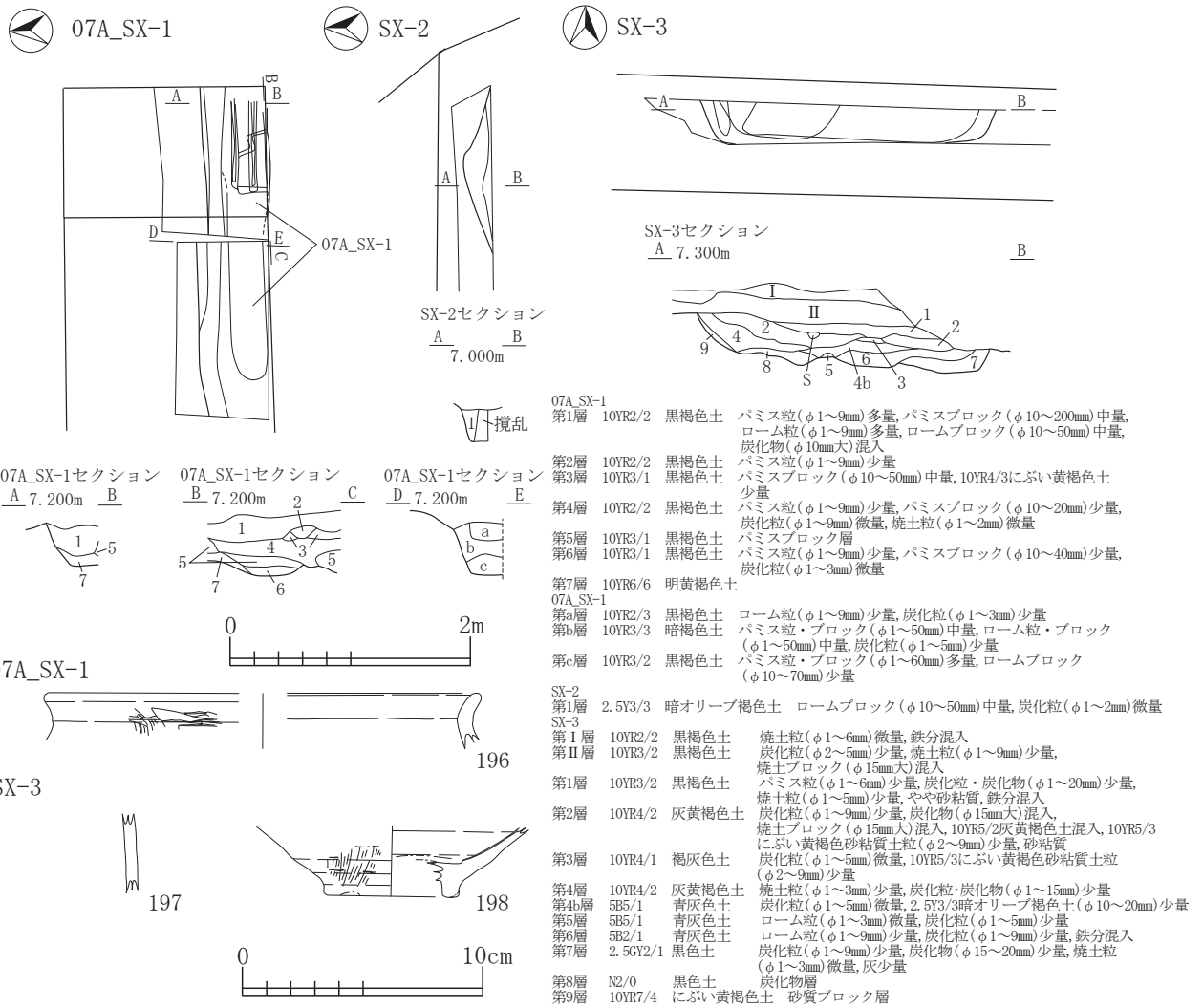


図1-82 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点-2

ており、南北の部分的な検出に留まった。幅140cm、長さ100cm、深さ44cmを測る。07A_SP-4~10と重複しており、07A_SP-4・7~10が本遺構より新しく、07A_SP-5・6が本遺構より古い。なお、本遺構の東側の地点では第7~11層として記録された本遺構より前段の掘削・堆積土があり、07A_SP-5・6はこの堆積土を切る形で構築されている。本遺構の構築前に前段の土地利用が継続された上に本遺構扱の掘削がなされている。

出土遺物は破壊されていた部分の南北で二区分して取り扱ったが、いずれも縄文土器と古代の土師器等が出土している。206は縄文時代前期表館式の体部片、207・209は詳細時期不明であるが、円筒土器の体部片、208・210は土師器碗、211は土師器甕、212は擦文土器体部片である。

SX-8 (図1-84)

トレンチから部分的に検出した。平面形は(小判形)を呈し(76)×(32)×82cmを測る。断面形は柱穴状を呈し、壁は垂直に近い形で立ち上

がり、壁上部で角度を変え緩やかに立ち上がる。堆積土は上面の堆積土を含め5層に分層したが、坑の埋没としては第3~5層が相当し、上面の第3層には灰が多量含まれる。

SX-121 (図1-84)

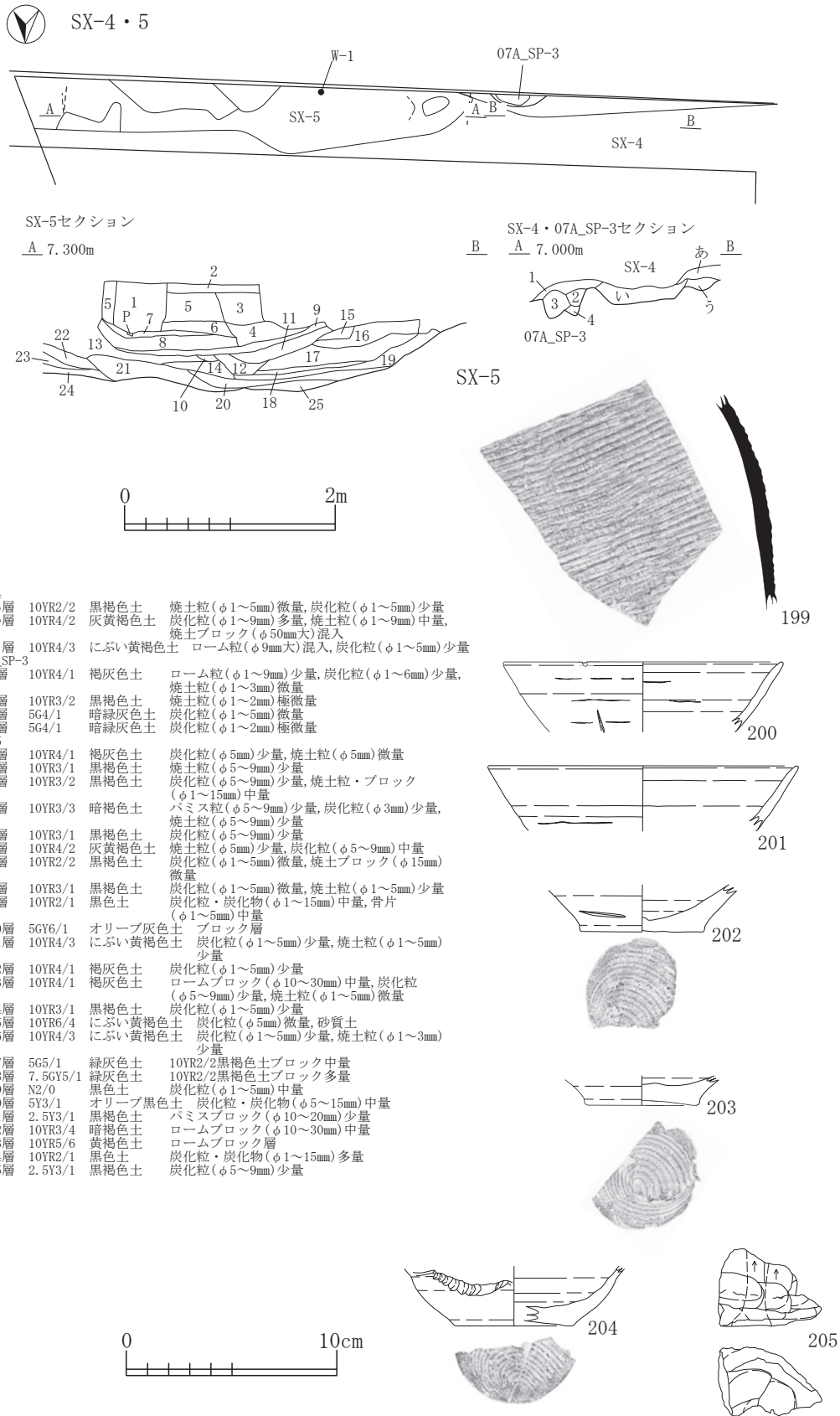
トレンチから部分的に検出した。SP-3107と重複し、本遺構の方が古い。平面形は調査区外に延びるため詳細は不明であるが(円形)状を呈している可能性がある。断面形は皿形を呈し、緩やかに立ち上がる。堆積土は7層に分層し、ブロック混じりの埋め戻しに伴う堆積である。

ピット (図1-85~87)

25基検出した。他の地点同様規模等の情報は遺構観察表に集約した。出土遺物は縄文土器・土師器破片が主体である。

SD-001 (図1-87)

トレンチ内で部分的に検出し、破壊が及ばないため掘削していない。幅197cm、長さ62cmを



SX-4			
第あ層	10YR2/2	黒褐色土	焼土粒(φ1~5mm)微量,炭化粒(φ1~5mm)少量
第い層	10YR4/2	灰黄褐色土	炭化粒(φ1~9mm)多量,焼土粒(φ1~9mm)中量,焼土ブロック(φ50mm大)混入
第う層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	ローム粒(φ9mm大)混入,炭化粒(φ1~5mm)少量
07A_SP-3			
第1層	10YR4/1	褐灰色土	ローム粒(φ1~9mm)少量,炭化粒(φ1~6mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)微量
第2層	10YR3/2	黒褐色土	焼土粒(φ1~2mm)極微量
第3層	5G4/1	暗緑灰色土	炭化粒(φ1~5mm)微量
第4層	5G4/1	暗緑灰色土	炭化粒(φ1~2mm)極微量
SX-5			
第1層	10YR4/1	褐灰色土	炭化粒(φ5mm)少量,焼土粒(φ5mm)微量
第2層	10YR3/1	黒褐色土	焼土粒(φ5~9mm)少量
第3層	10YR3/2	黒褐色土	炭化粒(φ5~9mm)少量,焼土粒・ブロック(φ1~15mm)中量
第4層	10YR3/3	暗褐色土	パミス粒(φ5~9mm)少量,炭化粒(φ3mm)少量,焼土粒(φ5~9mm)少量
第5層	10YR3/1	黒褐色土	炭化粒(φ5~9mm)少量
第6層	10YR4/2	灰黄褐色土	焼土粒(φ5mm)少量,炭化粒(φ5~9mm)中量
第7層	10YR2/2	黒褐色土	炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土ブロック(φ15mm)微量
第8層	10YR3/1	黒褐色土	炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第9層	10YR2/1	黒色土	炭化粒・炭化物(φ1~15mm)中量,骨片(φ1~5mm)中量
第10層	5GY6/1	オリーブ灰色土	ブロック層
第11層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)少量
第12層	10YR4/1	褐灰色土	炭化粒(φ1~5mm)少量
第13層	10YR4/1	褐灰色土	ロームブロック(φ10~30mm)中量,炭化粒(φ5~9mm)少量,焼土粒(φ1~5mm)微量
第14層	10YR3/1	黒褐色土	炭化粒(φ1~5mm)少量
第15層	10YR6/4	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ5mm)微量,砂質土
第16層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~5mm)少量,焼土粒(φ1~3mm)少量
第17層	5G5/1	緑灰色土	10YR2/2黒褐色土ブロック中量
第18層	7.5GY5/1	緑灰色土	10YR2/2黒褐色土ブロック多量
第19層	N2/0	黒色土	炭化粒(φ1~5mm)中量
第20層	5Y3/1	オリーブ黒色土	炭化粒・炭化物(φ5~15mm)中量
第21層	2.5Y3/1	黒褐色土	パミスブロック(φ10~20mm)少量
第22層	10YR3/4	暗褐色土	ロームブロック(φ10~30mm)中量
第23層	10YR5/6	黄褐色土	ロームブロック層
第24層	10YR2/1	黒色土	炭化粒・炭化物(φ1~15mm)多量
第25層	2.5Y3/1	黒褐色土	炭化粒(φ5~9mm)少量

図 1-83 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 F 地点 -3

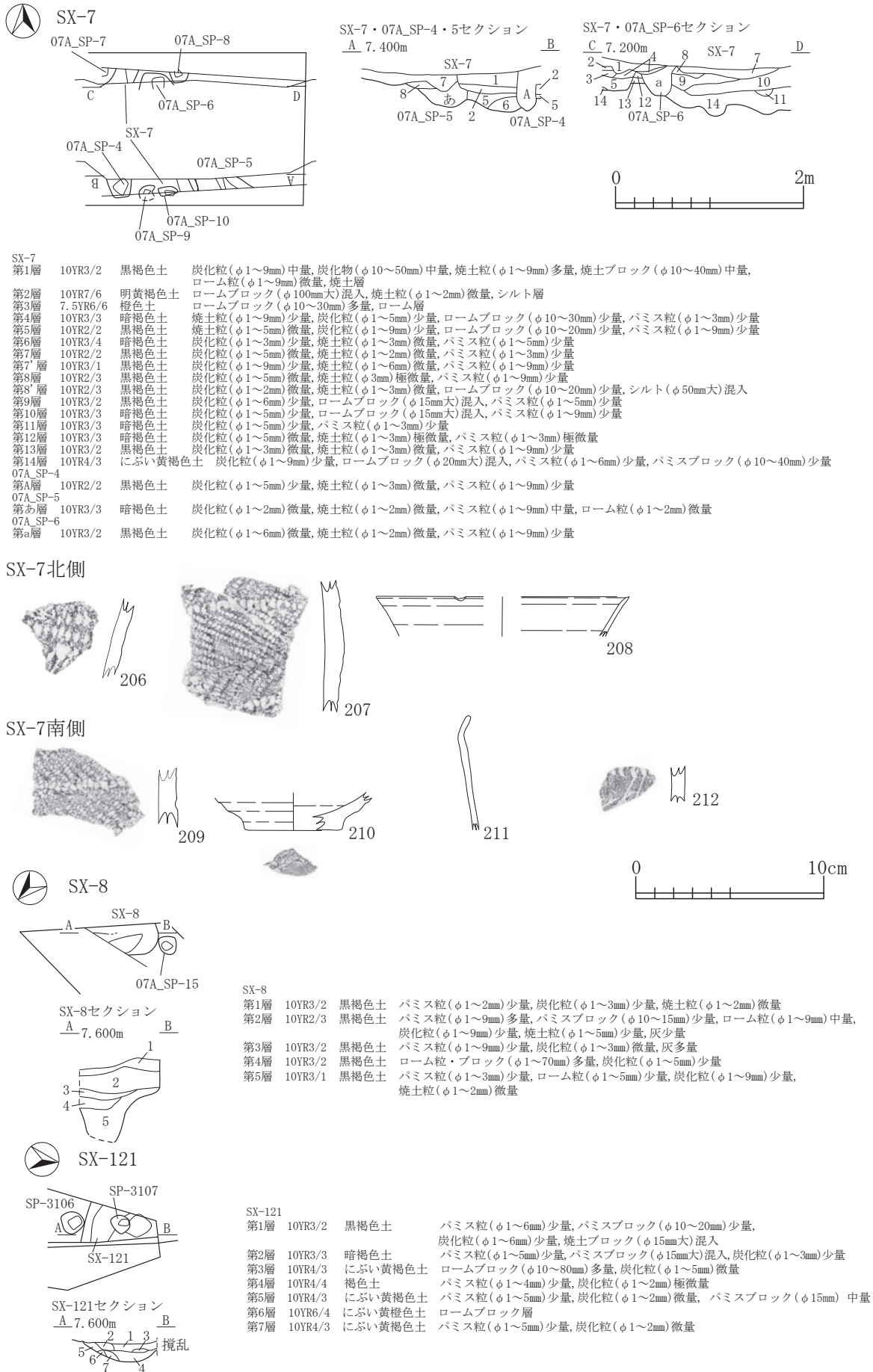


図 1-84 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点-4

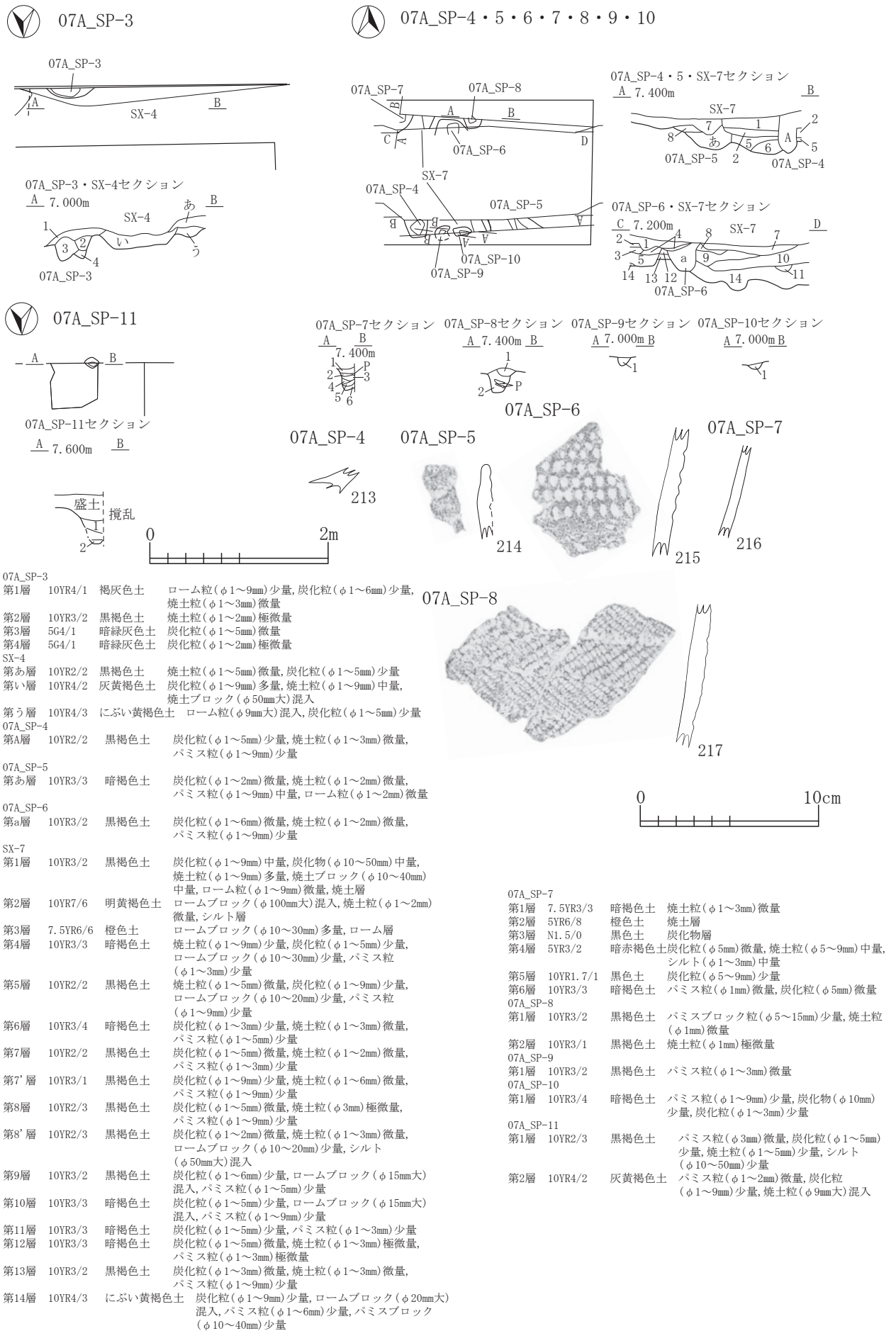


図 1-85 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点-5

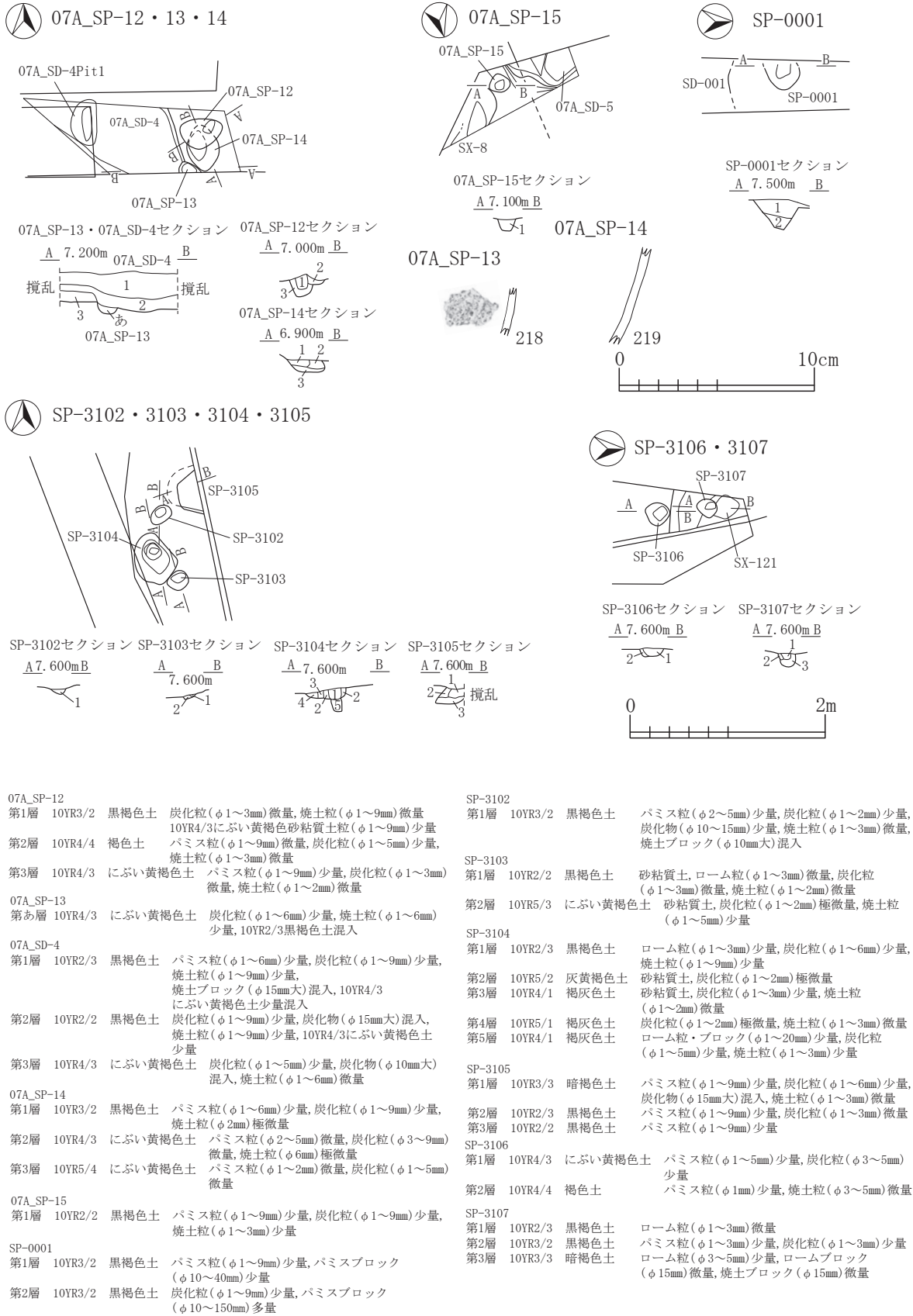


図 1-86 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点-6

検出した。

SD-002 (図1-87)

トレンチ内で部分的に検出した。SP-0002・0005・0006と重複し、本遺構が古い。幅50cm、長さ(34)cm、深さ19cmを測る。

SD-05 (図1-87)

トレンチ内で部分的に検出した。南北方向に走る溝跡で、西側の立ち上がりのみを検出し、東側に延びる。検出部分での規模は幅(236)cm、長さ103cm、深さ51cmを測る。断面形は底面側に若干凹みを持ち、壁は緩やかに立ち上がる。堆積土は6層に分層し、流れ込みを含む自然堆積状況を呈する。遺物は堆積土中から土師器碗(222)と擦文土器甕(223・224)が出土した。

07A__SD-1 (図1-87)

トレンチ内から部分的に検出した。07A__SD-2と重複し、本遺構の方が古い。また本遺構の西側に07A__SD-3が配置しており、本遺構と同様に07A__SD-2に切られている。本遺構と堆積土の色調が若干異なるが第2層に炭化物層(07A__SD-2についても第2層に炭化物層が伴う)が伴っていることから場合によっては同一遺構の可能性も残される。検出部分の規模は幅(45)cm、長さ(103)cm、深さ24cmを測る。

07A__SD-2 (図1-87)

トレンチ内から部分的に検出した。前述のとおり07A__SD-1・3と重複しており、本遺構がいずれの遺構より新しい。検出部分の規模は幅(54)cm、長さ(110)cm、深さ16cmを測る。断面形はU字形を呈し、若干開き気味に立ち上がる。堆積土は3層に分層し、前述のとおり第2層は炭化物層である。

07A__SD-3 (図1-87)

トレンチ内から部分的に検出した。前述のとおり07A__SD-2と重複し、本遺構の方が古い。また、07A__SD-1とも前述のとおり関連した可能性がある。検出部分の規模は幅(78)cm、長さ(183)cm、深さ16cmを測る。断面形は検出部分で壁を検出していないため詳細は不明である。堆積土は3層に分層し、第1層は炭化物層である。堆積土中から擦文土器体部片が出土した。

07A__SD-4 (図1-88)

トレンチ内から部分的に検出した。07A__SP

-13と重複しており、本遺構の方が新しい。また、07A__SD-4Pit1としたピットを本遺構内から検出しているが、本遺構の掘削後に遺構確認を行っているため、本遺構帰属ではない可能性がある。新旧関係等の詳細は不明である。検出部分の規模は幅(140)cm、長さ(114)cm、深さ38cmを測る。断面形は垂直に近い形で立ち上がる部分がほとんどで、溝そのものは箱形気味である。堆積土は3層に分層しているが、実質的には第1・2層が相当し、流れ込みを含めた自然堆積状況を呈する。堆積土中から土師器碗・小甕(把手付の把手部)が出土している。

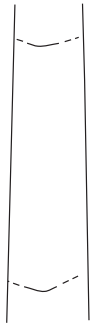
07A__SD-5 (図1-88)

トレンチ内から部分的に検出した。07A__SP-15と重複しており、本遺構の方が古い。検出規模は幅(250)cm、長さ(126)cm、深さ53cmを測る。断面形は箱形で、若干開き気味に立ち上がる。堆積土は、地点ごとに第1～8層、第A～C層に分層されているが、底面・底面直上に第4層が堆積し共通である。東側が再掘削されており、第5層は重複する07A__SD-5に起因する土層である。

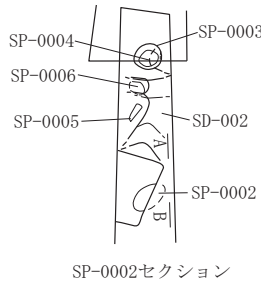
F地点遺構外出土遺物 (図1-88)

6点図示した。碎片がほとんどであるが、径が復元できた資料のうち土師器食膳具である29は口径15.8cmを測る。口唇端部に挟り状の細かい打欠がある。逆ハ字状に開き気味に立ち上がる。煮炊具は233に図示した土師器甕の口縁部片のみで口径21.8cmを測る。無頸に近い短頸で、頸部直下までヘラ削りが施され、軽く括れが生じている。

SD-001



SD-002・SP-0002・0003・0004・0005・0006



SP-0002セクション
A 7.500m B

SD-001

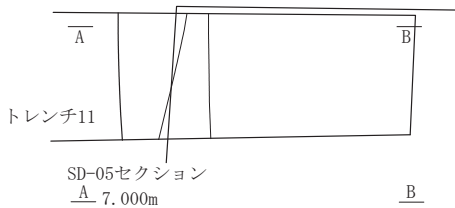


SD-002

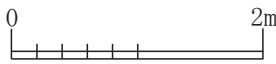


SD-05

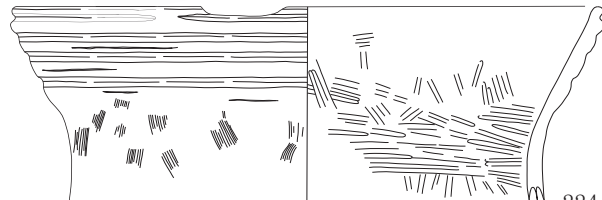
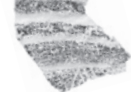
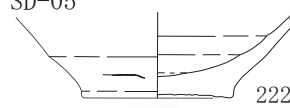
SP-0002
第1層 10YR3/2 黒褐色土 炭化粒(φ1~3mm)少量, パミスブロック(φ10~200mm)中量
第2層 10YR4/2 灰黄褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)少量, パミスブロック層



SD-05セクション
A 7.000m B

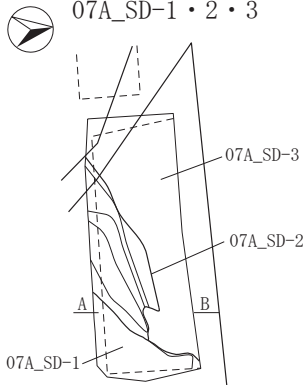


SD-05

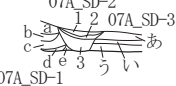


224

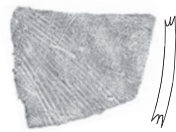
07A_SD-1・2・3



07A_SD-1・2・3セクション
A 7.000m B



07A_SD-3

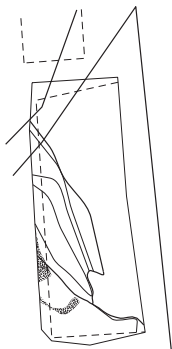


225

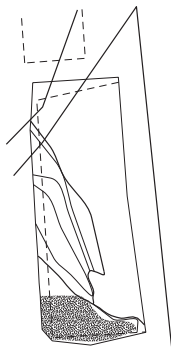
SD-05

第1層	10YR2/1 黒色土	シルト質, 炭化物混入
第2層	2.5Y3/1 黒褐色土	焼土粒(φ3~5mm), 炭化粒(φ3~5mm)混入
第3層	N2/0 黒色土	炭化物層, 焼土粒(φ1~3mm)少量
第4層	5G6/1 緑灰色土	炭化物層, 炭化土層(φ15~20mm)微量
第5層	5G2/1 緑黒色土	炭化物層
第6層	10YR5/4 にぶい黄褐色土	炭化物(φ10~20mm)少量
07A_SD-1		
第a層	2.5Y5/2 暗灰黄色土	炭化粒(φ1~9mm)微量
第b層	N2/0 黒色土	炭化物層
第c層	2.5Y4/3 オリーブ褐色土	ローム粒(φ9mm)微量, 炭化粒(φ1~9mm)中量
第d層	N1.5/0 黒色土	炭化物層
第e層	7.5YR5/6 明褐色土	炭化粒(φ1~2mm)極微量
07A_SD-2		
第1層	5G5/1 緑灰色土	炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~9mm)少量
第2層	N2/0 黒色土	炭化物層
第3層	5G4/1 暗緑灰色土	炭化粒(φ1~9mm)中量
07A_SD-3		
第a層	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色土	炭化粒(φ1~2mm)微量
第i層	N2/0 黒色土	炭化物層
第う層	10YR5/3 にぶい黄褐色土	炭化粒(φ1~5mm)少量

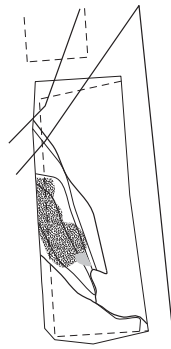
07A_SD-1炭範囲-1



07A_SD-1炭範囲-2



07A_SD-2炭・焼土範囲



07A_SD-3炭範囲

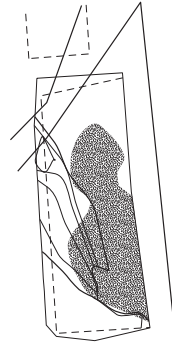
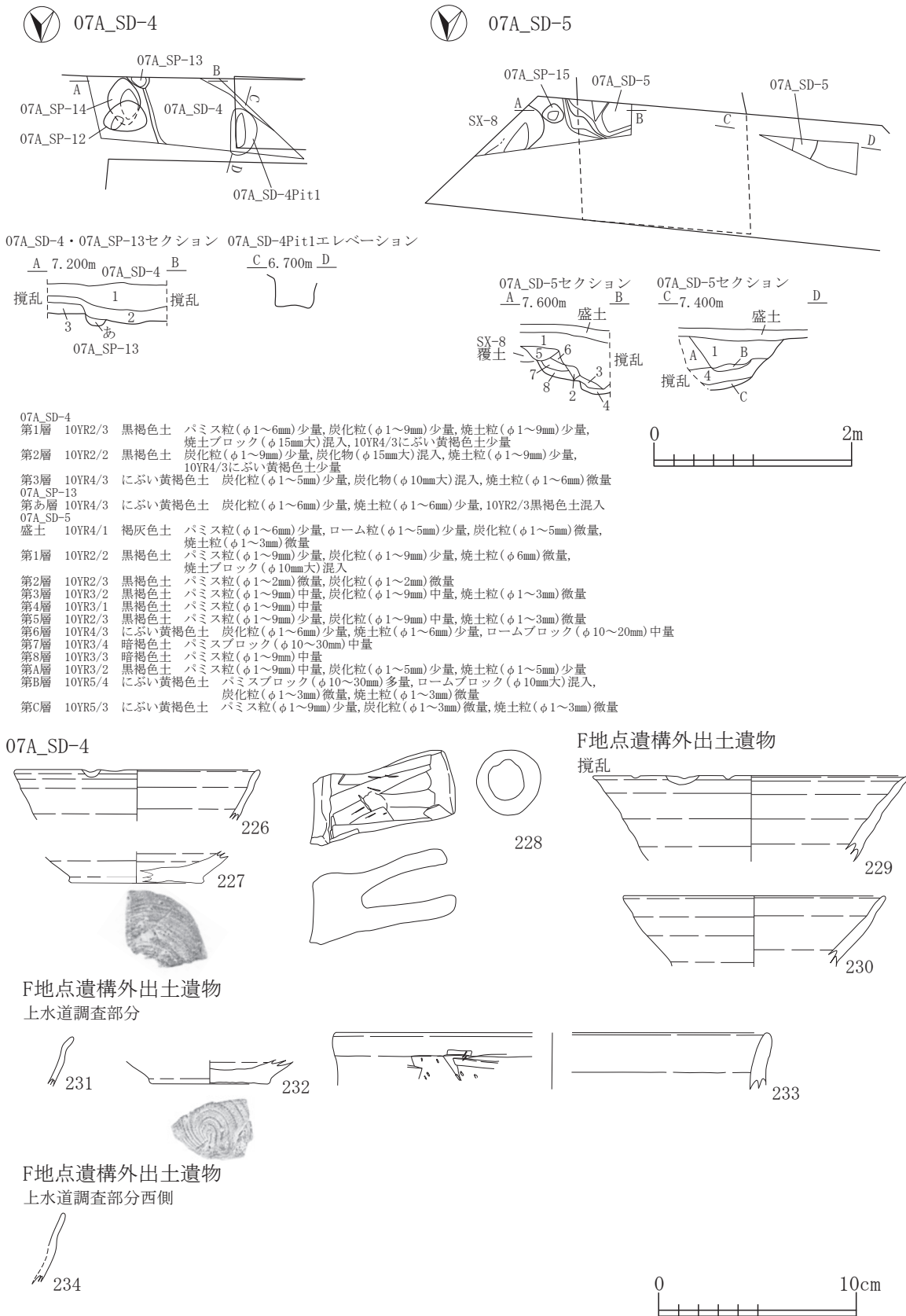


図 1-87 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査F地点-7



III-2
新田(1)・(2)
遺跡

図 1-88 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 F 地点 -8

7. G地点

前述の洋食店の看板撤去ならびに立木設置部分に相当する。(新設看板は新田(1)遺跡B-7区に相当・・・新設看板等は平成25年度に撤去)

SK-001 (図1-90)

攪乱によって一部破壊されているが、平面形は不整楕円形を呈し、検出部分の規模は149×136×38cmを測る。また、底面は袋状に180×160cm程度広がっている。断面形は前述のとおり袋状で、南～西側にかけて入り込んでいる。袋状

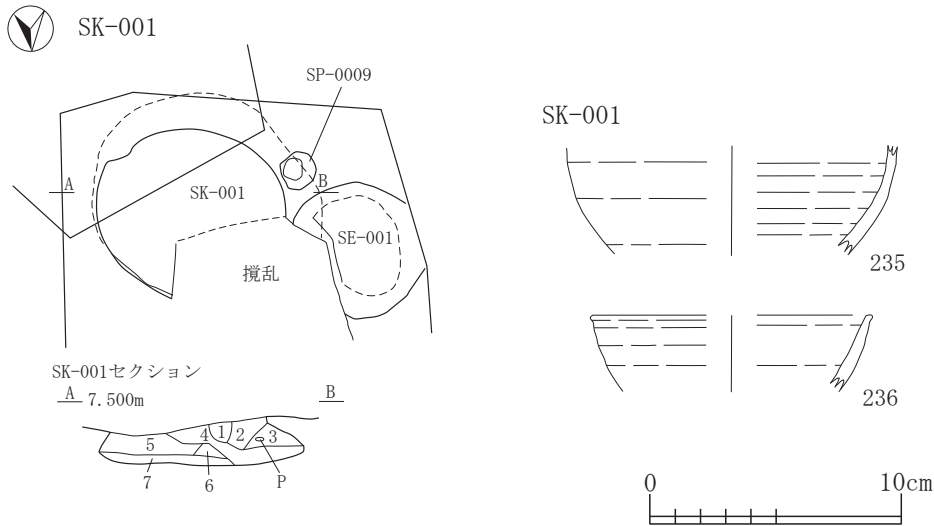
に入り込んだ部分は隣接するSE-001、SP-0009の部分まで広がっているが、直接干渉せず、切り合い関係は生じていない。堆積土は7層に分層し、崩落の伴う堆積で、人為的な影響も生じている。堆積土中から縄文土器と混入した可能性が高い。土師器碗の破片が出土した。縄文土器は第108集-1第4図-61で縄文時代前期の土器片を図示した。本報告では混入した土師器を235・236として図示した。いずれも破片で、236は二次被熱が顕著である。

G地点

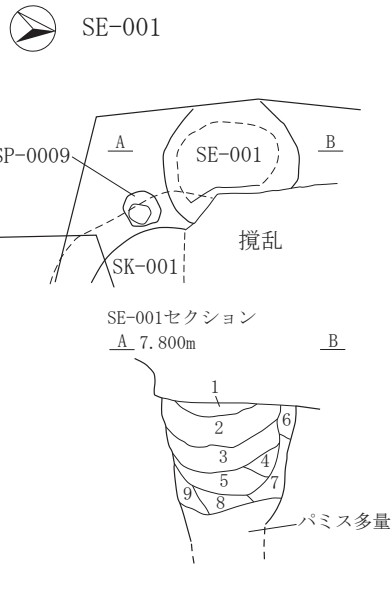


図1-89 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査G地点遺構配置図

Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡



層	土質	成分
第1層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~5mm)少量, バミスブロック(φ20mm大)混入, ローム粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~3mm)微量, ロームブロック(φ30mm大)混入, 炭化粒(φ1~9mm)少量
第3層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~2mm)微量
第4層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~6mm)少量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第5層	10YR1.7/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
第6層	10YR2/1 黒色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~3mm)微量, 炭化粒(φ1~9mm)少量
第7層	10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ20mm大)混入, 炭化粒(φ1~3mm)少量



層	土質	成分
第1層	10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量, 炭化粒(φ1~5mm)少量
第2層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~6mm)少量, ローム粒(φ5~9mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
第3層	10YR3/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)少量, ローム粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
第4層	10YR4/1 褐灰色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第5層	10YR2/3 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)少量, バミスブロック(φ20mm大)混入, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量, 焼土粒(φ1~2mm)微量
第6層	7.5YR6/6 橙色土	バミスブロック(φ10~30mm)少量, 炭化粒(φ1~9mm)少量, ローム層
第7層	10YR3/1 黒褐色土	バミス粒(φ1~9mm)多量, バミスブロック(φ10~20mm)多量, ローム粒(φ1~9mm)少量, ロームブロック(φ10~20mm)少量, 炭化粒(φ1~3mm)微量
第8層	10YR2/2 黒褐色土	バミス粒(φ1~3mm)微量, ローム粒(φ1~3mm)少量, 炭化粒(φ3~5mm)微量, 焼土粒(φ1~3mm)微量
第9層	10YR4/2 灰黄褐色土	バミス粒(φ1~9mm)中量, ローム粒(φ1~9mm)中量, 炭化粒(φ1~9mm)少量

図 1-90 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査 G地点 -1

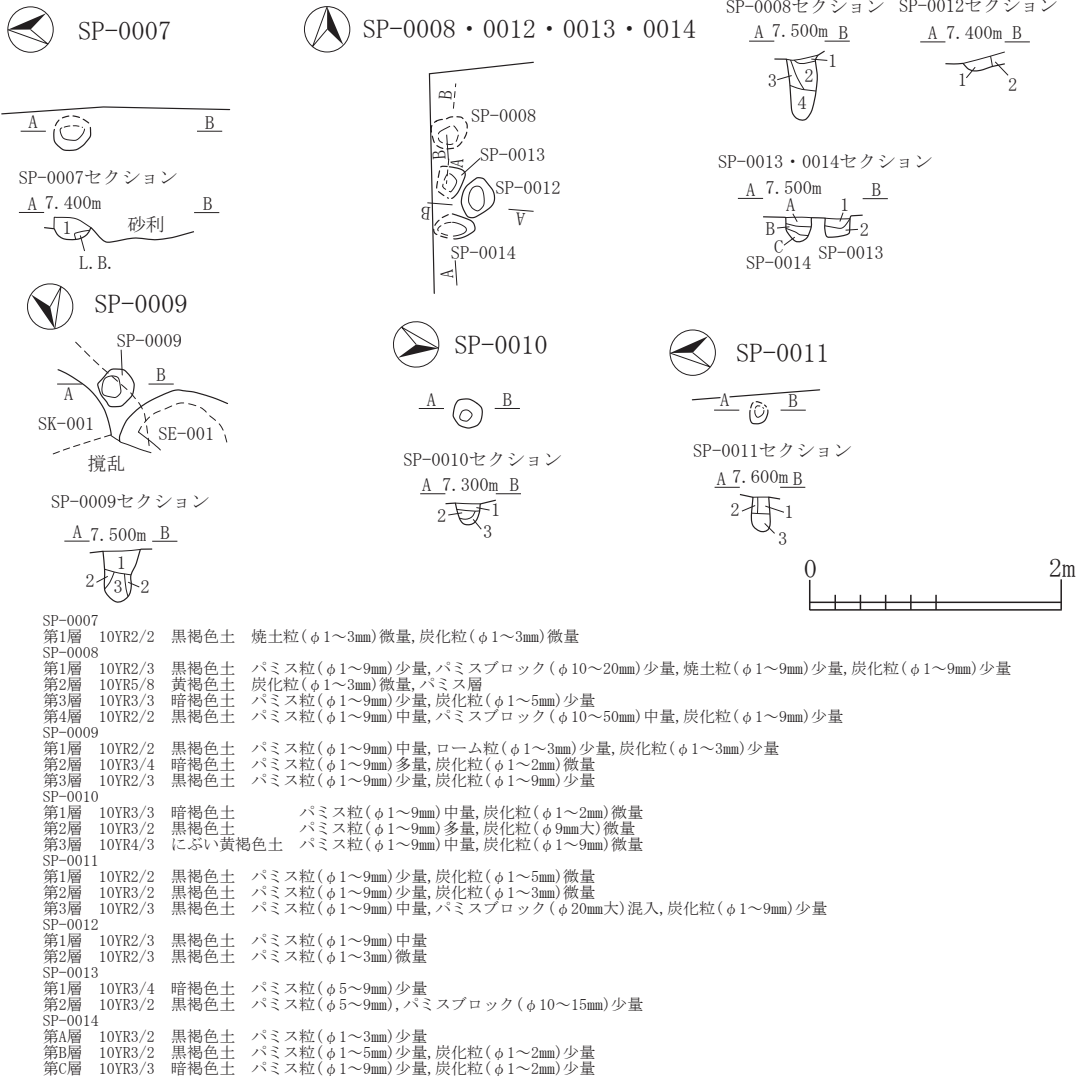


図1-91 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査G地点-2

SE-001 (図1-90)

攪乱により東側が破壊されているが、検出部分(不整楕円形)を呈し、108×(102)×(130)cmを測る。開発で掘削が及ぶ深さが限定されたのと調査時間の限定(撤去→立木の設置)により、検出面から130cmの深さで調査を留めているため、最終的な深さや断面形が不明であるが、掘削部分最下層で1mのピンポールを刺しきる深さであったため、2m以上の井戸跡であることが考えられる。堆積土は掘削部分で9層に分層し、ローム・バミス・焼土粒・炭化物などを含む埋め戻しに伴う堆積である。

ピット (図1-91)

調査区内から8基検出した。他の調査区同様遺構観察表内に集約したが、SP-0008・0009・0011等確認面からでもある程度の深さを持ち柱穴として機能したと考えられる堆積状況であるピットが見られる。

8. H地点

下水道1工区No. 2の地点と試験坑の部分の2地点をH地点とした。

SE-01 (図1-93)

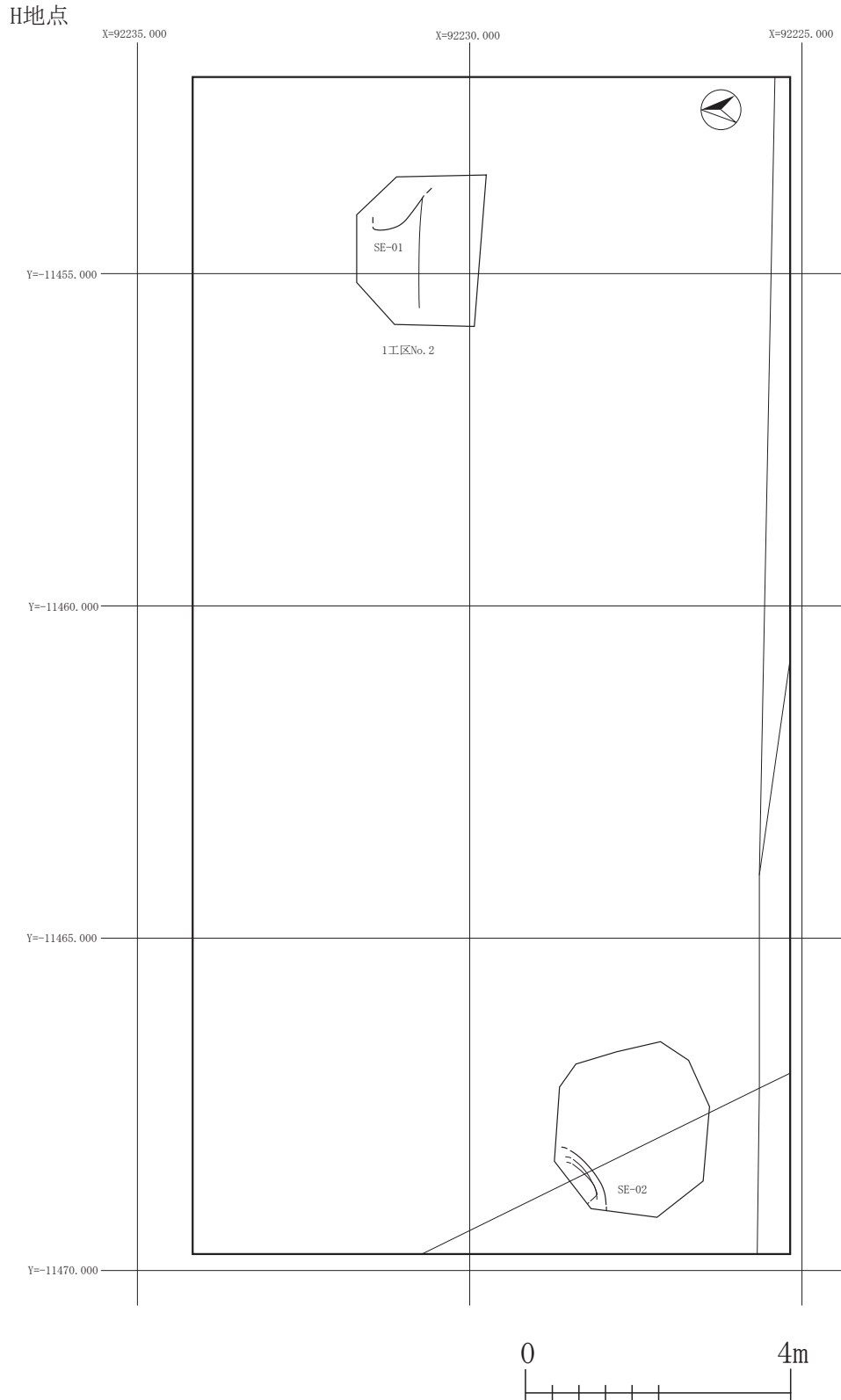
下水道1工区No. 2の推進坑から部分的に検出した。検出部分の規模は(110)×(58)×30cmを測る。部分的な検出で、ケーシングの管際から検出したため、詳細は不明である。

SE-02 (図1-93)

SE-01同様ケーシング管の壁際から検出した。検出部分の規模は(123)×(31)×76cmを測る。断面形は袋状を呈しており、壁上部は開き気味に立ち上がる。堆積状況は自然堆積を呈し、底面直上から自然礫が出土した。

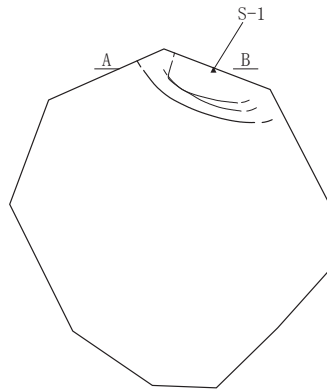
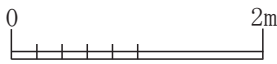
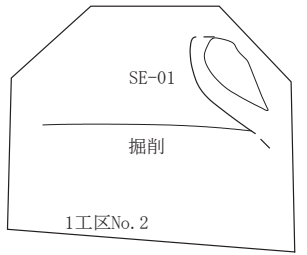
H地点遺構外出土遺物 (図1-93)

土師器椀底部と甕口縁部の2点を図示した。

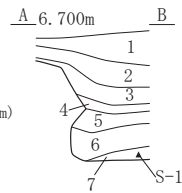


Ⅲ-2
新田(1)・(2)
遺跡

図 1-92 新田(1)・(2) 遺跡試掘・確認調査H地点遺構配置図



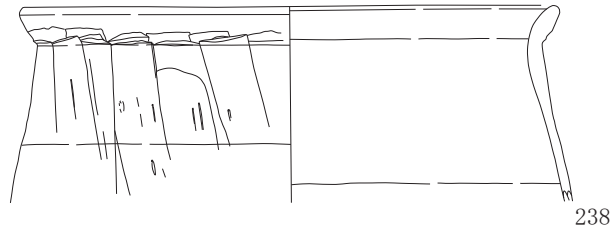
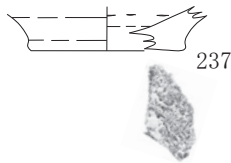
SE-02セクション



層	土質	特徴
第1層	10YR4/1 褐灰色土	ローム粒・ブロック(φ2~20mm)少量,炭化粒(φ2~5mm)微量,焼土粒(φ2~5mm)微量
第2層	10YR3/3 暗褐色土	赤味が強い,パミス粒・ブロック(φ2~20mm)中量,炭化粒・炭化物(φ5~30mm)層下側に層状に中量混入,焼土粒(φ2~5mm)少量,焼土ブロック(φ10~30mm)微量
第3層	10YR4/4 褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~40mm)多量,炭化粒・炭化物(φ2~15mm)微量,焼土粒(φ2~4mm)微量
第4層	10YR3/4 暗褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~15mm)少量,炭化粒(φ1~5mm)微量,焼土粒(φ1~5mm)微量
第5層	10YR1.7/1 黒色土	パミス粒・ブロック(φ1~10mm)微量,焼土粒(φ2~5mm)微量
第6層	10YR3/4 暗褐色土	パミス粒・ブロック(φ1~20mm)中量,炭化粒(φ2~6mm)微量
第7層	10YR1.7/1 黒色土	パミス粒・ブロック(φ1~20mm)微量

H地点遺構外出土遺物

1工区No.2



I地点遺構外出土遺物

1工区No.3

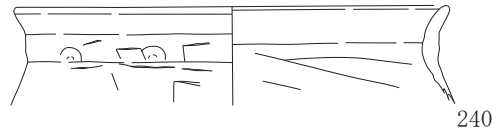
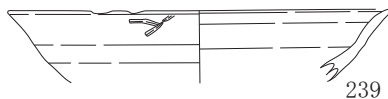


図 1-93 新田(1)・(2)遺跡試掘・確認調査H地点-1, I地点出土遺物

9. I地点

下水道1工区No.3に相当する。検出遺構はなく、遺物の出土のみであった。

I地点遺構外出土遺物(図1-93)

3点図示した。239は土師器碗の口縁部資料で、口径15.0cmを測る。浅身で、開き気味に立ち上がる器形で、内面口唇端部~外面にかけ黒斑状に黒色化している。また口唇端部の一部は打欠が生じている。全般的に摩滅が顕著である。240は

土師器甕で口径17.0cmを測る。内面頸部に煮炊痕があり、対応する外面の口縁部側も付着物が顕著で茶褐色気味の色調を呈している。また、外面の頸部と体部との境界部は浅い鏝状に隆起している。241は土師器甕の底部資料で、底径6.8cmを測る。碎片のため詳細は不明であるが、底面は編物痕(網代痕)が観察される。

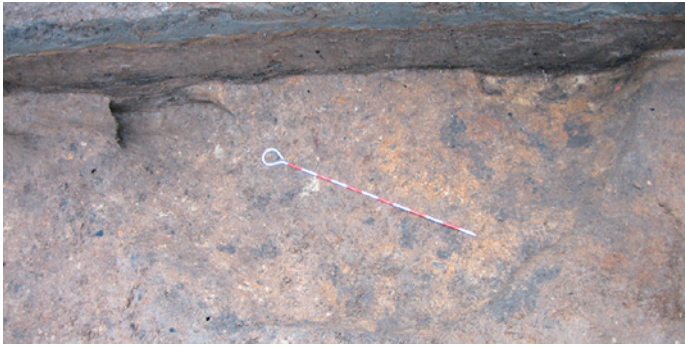


写真1-54 A地点SI-1完掘(E→)



写真1-55 A地点07B_SK-1セクション(W→)



写真1-56 A地点SK-4・07B_SP-24セクション(W→)

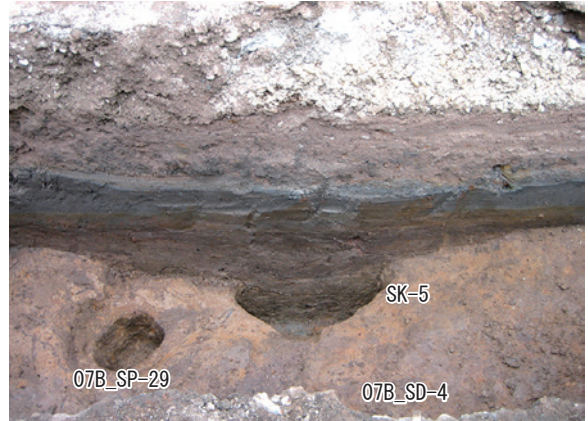


写真1-57 A地点SK-5, 07B_SD-4, 07B_SP-29完掘(W→)



写真1-58 A地点07B_SX-1付近完掘(S→)



写真1-59 A地点SK-3付近完掘(N→)



写真1-60 A地点SD-6・7付近完掘(S→)



写真1-61 B地点06_SK-02セクション(S→)



写真1-62 B地点トレンチ19(S→)



写真1-63 C地点SK-02セクション(NW→)

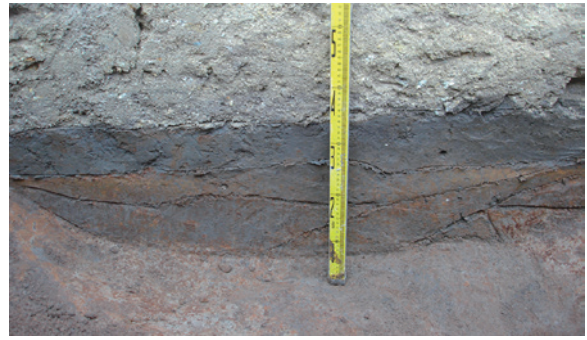


写真1-64 C地点SD-02セクション(S→)

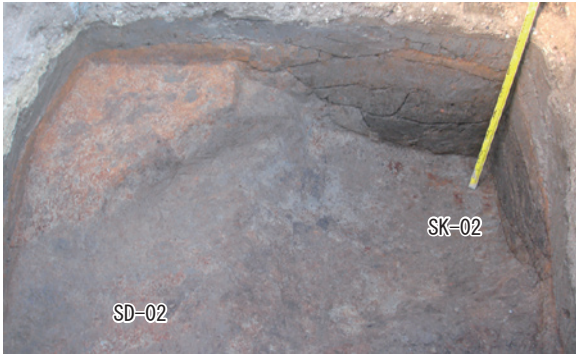


写真1-65 C地点SK-02・SD-02完掘(W→)



写真1-66 C地点トレンチ2作業風景(W→)

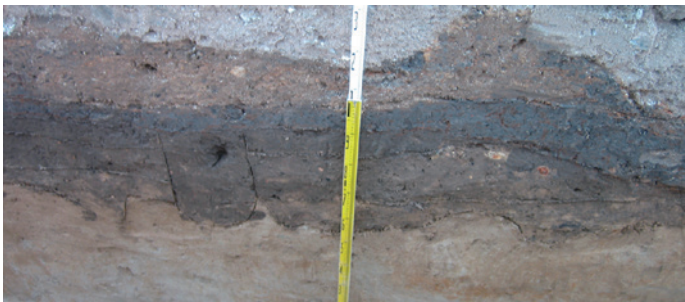


写真1-67 D地点SI-01検出状況(S→)



写真1-68 D地点06_SP-01セクション(N→)



写真1-69 D地点06_SD-01, 06_SP-01・02完掘(S→)



写真1-70 D地点SD-01セクション(S→)

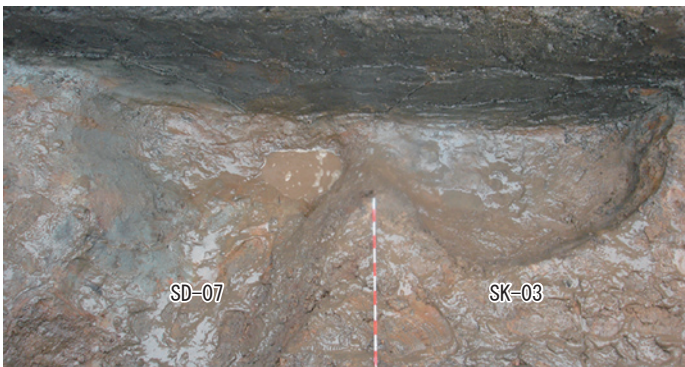


写真1-71 E地点SK-03, SD-07完掘(S→)



写真1-72 E地点06_SE-01セクション(S→)



写真1-73 E地点06_SE-01完掘(S→)

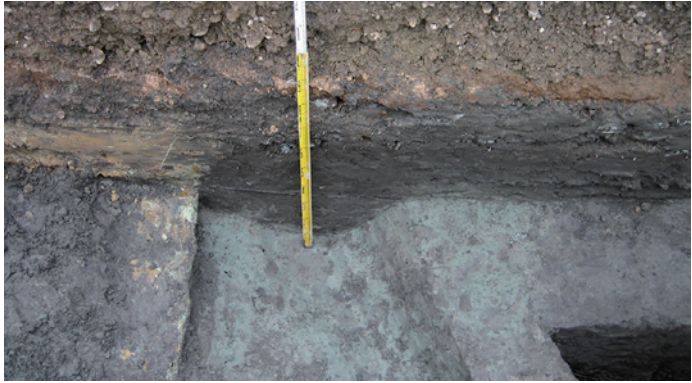


写真1-74 E地点SD-06セクション(S→)



写真1-75 E地点SN-01セクション(NW→)



写真1-76 E地点SN-01焼土検出状況(S→)



写真1-77 F地点07A_SK-2セクション(N→)



写真1-78 F地点SX-3セクション・完掘(S→)



写真1-79 F地点SX-5セクション(N→)



写真1-80 F地点SX-8セクション(NW→)



写真1-81 F地点07A_SP-8
セクション(S→)



写真1-82 F地点07A_SP-12
セクション(N→)

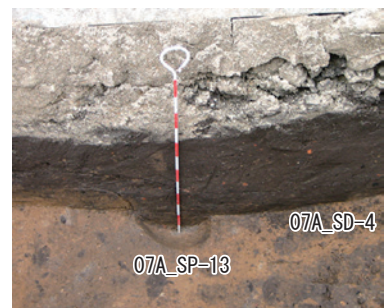


写真1-83 F地点07A_SP-13, 07A_SD-4
セクション(N→)

Ⅲ-2
遺構写真



写真1-84 F地点07A_SD-1・2・3セクション(E→)



写真1-85 F地点07A_SD-2完掘(E→)



写真1-86 F地点07A_SD-4完掘(N→)



写真1-87 F地点07A_SD-5西側セクション(N→)



写真1-88 G地点SE-002セクション(E→)



写真1-89 G地点SE-002完掘(E→)



写真1-90 H地点SE-01検出状況(SW→)



写真1-91 H地点SE-02セクション(SE→)

A地点

SI-1



07B_SK-1



07B_SX-1



07B_SP-4

07B_SP-7

07B_SP-12

07B_SP-15



07B_SP-25



SP-38



07B_SD-1



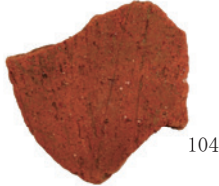
07B_SD-2



07B_SP-24



07B_SD-3



07B_SD-5



07B_SD-6



A地点遺構外出土遺物

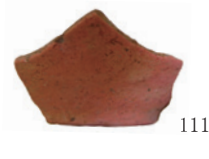


写真 1-92 出土遺物 -1

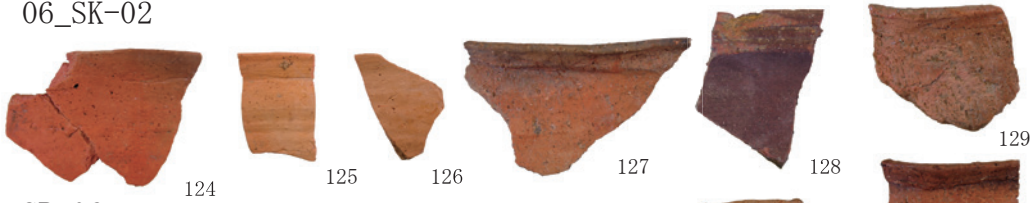
III-2
遺物写真

B地点

06_SK-01

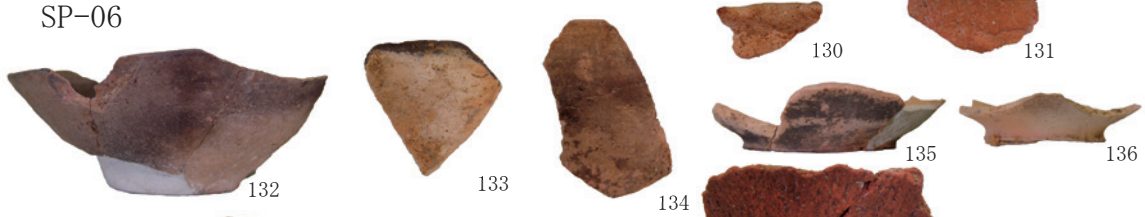


06_SK-02

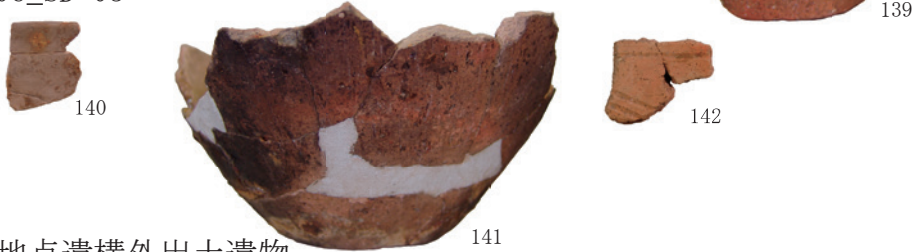


SX-01

SP-06



06_SD-03

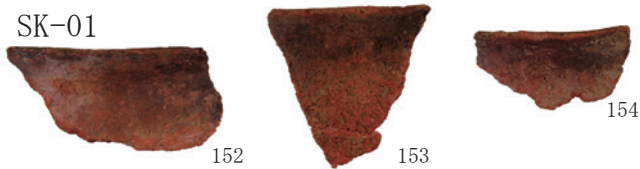


B地点遺構外出土遺物



C地点

SK-01



SD-02



06_SD-02



写真 1-93 出土遺物 -2

Ⅲ-2
遺物写真

C地点遺構外出土遺物



D地点

SI-01

SD-01

06_SD-01



D地点遺構外出土遺物



E地点

06_SE-01

06_SE-02

SK-03



SN-01

SD-06

E地点遺構外出土遺物



F地点

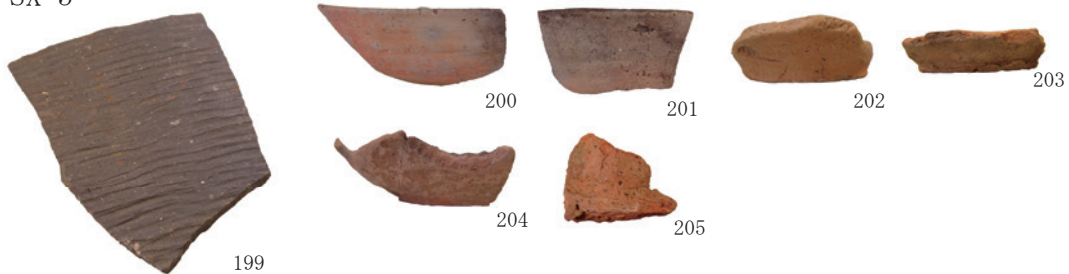
07A_SK-2

07A_SX-1

SX-3



SX-5



III-2
遺物写真

SX-7



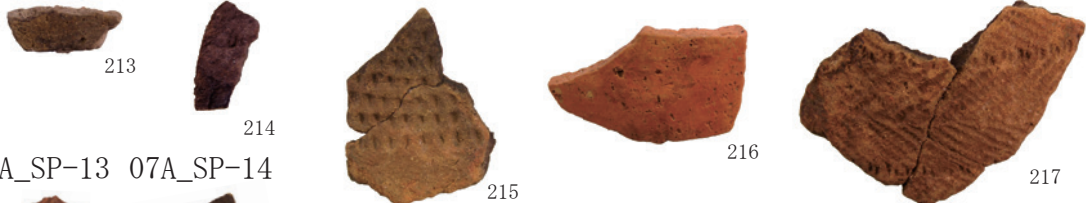
07A_SP-4

07A_SP-5

07A_SP-6

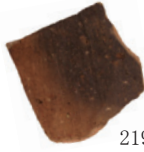
07A_SP-7

07A_SP-8



07A_SP-13

07A_SP-14



SD-001

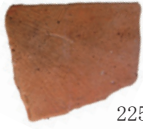
SD-002

SD-05

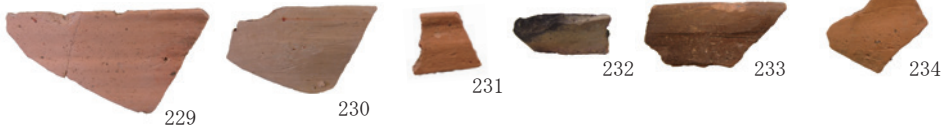


07A_SD-3

07A_SD-4



F地点遺構外出土遺物



G地点

SK-001



H地点

H地点遺構外出土遺物



I地点

I地点遺構外出土遺物



Ⅲ-2
遺物写真

表 1-32 新田 (2) 遺跡 SI 観察表

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複(ピット以外)	関連ピット	規模(cm)			床面積(m ²)	主軸方位	平面形	断面形	カマド	土坑	ピット	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ								
1-59	SI-1	A	92178.501	-11759.532	SI-1<07B_SD-1		(183)	(159)	21	(1.520)	-	不整形円形	開き気味に立ち上がる部分と垂直に近い形で立ち上がる部分がある。	-	-	-	
1-75	SI-01	D	92230.962	-11666.522			530	110	-	(2.339)	-	-	-	-	-	-	確認のみ

表 1-33 新田 (1)・(2) 遺跡 SK 観察表

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-68	06_SK-01	B	92232.345	-11719.701	SP-06	SP-06<06_SK-01	126	(96)	26	楕円形	鏡底形	調査時SK-01
1-68	06_SK-02	B	92230.132	-11739.185			(77)	(68)	50	不整形	箱形	調査時SK-02
1-72	SK-01	C	92231.811	-11692.795			(60)	(54)	16	不整形	鏡底形	
1-72	SK-02	C	92231.478	-11689.549	SD-02	SK-02<SD-02	(90)	130	46	不整形円形	段状に立ち上がる。	
1-78	SK-03	E	92231.380	-11608.451	SD-07	SK-03<SD-07	(86)	(68)	38	不整形円形	鏡底形	
1-81	07A_SK-1	F	92227.560	-11565.212	07A_SK-2, 07A_SP-1	07A_SK-2<07A_SK-1<07A_SP-1	(100)	(90)	50	(不整形)	鏡底形	調査時SK-1, 07A_SK-1と関連した可能性有。
1-81	07A_SK-2	F	92227.388	-11565.979	07A_SK-1, 07A_SP-1	07A_SK-2<07A_SK-1<07A_SP-1	(60)	(26)	47	小判形状	開き気味に立ち上がる。	調査時SK-2
1-81	SK-161	F	92219.647	-11571.848			(92)	(23)	17	不整形長方形	垂直に近い形で立ち上がる。	調査時SK-001
1-90	SK-001	G	92222.144	-11544.002			149	136	38	不整形円形	袋状	SE-001・SP-009とは直接干渉しない。
1-60	07B_SK-1	A	92184.776	-11758.145	07B_SP-10	07B_SK-1<07B_SP-10	(101)	(50)	27	不整形円形	鏡底形	調査時SK-1
1-60	07B_SK-2	A	92186.833	-11758.761			(69)	58	34	小判形	柱穴状	調査時SK-2
1-60	SK-3	A	92201.572	-11757.426	07B_SP-28	SK-3<07B_SP-28	118	80	6	不整形円形	垂直に近い形で立ち上がる。	
1-60	SK-4	A	92199.876	-11757.047	07B_SP-24	SK-4<07B_SP-24	(68)	71	14	不整形長方形	鏡底形	
1-60	SK-5	A	92205.727	-11756.541	07B_SD-4	SK-5<07B_SD-4	(92)	(36)	54	不整形円形	垂直に近い形で立ち上がる。	

表 1-34 新田 (1)・(2) 遺跡 SE 観察表

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-93	SE-01	H	92231.348	-11454.069			(110)	(58)	30	(不整形円形)	円筒形に近い形状	
1-93	SE-02	H	92229.028	-11524.095			(123)	(31)	76	(不整形円形)	袋状	
1-77	06_SE-01	E	92231.255	-11586.449			88	86	133	不整形円形	円筒形に近い形状	調査時SE-01
1-77	06_SE-02	E	92231.338	-11606.542	SP-30・31	06_SE-02<SP-30・31	(196)	(93)	63	隅丸方形	鏡底形	調査時SE-02, 実質的に土坑
1-90	SE-001	G	92222.610	-11545.409			108	(102)	(130)	(不整形円形)	円筒形に近い形状	破壊部分まで掘削を中止

表 1-35 新田 (2) 遺跡 SN 観察表

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-78	SN-01	E	92231.327	-11598.962	SP-33	SN-01<SP-33	90	61	14	不整形長方形	緩やかに立ち上がる。	テラス状の浅い段有

表 1-36 新田 (1)・(2) 遺跡 SX 観察表

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-67	SX-01	B	92232.520	-11734.424			(423)	(110)	-	不整形	-	確認のみ
1-81	07A_SX-1	F	92227.499	-11562.555			(276)	(57)	45	溝状	開き気味に立ち上がる。	調査時SX-1, 07A_SX-1と関連した可能性有。
1-81	SX-2	F	92228.480	-11577.708			(140)	(23)	26	詳細不明	垂直に近い形で立ち上がる。	SX-5と関連か
1-81	SX-3	F	92228.484	-11580.025			246	(36)	34	隅丸長方形	開き気味に立ち上がる。	SD-5と同一遺構の可能性有。
1-82	SX-4	F	92227.288	-11581.362	07A_SP-3	SX-4<07A_SP-3	(280)	(23)	21	溝状	凹凸のある底面。壁は不明瞭。	SX-5と関連か
1-82	SX-5	F	92227.454	-11578.117			(443)	(45)	100	溝状	緩やかに立ち上がる。	SX-2・4と関連か
1-83	SX-7	F	92253.240	-11569.685	07A_SP-4~10	07A_SP-5・6<SX-7<07A_SP-4・7~10	140	100	44	詳細不明	緩やかに立ち上がる。	中央は既設水運管理施設(調査前)に破壊。
1-83	SX-8	F	92228.837	-11570.628			(76)	(32)	82	(小判形)	柱穴状	
1-83	SX-121	F	92223.578	-11572.535	SP-3107	SX-121<SP-3107	(79)	(43)	18	(円形)	皿形	調査時SX-001
1-60	07B_SX-1	A	92196.028	-11757.675	07B_SP-13~15・17~20・22・23	07B_SP-14・22<07B_SX-1~07B_SP-13・15・17~20・23	(701)	(138)	10	不整形	凹凸のある底面。壁は不明瞭。	調査時SX-1

表 1-37 新田 (1)・(2) 遺跡 SP 観察表

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-73	SP-01	C	92231.810	-11693.723			34	25	17	e	d	
1-75	SP-02	D	92231.526	-11648.247			28	15	6	e	g	
1-75	SP-03	D	92231.913	-11649.352			48	37	13	e	d	
1-75	06_SP-01	D	92230.866	-11659.714			69	(27)	37	(e)	e	調査時SP-01
1-75	06_SP-02	D	92230.819	-11661.354			66	15	13	(e)	e	調査時SP-02
1-73	06_SP-03	C	92231.645	-11676.053			31	(26)	10	e	h	調査時SP-03
1-73	SP-04	C	92231.051	-11677.976			43	33	11	f	d	
1-73	SP-05	C	92231.543	-11678.929			36	35	7	e	h	
1-69	SP-06	B	92309.702	-11478.050	06_SK-01, SP-07	SP-06<06_SK-01, SP-07	(88)	75	21	e	h	溝状の掘り込み
1-69	SP-07	B	92309.925	-11477.686	SP-06	SP-06<SP-07	21	(12)	26	e	g	
1-69	SP-08	B	92230.048	-11740.502			18	15	4	c	d	
1-69	SP-09	B	92226.691	-11747.913			101	53	42	e	x	
1-69	SP-10	B	92226.133	-11748.401			45	30	18	e	d	
1-69	SP-11	B	92225.695	-11749.198			86	44	19	e	d	
1-69	SP-12	B	92219.930	-11754.426			54	33	38	e	e	
1-69	SP-13	B	92217.704	-11755.342			42	27	20	e	h	
1-69	SP-14	B	92217.029	-11755.123			29	(12)	61	(e)	j	
1-69	SP-15	B	92216.139	-11755.637			28	25	20	e	h	
1-69	SP-16	B	92220.307	-11753.007			39	27	37	e	h	
1-79	SP-17	E	92231.199	-11620.669			48	47	-	e	-	確認のみ
1-79	SP-18	E	92230.774	-11619.145			52	(31)	33	e	d	
1-79	SP-19	E	92231.637	-11618.549			28	25	12	e	d	
1-69	SP-20	B	92218.690	-11752.914			36	(13)	28	(e)	h	
1-69	SP-21	B	92218.163	-11753.049			43	(12)	30	(e)	h	
1-69	SP-22	B	92218.078	-11753.369			31	29	10	e	h	
1-69	SP-23	B	92215.040	-11753.489			30	28	19	f	g	
1-79	SP-24	E	92229.669	-11606.939			(28)	23	36	g	a	

図版番号	遺構番号	分割枠	位置		重複	新旧関係	規模(cm)			平面形	断面形	備考
			X	Y			長軸	短軸	深さ			
1-79	SP-25	E	92230.646	-11611.825			43	(20)	45	(e)	a	
1-79	SP-26	E	92231.655	-11613.935			21	(8)	24	x	(h)	
1-79	SP-27	E	92231.176	-11610.196			20	14	17	e	a	
1-79	SP-28	E	92231.184	-11607.745			15	10	23	e	h	
1-79	SP-29	E	92230.980	-11607.289			30	25	40	e	d	
1-79	SP-30	E	92230.845	-11606.915	06_SE-02	SP-30>06_SE-02	20	17	11	c	a	
1-79	SP-31	E	92231.159	-11606.246	06_SE-02	SP-31>06_SE-02	24	22	22	c	a	
1-79	SP-32	E	92231.031	-11599.816			29	28	19	e	e	
1-79	SP-33	E	92231.264	-11598.618	SN-01	SP-33>SN-01	21	18	18	e	h	
1-69	SP-34	B	92230.072	-11744.019			80	20	15	x	(d)	
1-81	07A_SP-1	F	92227.613	-11565.357	07A_SK-1,07A_SK-2	07A_SK-2<07A_SK-1<07A_SP-1	50	32	27	e	a	調査時SP-1
1-85	07A_SP-3	F	92227.283	-11580.749			42	(6)	34	x	i	調査時SP-3
1-85	07A_SP-4	F	92252.628	-11569.890	SX-7	07A_SP-4>SX-7	27	24	45	e	h	調査時SP-4
1-85	07A_SP-5	F	92252.659	-11568.909	SX-7	07A_SP-5<SX-7	56	(24)	25	x	h	調査時SP-5
1-85	07A_SP-6	F	92253.680	-11569.514	SX-7	07A_SP-6<SX-7	42	(18)	33	(e)	c	調査時SP-6
1-85	07A_SP-7	F	92253.856	-11570.089	SX-7	07A_SP-7>SX-7	(20)	(14)	24	x	(c)	調査時SP-7
1-85	07A_SP-8	F	92253.828	-11569.285	SX-7	07A_SP-8>SX-7	21	12	26	(e)	c	調査時SP-8
1-85	07A_SP-9	F	92252.561	-11569.613	SX-7	07A_SP-9>SX-7	18	16	9	e	h	調査時SP-9
1-85	07A_SP-10	F	92252.573	-11569.390	SX-7	07A_SP-10>SX-7	21	12	6	e	h	調査時SP-10
1-85	07A_SP-11	F	92227.287	-11571.755			16	12	25	c	h	調査時SP-11
1-86	07A_SP-12	F	92227.688	-11573.364			39	30	21	e	e	調査時SP-12
1-86	07A_SP-13	F	92227.332	-11573.478	07A_SD-4	07A_SP-13<07A_SD-4	21	(10)	8	(e)	h	調査時SP-13
1-86	07A_SP-14	F	92227.472	-11573.302			(43)	30	13	e	d	調査時SP-14
1-86	07A_SP-15	F	92225.599	-11570.927	07A_SD-5	07A_SP-15>07A_SD-5	22	17	12	e	d	調査時SP-15
1-81	SP-3101	F	92220.246	-11572.134			32	(22)	36	(e)	h	
1-86	SP-3102	F	92222.026	-11572.509			20	18	6	f	h	
1-86	SP-3103	F	92221.361	-11572.315			(24)	20	4	e	h	
1-86	SP-3104	F	92221.519	-11572.539			53	43	24	e	j	
1-86	SP-3105	F	92222.211	-11572.152			44	(22)	17	(e)	f	
1-86	SP-3106	F	92223.097	-11572.505			26	23	8	e	d	
1-86	SP-3107	F	92223.599	-11572.575	SX-121	SP-3107>SX-121	19	17	14	e	h	
1-86	SP-0001	F	92219.223	-11566.635			35	(24)	31	e	g	
1-87	SP-0002	F	92220.497	-11566.534	SD-002	SP-0002>SD-002	61	(31)	36	(a)	d	
1-87	SP-0003	F	92221.457	-11566.476	SD-002	SP-0003>SD-002	21	20	-	-	-	
1-87	SP-0004	F	92221.431	-11566.353	SD-002	SP-0004>SD-002	22	(10)	-	x	-	
1-87	SP-0005	F	92221.034	-11566.569	SD-002	SP-0005>SD-002	33	(14)	-	x	-	
1-87	SP-0006	F	92221.233	-11566.538	SD-002	SP-0006>SD-002	(15)	14	-	x	-	
1-91	SP-0007	G	92223.823	-11543.197			29	(27)	17	e	h	
1-91	SP-0008	G	92224.859	-11545.762			28	25	49	x	h	
1-91	SP-0009	G	92221.982	-11544.910			30	29	40	e	h	
1-91	SP-0010	G	92224.490	-11543.838			23	22	17	h	h	
1-91	SP-0011	G	92224.555	-11543.199			(17)	14	28	(e)	h	
1-91	SP-0012	G	92223.958	-11545.587			33	22	8	e	(d)	
1-91	SP-0013	G	92224.088	-11545.790			26	(21)	14	(e)	a	
1-91	SP-0014	G	92223.714	-11545.765			(33)	19	19	(e)	h	
1-62	07B_SP-1	A	92175.311	-11759.035			24	20	7	e	h	調査時SP-1
1-62	07B_SP-2	A	92177.457	-11758.625	07B_SD-1	SP-2>07B_SD-1	29	(9)	13	(e)	h	
1-62	07B_SP-3	A	92180.003	-11758.805			16	15	6	e	h	調査時SP-3
1-62	07B_SP-4	A	92182.586	-11758.628			24	21	11	f	d	調査時SP-4
1-62	07B_SP-5	A	92182.357	-11758.457			24	17	15	c	d	調査時SP-5
1-62	07B_SP-6	A	92182.088	-11758.360	07B_SD-2,07B_SP-7	07B_SP-7>07B_SP-6>07B_SD-2	16	(13)	9	(c)	(h)	調査時SP-6
1-62	07B_SP-7	A	92181.965	-11758.479	07B_SD-2,07B_SP-6	07B_SP-7>07B_SP-6,07B_SD-2	22	17	22	e	b	調査時SP-7
1-62	07B_SP-8	A	92182.282	-11758.770	07B_SD-2	07B_SP-8<07B_SD-2	26	19	9	f	d	調査時SP-8
1-62	07B_SP-9	A	92182.128	-11758.558	07B_SD-2	07B_SP-9>07B_SD-2	23	16	9	f	h	調査時SP-9
1-62	07B_SP-10	A	92184.846	-11758.315	07B_SK-1	07B_SK-1<07B_SP-10	28	17	11	e	h	調査時SP-10
1-62	07B_SP-11	A	92190.848	-11757.655	07B_SD-3	07B_SP-11>07B_SD-3	19	18	8	e	h	調査時SP-11
1-62	07B_SP-12	A	92189.821	-11758.012			46	39	26	e	e	調査時SP-12
1-63	07B_SP-13	A	92192.372	-11758.285	07B_SX-1	07B_SP-13≧07B_SX-1	25	24	17	e	d	調査時SP-13
1-63	07B_SP-14	A	92195.231	-11758.400	07B_SX-1	07B_SP-14>07B_SX-1	23	(11)	25	(e)	h	調査時SP-14
1-63	07B_SP-15	A	92194.337	-11757.193	07B_SX-1	07B_SP-15≧07B_SX-1	22	(11)	15	(e)	c	調査時SP-15
1-63	07B_SP-16	A	92192.376	-11758.289			25	23	9	e	h	調査時SP-16
1-63	07B_SP-17	A	92192.636	-11757.382	07B_SX-1	07B_SP-17≧07B_SX-1	25	(17)	12	(f)	g	調査時SP-17
1-63	07B_SP-18	A	92195.298	-11757.237	07B_SX-1	07B_SP-18≧07B_SX-1	38	36	9	e	x	調査時SP-18
1-63	07B_SP-19	A	92195.694	-11757.268	07B_SX-1	07B_SP-19≧07B_SX-1	43	40	34	e	c	調査時SP-19
1-63	07B_SP-20	A	92195.425	-11757.677	07B_SX-1	07B_SP-20≧07B_SX-1	48	45	33	e	h	調査時SP-20
1-63	07B_SP-21	A	92199.624	-11757.791			19	15	25	e	c	調査時SP-21
1-63	07B_SP-22	A	92199.109	-11757.637	07B_SX-1	07B_SP-22>07B_SX-1	31	30	9	e	h	調査時SP-22
1-63	07B_SP-23	A	92198.924	-11757.743	07B_SX-1	07B_SP-23≧07B_SX-1	27	(17)	12	e	h	調査時SP-23
1-63	07B_SP-24	A	92200.109	-11756.884	SK-4	SK-4<07B_SP-24	(28)	25	13	e	d	調査時SP-24
1-64	07B_SP-25	A	92200.603	-11757.276			21	18	44	e	h	調査時SP-25
1-64	07B_SP-26	A	92202.965	-11757.510			31	28	35	f	b	調査時SP-26
1-64	07B_SP-27	A	92201.903	-11756.761			23	19	8	e	h	調査時SP-27
1-64	07B_SP-28	A	92201.436	-11757.074	SK-3	SK-3<07B_SP-28	50	46	31	e	d	調査時SP-28
1-64	07B_SP-29	A	92206.538	-11756.663	07B_SD-4	07B_SP-29>07B_SD-4	34	30	27	f	h	調査時SP-29
1-64	07B_SP-30	A	92213.214	-11756.774			27	21	14	c	d	調査時SP-30
1-64	07B_SP-31	A	92211.883	-11756.435			34	29	11	e	d	調査時SP-31
1-64	07B_SP-32	A	92209.812	-11756.844	07B_SP-33	07B_SP-33>07B_SP-32	38	(22)	45	e	h	調査時SP-32
1-64	07B_SP-33	A	92210.023	-11756.924	07B_SP-32・34	07B_SP-33>07B_SP-32・34	42	39	19	e	h	調査時SP-33
1-64	07B_SP-34	A	92210.261	-11757.025	07B_SP-33	07B_SP-33>07B_SP-34	24	(19)	8	e	(h)	調査時SP-34
1-64	SP-35	A	92212.499	-11756.285			24	19	18	e	h	
1-64	SP-36	A	92212.645	-11756.567			19	16	15	e	h	
1-64	SP-37	A	92210.253	-11756.580			28	26	10	c	d	
1-64	SP-38	A	92209.970	-11756.404	SP-39	SP-38<SP-39	(31)	29	36	e	j	
1-64	SP-39	A	92209.812	-11756.170	SP-38	SP-38<SP-39	30	28	23	f	g	

Ⅲ-2
遺構観察表

表 1-38 新田(1)・(2) 遺跡 SD 観察表

図版番号	遺構番号	分割種	位置	規模 (cm)			断面形	重複(溝関係のみ)	新旧関係(溝関係のみ)	備考
				幅	長さ	深さ				
1-76	SD-01	D	X 92231.991, Y -11648.762	100	110	19	緩やかに立ち上がる。			
1-72	SD-02	C	X 92232.356, Y -11689.933	(148)	58	23	開き気味に立ち上がる。			
1-76	06_SD-01	D	X 92231.259, Y -11660.337	74	140	16	緩やかに立ち上がる。			調査時SD-01
1-73	06_SD-02	C	X 92231.421, Y -11683.289	660	106	36	開き気味に立ち上がる。			調査時SD-02
1-70	06_SD-03	B	X 92232.478, Y -11725.821	101	200	26	垂直に近い形で立ち上がる。			部分的な精査 調査時SD-03
1-76	SD-04	D	X 92231.522, Y -11635.432	80	70	-	-			確認面のみ
1-87	SD-05	F	92229.700, Y -11579.489	(230)	(95)	53	緩やかに立ち上がる。			
1-79	SD-06	E	X 92231.149, Y -11587.525	94	105	28	段状に立ち上がる。			
1-78	SD-07	E	X 92231.131, Y -11609.484	106	124	38	開き気味に立ち上がる。			
1-87	SD-001	F	X 92217.157, Y -11566.490	197	62	-	-			確認面のみ
1-87	SD-002	F	X 92221.022, Y -11566.446	50	(34)	19	-			平面図のみ
1-87	07A_SD-1	F	X 92229.570, Y -11575.540	(45)	(103)	24	-	07A_SD-2	07A_SD-1<07A_SD-2	調査時SD-1
1-87	07A_SD-2	F	X 92229.552, Y -11576.276	(54)	(110)	16	開き気味に立ち上がる。	07A_SD-1	07A_SD-1<07A_SD-2	調査時SD-2
1-87	07A_SD-3	F	X 92229.874, Y -11576.405	(78)	(183)	16	-	07A_SD-2	07A_SD-3<07A_SD-2	調査時SD-3
1-88	07A_SD-4	F	X 92227.622, Y -11574.113	(140)	(114)	38	緩やかに立ち上がる。			調査時SD-4 Pit1:47×27×27cm
1-88	07A_SD-5	F	X 92225.568, Y -11572.421	(250)	(126)	53	箱形			調査時SD-5
1-65	07B_SD-1	A	X 92177.451, Y -11759.242	228	(144)	42	箱形			調査時SD-1
1-65	07B_SD-2	A	X 92182.382, Y -11758.947	(114)	22	16	垂直に近い形で立ち上がる。			調査時SD-2
1-65	07B_SD-3	A	X 92190.820, Y -11757.797	(46)	19	10	段状に立ち上がる。			調査時SD-3
1-65	07B_SD-4	A	X 92206.115, Y -11756.730	(114)	113	34	皿形。壁は緩やかに立ち上がる。			調査時SD-4
1-66	07B_SD-5	A	X 92213.535, Y -11756.303	(153)	40	11	浅い箱形			調査時SD-5
1-66	SD-6	A	X 92208.530, Y -11757.029	(133)	39	30	U字形に直立気味	SD-7	SD-6<SD-7	
1-66	SD-7	A	X 92208.738, Y -11756.672	(133)	22	11	皿形。壁は緩やかに立ち上がる。	SD-6	SD-6<SD-7	

表 1-39 新田(1)・(2) 遺跡土器観察表

図版	No.	地名	年度	出土 地区	遺跡名	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	残存率		色調外	色調内	焼成	硝	骨	非	外部調整	内部調整	底部調整	備考	整理番号	実測番号		
														口縁部	底部														
1-59	083	A	06	下水遺跡2	新田(2)	SI-1	5層P-X	土師器	椀	口縁~体部	14.2	-	-	1.3/12	-	7.5YR8/6	10YR8/4	良	微	微	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱有、煤付着、内面煤付着	N2-1147		
1-59	084	A	07	下水遺跡2	新田(2)	SI-1	5層P-2・X	土師器	椀	口縁~体部	17.0	-	-	3.0/12	-	10YR7/4	7.5YR7/6	良	無	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有、内面粗土付着・付着物有	N6039		
1-59	085	A	06	下水遺跡2	新田(2)	SI-1	5層P-X	土師器	椀	口縁~体部	14.6	-	-	0.8/12	-	10YR8/4	10YR8/4	良	-	微	微	打欠	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面・炭化物付着、内面二次被熱有、煤・炭化物付着	N2-1148		
1-59	086	A	07	下水遺跡2	新田(2)	SI-1	覆土P-X	土師器	椀	体~底部	-	-	5.0	-	12/12	7.5YR6/6	2.5Y5/1	並	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面スス・粘土付着・付着物有、内面付着物・二次被熱・黒斑・刺書有、底面付着物・黒斑有	N6040		
1-59	087	A	07	下水遺跡2	新田(2)	SI-1	5層P-1	土師器	甕	口縁~体部	18.2	-	-	1.0/12	-	10YR7/3	10YR5/2	良	無	少	微	微	ナデ/ハラ	ナデ/ハラ	-	内外面炭化物・スス付着	N6038		
1-60	088	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SK-1	1層P-X	土師器	椀	体部	-	-	-	-	-	5YR7/4	10YR7/2	並	-	微	-	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-		N2-1149	
1-61	089	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SX-1	確認面P-X	縄文	甕	口縁~体部	-	-	-	0.9/12	-	7.5YR6/4	7.5YR6/4	並	微	中	無	少	ナデ	ナデ	-	外面二次被熱有、内面二次被熱・黒斑有	A305		
1-61	090	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SX-1	確認面P-X	縄文	甕	体部	-	-	-	-	-	7.5YR6/6	5YR6/6	並	無	少	無	微	ナデ	ナデ	-	内外面ピッチ付着	A306		
1-61	091	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SX-1	確認面P-X	縄文	甕	口縁~体部	24.2	-	-	1.0/12	-	5YR6/6	10YR6/3	良	微	中	微	少	ナデ	ナデ	-	外面付着物有、内面スス付着・付着物・炭化物・刺書有	A304		
1-61	092	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SX-1	覆土P-X	縄文	甕	体部	-	-	-	-	-	10YR7/3	10YR7/3	並	微	少	少	微	ハラメ	ハラメ	-	外面付着物・黒斑有、煤付着、内面付着物・黒斑有	N2-1150		
1-61	093	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SX-1	確認面P-X	縄文	甕	体部~底部	-	-	8.8	-	3.7/12	7.5YR6/4	N3/0	並	微	少	無	微	ハラメ	ハラミガキ	-	外面スス付着、内面黒色地埋	A307-1+ A307-2		
1-62	094	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SP-4	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	5YR6/6	5YR6/6	並	微	少	微	微	ハラ	ナデ	-	外面二次被熱有、炭化物付着、内面煤付着	N2-1158		
1-62	095	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SP-7	A層P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	10YR8/4	10YR8/4	良	-	少	微	少	ハラ	ハラナデ	-	外・内面二次被熱有	N2-1159		
1-62	096	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SP-12	覆土P-X	土師器	小壺	体部	-	-	-	-	-	5YR7/6	7.5YR6/6	並	-	微	-	微	ハラ	ナデ	-	内面煤付着	N2-1160		
1-63	097	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SP-15	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	10YR8/4	7.5YR7/4	良	-	微	-	微	ハラ	ナデ	-	外面付着物有、内面刺書	N2-1151		
1-63	098	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SP-24	覆土P-X	土師器	椀	体~底部	-	-	6.0	-	0.5/12	7.5YR7/6	7.5YR7/6	良	-	微	-	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外・内面煤・炭化物付着	N2-1161	
1-64	099	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SP-25	覆土P-X	土師器	椀	体部	-	-	-	-	-	2.5Y7/2	10YR8/4	並	-	少	-	少	ナデ	ナデ	-	外面使用痕跡	N2-1162		
1-64	100	A	07	下水遺跡2	新田(2)	SP-38	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	2.5YR6/8	10YR6/2	並	-	微	-	微	ハラ	ナデ	-	内面煤付着	N2-1163		
1-65	101	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SD-1	6層P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	10YR7/4	7.5YR6/4	並	少	少	-	微	ハラ	ハラ	-	内面二次被熱有	N2-1152		
1-65	102	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SD-2	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	7.5YR6/4	5YR6/6	並	微	少	-	少	ハラ	ナデ	-	外・内面炭化物付着	N2-1153		
1-65	104	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SD-3	1層P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	2.5YR6/8	2.5YR6/8	並	微	中	微	少	ハラ	ハラ	-	内面付着物有 ※N2-1157と同一個体	N2-1155		
1-66	105	A	07	下水遺跡2	新田(2)	07B_SD-5	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	7.5YR7/6	10YR8/4	並	微	少	-	少	ハラ	ナデ	-		N2-1156		
1-66	106	A	07	下水遺跡2	新田(2)	SD-6	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	-	5YR6/6	2.5YR6/8	並	-	少	微	少	ハラ	ナデ	-	※N2-1155と同一個体	N2-1157		
1-66	107	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	覆土P-X	土師器	椀	口縁~底部	15.2	6.2	6.4	3.5/12	1.0/12	7.5YR6/4	7.5Y5/4	並	微	少	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	禁止条	内外面付着物・黒斑有	N6041	
1-66	108	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	椀	口縁~体部	14.2	-	-	1.0/12	-	7.5YR5/4	10YR7/3	並	-	微	-	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面黒斑有、内面黒斑・付着物有	N2-1167	
1-66	109	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	椀	口縁~体部	14.4	-	-	0.7/12	-	10YR8/4	10YR8/4	並	-	微	微	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱有、煤・炭化物付着、内面付着物有、煤・炭化物付着	N2-1168	
1-66	110	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	椀	体~底部	-	-	6.0	-	5.8/12	10YR7/4	10YR5/2	良	-	微	-	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有	N2-1166	
1-66	111	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	椀	体~底部	-	-	5.6	-	3.5/12	5YR7/6	10YR8/4	良	-	微	-	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱有、内面二次被熱有、煤付着	N2-1170	
1-66	112	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	椀	体~底部	-	-	6.0	-	6.0/12	10YR7/4	10YR7/3	並	微	少	微	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱有、煤・炭化物付着、内面煤・炭化物付着	N2-1171	
1-66	113	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	甕	口縁~体部	23.6	-	-	1.0/12	-	7.5YR7/6	7.5YR7/4	並	微	少	無	少	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面付着物有	N6043		
1-66	114	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	甕	口縁~体部	17.2	-	-	0.3/12	-	7.5YR8/4	7.5YR4/3	並	-	微	微	微	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面付着物有	N2-1165	
1-66	115	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	甕	口縁	18.0	-	-	0.7/12	-	7.5YR8/4	10YR8/4	並	微	少	微	少	-	ナデ	ナデ	-	外面煤付着、内面付着物有	N2-1169	
1-66	116	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	包含層P-X	土師器	甕	口縁~体部	17.0	-	-	0.4/12	-	10YR8/4	10YR8/4	並	微	微	-	微	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面指頭圧痕有	N2-1164	
1-66	117	A	07	下水遺跡2	新田(2)	トレンチ	覆土P-X	土師器	把手付	体部	-	-	-	-	-	7.5YR6/4	7.5YR6/4	並											

石江遺跡群発掘調査報告書Ⅶ 第1分冊 石江遺跡群調査概要編2, 中間(6)遺跡編, 試掘・確認調査編

図版	No.	地点名	年度	出土 地区	遺跡名	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	残存率 口縁部 底部	色調外面	色調内面	焼成	磁	砂	骨	灰	口部	外面調整	内面調整	底部調整	備考	整理番号	実測番号			
1-68	124	B	06	上水道	新田(2)	06_SK-02	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	15.6	-	-	1.3/12	-	2.5YR8/6	5YR6/6	良	無	微	中	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面炭化物・ビッチ 付着・内面炭化物付 着物有	-	№6014	-	
1-68	125	B	06	上水道	新田(2)	06_SK-02	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	14.2	-	-	0.7/12	-	7.5YR8/6	7.5YR7/4	良	-	微	微	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面炭化物・ビッチ 付着・内面炭化物付 着物有	0003-1	N2-1112	-	
1-68	126	B	06	上水道	新田(2)	06_SK-02	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	-	-	-	-	-	7.5YR7/4	7.5YR7/4	良	-	微	微	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面炭化物・ビッチ 付着・内面炭化物付 着物有	0003-2	N2-1113	-	
1-68	127	B	06	上水道	新田(2)	06_SK-02	覆土P-X	土師器	甕	口縁～体部	20.4	-	-	1.8/12	-	5YR6/6	10YR6/3	良	微	中	微	少	-	ナデ/ハラ	ナデ/ハラ	-	外面炭化物・ビッチ 付着・内面炭化物付 着物有	-	№6015	-	
1-68	128	B	06	上水道	新田(2)	SX-01	覆土P-X	須恵器	甕	口縁部	-	-	-	-	-	10YR5/1	N4/0	良	-	微	微	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面炭化物・ビッチ 付着・内面炭化物付 着物有	0011-6	N2-1121	-	
1-68	129	B	06	上水道	新田(2)	SX-01	覆土P-X	土師器	甕	口縁～体部	17.4	-	-	1.1/12	-	5YR6/6	7.5YR7/4	並	微	中	微	微	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面付着物有・割 離・内面付着物・煮 炊痕有	-	№6017	-	
1-68	130	B	06	上水道	新田(2)	SX-01	覆土P-X	土師器	甕	口縁～体部	15.6	-	-	1.0/12	-	7.5YR7/6	10YR7/4	並	-	少	微	少	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面付着物有・内 面付着物有・炭化物 付着	0012-3	N2-1122	-	
1-68	131	B	06	上水道	新田(2)	SX-01	覆土P-X	土師器	小壺	口縁～体部	12.6	-	-	1.7/12	-	5YR5/6	5YR5/6	良	無	少	無	微	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面スス付着・割 離・内面炭化物 付着	-	№6018	-	
1-69	132	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	椀	口縁～底部	14.4	5.0	6.0	3.3/12	1.2/12	10YR6/2	10YR7/3	並	微	微	少	少	打欠	回転ナデ/ハ ナデ	ナデ/ハラ ミガキ	静止糸切	外面炭化物・スス付 着・付着物・割離 有・剥落・内面炭化 物・スス付着・付着 物有・一部破片に乃 物痕	-	№6023	-	
1-69	133	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	14.0	-	-	1.1/12	-	10YR8/4	10YR8/3	並	-	少	-	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面黒斑・付着物 有・内面黒斑有・煤 付着	0024-5	N2-1134	-	
1-69	134	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	14.0	-	-	0.3/12	-	7.5YR5/4	7.5YR6/4	やや 不良	-	少	微	微	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱有・付 着物有・炭化物付 着・割離・内面煤・炭 化物付着	0024-6	N2-1135	-
1-69	135	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	6.0	-	8.0/12	7.5YR7/4	7.5YR8/4	並	微	少	無	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	外面二次被熱有・内 面二次被熱・付着物 有	№6024	-		
1-69	136	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	4.8	-	12/12	10YR8/3	10YR8/3	良	無	微	無	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	外面付着物・付着物 有・内面付着物有・ 底面粘土付着	№6025	-		
1-69	137	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	4.8	-	6.0/12	2.5YR5/4	5YR6/4	やや 不良	無	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	静止糸切	外面炭化物・粘土付 着・二次被熱有・割 離・内面炭化物付 着・二次被熱・割 離・底面炭化物付 着・二次被熱	№6026	-		
1-69	138	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	甕	口縁～体部	14.6	-	-	1.5/12	-	2.5YR5/8	5YR6/6	並	微	少	微	微	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面指頭圧痕有・内 面二次被熱	№6027	-		
1-69	139	B	06	上水道	新田(2)	SP-06	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	6.4	-	6.0/12	5YR5/6	5YR5/4	並	少	中	微	少	-	ハラ	ナデ	ハラ	外面二次被熱有・付 着物・炭化物付着・ 内面二次被熱有・炭 化物付着	0024-45, 46	N2-1136	-	
1-70	140	B	06	上水道	新田(2)	06_SD-03	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	13.4	-	-	0.8/12	-	10YR6/2	2.5YR6/1	並	-	微	少	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有・内 面割離	№6028	-		
1-70	141	B	06	上水道	新田(2)	06_SD-03	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	8.8	-	12/12	10YR5/3	10YR7/3	並	微	少	微	微	-	ハラ	ナデ	ハラ	外面炭化物・スス付 着・付着物・炭化物 付着・二次被熱・付 着物・底面炭化物付 着・付着物有	№6022	-		
1-70	142	B	06	上水道	新田(2)	06_SD-03	覆土P-X	縄文	甕	体部	-	-	-	-	-	10YR7/4	7.5YR7/4	良	微	少	微	少	-	沈線	ナデ	-	外面付着物有・内 面炭化物・スス付 着	0020-1,16	N2-1128	-	
1-70	143	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ4	包含層P-X	土師器	椀	口縁～体部	14.8	-	-	1.5/12	-	5YR7/6	5YR7/6	並	微	少	微	少	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有・内 面炭化物・スス付 着	№6028	-		
1-70	144	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ4	包含層P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	5.2	-	5.6/12	10YR7/4	2.5YR6/6	良	無	微	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	外面二次被熱有・打 欠痕	№6029	-		
1-70	145	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ4	包含層P-X	土師器	甕	口縁～体部	17.6	-	-	0.9/12	-	7.5YR7/6	7.5YR7/6	並	少	多	-	少	-	ナデ	ナデ	-	外面付着物有・内 面付着物有・炭化 物付着	№6029	-		
1-70	146	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ13	包含層P-X	土師器	椀	口縁～体部	-	-	-	-	-	5YR6/6	7.5YR7/6	並	-	少	-	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	内面煤付着	0038-3	N2-1142	-	
1-70	147	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ9	包含層P-X	土師器	椀	口縁～体部	12.6	-	-	1.3/12	-	10YR7/4	2.5Y4/1	良	-	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有・通 底付着・内面付着物 有・炭化物付着	0040-1	N2-1143	-	
1-70	148	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ9	包含層P-X	土師器	椀	口縁～体部	12.8	-	-	1.5/12	-	7.5YR6/6	10YR4/1	良	-	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有・内 面付着物有・炭化 物付着	0040-2	N2-1144	-	
1-70	149	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ9	包含層P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	5.2	-	12/12	10YR8/4	10YR8/4	並	微	少	無	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	外面粘土付着・打 欠痕	№6031	-		
1-70	150	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ9	包含層P-X	土師器	甕	口縁～体部	17.8	-	-	0.3/12	-	7.5YR7/6	7.5YR7/6	並	-	微	微	少	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面白色付着物有 ・内面二次被熱有・ 煤付着	0040-7	N2-1145	-	
1-70	151	B	06	上水道	新田(2)	トレンチ9	包含層P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	7.2	-	6.0/12	5YR6/6	5YR6/6	良	微	少	少	少	-	ハラ	ナデ	編物痕	外面二次被熱有・ 煤・炭化物付着	0040-18	N2-1146	-	
1-72	152	C	06	上水道	新田(2)	SK-01	覆土P-X	土師器	甕	口縁～体部	16.0	-	-	1.3/12	-	2.5YR5/6	5YR4/4	並	微	少	無	微	-	ナデ/ハラ	ナデ/ハラ	-	外面スス付着・白 色付着物有・内面 スス・粘土付着	-	№6012	-	
1-72	153	C	06	上水道	新田(2)	SK-01	覆土P-X	土師器	小壺	口縁～体部	13.6	-	-	1.8/12	-	7.5YR5/3	7.5YR4/2	並	微	中	微	微	-	磨滅	ナデ	-	外面スス付着・二 次被熱・内面スス 付着・二次被熱・付 着物有	-	№6011	-	
1-72	154	C	06	上水道	新田(2)	SK-01	覆土P-X	土師器	小壺	口縁～体部	13.2	-	-	1.8/12	-	5YR5/3	5YR4/3	並	無	中	無	微	-	ハラ	ナデ/ハラ	-	外面炭化物付着・付 着物有・割離・内 面炭化物付着	-	№6013	-	
1-72	155	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	須恵器	鉢	口縁～体部	12.8	-	-	1.0/12	-	5Y4/1	5Y4/1	良	-	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面付着物有・内 面炭化物・スス付 着	0003-52	N2-1102	-	
1-72	156	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	須恵器	甕	体部	-	-	-	-	-	N3/0	N5/0	良	微	少	-	微	-	タタキ目	ナデ	-	外面付着物有・内 面炭化物・スス付 着	0003-54	N2-1103	-	
1-72	157	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	14.4	-	-	1.7/12	-	7.5YR6/6	7.5YR7/6	並	無	微	無	少	-	ナデ	ナデ	-	外面付着物有・内 面炭化物・スス付 着	№6007	-		
1-72	158	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	14.2	-	-	2.0/12	-	7.5YR7/6	7.5YR7/4	並	無	微	微	中	-	ロクロナデ	ロクロナデ +ハラ	-	外面付着物有・内 面炭化物・スス付 着	№6009	-		
1-72	159	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	土師器	小壺	口縁～体部	10.0	-	-	1.8/12	-	10YR7/4	5YR6/6	良	無	微	無	少	-	ハラミガキ	ハラミガキ	-	外面二次被熱有・内 面炭化物付着・付 着物・二次被熱	№6008	-		
1-72	160	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	5.6	-	3.0/12	7.5YR7/4	7.5YR7/4	並	-	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	外面付着物有	0003-17	N2-1101	-	
1-72	161	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	土師器	椀	体部～底部	-	-	6.4	-	3.6/12	5YR7/6	5YR6/6	並	微	微	微	微	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	内外面付着物有・底 面粘土付着・付着 物有	-	№6010	-	
1-72	162	C	05	下水道 2工区 No.2	新田(2)	SD-02	覆土P-X	土師器	甕	口縁～体部	18.6	-	-	1.2/12	-	7.5YR7/4	7.5YR7/6	良	微	少	微	微	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	内外面二次被熱有	-	№6006	-	
1-73	163	C	06	上水道	新田(2)	06_SD-02	覆土P-X	土師器	椀	口縁～体部	11.0	4.5	4.0	4.5/12	2.5/12	7.5YR7/4	7.5YR7/4	並	微	微	少	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	内外面付着物有・磨 滅	-	№6019	-	
1-73	164	C	06	上水道	新田(2)	06_SD-02	覆土P-X	土師器	椀	体～底部	-	-	6.8	-	5.5/12	7.5YR7/4	7.5YR7/4	並	微	微	微	微	-	ロクロナデ +ハラ	ロクロナデ	右回転糸切	外面粘土・ビッチ・ 炭化物付着・指頭 圧痕有・内面炭化 物付着	№6020	-		
1-73	165	C	06	上水道																											

第三章 試掘・確認調査

図版	No.	地点名	年度	出土 地区	遺跡名	遺構名	層位	種別	器種	部位	口径 (cm)	器高 (cm)	口径 (cm)	残存率 口縁部	色面外面	色面内面	焼成	磁	砂	骨	漆	口唇	外面調整	内面調整	底部調整	備考	整理番号	実測番号	
1-76	180	D	06	上水道	新田(2)	06_SD-01	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	-	-	5.8	-	3.1/12	10YR7/4	10YR8/4	並	-	-	-	-	ナデ/ハラ	ナデ	陶物類	外面二次被熱、黒斑、付着物有。内面二次被熱、付着物有、割傷	0013-1	N2-1123	
1-76	181	D	06	上水道	新田(2)	トレンチ9	包含層P-X	土師器	甕	口縁～底部	-	-	-	-	7.5YR7/4	7.5YR8/6	並	-	-	-	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外、内面付着物有	0036-1	N2-1140		
1-78	182	E	06	上水道	新田(2)	SK-03	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	5YR6/6	5YR6/8	並	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	-	0004-1	N2-1114		
1-78	183	E	06	上水道	新田(2)	06_SE-01	下層P-X	須恵器	甕	体部	-	-	-	-	2.5Y6/1	N5/0	良	-	-	-	-	タタキ目	ナデ	-	外面煤付着 *N2-1119と同一個体	0007-12	N2-1115		
1-78	184	E	06	上水道	新田(2)	06_SE-01	底P-X	土師器	甕	口縁～底部	16.2	-	-	1.0/12	-	10YR5/3	10YR5/3	並	-	-	-	打欠	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面二次被熱有、内面二次被熱有、煤、炭化物付着	0008-1	N2-1116	
1-78	185	E	06	上水道	新田(2)	06_SE-02	覆土P-X	須恵器	甕	体部	-	-	-	-	2.5Y5/1	2.5Y5/1	良	-	-	-	-	タタキ目	ナデ	-	外、内面付着物有 *N2-1115と同一個体	0010-29	N2-1119		
1-78	186	E	06	上水道	新田(2)	06_SE-02	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.8	-	3.3/12	10YR8/4	2.5Y5/1	並	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	外面煤付着、指頭圧痕有	0010-8	N2-1117	
1-78	187	E	06	上水道	新田(2)	06_SE-02	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	13.4	4.3	4.0	1.3/12	5.0/12	10YR7/2	10YR7/3	並	-	-	-	-	ナデ/ハラ ミガキ	ナデ/ハラ ミガキ	-	外面二次被熱、付着物有、被熱炭、内面二次被熱、付着物有	-	Na6016	
1-78	188	E	06	上水道	新田(2)	06_SE-02	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	20.0	-	-	0.7/12	-	5YR5/4	5YR5/4	並	-	-	-	-	ナデ	ナデ/ハラ	-	外面煤、炭化物付着	0012-1	N2-1118	
1-78	189	E	06	上水道	新田(2)	SN-01	覆土	土師器	甕	体部	-	-	-	-	5YR6/4	5YR5/4	並	-	-	-	-	ナデ	ナデ/ハラ	-	外面色付着物有、内面炭化物付着	0012-2	N2-1120		
1-79	190	E	06	上水道	新田(2)	SD-06	覆土P-X	珠洲焼	壺	口縁～底部	32.4	-	-	0.6/12	-	N6/0	N1.5/0	良	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面炭化物付着	-	B301	
1-79	191	E	06	上水道	新田(2)	SD-06	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	13.8	-	-	0.5/12	-	10YR7/3	10YR7/3	並	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面炭化物付着	0022-1	N2-1133	
1-79	192	E	06	上水道	新田(2)	トレンチ12	包含層P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.6	-	3.3/12	10YR6/2	10YR7/3	並	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	外面スス、指痕付着、底面スス付着	-	Na6030	
1-79	193	E	06	上水道	新田(2)	トレンチ12	包含層P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	7.5YR6/4	7.5YR6/3	並	-	-	-	-	ハラ	ナデ	-	外面二次被熱有、割傷、内面二次被熱有	0037-4	N2-1141		
1-81	194	F	07	上水道	新田(1)	07A_SK-2	覆土P-X	縄文	深鉢	体～底部	-	-	-	-	2.5YR5/6	5YR5/4	並	-	-	-	-	刺突	ナデ	-	-	Na1006			
1-81	195	F	07	上水道	新田(1)	07A_SK-2	覆土P-X	縄文	浅鉢	口縁～底部	-	-	-	-	7.5YR7/6	7.5YR7/4	並	-	-	-	-	沈凝/	ナデ	-	-	Na1007			
1-82	196	F	07	上水道	新田(1)	07A_SK-1	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	18.0	-	-	0.7/12	-	5YR6/6	7.5YR7/6	良	-	-	-	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面二次被熱有、内面二次被熱有、炭化物付着	-	Na1017	
1-82	197	F	07	上水道	新田(1)	SK-3	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	7.5YR4/2	7.5YR5/3	並	-	-	-	-	ハラ	ハラ	-	外面煤、炭化物付着、内面付着物有	-	Na1018		
1-82	198	F	07	上水道	新田(1)	SK-3	扉部面P-X	陶磁器	鏡	体～高台部	-	-	8.2	-	0.3/12	10YR6/4	10Y7/1	良	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外、内面付着物有	-	Na1019	
1-82	199	F	07	上水道	新田(1)	SK-5	覆土P-X	須恵器	甕	体部	-	-	-	-	2.5Y5/1	5Y4/1	良	-	-	-	-	タタキ目	ハラ	-	外、内面付着物有	-	Na1022		
1-83	200	F	07	上水道	新田(2)	SK-5	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	13.2	-	-	2.3/12	-	10YR7/4	10YR7/4	並	-	-	-	-	打欠	ロクロナデ	ロクロナデ	外面炭化物付着、割傷、内面炭化物付着	-	Na6032	
1-83	201	F	07	上水道	新田(2)	SK-5	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	14.6	-	-	1.7/12	-	10YR6/2	2.5Y4/1	並	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	外面スス付着、二次被熱有、内面スス付着、付着物、白色付着物有	-	Na6033	
1-83	202	F	07	上水道	新田(2)	SK-5	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.6	-	5.1/12	7.5YR7/3	10YR6/2	並	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面スス付着、二次被熱有、打欠痕、内面スス、炭化物付着、底面炭化物付着	-	Na6034	
1-83	203	F	07	上水道	新田(2)	SK-5	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.4	-	7.5/12	7.5YR7/4	5YR7/6	並	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	右回転糸切	-	Na1021		
1-83	204	F	07	上水道	新田(2)	SK-5	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.8	-	4.0/12	5YR7/6	7.5YR7/6	並	-	-	-	-	ロクロナデ/ハラ	ロクロナデ	右回転糸切	-	Na1020		
1-84	206	F	07	上水道	新田(1)	SK-7北側	1層P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	7.5YR7/6	2.5Y3/1	並	-	-	-	-	刺突	ナデ	-	-	Na1029			
1-84	207	F	07	上水道	新田(1)	SK-7北側	7層P-X、9層P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	7.5YR5/6	7.5YR3/3	並	-	-	-	-	-	結束第一種 羽状	ミガキ	-	内面煤付着	-	Na1028	
1-84	208	F	07	上水道	新田(1)	SK-7北側	1層P-X	土師器	甕	口縁～底部	13.4	-	-	0.8/12	-	10YR7/4	7.5YR7/6	良	-	-	-	-	打欠	ロクロナデ	ロクロナデ	-	Na1030		
1-84	209	F	07	上水道	新田(1)	SK-7南側	5層P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	10YR7/6	7.5YR7/4	並	-	-	-	-	-	結束第一種 羽状	ナデ	-	-	Na1027		
1-84	210	F	07	上水道	新田(1)	SK-7南側	7層P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.2	2.0/12	-	5YR5/4	5YR5/4	並	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切	-	Na1026		
1-84	211	F	07	上水道	新田(1)	SK-7南側	7層P-X	土師器	小壺	体部	-	-	-	-	7.5YR7/4	7.5YR7/4	良	-	-	-	-	ナデ/ハラ	ナデ	-	外面二次被熱有、炭化物付着、内面二次被熱有、煤、炭化物付着	-	Na1025		
1-84	212	F	07	上水道	新田(1)	SK-7南側	7層P-X	縄文	甕	体部	-	-	-	-	5YR6/6	10YR4/2	並	-	-	-	-	沈凝/刺突	ナデ	-	-	Na1024			
1-85	213	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-4	4層P-X	土師器	甕	底部	-	-	-	-	10YR4/2	2.5YR2	並	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	内面付着物有	-	Na1031	
1-85	214	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-5	あ層P-X	縄文	深鉢	口縁～底部	-	-	-	-	10YR5/3	10YR4/3	並	-	-	-	-	-	ループ文	ナデ	-	外面煤付着	-	Na1032	
1-85	215	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-6	あ層P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	10YR4/3	5YR5/6	良	-	-	-	-	-	刺突	ミガキ	-	外面煤、炭化物付着、二次被熱有、内面煤付着	-	Na1033	
1-85	216	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-7	1層P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	5YR6/8	5YR6/8	良	-	-	-	-	-	ハラ	ハラ	-	外面炭化物付着、内面煤、炭化物付着	-	Na1034	
1-85	217	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-8	2層P-X	縄文	深鉢	体部	-	-	-	-	7.5YR5/4	7.5YR4/1	並	-	-	-	-	-	結束第一種 羽状	ナデ	-	外面二次被熱有、煤、炭化物付着、内面煤付着	-	Na1035	
1-86	218	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-13	覆土P-X	土師器	甕?	体部	-	-	-	-	5YR4/4	7.5YR5/3	並	-	-	-	-	-	刺突?	ナデ	-	-	Na1036		
1-86	219	F	07	上水道	新田(1)	07A_SP-14	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	7.5YR5/4	7.5YR5/4	良	-	-	-	-	-	ハラ	ハラ	-	外面黒斑有、内面煤付着	-	Na1037	
1-87	220	F	07	上水道 西側	新田(1)	SD-001	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	5YR5/6	5YR4/3	並	-	-	-	-	-	ハラ	ハラ	-	外面二次被熱有、煤、炭化物付着、割傷	-	Na1008	
1-87	221	F	07	上水道 西側	新田(1)	SD-002	覆土P-X	土師器	甕	体部	-	-	-	-	5YR5/4	7.5YR7/4	並	-	-	-	-	-	ナデ	ナデ	-	外面二次被熱有、炭化物付着	-	Na1009	
1-87	222	F	06	上水道	新田(2)	SD-05	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	5.8	-	2.3/12	10YR7/3	10YR8/4	良	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面二次被熱有、付着物有、内面付着物有	0021-6	N2-1132	
1-87	223	F	06	上水道	新田(2)	SD-05	覆土P-X	縄文	甕	口縁～底部	-	-	-	-	7.5YR7/6	2.5YR5/6	並	-	-	-	-	-	沈凝	-	-	0021-2	N2-1131		
1-87	224	F	06	上水道	新田(2)	SD-05	覆土P-X	縄文	甕	口縁～底部	23.0	-	-	1.0/12	-	7.5YR4/2	7.5YR5/3	良	-	-	-	-	沈凝/ナデ ハラ	ナデ/ハラ ミガキ	-	外、内面煤、炭化物付着	0021-1	N2-1130	
1-87	225	F	07	上水道	新田(1)	07A_SD-3	覆土P-X	縄文	甕	体部	-	-	-	-	5YR6/6	5YR7/8	良	-	-	-	-	-	ハラ	ナデ	-	外、内面炭化物付着	-	Na1010	
1-88	226	F	07	上水道	新田(1)	07A_SD-4	覆土P-X	土師器	甕	口縁～底部	12.2	-	-	1.4/12	-	7.5YR6/3	7.5YR7/4	良	-	-	-	-	打欠	ロクロナデ	ロクロナデ	-	外面煤、炭化物付着	-	Na1011
1-88	227	F	07	上水道	新田(1)	07A_SD-4	覆土P-X	土師器	甕	体～底部	-	-	6.6	3.7/12	-	7.5YR6/4	10YR6/3	良	-	-	-	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	内面炭化物付着	-	Na1012
1-88	228	F	07	上水道	新田(2)	07A_SD-4	覆土P-X	土師器	小壺	把手部	-																		

表 1-40 新田(2)遺跡土製品観察表

図版	番号	製品名	地点名	年度	出土位置	遺構名	層位	遺物番号	法量			重量(g)	備考	番号	実測者番号
									長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)				
1-65	103	粘土甕	A	07	下水道掘2	07B_SD-2	覆土	CL-X	38.0	30.0	22.0	22.0	被熱部有	N2-1154	あ-1346
1-73	169	用途不明	C	06	水道区	06_SD-02	土層	C-X	62.0	60.0	43.0	56.4		N2-1125	あ-1345
1-76	177	粘土甕	D	05	下水道2-1区No.3	SD-01	覆土	P-X	28.0	20.0	12.0	4.1		N2-1104	あ-1343
1-76	178	粘土甕	D	05	下水道2-1区No.3	SD-01	覆土	P-X	53.0	38.0	24.0	23.4		N2-1105	あ-1344
1-83	205	支脚	F	07	水道試掘	SX-5	覆土	P-X	37.0	49.0	32.0	29.3		NI-1023	あ-1342

報告書抄録

ふりがな	いしえいせきぐんはつくつちようさほうこくしよなな	いしえいせきぐんちようさがいようへんに、たかまかつころくいせきへん、しくつ・かくにんちようさへん
書名	石江遺跡群発掘調査報告書Ⅶ	石江遺跡群調査概要編2, 高間(6)遺跡編, 試掘・確認調査編
副書名	石江土地区画整理事業に伴う発掘調査	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書	
シリーズ番号	第116集-1	
編著者名	木村淳一	
編集機関	青森市教育委員会	
所在地	〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号 TEL017-761-4796	
発行年月日	西暦2014年2月28日	

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系 (JGD2000)		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
たかまかつころくいせき 高間(6)遺跡	あおもりけん あおもりし おおあざ いしえ 青森県青森市大字石江 字高間121ほか	02201	01075	40° 49' 44"	140° 41' 42"	※1	17,644 (全体面積 48,488㎡)	土地区画 整理事業
たかまかつこいちせき 高間(1)遺跡	あおもりけん あおもりし おおあざ いしえ 青森県青森市大字石江 あざたかま 字高間104-31ほか	02201	01070	40° 49' 48"	140° 41' 33"	※2	812	
にったかつこいちせき 新田(1)遺跡	あおもりけん あおもりし おおあざ にった 青森県青森市大字新田 あざしのぶ 字忍42-7ほか	02201	01078	40° 49' 59"	140° 41' 33"	※3	175	
にったかつこいちせき 新田(2)遺跡	あおもりけん あおもりし おおあざ にった 青森県青森市大字新田 あざしのぶ 字忍42-11ほか	02201	01080	40° 49' 59"	140° 41' 32"	※4	314	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高間(6)遺跡	散布地	縄文時代 弥生時代 平安時代 近世 近・現代	堅穴遺構 5基 土坑 64基 焼土状遺構・炉跡 4基 ピット 117基 溝状土坑(Tピット) 3基 溝跡 5条	縄文土器・石器・ 弥生土器・土師器・ 陶磁器・木製品・ 土製品・金属製品	
高間(1)遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 平安時代 中世・近世 近・現代	堅穴建物跡 1軒 土坑 2基 ピット 20基 溝跡 5条	土師器	
新田(1)遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代 中世・近世 近・現代	土坑 3基 井戸跡 3基 ピット 11基 溝跡 1条	土師器	
新田(2)遺跡	集落跡	縄文時代 平安時代 中世・近世 近・現代	堅穴遺構 2軒 土坑 12基 井戸跡 2基 ピット 108基 溝跡 22条	縄文土器・須恵器・ 土師器・陶磁器・ 土製品	

要約	<p>青森市西部に所在する石江遺跡群のうち、平成20～25年度にかけての調査概要、高間(6)遺跡、試掘・確認調査の調査成果について所収した。</p> <p>高間(6)遺跡は新城(新田)川の右岸標高4.5～9.5mの丘陵上に位置する。北側に高間(1)遺跡が隣接している。発掘調査は、土地区画整理事業施工地内48,488㎡を対象に実施し、試掘先行で17,644㎡を調査した。調査区内からは縄文時代のフラスコ状土坑・溝状土坑(Tピット)、平安時代の土坑、詳細時期不明の溝跡などを検出し、縄文土器・石器、弥生土器、土師器・須恵器・土製品、漆器・木製品、近現代の陶磁器などが出土した。試掘・確認調査については土地区画整理事業に伴う上下水道工事に関する調査を所収した。高間(1)遺跡、新田(1)遺跡、新田(2)遺跡に該当し、断片的な調査ながら、既報告分の土地区画整理事業の成果と連動する内容であった。</p>
----	--

調査期間

- ※1 (第一次)20050729～1028、(第二次)20060614～1116、(第三次)20071121～1129、(第四次)20080423～0620、(第五次)20090716～1005、(第六次)20100514～1013、(第七次)20130717～0809
- ※2 (第一次)20061201～1213、(第二次)20060625～0725、(第三次)20081104～1112
- ※3 (第一次)20050927～1101、(第二次)20061127、(第三次)20070711～0904
- ※4 (第一次)20050927～1102、(第二次)20061102～1128、(第三次)20070606～0830

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

<p>青森市の文化財 1 1962 『三内壺岡遺跡調査概報』</p> <p>” 2 1965 『四ツ石遺跡調査概報』</p> <p>” 3 1967 『玉清水遺跡調査概報』</p> <p>” 4 1970 『三内丸山遺跡調査概報』</p> <p>” 5 1971 『野木和遺跡調査報告書』</p> <p>” 6 1971 『玉清水Ⅲ遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 7 1971 『大浦遺跡調査報告書』</p> <p>” 8 1973 『孫内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>1979 『蛭沢遺跡』</p> <p>1983 『四戸橋遺跡調査報告書』</p> <p>青森市の埋蔵文化財 1983 『山野峠遺跡』</p> <p>1985 『長森遺跡発掘調査報告書』</p> <p>1986 『田茂木野遺跡発掘調査報告書』</p> <p>1987 『横内城跡発掘調査報告書』</p> <p>1988 『三内丸山Ⅰ遺跡発掘調査報告書』</p> <p>青森市埋蔵文化財調査報告書</p> <p>” 第16集 1991 『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第17集 1992 『埋蔵文化財出土物調査報告書』</p> <p>” 第18集 1993 『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第19集 1993 『市内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第20集 1993 『小牧野遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第21集 1994 『市内遺跡詳細分布調査報告書』</p> <p>” 第22集 1994 『小三内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第23集 1994 『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第24集 1995 『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第25集 1995 『市内遺跡詳細分布調査報告書』</p> <p>” 第26集 1995 『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第27集 1996 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第28集 1996 『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第29集 1996 『市内遺跡詳細分布調査報告書』</p> <p>” 第30集 1996 『小牧野遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第31集 1997 『市内遺跡詳細分布調査報告書』</p> <p>” 第32集 1997 『桜峯(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』</p> <p>” 第33集 1997 『新町野遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第34集 1997 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第35集 1997 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅱ』</p> <p>” 第36集 1998 『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第37集 1998 『新町野遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第38集 1998 『野木遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第39集 1998 『市内遺跡詳細分布調査報告書』</p> <p>” 第40集 1998 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』</p> <p>” 第41集 1998 『野木遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第42集 1998 『熊沢遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第43集 1999 『市内遺跡詳細分布調査報告書』</p> <p>” 第44集 1999 『葛野(2)遺跡発掘調査報告書Ⅱ』</p> <p>” 第45集 1999 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』</p> <p>” 第46集 1999 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第47集 1999 『稲山遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第48集 2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第49集 2000 『稲山遺跡発掘調査概報Ⅱ』</p> <p>” 第50集 2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅴ』</p> <p>” 第51集 2000 『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第52集 2000 『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』</p> <p>” 第53集 2000 『市内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第54集 2001 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅱ・野木遺跡発掘調査報告書Ⅱ』</p> <p>” 第55集 2001 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅵ』</p> <p>” 第56集 2001 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅰ』</p> <p>” 第57集 2001 『稲山遺跡発掘調査概報Ⅲ』</p> <p>” 第58集 2001 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報Ⅱ』</p> <p>” 第59集 2001 『市内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第60集 2002 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅶ』</p>	<p>青森市埋蔵文化財調査報告書</p> <p>” 第61集 2002 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第62集 2002 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅱ』</p> <p>” 第63集 2002 『稲山遺跡発掘調査概報Ⅳ』</p> <p>” 第64集 2002 『市内遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第65集 2003 『雲谷山吹(4)～(7)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第66集 2003 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅲ』</p> <p>” 第67集 2003 『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第68集 2003 『近野遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第69集 2003 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第70集 2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第71集 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅳ』</p> <p>” 第72集 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書Ⅴ』</p> <p>” 第73集 2004 『新町野遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第74集 2004 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第75集 2004 『江渡遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第76集 2005 『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第77集 2005 『赤坂遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第78集 2005 『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第79集 2005 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第80集 2005 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』</p> <p>” 第81集 2005 『石江遺跡群発掘調査概報』</p> <p>” 第82集 2006 『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第83集 2006 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報Ⅱ』</p> <p>” 第84集 2006 『新町野遺跡発掘調査概報Ⅱ』</p> <p>” 第85集 2006 『小牧野遺跡発掘調査報告書Ⅸ』</p> <p>” 第86集 2006 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第87集 2006 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅲ』</p> <p>” 第88集 2006 『史跡高層敷館跡環境整備報告書Ⅱ』</p> <p>” 第89集 2006 『篠原遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第90集 2007 『月見野(1)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第91集 2007 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第92集 2007 『新町野遺跡発掘調査概報Ⅲ』</p> <p>” 第93集 2007 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第94集 2007 『石江遺跡群発掘調査報告書』</p> <p>” 第95集 2008 『野尻(4)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第96集 2008 『葛野遺跡群発掘調査報告書』</p> <p>” 第97集 2008 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第98集 2008 『新町野遺跡発掘調査報告書Ⅳ』</p> <p>” 第99集 2009 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第100集 2009 『阿部野(1)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第101集 2009 『大矢沢野田遺跡発掘調査報告書Ⅱ』</p> <p>” 第102集 2009 『細越館遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第103集 2010 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第104集 2010 『長溜池遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第105集 2010 『葛野(3)遺跡発掘調査報告書』</p> <p>” 第106集 2010 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅱ』</p> <p>” 第107集 2011 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』</p> <p>” 第108集 2011 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅳ』</p> <p>” 第109集 2011 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第110集 2012 『市内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第111集 2012 『野尻遺跡群発掘調査報告書』</p> <p>” 第112集 2012 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅴ』</p> <p>” 第113集 2013 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅵ』</p> <p>” 第114集 2013 『市内遺跡群発掘調査報告書Ⅷ』</p> <p>” 第115集 2013 『大矢沢野田遺跡群発掘調査報告書Ⅲ』</p> <p>” 第116集 2014 『石江遺跡群発掘調査報告書Ⅶ』</p>
---	---

青森市埋蔵文化財調査報告書第116集-1

石江遺跡群発掘調査報告書Ⅶ

－石江土地地区画整理事業に伴う発掘調査－

第1分冊 石江遺跡群調査概要編2, 高間(6)遺跡編, 試掘・確認調査編

発行年月日 2014年(平成26年)2月28日

編集 青森市教育委員会

〒038-8505 青森県青森市柳川二丁目1番1号

TEL 017-761-4796

印刷 青森コロニー印刷

〒030-0943 青森県青森市幸畑字松元62-3

TEL 017-738-2021